

NEC

ISDNターミナルアダプタ
Aterm®IR450/D (PC-IR450D1A)
Aterm®IR450 (PC-IR450S1A)

活用 マニュアル

Aterm®

NEC
Aterm IR450

SD/RD LAN

PC-IR450

PC-IR450

NEC
Aterm IR450

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波傷害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービス及び技術サポート等は行っておりません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました但、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本装置の故障、誤作動、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

Windows、Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Netscape Navigator は米国 Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

STAC LZS[®] は米国 Hi/fn 社から技術導入しています。

©NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などをおこなうことはできません。

はじめに

このたびは、AtermIR(エタームアイアール)450シリーズをお買い上げいただきましてありがとうございます。

AtermIR450シリーズは、アナログポートとデータポートを搭載したISDNターミナルアダプタ(以下TA)に、HUB(ハブ)とルータ機能を搭載した新しいタイプのマルチユースTAです。本書では、AtermIR450シリーズの設定からより便利に使用していただくための説明をしています。初めての方は、設置のしかたから、INSネット64や通信機器との接続、設定のしかたまでを説明している導入マニュアルをお読みください。

目次

はじめに.....	1
1 らくらくユーティリティ.....	1
1-1らくらくユーティリティとは.....	2
1-2Windows98/Windows95/Windows NT4.0での設定.....	3
らくらくユーティリティの起動のしかた.....	3
[IR450らくらくユーティリティ]画面説明.....	5
アナログポートの設定.....	9
- A、B、C各ポート個別の機能設定.....	9
- アナログポートの設定 - 共通設定(着信関係).....	15
- 共通設定(その他).....	16
データポートの設定.....	17
- 電話番号.....	17
- 高度な設定.....	18
- MP・BOD機能.....	19
- 自動切断.....	21
- 信号制御.....	22
- 電子メール.....	23
- その他.....	24
1-3Macintoshでの設定.....	25
らくらくユーティリティの起動のしかた.....	25
[IR450らくらくユーティリティ 簡易設定]画面説明.....	27
- i・ナンバー設定(i・ナンバーの登録).....	28
- アナログポート登録.....	29
- アナログポート共通登録.....	31
- データポート登録.....	35
- 短縮・識別番号登録.....	37
[IR450らくらくユーティリティ 各種情報表示]画面説明.....	38
- 回線状態・信号線・切断理由表示.....	39
- 通信料金表示.....	40
- 着信情報表示.....	41
- 発信番号表示.....	42

[IR450らくらくユーティリティ 詳細設定]画面説明...	43
- アナログポート登録	44
- データポート登録	45
- BOD機能設定	47
- データポート信号制御の設定	48

2 WWWブラウザを利用した設定 49

2-1WWWブラウザでの設定について 50

WWWブラウザでの設定手順...	50
------------------	----

2-2WWW画面設定リファレンス 52

らくらく設定...	52
設定	54
接続先の簡易設定	54
回線の切断	56
ルータ本体のパスワード設定	57
詳細設定...	58
プロバイダ/接続先	61
接続先の登録	61
(1)基本設定	61
(2)高度な設定	68
デフォルトルート	74
スタティックルーティング	75
ルータ本体のLAN設定	77
IPアドレス/DHCPサーバ	77
フィルタリング	81
DNSフォワーディング	84
アドバンスドNATオプション	86
ルータ本体のISDN設定	88
ISDN設定	88

3 コネクションマネージャ 91

3-1コネクションマネージャについて 92

3-2コネクションマネージャ(Windows) 93

コネクションマネージャの起動のしかた...	93
タスクトレイでの操作...	94
[IR450コネクションマネージャ]画面の説明...	96

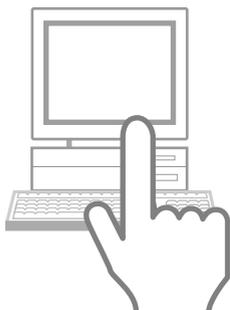
3-3	コネクションマネージャ(Macintosh)	102
	インストール方法.....	103
	使用前の準備.....	103
	コネクションマネージャの起動のしかた.....	103
	IR450コネクションマネージャの画面説明.....	105
	こんな時には?.....	109
3-4	ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意	110
3-5	同一LAN上でWindows版とMacintosh版の コネクションマネージャを使用する場合の注意	114
4	電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定).....	117
4-1	電話機を利用した設定について	118
4-2	液晶ディスプレイの設定	119
	液晶ディスプレイのバックライトを設定する.....	119
4-3	アナログポートの設定のしかた	121
	アナログポートの機器を設定する.....	122
	アナログポートに電話番号を割り当てる.....	124
	i-ナンバーを使用する	124
	ダイヤルインサービスを使用する	130
	その他の設定をする(個別アナログポート設定)..	134
	その他の設定をする(全アナログポート共通設定)..	136
	Atermに設定した内容を消去する.....	138
5	電話機(アナログ通信機器)を使う	139
5-1	外線電話をかける	140
	外線電話をかける.....	140
	サブアドレス付きの電話番号にかける.....	141
	短縮ダイヤルで電話をかける.....	141
5-2	外線電話をうける	142
	外線電話をうける.....	142
	優先着信ポート指定.....	142
	サブアドレス付きの着信.....	143
	識別着信をする.....	143
	HLC(高位レイヤ整合性)を設定する.....	144

5-3発信者番号通知サービスの利用	145
5-4フレックスホンの利用	146
INSキャッチホンを使う...(通話中にかかってきた電話を受ける).....	146
三者通話をする...(通話中にかかってきた電話を受ける).....	147
通話中に転送する...(かかってきた電話を他の人の電話に転送する).....	148
着信転送する...(かかってきた電話を別の電話番号につなげる).....	149
5-5INSボイスワープの利用	151
INSボイスワープ、INSボイスワープセレクト	151
5-6INSナンバー・ディスプレイの利用	152
INSナンバー・ディスプレイ (オプション:INSナンバー・リクエスト)	152
6 TA機能で通信する	153
6-1リモートアクセスで通信する	154
6-2便利な機能を使う	155
短縮ダイヤルを使う.....	155
識別着信をする.....	155
128kbpsマルチリンクPPP通信をする.....	156
BOD機能を使う.....	157
スループットBODとは	158
リソースBODとは	161
スティルスコールバックを使う.....	162
無通信監視タイマを使う.....	163
強制切断タイマを使う.....	164
7 ルータ機能で通信する	165
7-1Atermのパスワードを設定 / 変更する	166
WWWブラウザを利用してパスワードを設定 / 変更する.....	166
7-2既存のLANにAtermを導入する	169
7-3AtermのIPアドレスを変更する	170
Aterm本体のIPアドレスを変更する.....	170
7-4AtermのDHCPサーバの設定のポイント	175
AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを変更する.....	175
既存のLAN上のDHCPサーバとAtermのDHCPサーバとの共存.....	178

7-5AtermのDNSサーバの設定のポイント	181
DNSサーバが存在する既存のLANへのAtermの導入.....	181
DNSサーバが存在しない既存のLANへのAtermの導入...	184
7-6パソコン本体のIPアドレスの変更方法	187
パソコンのIPアドレスを自動で設定する.....	187
パソコンのIPアドレスを手動で設定する.....	195
7-7NetBIOSのフィルタリングの設定	205
NetBIOSをフィルタリングする.....	205
7-8マルチアクセス接続をする	206
端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続の設定ポイント...	208
端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続の設定例...	209
2個所の接続先へのLAN型ダイヤルアップ接続の設定ポイント...	211
2個所の接続先へのLAN型ダイヤルアップ接続の設定例...	212
7-9ドメインネームルーティング	214
マルチアクセスとドメインネームルーティングによる接続...	214
2個所のプロバイダへのドメインネームルーティングの接続...	216
7-10ルータ機能を利用したその他の接続	220
インターネットへLAN型ダイヤルアップ接続...	221
OCNエコノミーとの接続.....	223
RASサーバ接続.....	225
LAN同士の接続.....	229
8 電子メール着信通知サービスとUUIメール	233
8-1電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メール	234
電子メール着信通知	234
UUIメール	235
遊遊メール(UUIメール変換サービス)	235
サービスを利用するには.....	236
INSネット64の契約	236
BIGLOBEへの加入とサービス申込み(ID登録)	236
8-2Windows98/Windows95/Windows NT4.0の場合	237
UUIメールEXのインストール.....	237
UUIメールEXの環境設定をする.....	241
UUIメールの送信	245

アドレス帳に登録する	247
メールの着信	249
8-3Macintoshの場合	251
電子メール着信通知・UUIメールのインストール...	251
電子メール着信通知の利用方法...	252
電子メール着信通知の名前・ユーザID新規登録	252
電子メール着信通知の名前・ユーザID削除	253
電子メール着信通知のメール通知情報の読み出し	253
電子メール着信通知の過去のメール通知情報の読み出し	254
UUIメールの利用方法.....	255
UUIメールの送信	255
UUIメールの受信	259
9 ATコマンド	261
9-1ATコマンドの説明	262
9-2ATコマンドの入力方法	264
9-3ATコマンド一覧.....	265
Sレジスタ	285
リザルトコード	286
10 お困りのときは	289
10-1こんなときには	290
全機能共通.....	290
電話(アナログ機器).....	291
データポートからの通信.....	293
ルータ機能.....	294
10-2自己診断する	297
10-3修理と現地調査・保守契約について	299
現地調整・保守契約を依頼されない場合.....	299
現地調整・保守契約を依頼される場合.....	303
10-4Atermに関する問い合わせ先	304
AtermStationについて.....	304

FAX情報サービス.....	304
インフォメーションサービス.....	305
Atermおよび添付ソフトウェア以外の問い合わせ先.....	305
10-5NEC PCクリーンスポットの「訪問サービス」.....	306
お得なサポートセットメニュー.....	306
サポートセットメニュー.....	306
10-6切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧.....	308
切断理由表示一覧.....	308
診断情報表示一覧.....	309
生成源表示一覧.....	311
付録.....	313
らくらくバージョンアップ.....	314
Windows98/Windows95/Windows NT4.0の場合.....	315
Macintoshの場合.....	319
TA機能によるインターネット接続のための 手動設定のしかた(Windows98/Windows95).....	321
Atermをモデムとしてセットアップ.....	321
ネットワークプロトコルの確認.....	327
プロバイダの設定.....	330
プロバイダのDNSサーバアドレスの調べ方.....	334
DNSサーバアドレスの調べ方.....	334
接続テスト(通信試験).....	336
機能一覧.....	337
仕様.....	337
コネクタ仕様.....	338
別売りオプション.....	339
S点ユニットについて.....	339
S点ユニットの取り付けかた.....	339
設定記入シート.....	341
索引.....	347



1 らくらくユーティリティ

Atermの多彩なTA機能とアナログ機能の設定や、日頃役に立つ情報確認の方法を説明しています。

1-1 らくらくユーティリティとは

1-2 Windows98/Windows95/Windows NT4.0での設定

1-3 Macintoshでの設定

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

1-1 らくらくユーティリティとは

らくらくユーティリティとは、Atermの多彩な機能を、パソコン画面から、設定や確認ができる便利なツールです。パソコンの画面上から簡単な操作によりアナログ機能、TA機能を設定することが出来ます。また、各種アドレスや機能設定が行なえます。

注意

らくらくユーティリティでは、ルータ機能の設定はできません。ルータ機能の設定は「2 WWWブラウザを利用した設定」を参照しておこなってください。

らくらくユーティリティのインストールは、導入マニュアルのそれぞれのOSの「CD-ROMの使い方」を参照して行ってください。

らくらくユーティリティは、お使いのパソコンのOSにより、2種類のらくらくユーティリティがあります。

以下に該当する、OSごとの設定方法を参照してください。

パソコンのOSごとの設定方法

1-2 Windows98/Windows95/Windows NT4.0での設定

●●参照 次ページ

1-3 Macintoshでの設定

●●参照 25ページ



Windows98/Windows95/Windows NT4.0版
起動画面例



Macintosh版 起動画面例

1-2 Windows98/Windows95/Windows NT4.0 での設定

Windows98/Windows95/Windows NT4.0でのらくらくユーティリティの説明をします。
らくらくユーティリティを利用するには、AtermのシリアルポートとパソコンをRS232C
ケーブルで接続します。

10BASE-TポートやUSBポートの場合は、らくらくユーティリティは利用できません。

らくらくユーティリティの起動のしかた...

らくらくユーティリティを起動するには、次の操作を行います。

起動する前に必ず、AtermとパソコンをRS232Cケーブルで接続してください。

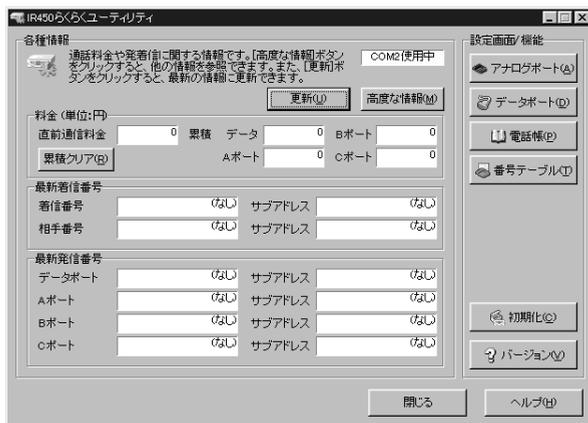
手順

1 タスクバーの **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ]
[IR450らくらくユーティリティ]の順に選択します。

2 ユーティリティが起動し、[IR450らくらくユーティリティ]画面が表示され
ます。

設定する機能を選択し、設定します。

この画面の説明および各種設定は5ページ以降を参照してください。



終了のしかた

設定が終了したら **OK** ボタンをクリックして登録します。

ユーティリティ終了時に **OK** ボタンをクリックすることにより、次のような画面が表示され、Atermのフラッシュメモリに書き込まれます。これでAtermの電源を切っても設定値は消えません。



OK ボタンをクリックすることにより、らくらくユーティリティが終了します。

エラーメッセージが表示される

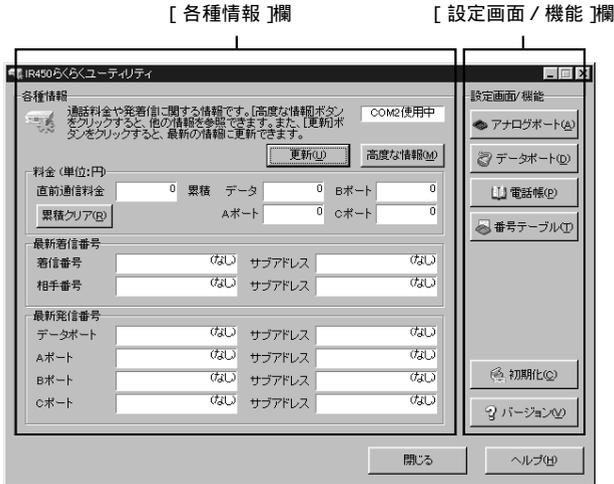
他の通信ソフトが通信ポートを使用したままの状態であららくらくユーティリティを起動すると、次のようなエラーメッセージが表示されます。



OK ボタンを押して、メッセージに従い接続ケーブルの確認をします。または、同じCOMポートを使用している他の通信ソフトを終了させてから、再度、らくらくユーティリティを起動してください。

[IR450らくらくユーティリティ]画面説明...

らくらくユーティリティを起動したときに、次のような画面が最初に表示されます。
らくらくユーティリティの最初の画面は、Atermの各種の情報を表示する欄と、アナログポートやデータポートを設定する欄から構成されています。

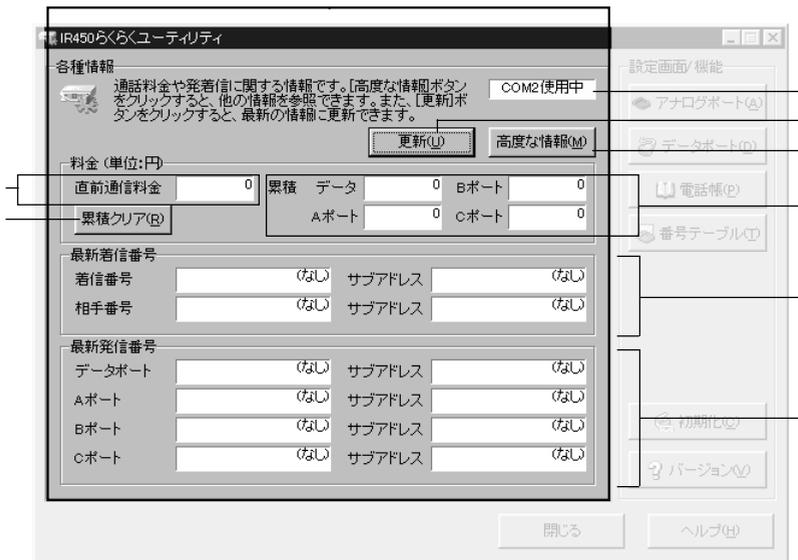


画面より設定したいボタンをクリックします。
各ボタンをクリックすると、それぞれの詳細な設定ができます。
次ページより、この画面の概要を説明します。

[各種情報] 欄説明

この画面では、Atermの通話料金や発着信に関する情報が表示されます。

[各種情報] 欄



Atermが接続されているポートを表示します。

更新 ボタン : 各種情報を更新します。

高度な情報 ボタン : 信号線の状態や着信判定要因など、より詳しい情報を表示します。
●●**参照**▶次ページ

直前通信料金 : 直前に使用したデータポートの通信料金を円で表示します。

累積クリア ボタン : 累積料金をクリアします。全ポートの累積料金が0円に戻ります。

累積料金 : ポート毎に使用した通信(通話)料金の累積を円で表示します。
ポート毎に最大9,999,999円まで累積を行います(これを越えた場合でも9,999,999円のままです)。
データの累積料金には、ルータ機能による通信料金も累積されます。
累積料金は、電源OFFにすると内容は消去されます。

最新着信番号 : 最新のAtermに着信した宛先番号/サブアドレス、発信番号/サブアドレスを表示します。

「着信番号」とは着信したAterm側の電話番号で、「相手番号」とは発信側の電話番号です。この最新着信番号表示は、着信できなかった場合でもかかってきた番号を表示しますので、INSネット64から本当に着信があったかどうかを確認することができます。

最新発信番号 : Atermの各ポートが最後に発信した相手番号と相手サブアドレスを表示します。

高度な情報(M)

高度な情報
ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



ここでは信号線の状態や、回線の切断理由など、より詳しい情報が参照できます。

更新 ボタン : 最新の情報を表示します。

切断理由・生成源 : 前回のデータポートでの通信の切断理由と生成源を表示します。

レイヤ : INSネット64回線のレイヤ1の同期、およびレイヤ2のリンクがとれているかを表示します。
いずれも正常の場合は緑色に点灯し、異常の場合は点灯しません。(灰色表示になります)

パソコン信号線 : パソコン側通信ポートの信号線の状態を表示します。
各信号線がON状態の場合は緑色に点灯し、OFF状態の場合は点灯しません。(灰色表示になります)

着信判定要因 : 「着信判定要因」には、着信できなかった場合にAtermからINSネット64に対して送信した切断理由を表示します。(表示される内容は上記「切断理由」と同じです)
また、その下には、ポート毎に着信できなかった場合の要因コードを表示します。これにより、着信できなかった原因を判別することが可能です。
●●参照「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページ

[設定画面 / 機能] 欄説明

右側の各ボタンにより、アナログポート、データポートの詳細な設定を行います。



アナログポート ボタン : アナログポートの設定画面を表示します。

データポート ボタン : データポートの設定画面を表示します。

電話帳 ボタン : [電話帳] 画面を表示します。

番号テーブル ボタン : [電話番号テーブル] 画面を表示します。

初期化 ボタン : Aterm を初期化します。初期化を実行すると、電話帳 (短縮ダイヤル) 自己アドレス / サブアドレス、累積通信料金、着信転送アドレスを除くすべての設定が初期状態に戻ります。

バージョン ボタン : ユーティリティのバージョン情報、Atermのファームウェア情報を表示します。

- キャッチホン : フレックスホンのINSキャッチホンやAtermによる疑似キャッチホン機能の利用する/しないを選択します。
●●●参照▶ 導入マニュアル「4-2-3 電話機を使う」
「INSキャッチホンを使う...」146ページ
- 受話音量 : アナログポートに接続した電話機やFAXの受話音量を設定します。「小」「中」「大」の中から選択してください。(ただしB、Cポートは「中」「大」のみ)
- 情報通知サービス (Aポートのみ) : INSナンバー・ディスプレイを使用する/しないを選択します。
●●●参照▶ 「5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用」152ページ
- 停電時着信 (Aポートのみ) : 停電時に着信する/しないを選択します。
停電時にはアナログAポートのみ使用することができ、Bポート、Cポートは使用できません。
- 停電時の動作 (Aポートのみ) : 停電動作時の呼び出し音を設定します。「ブザー」を選択すると停電動作時には節電のため、着信時にはAterm内のブザーが鳴ります。
- 高度な設定** ボタン : 通常は特に変更する必要のない、より高度な設定を行う画面を表示します。
●●●参照▶ 13ページ



i・ナンバー使用時の発信者番号通知設定について

発信者番号を通知する場合

番号テーブルまたは、番号設定をクリックして各i・ナンバー情報に対応する電話番号を必ず登録してください。

発信者番号通知の設定を「行う」または、「INSネット64の申込通り」にチェックしてください。

発信者番号を通知しない場合

相手番号をダイヤルする前に「184」とダイヤルしてください。

発信者番号通知の設定は「行わない」にしないでください。

番号設定(P)

番号設定
ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



電話番号テーブル

i・ナンバー未使用時

各アナログポート、データポートの電話番号を設定、契約者回線番号のグローバル着信の有無を設定します。

i・ナンバー :INSネット64のi・ナンバーを使用する/しないを選択します。

ここでの選択により、テーブル部分が切り替わります。

電話番号 :INSネット64のダイヤルインサービスを使用する場合に、契約者回線番号または追加したダイヤルイン番号を設定します。

電話番号を設定することにより、着信時に着信アドレスと自己アドレスを照合し、自分宛以外の着信は通信状態にしないようにします。

グローバル着信 :INSネット64のグローバル着信を利用する場合に、そのポートでグローバル着信する/しないを選択します。

グローバル着信する場合はチェックし、しない場合はチェックしないでください。



[電話番号テーブル]画面は[IR450らくらくユーティリティ]画面(メイン画面)の[番号テーブル]ボタンでも同じように表示されます。



電話番号テーブル

i・ナンバー使用時

i・ナンバー使用時、i・ナンバー情報(電話番号)の設定、各アナログポート、データポートの発着信時のi・ナンバー情報の選択をします。

i・ナンバー : INS ネット64のi・ナンバーを使用する/しないを選択します。
ここでの選択により、テーブル部分が切り替わります。

電話番号 : 各i・ナンバー情報の電話番号を登録します。

着信するポート : ポート毎に着信させるi・ナンバー情報を選択します。

発信するポート : 発信したときに、相手に通知するi・ナンバー情報をポート毎に選択します。

機能ボタン : 各種機能を実行するボタンです。

・着信するポートの : 全アナログポートにすべてのi・ナンバー情報が着信ようになります。
全ON ボタン

・着信するポートの : 着信i・ナンバー情報の選択をすべてクリアします。
全OFF ボタン

・発信するポートの : 全ポートの発信i・ナンバー情報として、i・ナンバー情報1を選択します。
1 ON ボタン

・発信するポートの : 全ポートの発信i・ナンバー情報として、i・ナンバー情報2を選択します。
2 ON ボタン

高度な設定(V)

高度な設定
ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



高度な設定

各アナログポートの機能で、各アナログポートに特有の機能のうち、通常は特に変更する必要のない高度な設定を行います。

サブアドレス : i・ナンバーやダイヤルインサービスを使用しないで、自分宛以外の着信をしたくないときに自己サブアドレスを設定します。着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する／しないを判断します。

●●参照「サブアドレス付きの着信...」143 ページ

サブアドレスなし着信する : サブアドレスなし着信をする／しないを選択します。サブアドレスなし着信選択機能を使用することで、1本の回線に複数台設置した Aterm を自由に呼び出すことができます。

発信者サブアドレスを通知する (Aポートのみ) : INSナンバー・ディスプレイを使用する際に、発信者サブアドレスをアナログポート側に通知する／しないを選択します。

ダイヤル桁間タイマ : アナログポートに接続したアナログ機器からダイヤルしたときに、最後のダイヤル入力から INS ネット 64 に発信するまでの時間を変更できます。

フッキング検出タイマ : アナログポートのフッキング検出時間を変更できます。

識別着信 : 電話帳で登録した相手以外の着信を受け付けないようにする／しないを選択します。

●●参照「識別着信をする...」143 ページ

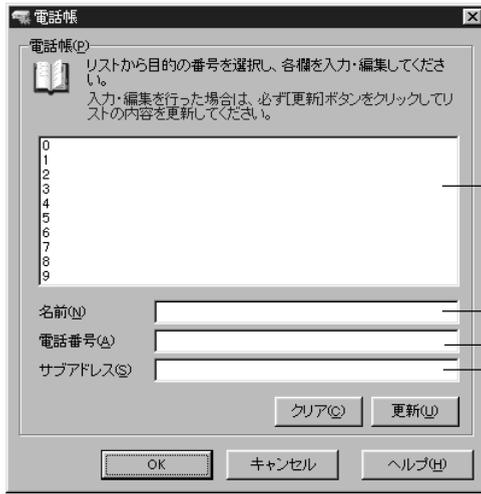
HLC (高位レイヤ整合性) : 接続するアナログ機器の種別を HLC (高位レイヤ整合性) に設定して、HLC が一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。HLC は「アナログポートの設定」画面の「接続機器」で選択した内容に従って設定されます。(電話機なら電話機、FAX なら G2/G3 ファクス)

●●参照「HLC (高位レイヤ整合性) を設定する...」144 ページ

電話帳 ボタン : 電話帳の設定画面を呼び出します。

電話帳(P)

電話帳ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



電話帳

短縮ダイヤルまたは識別着信番号を登録します。

データポートと共有です。

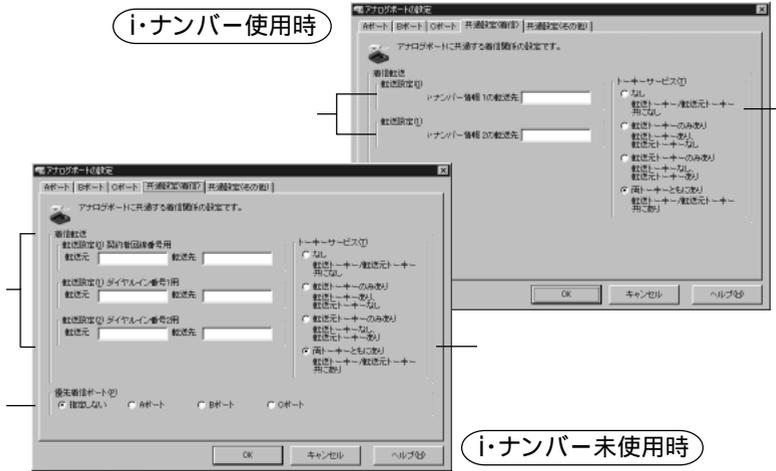
内容を追加・変更した場合は必ず「更新」ボタンをクリックしてリストを更新してください。

識別着信を行う場合は、[高度な設定画面]で[識別着信]にチェックする必要があります。

- 電話帳リスト : 設定を行いたい番号を選択します。
- 名前 : 相手の名前を入力します。
- 電話番号 : 電話番号(相手アドレス)を入力します。電話番号は最大32桁まで指定可能です。
- サブアドレス : 相手サブアドレスを(ある場合)入力します。サブアドレスは最大19桁まで指定可能です。



[電話帳]画面は[IR450らくらくユーティリティ]画面(メイン画面)の「電話帳」ボタンでも同じように表示されます。



共通設定(着信)

アナログポートの設定 - 共通設定(着信関係)

ここでは、各アナログポートに共通する機能のうち、着信に関する設定を行います。

着信転送 : INS ネット 64 の着信転送の設定をします。
着信があった場合、応答しないでその着信を他の第三者に転送する機能です。

●●参照「着信転送する...」149 ページ

i・ナンバー未使用時 転送設定(0)の転送元には、契約者回線番号を入力します。
転送設定(1)(2)の転送元には、追加したダイヤルイン番号を入力します。
それぞれの番号で着信をうけた際に、転送先に入力された電話番号の相手にその着信を転送します。

i・ナンバー使用時 各i・ナンバー情報の転送先に入力された電話番号の相手に、着信を転送します。

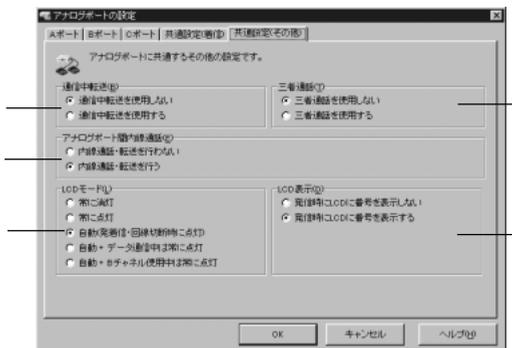
トーカーサービス : 着信転送を利用する場合、音声案内メッセージ(トーカー)を利用する/しないを選択します。

「転送トーカー」は、発信者(電話をかけた人)に対して、その電話を転送する旨を知らせる音声案内です。「転送元トーカー」は、転送先の相手に、その電話が転送されてきたものであることを知らせる音声案内です。

優先着信ポート : 3つのアナログポートのうちどれか2つ以上が使用可能な場合に、使用できるすべてのポートに同時に着信させるか(「指定しない」を選択)、どれかのポートを優先的に着信させるかを設定します。

また、使用可能なアナログポートが1つ以下の場合、選択できるのは「指定しない」のみになります。i・ナンバー使用時は、設定できません。

●●参照「優先着信ポート指定...」142 ページ



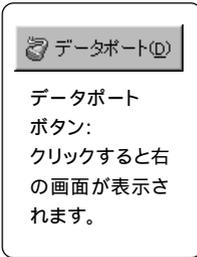
共通設定(その他)

アナログポートの設定 - 共通設定(その他)

ここでは、各アナログポートに共通する機能のうち、フレックスホンに関する設定や、LCDの動作の設定を行います。

- 通信中転送** : INS ネット64の通信中転送を使用する / しないを選択します。
 ●●参照 「通話中に転送する...」148 ページ
- 三者通話** : INS ネット64の三者通話を使用する / しないを選択します。
 ●●参照 「三者通話をする...」147 ページ
- 内線通話** : アナログポート二者間で内線通話・内線転送を行う / 行わないを選択します。
 アナログポートが使用できる場合に、アナログポート二者間で内線通話、および通話中の電話をもう一方に転送する内線転送を行うことができます。
- LCDモード** : LCDのバックライトの点灯方法を選択します。
- ・常に消灯 : LCDのバックライトを常に消灯させます。
 - ・常に点灯 : LCDのバックライトを常に点灯させます。
 - ・自動 : 自動モードです。アナログやデータ・ルータ発着信時のみLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。
 - ・自動+データ通信中は常に点灯 : 自動モードでの発着信時点灯に加え、データ通信中(ルータでの通信を含む)にLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。
 - ・自動+Bチャンネル使用中は常に点灯 : 自動モードでの発着信時点灯に加え、Bチャンネル使用中にLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。
- LCD表示** : 発信時に、LCDに発信番号(電話をかけた相手の番号)を表示する / しないを選択します。
 番号を表示させたい場合は「発信時にLCDに番号を表示する」を、表示させない場合は「発信時にLCDに番号を表示しない」を選択します。

データポートの設定...



電話番号

データポートの設定 - 電話番号

着信番号 : ポートに着信する電話番号が表示されます。
設定は、**番号設定** ボタンをクリックして表示された「電話番号テーブル」画面でおこないます。

●●**参照**▶▶ 11 ページ

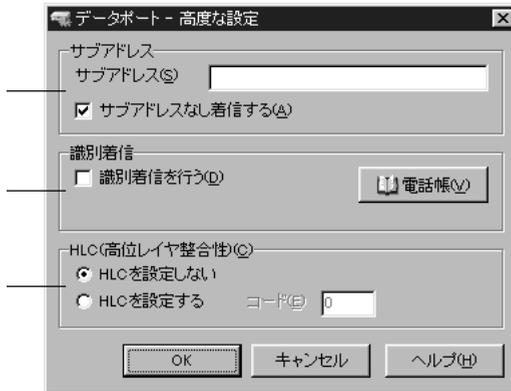
発信者番号通知 : INSネット64の発信者番号通知サービスとAtermの発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知する/しないを選択することができます。
通知番号欄には、「電話番号テーブル」で設定した番号が表示されます。

高度な設定 ボタン : サブアドレスや、HLC、識別着信などの設定をします。

●●**参照**▶▶ 次ページ

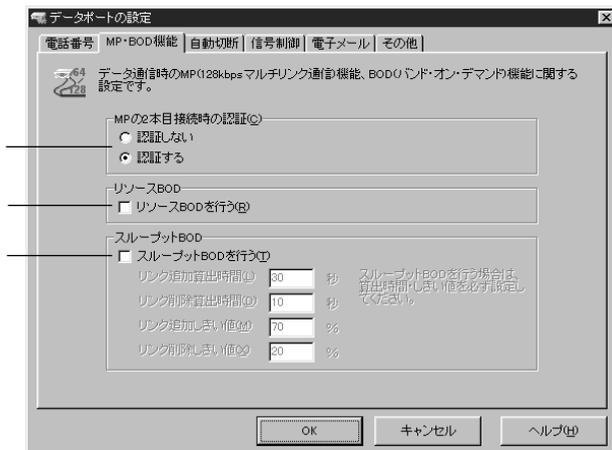
高度な設定(V)

高度な設定
ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



データポートの設定 - 高度な設定

- サブアドレス** :ダイヤルインサービスを使用しないで、自分宛以外の着信を通信中にしたくないときに自己サブアドレスを設定します。
着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する/しないを判断します。
- 識別着信** :電話帳で登録した相手以外の着信を受け付けないようにする/しないを選択します。
チェックした場合、電話帳で登録したアドレス・サブアドレスとも一致した場合のみ着信を受け付けます。
なお、この機能を利用するには、INSネット64の発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」にする必要があります。
●●**参照**「識別着信をする...」155ページ
- HLC (高位レイヤ整合性)** :データポートに接続するパソコンや通信機器の種別をHLC(高位レイヤ整合性)に設定して、HLCが一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。
これを選択した場合は、HLCコードを設定してください。データポートで使用できるHLCの値は0から127までの範囲ですが、1(電話)および4(G2/G3ファクシミリ)はアナログ装置用ですので使用されないことをおすすめます。
●●**参照**「HLC(高位レイヤ整合性)を設定する」144ページ



MP・BOD機能

データポートの設定 - MP・BOD機能

ここでは、128kbpsマルチリンクPPP通信(MP)、BOD機能に関する設定を行います。

MPの2本目接続時の認証 :128kbpsマルチリンクPPP通信での2B目のチャンネル接続時に認証する / しないを選択します。

リソースBOD : リソースBOD をする / しないを選択します。

機能を利用しない設定にした場合(チェックしない場合)、データポートで128kbpsマルチリンクPPP通信を行っている時、アナログポートからの発信および着信はできません(ビジーになります)。

●●参照▶「リソースBODとは...」161ページ

スリーブットBOD : スリーブットBOD をする / しないを選択します。

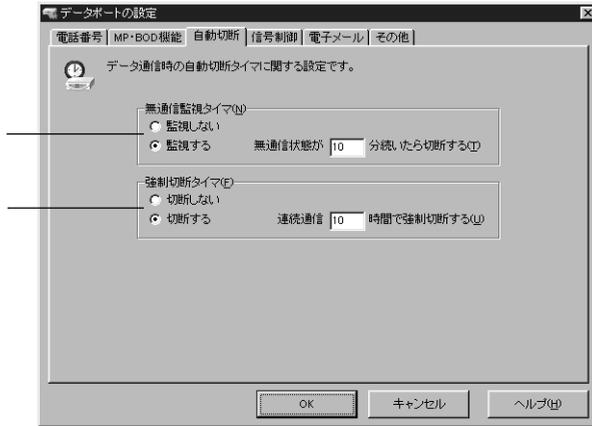
機能を利用する場合は、回線利用率がどの程度になったら64kbps同期通信に切り替えるか、どの程度になったら128kbpsマルチリンクPPP通信に戻すかを判断するために、以下の各値を設定する必要があります。

●●参照▶「スリーブットBODとは...」158ページ

リンク追加算出時間 : リンクを追加する / しない(128kbpsマルチリンクPPP通信に戻すかどうか)を算出するための監視時間を設定します。設定できる値は10 ~ 60秒です。

リンク削除算出時間 : リンクを削除する / しない(64kbps同期通信に切り替えるかどうか)を算出するための監視時間を設定します。設定できる値は10 ~ 60秒です。

- リンク追加しきい値：リンクを追加する基準となるデータ転送の回線利用率を設定します。
リンク追加算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク追加しきい値で設定した値を上回ると、128kbps マルチリンク PPP 通信に戻ります。設定できる値は 60 ~ 90% です。
- リンク削除しきい値：リンクを削除する基準となるデータ転送の回線利用率を設定します。設定できる値は 10 ~ 40% です。
リンク削除算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク削除しきい値で設定した値を下回ると、64kbps 同期通信に切り替わります。



自動切断

データポートの設定 - 自動切断

ここでは、自動切断タイムに関する設定を行います。

無通信監視タイム : 一定時間経過してもデータの送信・受信が行われない場合に、Atermから自動的に回線を切断する / しないを選択します。
 これにより、切断のし忘れを回避できます。
 機能を利用する場合は「監視する」を選択し、さらに監視時間を1～10分の範囲で設定してください。

●●**参照**▶「無通信監視タイムを使う...」163ページ

強制切断タイム : 一定時間連続して通信を行っている場合に、Atermから強制的に回線を切断する / しないを選択します。
 これにより、切断のし忘れを回避できます。
 機能を利用する場合は「切断する」を選択し、さらに何時間連続で通信したら切断するかを1～10時間の範囲で設定してください。

●●**参照**▶「強制切断タイムを使う...」164ページ



信号制御

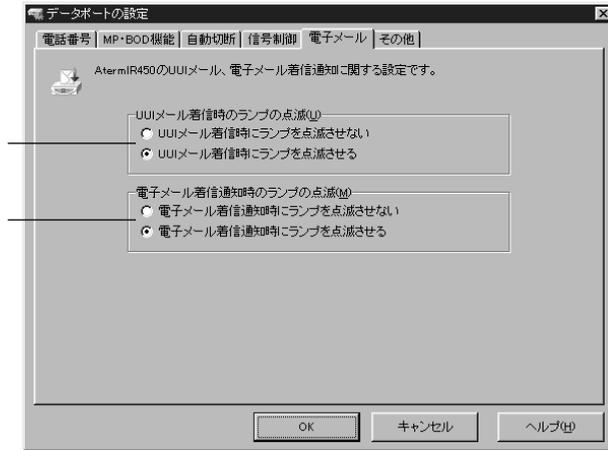
データポートの設定 - 信号制御

ここでは、Atermの信号に関する設定を行います。

ER 信号 : Aterm に接続されているパソコンのER信号の見方を選択します。

CD 信号 : Aterm のCD 信号の動作を選択します。

DR 信号 : Aterm のDR 信号の動作を選択します。



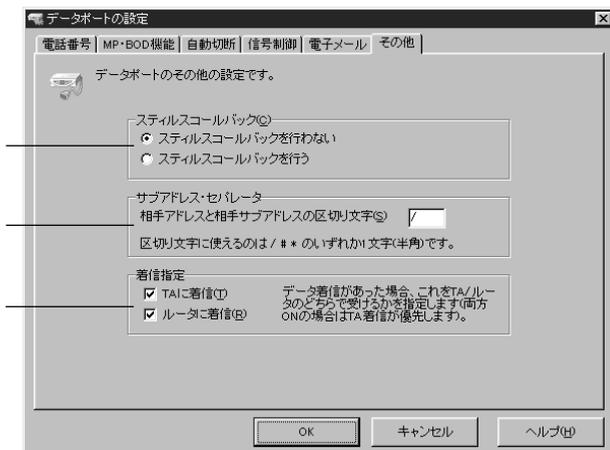
電子メール

データポートの設定 - 電子メール

ここでは、電子メール機能に関する設定を行います。

UIメール着信時のランプの点滅 : UIメール(INSネット64のユーザ間情報通知サービスを利用したAterm同士の電子メール)が着信した場合、AtermのMSGランプを点滅させるかどうかを選択します。

電子メール着信時のランプの点滅 : 電子メール着信サービスによるメール着信通知があった場合、AtermのMSGランプを点滅させるかどうかを選択します。



その他

データポートの設定 - その他

スタイルスコールバック : データポートでのスタイルスコールバックをする / しないを選択します。この機能を利用すると、通信料金はサーバー側に課金され、クライアント側は無料でデータ通信を継続できます。スタイルスコールバックを行うには、相手電話番号の最後に「CB」を付加して発信します。

●●参照 「スタイルスコールバックを使う...」162ページ

サブアドレス・セパレータ : Aterm内での自己アドレスとサブアドレスとの区切り文字を設定します。指定できる文字は「/」(スラッシュ)「*」(アスタリスク)「#」(シャープ)のいずれかのみです。他の文字は指定できません。

着信指定 : データ着信があった場合、TA機能または、ルータ機能のどちらで受けるかを指定します。

両方にチェックマークをつけた場合は、TA着信が優先します。

1-3 Macintoshでの設定

Macintoshでのらくらくユーティリティの説明をします。

らくらくユーティリティを利用するには、AtermのシリアルポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続する必要があります。

Atermの10BASE-Tポートとパソコンを接続していても、らくらくユーティリティは使用できません。

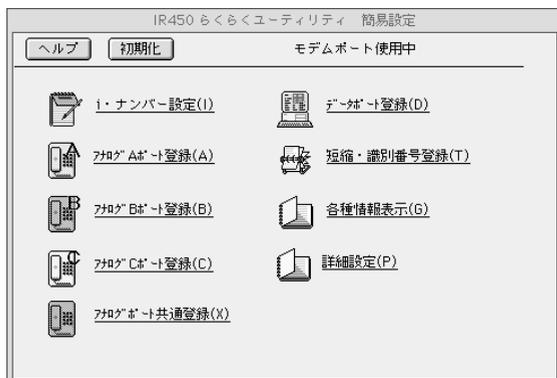
らくらくユーティリティを利用しないで、アナログ機能の設定を行う場合は、「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」117ページを参照してください。

らくらくユーティリティの起動のしかた...

らくらくユーティリティを起動するには、次の操作を行います。

手順

- 1 [AtermIR450ユーティリティ]フォルダをダブルクリックします。
- 2 表示された[IR450らくらくユーティリティ]アイコンをダブルクリックします。
- 3 ユーティリティが起動し、[IR450らくらくユーティリティ 簡易設定]画面が表示されます。設定する機能を選択し、設定します。
この画面の説明および各種設定は27ページ以降を参照してください。



終了のしかた

設定が終了したら、終了画面で **はい** ボタンをクリックして登録します。



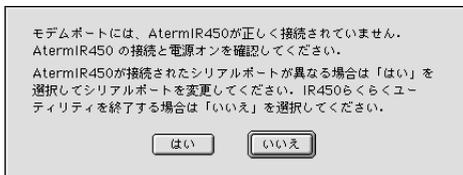
ユーティリティ終了時に **はい** ボタンをクリックすることにより、Atermのフラッシュメモリに書き込まれます。これでAtermの電源を切っても設定値が消えません。

メニュー画面が表示されない

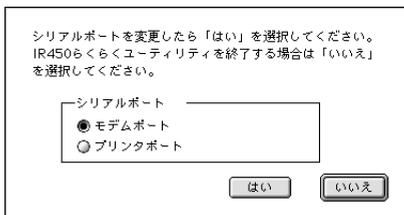
「モデムポートにはAtermIR450が正しく設定されていません・・・」が表示されたときは次の操作を行ってください。

手順

- 1 Atermの電源が入っていること、Macintoshとの接続ケーブルが正しく接続されていることを確認して **はい** ボタンをクリックします。

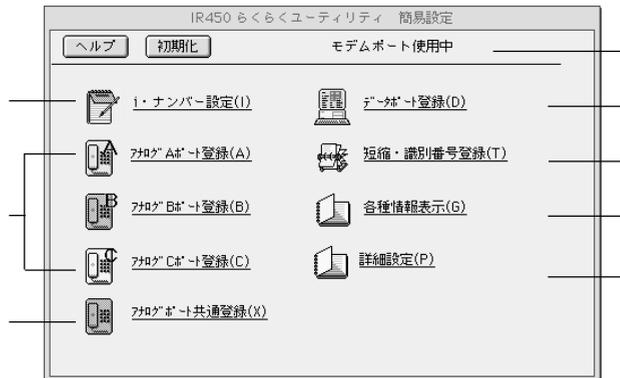


- 2 Atermと接続しているMacintoshのシリアルポートを選び **はい** ボタンをクリックします。



[IR450らくらくユーティリティ 簡易設定]画面説明...

Atermのアナログポートやデータポートなどを設定するアイコンと各種情報を表示するアイコンで構成されています。



Atermが接続されているポートを表示します。

i・ナンバー設定 : [i・ナンバー登録]画面を表示します。

アナログXポート登録 : 各アナログポートの設定画面を表示します。
Xはそれぞれのアナログポートを表します。
アナログポート接続機器の選択、キャッチホン、発信者番号通知設定、番号設定を行います。

アナログポート共通登録 : アナログポートの共通設定画面を表示します。
三者通話、着信転送、通話中転送、優先着信ポート、LCD設定を行います。

データポート登録 : データポートの設定画面を表示します。
グローバル着信、発信者番号通知設定、番号設定を行います。

短縮・識別番号登録 : 短縮・識別番号登録の登録 / 変更 / 削除を行います。

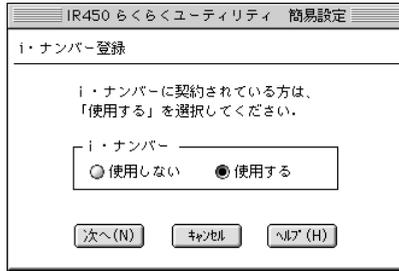
各種情報表示 : 各種情報表示のメニュー画面を表示します。
●●参照▶ 38 ページ

詳細設定 : 詳細設定のメニュー画面を表示します。
●●参照▶ 43 ページ

初期化 ボタン : Aterm内の設定値を初期値に戻します。(ただし、短縮ダイヤル、自己アドレス、自己サブアドレス、着信転送アドレス、および累積通信料金は初期化しません。)



i・ナンバー設定
アイコン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



i・ナンバー設定 (i・ナンバーの登録)

INS ネット 64 の i・ナンバーを契約している場合は「使用する」に、契約していない場合は、「使用しない」に設定します。

工場出荷時は「使用しない」になっています。

i・ナンバーを使用する場合は、ここで電話番号(i・ナンバー情報1、2)を登録します。

手順

電話番号(i・ナンバー情報1、2)の登録は以下の手順で設定します。

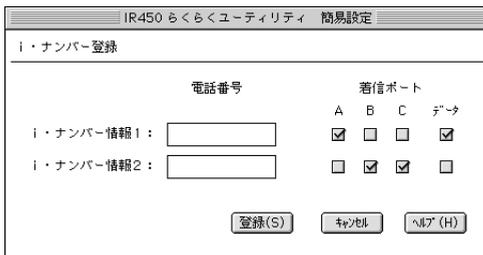
1 i・ナンバー[使用する]にチェックマークを付け **次へ** ボタンをクリックします。

2 電話番号(i・ナンバー情報1、2)を登録する画面が表示されます。

INS ネット 64 で契約した i・ナンバーを登録します。

i・ナンバー情報1、2に電話番号を入力します。

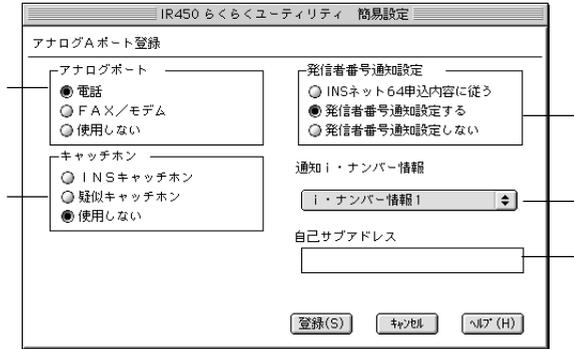
かかってきた i・ナンバーでどのポートを呼び出すかを設定します。





アナログポート登録アイコン: クリックすると右の画面が表示されます。

i・ナンバーを使用しない場合は次ページを参照



簡易設定 - アナログポート登録 (i・ナンバー使用時)

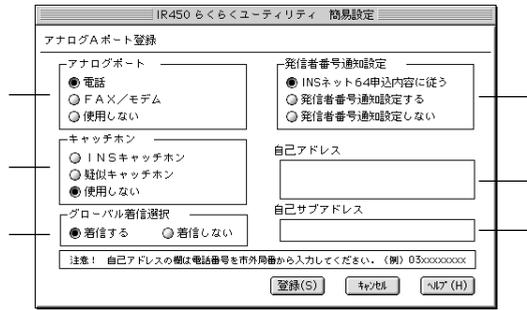
この画面はi・ナンバー設定の画面でi・ナンバーを「使用する」に設定した場合には表示されます。

ここでは、各アナログポートに個別の機能設定を行います。

画面はアナログAポートの設定です。

すべてのポートで同様の設定項目があります。

- アナログポート** : アナログポートに接続する機器を設定します。
電話機を接続する場合は「電話」を選択し、G2/G3FAXやファクス付き電話機、モデムを接続する場合は「FAX/モデム」を選択してください。なにも接続しない場合は必ず「使用しない」を選択します。
- キャッチホン** : フレックスホンのINSキャッチホンやAtermによる疑似キャッチホン機能の利用する/しないを選択します。
●●参照 ● 導入マニュアル「6-2-3 電話機を使う」
「INSキャッチホンを使う...」146ページ
- 発信者番号通知設定** : i・ナンバー使用時は、発信者番号通知を通知する場合、必ず各i・ナンバー情報に対応する電話番号を登録し、「INSネット64申込内容に従う」または、「発信者番号通知設定する」を選択してください。
通知しない場合、相手電話番号をダイヤルする前に「184」をダイヤルしてください。
「発信者番号通知しない」の設定は有効になりません。
- 通知i・ナンバー情報** : 相手に通知する電話番号をi・ナンバー情報1、2から選択します。
- 自己サブアドレス** : i・ナンバーやダイヤルインサービスを利用しないで、自分宛以外の着信を受けないようにするときに、自己サブアドレスを設定します。
着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する/しないを判断します。
●●参照 ● 「サブアドレス付きの着信...」143ページ



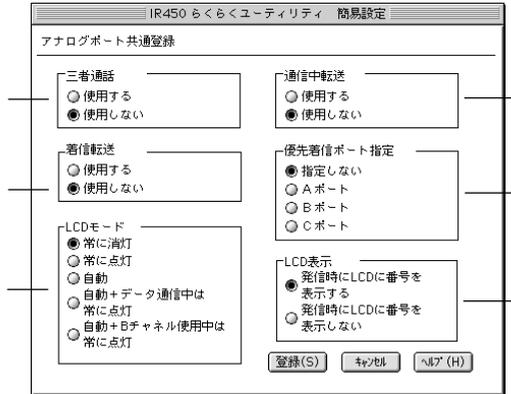
簡易設定 - アナログポート登録 i・ナンバー未使用時

ここでは、各アナログポートに個別の機能設定を行います。
画面はアナログAポートの設定です。
すべてのポートで同様の設定項目があります。

- アナログポート** : アナログポートに接続する機器を設定します。
電話機を接続する場合は「電話」を選択し、G2/G3FAXやファクス付き電話機、モデムを接続する場合は「FAX/モデム」を選択してください。なにも接続しない場合は必ず「使用しない」を選択します。
- キャッチホン** : フレックスホンのINSキャッチホンやAtermによる疑似キャッチホン機能の利用する/しないを選択します。
●●**参照** 導入マニュアル「6-2-3 電話機を使う」
「INSキャッチホンを使う...」146ページ
- グローバル着信選択** : INSネット64のグローバル着信を利用する場合に、そのポートでグローバル着信する/しないを選択します。
- 発信者番号通知設定** : INSネット64の発信者番号通知サービスとAtermの発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知する/しないを選択することができます。
●●**参照** 「5-3 発信者番号通知サービスの利用」145ページ
- 自己アドレス** : INSネット64のダイヤルインサービスを使用する場合に、契約者回線番号または追加したダイヤルイン番号を設定します。
電話番号を自己アドレスとして設定することにより、着信時に着信アドレスと自己アドレスを照合し、自分宛以外の着信は通信状態にしないようにします。
- 自己サブアドレス** : i・ナンバーやダイヤルインサービスを利用しないで、自分宛以外の着信を受けないようにするときに、自己サブアドレスを設定します。
着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する/しないを判断します。
●●**参照** 「サブアドレス付きの着信...」143ページ



アナログポート共通登録アイコン:
クリックすると右の画面が表示されます。



簡易設定 - アナログポート共通登録

ここでは、各アナログポートに共通の機能設定を行います。

三者通話 : フレックスホンの三者通話を使用する / しないを選択します。

●●参照「三者通話をする...」147ページ

着信転送 : フレックスホンの着信転送を使用する / しないを選択します。

外線から着信があった場合、応答しないでその着信を他の第三者に転送する機能です。

●●参照「着信転送する...」149ページ

「使用する」を選択した場合、[着信転送先番号の設定]の画面が表示されます。i-ナンバーを使用している場合と、していない場合で設定する画面が異なります。それぞれのページを参照してください。

i-ナンバーを使用している場合 次ページ

i-ナンバーを使用していない場合 33ページ

LCDモード : LCDのバックライトの点灯方法を選択します。

・常に消灯 : LCDのバックライトを常に消灯させます。

・常に点灯 : LCDのバックライトを常に点灯させます。

・自動 : 自動モードです。発信時・着信時にのみLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。

・自動+データ通信中は常に点灯 : 自動モードでの発信時点灯に加え、データ通信中(ルータ機能による通信中も含む)にLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。

・自動+Bチャネル使用中は常に点灯 : 自動モードでの発信時点灯に加え、Bチャネル使用中にLCDのバックライトを点灯させます(通常時は消灯)。

通信中転送 : フレックスホンの通信中転送を使用する / しないを選択します。

●●参照「通信中に転送する...」148ページ

優先着信ポート指定 : 3つのアナログポートのうちどれか2つ以上が使用可能な場合に、使用できるすべてのポートに同時に着信させるか(「指定しない」を選択)、どれかのポートを優先的に着信させるかを設定します。

i・ナンバー使用時は、設定できません。

また、使用可能なアナログポートが1つ以下の場合、選択できるのは「指定しない」のみになります。

●●**参照**「優先着信ポート指定...」142ページ

LCD表示 : アナログ発信時に、LCDに発信番号(電話をかけた相手の番号)を表示する/しないを選択します。

番号を表示させたい場合は「発信時にLCDに番号を表示する」を、表示させない場合は「発信時にLCDに番号を表示しない」を選択します。

着信転送先番号を設定する手順

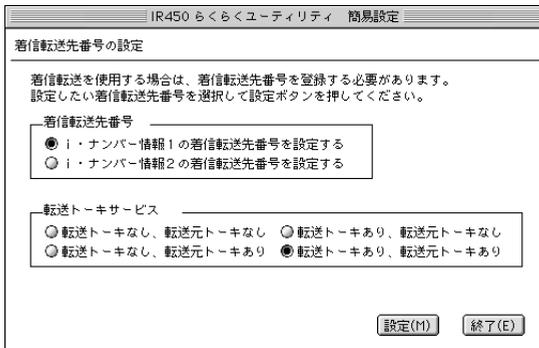
i・ナンバー使用時

手順

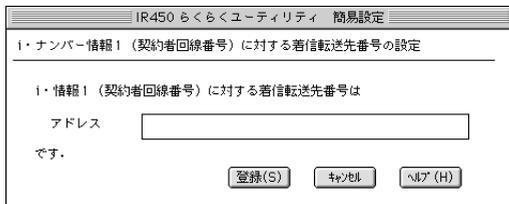
以下の手順で設定します。

1 [アナログポート共通登録]画面の着信転送を[使用する]にクリックしてチェックマークをつけます。

2 着信転送先番号の設定画面が表示されます。
着信転送を行う着信転送先番号を選択し、転送トキサービスを選択してから**設定** ボタンをクリックします。



- 3 電話番号を入力する画面が表示されます。
着信転送したい電話番号を入力して、**登録** ボタンをクリックします。
着信転送先番号はi・ナンバー情報1、2にそれぞれ1つずつの設定ができます。
画面はi・ナンバー情報1の例です。

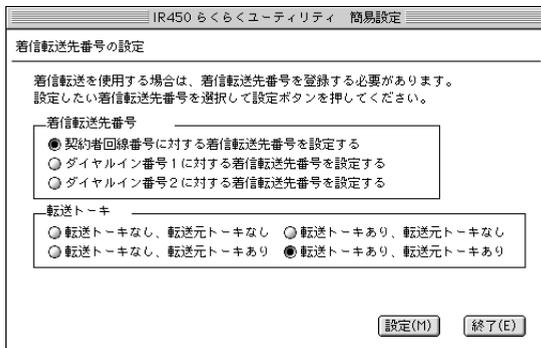


i・ナンバー未使用時

手順

以下の手順で設定します。

- 1 [アナログポート共通登録]画面の着信転送を[使用する]をクリックしてチェックマークをつけます。
- 2 着信転送先番号の設定画面が表示されます。
着信転送を行う着信転送先番号を選択し、転送トークサービスを選択してから**設定** ボタンをクリックします。



- 3 電話番号を入力する画面が表示されます。
着信転送したい電話番号を入力して、**登録** ボタンをクリックします。
着信転送先番号は契約者回線番号に対して一カ所、ダイヤルイン番号に対して2カ所の設定ができます。

画面は契約者回線番号の例です。

IR450 らくらくユーティリティ 簡易設定

契約者回線番号に対する着信転送先番号の設定

契約者回線番号の
アドレス

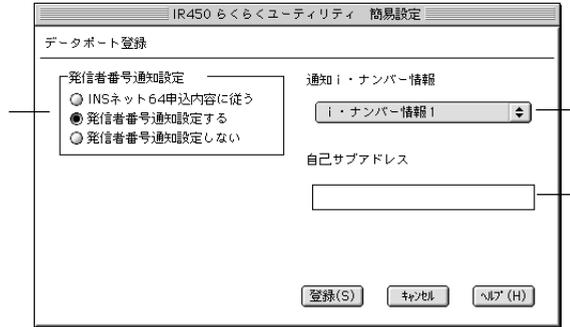
の着信の着信転送先番号は
アドレス

です。

登録(S) キャンセル ヘルプ(H)



i・ナンバーを使
用しない場合は
次ページを参照



簡易設定 - データポート登録 (i・ナンバー使用時)

この画面はi・ナンバー設定の画面でi・ナンバーを「使用する」に設定した場合には表示されます。

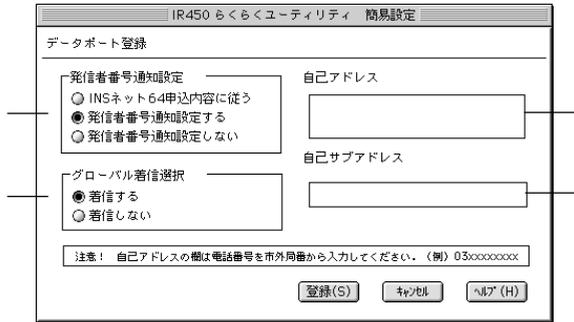
ここでは、データポート(TA機能)の機能設定を行います。

発信者番号通知設定 :INSネット64の発信者番号通知サービスとAtermの発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知するかしないかを選択することができます。

通知i・ナンバー情報 :相手に通知する電話番号をi・ナンバー情報1、2から選択します。

自己サブアドレス :i・ナンバーやダイヤルインサービスを利用しないで、自分宛以外の着信を受けないようにするときに、自己サブアドレスを設定します。着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する/しないを判断します。

●●**参照**「サブアドレス付きの着信...」143ページ



簡易設定 - データポート登録 (i・ナンバー未使用時)

ここでは、データポート(TA機能)の機能設定を行います。

グローバル着信選択 :INSネット64のグローバル着信を利用する場合に、データポートでグローバル着信する / しないを選択します。

発信者番号通知設定 :INSネット64の発信者番号通知サービスとAtermの発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知するかしないかを選択することができます。

自己アドレス :INSネット64のダイヤルインサービスを使用する場合に、契約者回線番号または追加したダイヤルイン番号を設定します。
電話番号を自己アドレスとして設定することにより、着信時に着信アドレスと自己アドレスを照合し、自分宛以外の着信は通信状態にしないようにします。

自己サブアドレス :i・ナンバーやダイヤルインサービスを利用しないで、自分宛以外の着信を受けないようにするときに、自己サブアドレスを設定します。
着信時に着信サブアドレスと自己サブアドレスを照合して通信する / しないを判断します。

●●**参照** 「サブアドレス付きの着信...」143 ページ



短縮・
識別番号登録
アイコン：
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



短縮ダイヤルでの
電話のかけ方
短縮番号は電話機
から \star ① のよ
うにボタンを押す
ことにより電話を
かけることができ
ます。

短縮・識別番号登録

短縮ダイヤルまたは識別着信番号として使用する場合にその短縮・識別
番号登録を登録します。相手アドレスは最大32桁、相手サブアドレスは
最大19桁まで登録可能で、最大10件まで登録することができます。

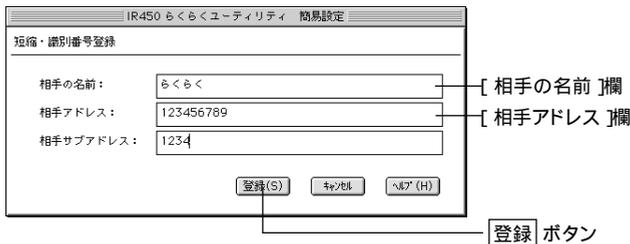
識別番号は、詳細設定のアナログポート登録で識別着信を「する」に設
定した場合、[0]~[9]に登録した相手電話番号のみを受け付けるこ
とができます。

●●参照 「短縮ダイヤルで電話をかける...」141ページ
「識別着信をする...」143ページ

手順

以下の手順で登録します。

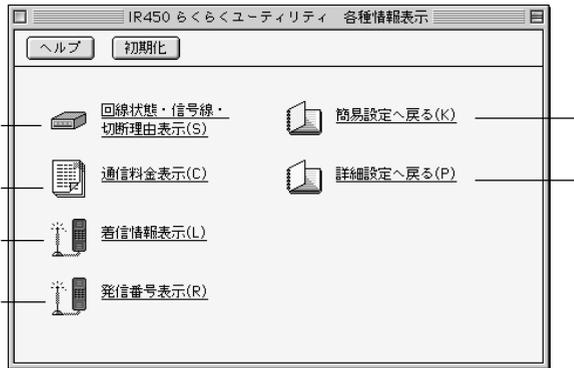
- 1 上の画面から登録したい番号を選択し、**追加** ボタンをクリックします。
- 2 相手の名前欄に名前を、相手アドレス欄にアドレスを入力し、**登録** ボタンをクリックします。



- 3 前の画面にもどり登録した名前が表示されます。続けて登録するときは、登録し
たい番号をクリックし、手順1~2をくり返します。

[IR450らくらくユーティリティ 各種情報表示]画面説明...

回線状態や切断理由、通信料金などの情報を表示するためのメニュー画面です。



回線状態・信号線・切断理由表示 : レイヤ1同期、レイヤ2リンク、パソコン信号状態表示、切断理由、生成源を表示します。

通信料金表示 : 通信料金を表示します。

着信情報表示 : 最終着信番号、着信拒否要因を表示します。

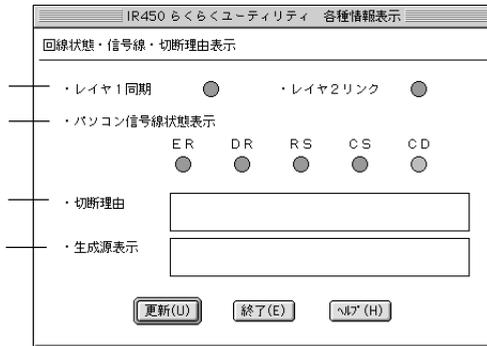
発信番号表示 : 最終発信番号を表示します。

簡易設定へ戻る : 簡易設定メニュー画面を表示します。
●●参照 27ページ

詳細設定へ戻る : 詳細設定のメニュー画面を表示します。
●●参照 43ページ



回線状態・信号線・切断理由表示アイコン：
クリックすると右の画面が表示されます。



各種情報表示 - 回線状態・信号線・切断理由表示

回線状態や信号線、切断理由などの情報を表示するための画面です。

レイヤ1同期、
レイヤ2リンク

: INSネット64回線のレイヤ1の同期、およびレイヤ2のリンクがとれているかを表示します。

いずれも正常の場合は緑点灯し、異常の場合は赤点灯します。

レイヤ1同期が赤色になっている場合は、AtermIR450/D背面のINSネット64のモジュラコンセントがINSケーブルで接続されていることを確認してください。

AtermIR450(DSUなし)をお使いの方は背面のS/T 回線コネクタとDSUがSバスケーブルで接続され、DSUのINSケーブルがINSネット64のモジュラコンセントに接続されていることを確認してください。ケーブルは音がするまで確実に挿入してください。

●●**参照** 導入マニュアル「3-3 ケーブルの接続のしかた」

パソコン信号状態
表示

: パソコン側通信ポートの信号線の状態を表示します。

各信号線がON状態の場合は緑点灯し、OFF状態の場合は点灯しません。(灰色表示になります)

切断理由

: 前回のデータポートでの通信の切断理由を表示します。

●●**参照** 「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページ

生成源表示

: 前回のデータポートでの通信の生成源を表示します。

●●**参照** 「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページ



通信料金表示 アイコン:

クリックすると右
の画面が表示さ
れます。

各種情報表示 - 通信料金表示

通話料金の情報を表示するための画面です。

- 通信料金** : 直前に使用したデータポートの通信料金を円で表示します。
- 累積通信料金** : ポート毎に使用した通信(通話)料金の累積を円で表示します。ポート毎に最大9,999,999円まで累積を行います(これを超えてしまった場合は9,999,999円のままです)。
データポート累積通信料金には、ルータ機能による通信料金も累積されます。
累積通信料金は、電源をOFFにすると内容は消去されます。
- クリア** ボタン : 累積料金をクリアします。全ポートの累積料金が0円に戻ります。



着信情報表示 アイコン：

クリックすると右
の画面が表示さ
れます。

各種情報表示 - 着信情報表示

着信に関する情報を表示するための画面です。

最終着信番号

宛先番号 :最後にAtermに着信した電話番号を表示します。

発信番号 :発信した側の電話番号を表示します。

この最終着信番号表示は、着信できなかった場合でもかかってきた番号を表示しますので、INSネット64から本当に着信があったかどうかを確認することができます。

着信拒否要因

着信拒否要因 :着信できなかった場合にAtermからINSネット64に対してポート毎に着信できなかった場合の要因コードを表示します。

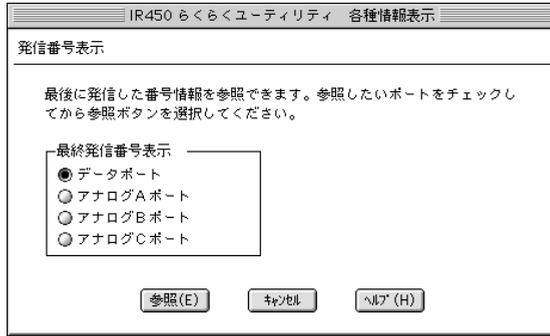
切断理由 :切断した理由を表示します。これによって、着信できなかった原因を判別することが可能です。

●●**参照** 「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページ



発信番号表示
アイコン：

クリックすると右
の画面が表示さ
れます。

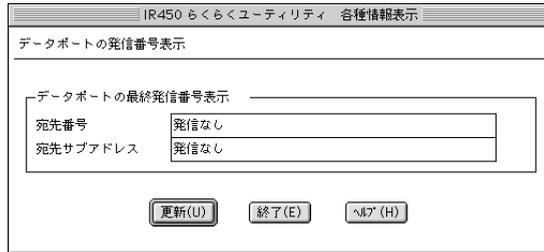


各種情報表示 - 発信番号表示

Atermの各ポートが最後に発信した相手番号と相手サブアドレスを表示します。

参照したいポートをチェックして **参照** ボタンをクリックします。

下の画面が表示されます。

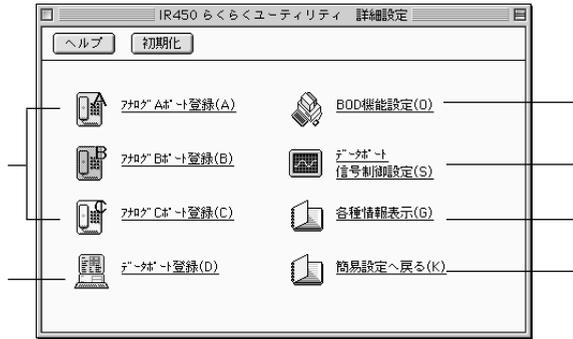


上の画面は、データポートの場合の例です。

ルータ機能による最終発信者番号表示はできません。

[IR450らくらくユーティリティ 詳細設定]画面説明...

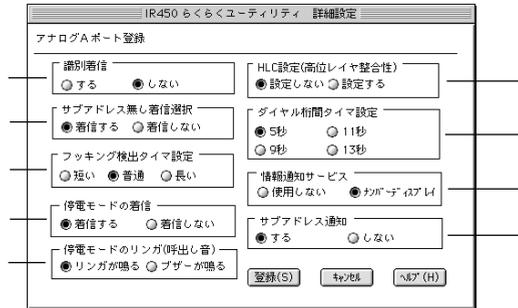
この画面では、通常は、特に変更することのない詳細な設定をするメニュー画面です。



- アナログXポート登録** : Xはそれぞれのアナログポートを表します。
アナログポートの設定画面を表示します。
識別着信、サブアドレスなし着信選択、HLC設定、ダイヤル桁間タイマ設定、フッキング検出タイマ設定、リバースパルス送出、情報通知サービス、サブアドレス通知、停電モードの設定を行います。
- データポート登録** : データポートの設定画面を表示します。
識別着信、サブアドレスなし着信選択、HLC設定、スティルスコールバック、無通信監視タイマ、強制切断タイマの設定を行います。
- BOD機能設定** : リソースBOD、スループットBOD、スループットBODパラメータの設定を行います。
- データポート信号制御設定** : ER信号、CD信号、DR信号の設定を行います。
- 各種情報表示** : 各種情報表示のメニュー画面を表示します。
●●参照 38 ページ
- 簡易設定へ戻る** : 簡易設定のメニュー画面を表示します。
●●参照 27 ページ



アナログポート
アイコン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。

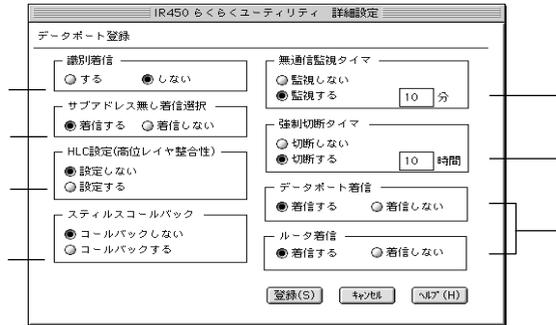


詳細設定 - アナログポート登録

- 識別着信** : 電話帳に登録した相手以外の着信を受け付けないようにする / しないを選択します。
●●●参照「識別着信をする...」143ページ
- サブアドレス無し着信選択** : サブアドレスなし着信をする / しないを選択します。
サブアドレスなし着信選択機能を使用することで、1本の回線に複数台設置したAtermを自由に呼び出すことができます。
- フッキング検出タイム設定** : アナログポートのフッキング検出時間を変更できます。
- 停電モードの着信 (Aポートのみ)** : 停電時に着信する / しないを選択します。
停電時にはアナログAポートのみ使用することができ、Bポート、Cポートは使用できません。
「着信しない」設定にすると(チェックしないと)停電動作時には節電のため、着信拒否をすることができます。
- 停電モードのリング (呼び出し音) (Aポートのみ)** : 停電動作時の呼び出し音を設定します。
「ブザー」を選択すると停電動作時には節電のため、着信時にはAterm内のブザーが鳴ります。
- HLC設定 (高レイヤ整合性)** : 接続するアナログ機器の種別をHLC(高レイヤ整合性)に設定して、HLCが一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。
HLCは簡易設定の「アナログポート登録」で選択した内容に従って設定されます。
●●●参照「HLC(高レイヤ整合性)を設定する...」144ページ
- ダイヤル桁間タイム設定** : アナログポートに接続したアナログ機器からダイヤルしたときに、最後のダイヤル入力からINSネット64に発信するまでの時間を変更できます。
- 情報通知サービス (Aポートのみ)** : INSナンバー・ディスプレイを使用する / しないを選択します。
●●●参照「5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用」152ページ
- サブアドレス通知 (Aポートのみ)** : INSナンバー・ディスプレイを使用する際に、発信者サブアドレスをアナログポート側に通知する / しないを選択します。



データポート登録アイコン：
クリックすると右の画面が表示されます。



詳細設定 - データポート登録

- 識別着信** : 電話帳で登録した相手以外の着信をする / しないを選択します。
 ●●●参照「識別着信をする...」155 ページ
- サブアドレス無し着信選択** : サブアドレスなし着信をする / しないを選択します。
 サブアドレスなし着信選択機能を使用することで、1本の回線に複数台設置したAtermを自由に呼び分けることができます。
- HLC設定 (高位レイヤ整合性)** : データポートに接続するパソコンや通信機器の種類をHLC(高位レイヤ整合性)に設定して、HLCが一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。
 ●●●参照「HLC(高位レイヤ整合性)を設定する...」144 ページ
- スタイルスコールバック** : スタイルスコールバックをする / しないを選択します。
 この機能を利用すると、通信料金はサーバー側に課金され、クライアント側は無料でデータ通信を継続できます。スタイルスコールバックを行うには、相手電話番号の最後に「CB」を付加して発信します。
 ●●●参照「スタイルスコールバックを使う...」162 ページ
- 無通信監視タイマ** : 一定時間経過してもデータの送信・受信が行われない場合に、Atermから自動的に回線を切断する / しないを選択します。
 これにより、切断のし忘れを回避できます。
 この機能を利用する場合は「監視する」を選択し、さらに監視時間を1～10分の範囲で設定してください。
 ●●●参照「無通信監視タイマを使う...」163 ページ
- 強制切断タイマ** : 一定時間連続して通信を行っている場合に、Atermから強制的に回線を切断する / しないを選択します。
 これにより、切断のし忘れを回避できます。
 この機能を利用する場合は「切断する」を選択し、さらに何時間連続で通信したら切断するかを1～10時間の範囲で設定してください。
 ●●●参照「強制切断タイマを使う...」164 ページ

データポート着信 / ルータ着信 : 着信の際、その着信をルータで応答するのかTAで応答するのかを設定します。

・ルータの着信を優先する場合は、データポート着信を「着信しない」、ルータ着信を「着信する」に設定してください。

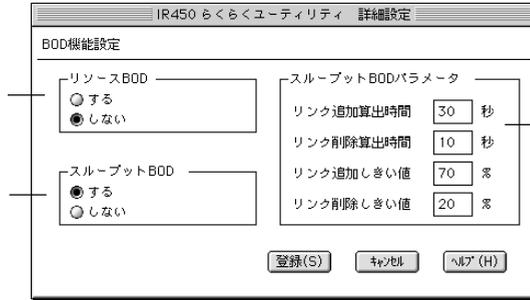
・TAの着信を優先する場合は、データポート着信を「着信する」、ルータ着信を「着信しない」に設定してください。

データポート着信とルータ着信を両方とも「着信する」に設定した場合は、データポートの着信が優先されます。

1
らくらく
コーディネート
ティ2
ミ
ミ
ミ
ブラウザ
を利用した
設定3
コ
ネ
ク
シ
ョ
ン
マ
ネ
ー
ジ
ャ4
電
話
機
を
利
用
し
た
設
定



**BOD機能設定
アイコン:**
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



詳細設定 - BOD機能設定

リソースBOD : リソースBODをする/しないを選択します。
この機能を利用しない設定にした場合(チェックしない場合)データポートで128kbpsマルチリンクPPP通信を行っている、アナログポートからの発信および着信はできません(ビジーになります)。
●●**参照**「リソースBODとは...」161ページ

スループットBOD : スループットBODをする/しないを選択します。
機能を利用する場合は、回線利用率がどの程度になったら64kbps同期通信に切り替えるか、どの程度になったら128kbpsマルチリンクPPP通信に戻すかを判断するために、各値を設定する必要があります。
●●**参照**「スループットBODとは...」158ページ

スループットBOD パラメータ

リンク追加算出時間 : リンクを追加する/しない(128kbpsマルチリンクPPP通信に戻すかどうか)を算出するための監視時間を設定します。設定できる値は10～60秒です。

リンク削除算出時間 : リンクを削除する/しない(64kbps同期通信に切り替えるかどうか)を算出するための監視時間を設定します。設定できる値は10～60秒です。

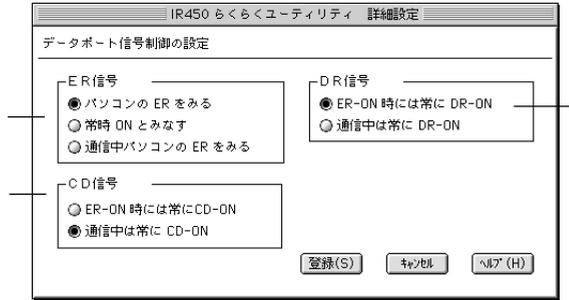
リンク追加しきい値 : リンクを追加する基準となるデータ転送の回線利用率を設定します。設定できる値は60～90%です。
リンク追加算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク追加しきい値で設定した値を上回ると、128kbpsマルチリンクPPP通信に戻ります。

リンク削除しきい値 : リンクを削除する基準となるデータ転送の回線利用率を設定します。設定できる値は10～40%です。

リンク削除算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク削除しきい値で設定した値を下回ると、64kbps同期通信に切り替わります。



データポート
信号制御設定
アイコン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。

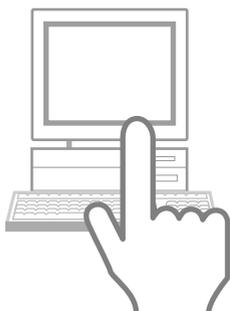


詳細設定 - データポート信号制御の設定

- ER 信号 : Aterm に接続されているパソコンの ER 信号の見方を選択します。
- CD 信号 : Aterm の CD 信号の動作を選択します。
- DR 信号 : Aterm の DR 信号の動作を選択します。

設定編

1
らくらくユーティリティ2
モデムブラウザを利用した設定3
コネクシオンマネージャ4
電話機を利用した設定



2 WWWブラウザを利用した設定

WWWブラウザを利用してルータ機能を設定する方法を説明しています。

2-1 WWWブラウザでの設定について

2-2 WWW画面設定リファレンス

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

2-1 WWWブラウザでの設定について

WWWブラウザでの設定は、Atermのルータ機能について設定するツールです。WWWブラウザでの設定には、「らくらく設定」と「詳細設定」があります。「らくらく設定」では、ルータ機能を使用するために最低限必要な項目のみを設定します。「詳細設定」では、ルータ機能のすべてについて設定することが可能です。

WWWブラウザでの設定手順...

WWWブラウザの設定画面を表示させ、設定する手順を解説します。

手順

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL欄に、「http://192.168.0.1」と入力します。
AtermのIPアドレスを変更した場合は、「192.168.0.1」の代わりに変更したIPアドレスを入力します。
- 3 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。
「ユーザ名」は、半角で「Admin」と入力します。AdminのAは大文字です。
「パスワード」は、Atermに設定してあるアクセスパスワードを入力します。
OK ボタンをクリックします。



ここでは、「Netscape Navigator」を使用しています。使用するWWWブラウザによっては画面が異なりますが、設定方法は同じです。

注意

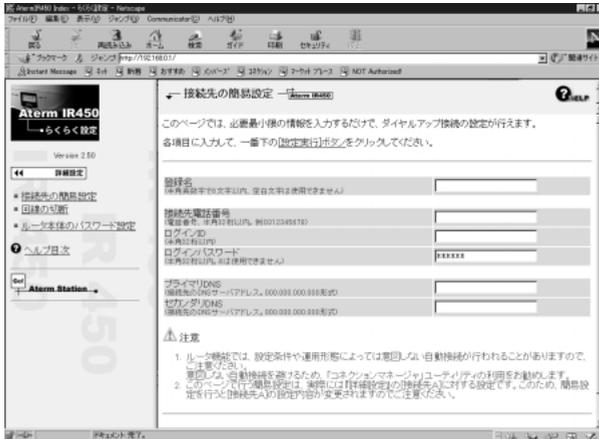
ユーザ名/パスワードを入力する画面が表示されず、「本体パスワード」を設定する画面が表示された場合は、Atermにパスワードが設定されていません。Atermでは、意図しない設定変更や不正アクセスを防止するため、設定を行う際にはアクセスパスワードを入力し運用するようになっています。アクセスパスワードを半角英数字・記号、8文字以内で指定して、登録してください。

4 WWWブラウザに、設定ページが表示されます。

最初に表示される設定ページは、「らくらく設定」のページです。

「詳細設定」のページを表示させるには、左フレーム内の[詳細設定]の文字をクリックします。

「詳細設定」のページから「らくらく設定」のページを表示させるには、左フレーム内の「らくらく設定」の文字をクリックします。



以下設定したい項目の文字を左フレームより選択してください。

5 各項目を入力・選択して、画面下の「設定実行」ボタンをクリックしてください。

入力をやり直したい場合は「変更前に戻す」ボタンを、誤った値を設定してしまい、元の値がわからなくなってしまった場合などには、「初期値に戻す」ボタンをクリックしてください。

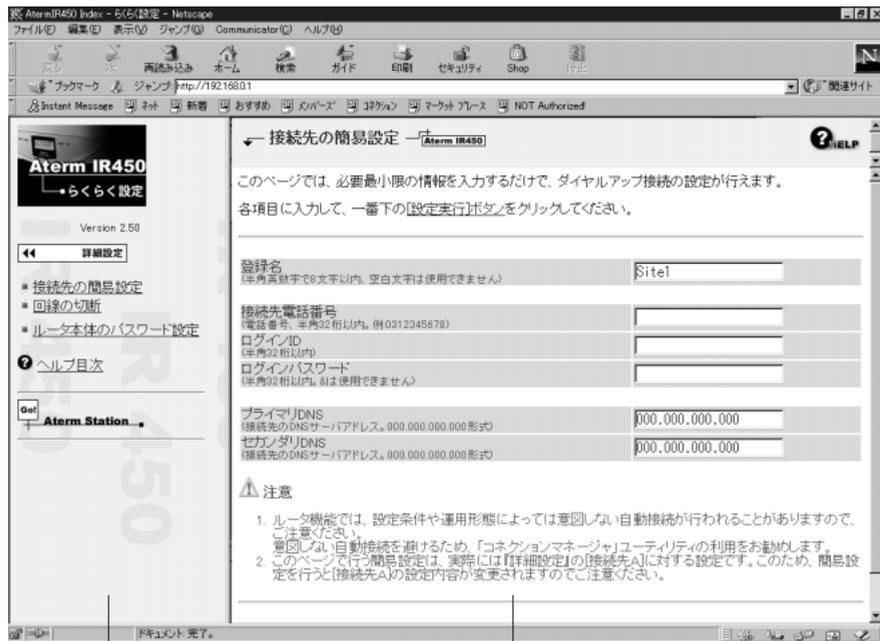
注意

- ・ 「設定実行」ボタンをクリックしないで、別の画面を表示させたり終了させると、設定した内容が反映されません。
「設定実行」ボタンをクリックした時点で、Atermに設定が反映されます。
- ・ 一旦、「設定実行」ボタンをクリックすると、「変更前に戻す」ボタンをクリックしても、設定は元に戻りません。
「初期値に戻す」ボタンでは、初期化されない項目もあります。

2-2 WWW画面設定リファレンス

らくらく設定...

必要最小限の項目を入力するだけで、インターネットへの端末型ダイヤルアップ接続に必要な設定が行えます。またらくらく設定に対し、すべてのルータ機能を設定できる詳細設定もあります。



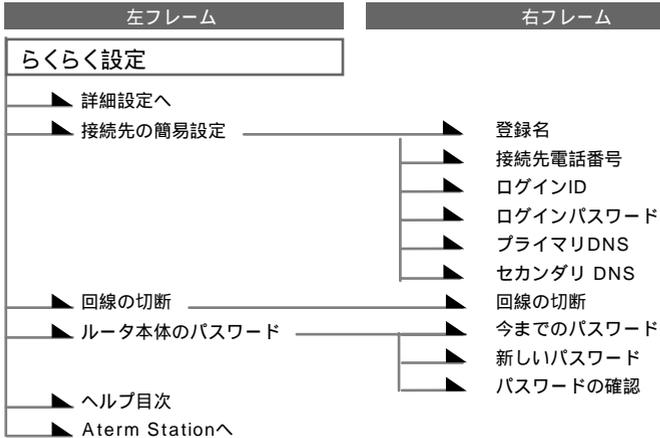
左フレーム

右フレーム

左フレームから設定したい項目を選び、右フレームで設定してください。

らくらく設定ページ構造

らくらく設定のページ構造は以下のようになります。



らくらく設定の「接続先の簡易設定」では、登録できる接続先は1カ所だけです。この設定内容は、詳細設定で登録できるA~Jの登録エントリのうち「接続先A」に設定されます。複数の接続先を登録する場合は、左フレーム内の[◀◀ 詳細設定]の文字をクリックして、「詳細設定」のページを表示させてください。

設定

接続先の簡易設定

「接続先の簡易設定」ページでは、必要最小限の項目を入力するだけで、インターネットプロバイダへのダイヤルアップ接続に必要な設定が行えます。

簡易設定では、接続先「A」に内容を登録して、接続先「A」をデフォルトルート（Atermが優先的にデータを送信する相手先）として設定します。デフォルトルートの設定を行うと、Atermが必要に応じて自動的に相手先に接続します。

登録名 (半角英数字で8文字以内、空白文字は使用できません)	<input type="text"/>
接続先電話番号 (電話番号、半角32桁以内、例0312345678)	<input type="text"/>
ログインID (半角32桁以内)	<input type="text"/>
ログインパスワード (半角32桁以内、&は使用できません)	<input type="text"/>
プライマリDNS (接続先のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)	<input type="text"/>
セカンダリDNS (接続先のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)	<input type="text"/>

登録名

プロバイダのAtermへの登録名です。半角8文字以内で入力してください。プロバイダの名称を元に、たとえば「BIGLOBE」のように設定します。(工場出荷時はSite1です。)
ここで設定した名称は、デフォルトルートの選択に利用します。●●[参照](#) 74ページ

接続先電話番号

プロバイダの電話番号です。最寄りのアクセスポイントの電話番号を、半角数字で市外局番から指定してください。指定できる長さは半角32文字までです。

ログインID

プロバイダに接続するために必要なログインID(アカウント)を入力します。プロバイダからの情報を元に指定してください。

ログインパスワード

プロバイダに接続するために必要なパスワードを入力します。プロバイダからの情報を元に指定してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。

なお、パスワード中に「&」は使用できません。

プライマリDNS

プロバイダのプライマリDNSサーバのアドレスを入力します。プロバイダからの情報を元に半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。

セカンダリDNS

プロバイダのセカンダリDNSサーバのアドレスを入力します。プロバイダからの情報を元に半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。



1. ルータ機能を利用する場合、設定や運用形態によっては意図しない自動接続が行われることがありますのでご注意ください。
2. 接続先「A」がすでに設定されている場合、簡易設定を行うと接続先「A」の他の設定項目も変更されるのでご注意ください。他の設定項目を修正したい場合は「詳細設定」ページをご利用ください。



1. 他の接続先の登録を行う場合は、「詳細設定」ページをご利用ください。
2. 簡易設定を行った場合の他の設定項目の設定値は、以下の通りです。

自動設定する他の項目

回線種別	INS ネット64
認証方式	自動
無通信監視タイマ	監視する
無通信監視時間	3分
強制切断タイマ	切断する
強制切断時間	10時間
マルチリンク通信	行わない
リソースBOD	行わない
スループットBOD	行わない
アドバンスドNAT	使用する
接続モード	端末型
BACP	使用しない
MS-CBCP	使用しない
相手からの着信許可	しない
WAN、自側IPアドレス	0.0.0.0
相手ネットワークアドレス	0.0.0.0

回線の切断

「回線の切断」ページでは、Atermのルータ機能で接続した、接続中の回線をすみやかに切断することができます。

回線の切断

(ルータ機能で接続した回線をすべて切断します)

全回線の切断

1
らくらく
コーディネート

回線の切断

ルータ機能では無通信監視タイマにより自動的に切断を行うことができますが、**全回線の切断** ボタンをクリックすることで、ルータ機能で接続した、通信中の回線をすみやかに切断することができます。

2
WWWブラウザ
を利用した設定

無通信監視タイマは、無通信状態が設定時間以上続かない限り、切断を行いません。

データの送受信が行われている途中で、**全回線の切断** ボタンをクリックすると、回線の切断を行ってもすぐ、自動接続することがあります。

自動接続を完全に禁止したい場合は、「コネクションマネージャ」を利用して**[自動接続を禁止]**の設定を行ってください。

●●**参照** 「3 コネクションマネージャ」91ページ

3
コネクション
マネージャ4
電話機を利用
した設定

ルータ本体のパスワード設定

「ルータ本体のパスワード」ページでは、Aterm本体のアクセスパスワードを設定します。Atermでは、意図しない設定変更や不正アクセスを防止するため、設定を行う際にはアクセスパスワードを入力する必要があります。

パスワードに使用できるのは半角英数字・記号のみで、8文字以内で指定してください。ただし、パスワード中に「&」を使用することはできません。また、このパスワードと同時に使われるユーザIDは「Admin」で固定されています。(すべて半角でAは大文字です。)

今までのパスワード (半角8文字以内)	*****
新しいパスワード (半角8文字以内、&は使用できません)	*****
パスワードの確認 (新しいパスワードを再入力)	*****

今までのパスワード

ここに今までのパスワードを入力してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。なお、初回設定時には今までのパスワードがありませんので、この項目は表示されません。

登録したパスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷時に戻してからあらためてパスワードを登録してください。●●[参照](#) 導入マニュアル「2-3 ディップスイッチについて...」

初期化を行った場合、Atermに設定された設定はすべて失われますので、あらためて設定が必要となります。

新しいパスワード

ここに新しいパスワードを入力してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。なお、パスワード中に「&」を使用することはできません。

パスワードの確認

確認のため、新しいパスワードを再入力してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。

詳細設定...

接続先の登録

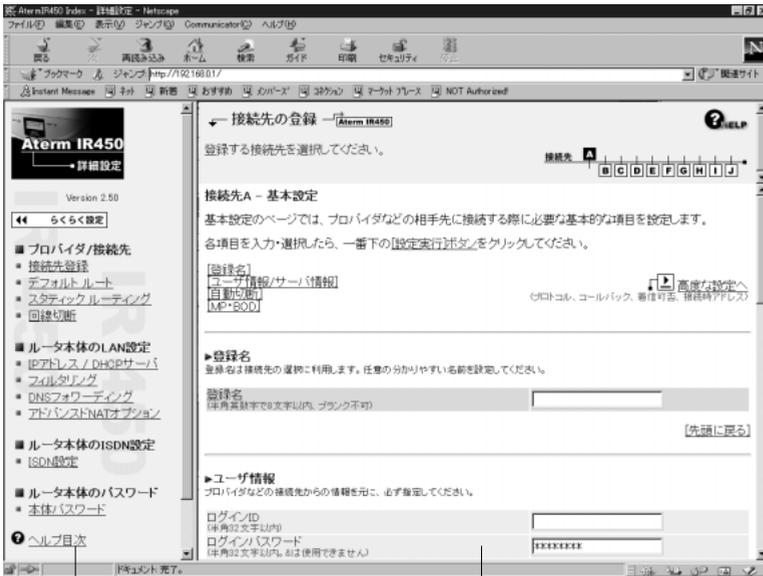
「接続先の登録」のページでは、インターネットプロバイダやWANの相手先など、接続先をA～JまでのエンTRIESに最大10ヶ所登録することができます。

登録エンTRIESは、ページ上部のA～Jのボタンをクリックすることにより切り替えられるようになっています。

また、「接続先の登録」のページには、「基本設定」のページと「高度な設定」のページがあります。「基本設定」のページでは、プロバイダなどの相手先に接続する際に必要な基本項目を設定します。「高度な設定」のページでは、通常は変更する必要のない高度な機能の設定が行えます。

「高度な設定」のページの項目は、プロバイダへのダイヤルアップ接続に際しては特に変更する必要はありませんが、特定のイントラネットへの接続または、Atermをサーバ側で使用する際などに必要になることがあります。

「高度な設定」を開く場合は、画面右の「高度な設定へ」の文字をクリックしてください。



左フレーム

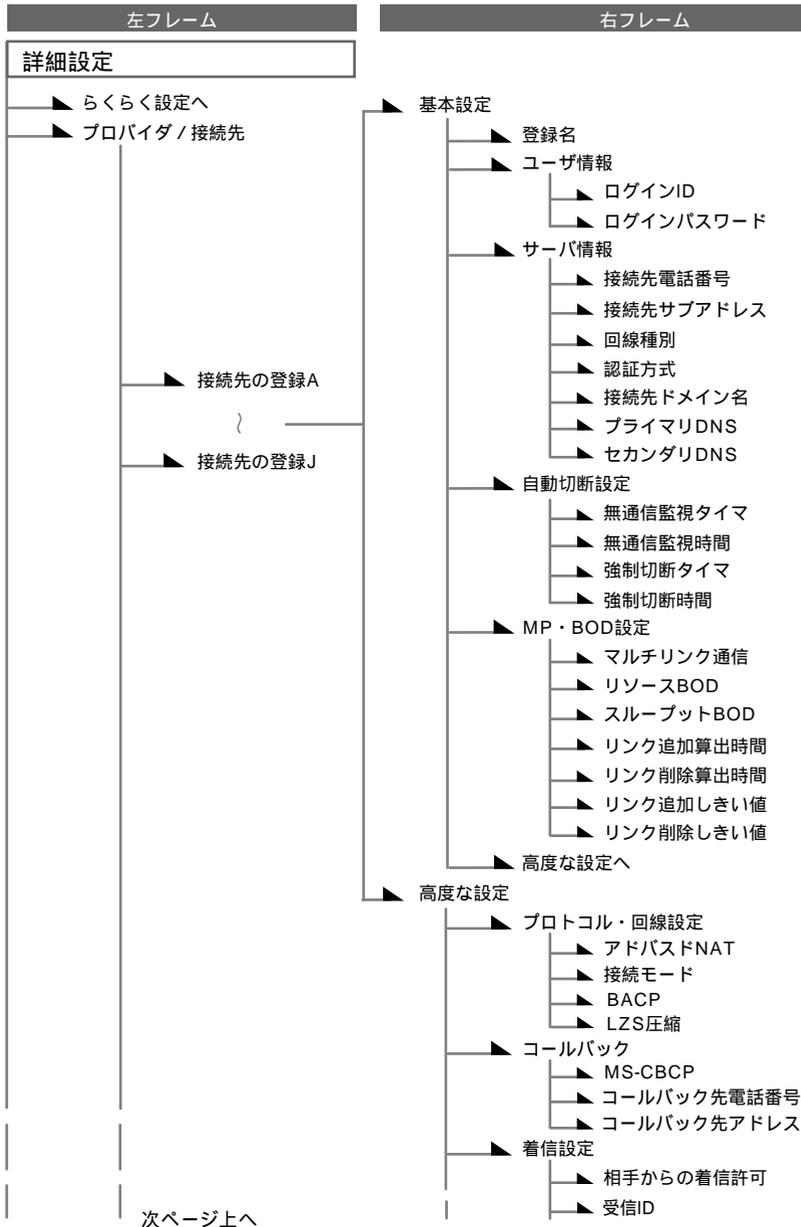
右フレーム

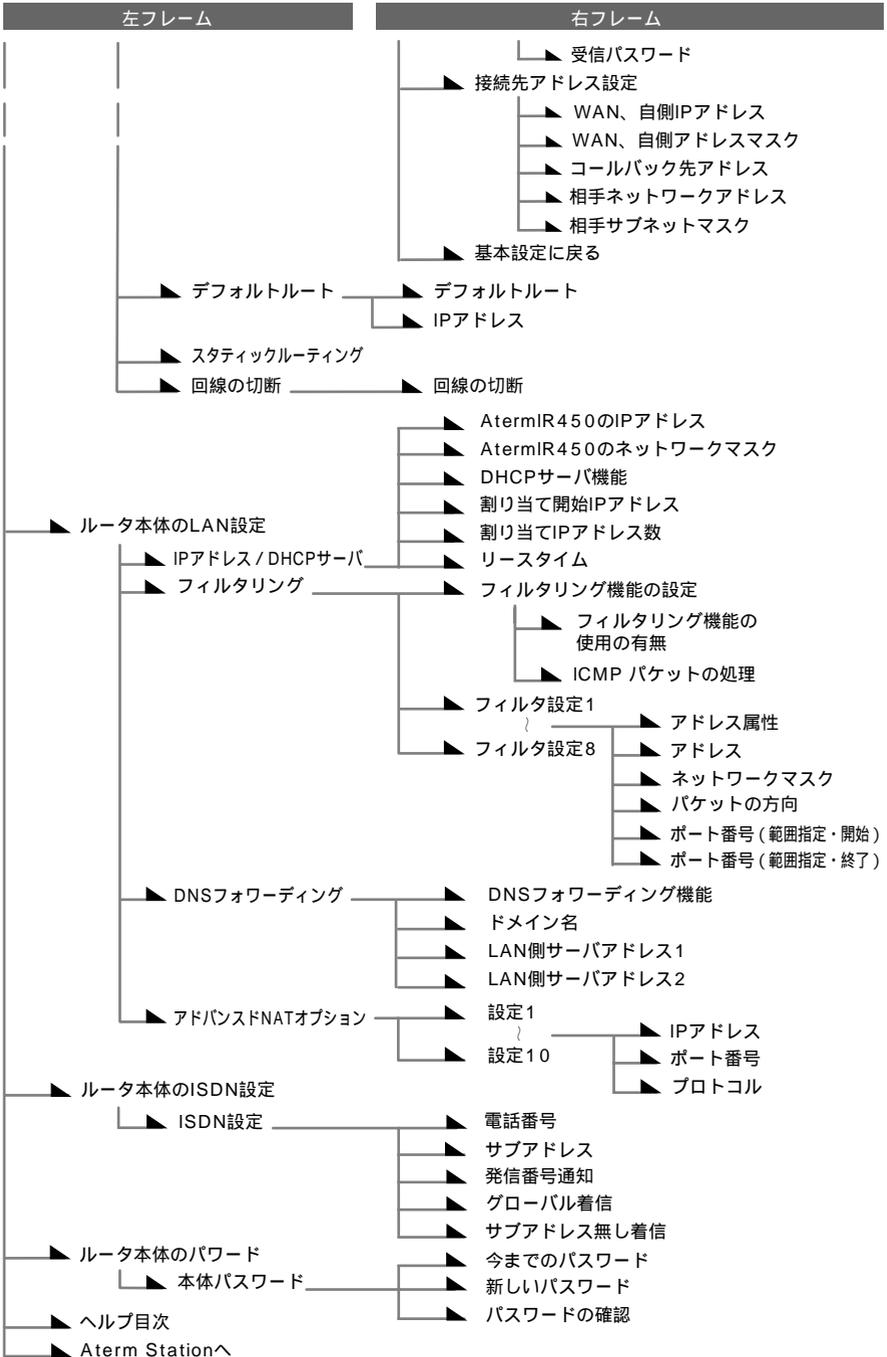
左フレームから設定したい項目を選び、右フレームで設定してください。

61 ページからの各項目の説明を参照して設定してください。

詳細設定ページ構造

詳細設定のページ構造は以下のようになります。





プロバイダ/接続先

接続先の登録

接続先は、ページ上部の[A]~[J]ボタンをクリックすることにより切り替えられるようになっています。選択中の接続先は黒地に白抜き文字、他のエントリは白地に黒文字で表示されます。「基本設定」と「高度な設定」があり、画面右のアイコンで切り替えます。

(1)基本設定

基本設定のページでは、プロバイダなどの相手先に接続する際に必要な基本項目を設定します。

登録名

プロバイダなどの名称をもとに半角8文字以内で指定してください。

ここで設定した名称は、「デフォルトルート」ページでデフォルトルートの設定の際に利用されます。

▶登録名

登録名は接続先の選択に利用します。任意の分かりやすい名前を設定してください。

登録名

(半角英数字で8文字以内、ブランク不可)

ユーザ情報

相手先に接続する際に必要なユーザ情報を設定します。

▶ユーザ情報

プロバイダなどの接続先からの情報を元に、必ず指定してください。

ログインID (半角32文字以内)	<input type="text"/>
ログインパスワード (半角32文字以内、&は使用できません)	<input type="password" value="*****"/>

ログインID

相手先に接続するために必要なログインID(アカウント)を入力します。相手先(プロバイダなど)からの情報を元に指定してください。

ログインパスワード

相手先に接続するために必要なパスワードを入力します。相手先(プロバイダなど)からの情報を元に指定してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。

なお、パスワード中に「&」は使用できません。

1
らくらくユーティリティ

2
WWWブラウザを利用した設定

3
コネクションマネージャ

4
電話機を利用した設定

サーバ情報

相手先に接続する際に必要なサーバ情報を設定します。

▶サーバ情報

プロバイダなどの接続先から指定された情報を元に、必ず指定してください。

接続先電話番号 (電話番号、半角32桁以内、例:0312345678)	<input type="text"/>
接続先サブアドレス (もしあれば指定。番号を半角19桁以内)	<input type="text"/>
回線種別 (通常はINSネット64を指定してください)	INSネット64
認証方式 (通常は自動を指定してください)	自動
接続先ドメイン名 (ドメインネームルーティング機能を使用する場合に接続先のドメイン名を指定。半角63文字以内)	<input type="text"/>
プライマリDNS (接続先のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)	<input type="text"/>
セカンダリDNS (接続先のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)	<input type="text"/>

接続先電話番号

接続先の電話番号です。電話番号を半角数字で市外局番から指定してください。指定できる長さは半角32文字までです。

接続先サブアドレス

接続先のサブアドレスです。サブアドレスがある場合に限り、半角数字で19文字以内で入力してください。なお、プロバイダヘダイアルアップ接続する場合など、通常は特に指定する必要はありません(空欄のままにしておいてください)。

回線種別

INSネット64の場合は「INSネット64」を、常時接続型のOCNエコノミーを利用している場合は「OCNエコノミー」を選択してください。初期値は「INSネット64」になっています。なお、OCNダイアルアクセスをお使いの場合は「INSネット64」を指定してください。

認証方式

相手先に接続する際の認証プロトコルを選択します。

- なし 認証を行いません。接続先が認証を要求する場合、Atermからの接続は行えませんがご注意ください。
- 自動 接続先が要求する認証プロトコル(PAPまたはCHAP)に合わせます。
- PAP 認証プロトコルとしてPAP(Password Authentication Protocol)を使用します。
- CHAP 認証プロトコルとしてCHAP(Challenge Handshake Authentication Protocol)を使用します。

接続先ドメイン名

接続先のドメイン名を必要に応じて指定します。

ドメイン名を指定することにより、TCP/IPアプリケーションのリクエストに応じて接続先を自動的に切り替える「ドメインネームルーティング」機能が使用できるようになります。

●●参照「7-9 ドメインネームルーティング」214ページ

ドメインネームルーティングをご利用にならない場合は、必ず空欄のままにしてください。

プライマリ DNS

相手先のプライマリ DNS サーバのアドレスを入力します。相手先からの情報を元に半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。

セカンダリ DNS

相手先のセカンダリ DNS サーバのアドレスを入力します。相手先からの情報を元に半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。



注意

プライマリ DNS サーバが設定されていれば、必ずしもセカンダリ DNS サーバを設定する必要はありません。

- DNS サーバの IP アドレスが不明の場合は、「付録 プロバイダの DNS サーバの調べ方」334 ページを参照して指定してください。

自動切断設定

Atermは、タイマを利用して回線を自動切断するようになっています。意図しない長時間接続を防止するためにも、必ず設定してください。

▶自動切断設定

意図しない長時間接続を防止するために、必ず指定してください。

無通信監視タイマ (無通信状態が指定分続いたら切断)	監視する
無通信監視時間	3分
強制切断タイマ (連続通信が指定時間続いたら切断)	切断する
強制切断時間(連続通信時間)	10時間

無通信監視タイマ

一定時間経過してもデータの送信・受信が行われない場合に、Atermから自動的に回線を切断するかどうかを設定します。これにより、切断のし忘れを回避できます。

機能を利用する場合は「監視する」を選択し、さらに監視時間を1～10分の範囲で設定してください。

初期値は「監視する」「3分」になっています。

強制切断タイマ

一定時間連続して通信を行っている場合に、Atermから強制的に回線を切断するかどうかを設定します。これにより、切断のし忘れを回避できます。

機能を利用する場合は「切断する」を選択し、さらに何時間連続で通信したら切断するかを1～10時間の範囲で選択してください。

初期値は「切断する」「10時間」になっています。



強制切断タイマにより、通信が切断された場合、再び通信を行うことができません。通信を行うためには、一度Atermの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。



OCNエコノミーなどのように、常時接続する場合は、無通信監視タイマを「監視しない」、強制監視タイマを「切断しない」にしてください。

MP・BOD設定

2本のBチャンネルを同時に利用する128kbpsマルチリンクPPP通信と、2本目のBチャンネルをどのように使用するかを設定するBOD(Band On Demand、バンド・オン・デマンド)機能に関する設定です。

▶MP・BOD設定

接続先が128kマルチリンク通信に対応しており、128kマルチリンク通信を行いたい場合に必要に応じて指定してください。

マルチリンク通信(MP128k)	行わない
リソースBOD	行わない
スループットBOD	行わない
リンク追加算出時間	10秒
リンク削除算出時間	10秒
リンク追加しきい値	60%
リンク削除しきい値	10%

マルチリンク通信(MP128k)

Bチャンネルを2本同時に利用して接続する128kbpsマルチリンクPPP通信を行うかどうかを選択します。

相手先のアクセスポイントが128kbpsマルチリンクPPP通信に対応していて、128kbps通信を行いたい場合のみ「行う」に設定してください。なお、128kbpsマルチリンクPPP通信を行うと2倍の電話料金がかかりますのでご注意ください。

初期値は「行わない」になっています。

リソースBOD

リソースBOD(128kbpsマルチリンクPPP通信時にBチャンネルを2本とも利用し、アナログポートからの発信や着信の際に、2本目のBチャンネルを自動的に空ける機能)を行うかどうかを設定します。

機能を利用する場合は「行う」を、利用しない場合は「行わない」を選択してください。

なお、「行わない」を選択した場合、128kbpsマルチリンクPPP通信を行っているときアナログポートからの発信および着信はできません(話し中になります)。

初期値は「行わない」になっています。

スループットBOD

スループットBOD(128kbpsマルチリンクPPP通信を行う設定の時に、データ量によって2本目のBチャンネルを使うかどうかを自動的に決定する機能)を行うかどうかを設定します。機能を利用する場合は「行う」を、利用しない場合は「行わない」を選択してください。また、機能を利用する場合は、回線利用率がどの程度になったら64kbps同期通信(Bチャンネルを1本のみ使用)に切り替えるか、どの程度になったら128kbpsマルチリンクPPP通信(Bチャンネルを2本とも使用)に戻すかを判断するために、以下の各値を設定する必要があります。

なお、128kbps通信時には2倍の電話料金がかかります。また、64kbps同期通信(Bチャンネル1本)から128kbps通信(Bチャンネル2本)に切り替わる際には、必ず最低でも10円の電話料金がかかります。64k 128k切り替えが頻繁に起こらないよう、設定値を調整してください。

初期値は「行わない」になっています。

リンク追加算出時間

リンクを追加するかどうか(128kbpsマルチリンクPPP通信に戻すかどうか)を算出するための監視時間を選択します。指定できる値は10～60秒です。

リンク削除算出時間

リンクを削除するかどうか(64kbps同期通信に切り替えるかどうか)を算出するための監視時間を選択します。指定できる値は10～60秒です。

リンク追加しきい値

リンクを追加する基準となるデータ転送の回線利用率を選択します。指定できる値は60～90%です。

リンク追加算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク追加しきい値で設定した値を上回ると、128kbpsマルチリンクPPP通信に戻ります。

リンク削除しきい値

リンクを削除する基準となるデータ転送の回線利用率を設定します。選択できる値は10～40%です。

リンク削除算出時間で設定した時間内に、データ転送の回線利用率がリンク削除しきい値で設定した値を下回ると、64kbps同期通信に切り替わります。

たとえば通常10秒間に最大約75Kバイトのデータ転送能力があります。リンク削除算出時間が10秒でリンク削除しきい値が20%の場合、10秒間のデータ転送能力が15Kバイト(75Kバイトの20%)に下がってきた場合、64kbps同期通信に切り替わります。

(2)高度な設定

高度な設定のページでは、詳細な機能の設定が行えます。通常は変更する必要はありません。誤った設定を行った場合、通信できなくなるなどのトラブルになりますのでご注意ください。これらの項目は、プロバイダへのダイヤルアップ接続に際しては特に変更する必要はありませんが、LAN同士の接続などの際に変更が必要になることがあります。画面右のアイコンで切り替えます。

プロトコル・回線設定

相手先との接続プロトコルや接続方法を設定します。

▶プロトコル・回線設定

相手先との接続プロトコルや接続方法、回線連戻などが必要に応じて指定してください。

アドバンスドNAT	使用する
接続モード	端末型
BACP	使用しない
LZS圧縮	使用しない

アドバンスドNAT

相手先への接続時に割り当てられる一つのIPアドレスを、LAN接続した各パソコンへ自動的にローカルのIPアドレスへと変換する機能です。これにより、一つの端末型ダイヤルアップ契約でも、複数のパソコンから同時に、専用線感覚でインターネットアクセスができます。機能を使用する場合は「使用する」を、使用しない場合は「使用しない」を選択してください。初期値は「使用する」になっています。LAN接続した複数のパソコンからプロバイダへダイヤルアップ接続する場合など、通常は「使用する」を選択してください。

接続モード

相手先とどのように接続するかを選択します。初期値は「端末型」になっています。プロバイダへのダイヤルアップ接続など、通常は「端末型」を選択してください。

「端末型」

プロバイダへの端末型ダイヤルアップ接続を行う場合に選択します。接続時に相手先にIPアドレスの割り当てを要求します。

「LAN型」

LAN型ダイヤルアップ接続を行う場合に選択します。プロバイダ加入時などにIPアドレスの割り当てを計画的に行っている場合となります。

BACP

128kbps マルチリンク PPP 通信を行う際に、BACP (Bandwidth Allocation Control Protocol、バンド幅調整プロトコル) を利用するかどうかを選択します。相手先がBACPに対応している場合のみ、BACPでのネゴシエーションが行われます。

初期値は「使用しない」になっています。

LZS 圧縮

LZS圧縮機能を利用するかどうかを選択します。Atermを対向で使用する場合、LZS圧縮機能を利用すると、IPパケットのヘッダ部とデータ部を圧縮し、実際の回線速度以上のスループット(最大4倍)が実現されます。初期値は「使用しない」になっています。

コールバック

相手先と接続する際に、こちらからの発信をいったん切断し、相手先から電話をかけ直してもらう(コールバック)ことにより接続する機能です。相手先がMS-CBCPによるコールバック機能を持っており、Atermからの発信をコールバックして欲しい場合に指定してください。

▶コールバック

相手先がコールバック機能を持っており、IP460からの発信をコールバックして欲しい場合に指定してください。

MS-CBCP	<input type="text" value="使用しない"/>
コールバック先電話番号 (電話番号、半角32桁以内)	<input type="text"/>
コールバック先サブアドレス (もしあれば指定。番号を半角19桁以内)	<input type="text"/>

MS-CBCP

MS-CBCP(Microsoft Callback Control Protocol)によるコールバック接続を行うかどうかを選択します。コールバック接続を行う場合は「使用する」を、コールバック接続を行わないを選択してください。初期値は「使用しない」になっています。

コールバック先電話番号

コールバック接続を行う際に相手先にかけてもらう電話番号(アドレス)を設定します。相手先がコールバック先電話番号を要求する場合のみ指定してください。

コールバック先サブアドレス

コールバック接続を行う際に相手先にかけてもらう電話番号のサブアドレスを設定します。相手先がコールバック先サブアドレスを要求する場合のみ指定してください。

注意

MS-CBCPコールバックは、Atermが発信側(コールバックされる側)としてのみ動作可能です。Atermが着信側となる場合は、必ずMS-CBCPコールバックは「使用しない」に設定してください。もし、誤って使用した場合、通信が切れなくなる場合があります。なお、AtermではMS-CBCPコールバックの指定できる接続先は一ヶ所のみです。

MS-CBCPコールバックは、接続相手装置(システム)によりコールバックに失敗することがあります。確実にコールバックされていることを確認するには、LCD表示により、発信呼が切断され、コールバックの着信を受けたことを確認してください。

発信側として、MS-CBCPコールバックを使用する場合には、必ずMP・BOD設定でマルチリンク通信を「行わない」に設定してください。

ルータ機能では、ステイルスコールバックは発信側と着信側、ともにサポートしていません。

着信設定

相手先からのAtermへの着信を許可するかどうかを設定します。

着信を許可する場合は、不正アクセス防止の観点から、受信IDと受信パスワードを指定して、特定のユーザのみが接続できるようにすることをお勧めします。

▶着信設定

相手先からの着信を許可するかどうかを指定してください。
着信を許可する場合には、セキュリティ上、必ず受信IDと受信パスワードを設定してください。受信IDと受信パスワードが一致した相手からの通信のみ着信します。

相手からの着信許可	しない
受信ID (半角32文字以内)	
受信パスワード (半角32文字以内、&は使用できません)	*****

相手からの着信許可

相手先からの着信を許可するかどうかを選択します。着信を許可する場合は「する」を、許可しない場合は「しない」を選択してください。

初期値は「しない」になっています。

受信ID

相手先からの着信を許可する場合に使用する受信IDを指定します。半角英数字記号で32文字以内で指定してください。

受信パスワード

相手先からの着信を許可する場合に使用する受信パスワードを指定します。半角英数字記号で32文字以内で指定してください。なお、「&」は使用できません。

接続時アドレス設定

LAN同士の接続など、相手先との接続時に特定のアドレスを指定する必要がある場合に指定します。プロバイダへの端末型ダイヤルアップ接続を行う場合は、特に変更する必要はありません。

▶ 接続時アドレス設定

LAN間接続など、相手先との接続時に特定のアドレスを指定する必要がある場合に指定してください。プロバイダへの端末型ダイヤルアップ接続を行う場合は、特に変更する必要はありません。

なお、設定項目の意味や、どのような場合に設定するかについて詳しくは[HELP](#)をご参照ください。

WAN、自側IPアドレス (000.000.000.000形式。詳しくは HELP をご参照ください)	<input type="text"/>
WAN、自側アドレスマスク (000.000.000.000形式。詳しくは HELP をご参照ください)	<input type="text"/>
相手IPアドレス (000.000.000.000形式。詳しくは HELP をご参照ください)	<input type="text"/>
相手ネットワークアドレス (000.000.000.000形式。詳しくは HELP をご参照ください)	<input type="text"/>
相手サブネットマスク (000.000.000.000形式。詳しくは HELP をご参照ください)	<input type="text"/>

WAN、自側IPアドレス

Atermが他のネットワークとWAN経由でLAN間接続を行う場合、あるいはAtermがRASサーバとして動作する場合に、Aterm側のネットワークアドレスを相手ルータなどに通知するために使用します。通常は自側のIPアドレスを指定してください。

WAN、自側アドレスマスク

Atermが他のネットワークとWAN経由でLAN間接続を行う場合、あるいはAtermがRASサーバとして動作する場合に、Aterm側のネットワークアドレスを相手ルータなどに通知するために使用します。通常は自側のアドレスマスクを指定してください。

相手IPアドレス

AtermがRASサーバとして動作する場合、接続先端末が使用するIPアドレスとして使用されます。

相手ネットワークアドレス

デフォルトルート以外の特定のネットワークアドレスに対して自動発信したい場合に、その相手のネットワークアドレスを指定します。

相手サブネットマスク

デフォルトルート以外の特定のネットワークアドレスに対して自動発信したい場合に、その相手のサブネットマスクを指定します。



参考

利用形態別の設定は「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」220ページを参照してください。

設定編

1
らくらく
コーディネート2
WWWブラウザ
を利用した
設定3
コネクショ
ンマネージャ4
電話機を利用
した設定

デフォルトルート

「デフォルトルート」ページでは、「接続先の登録」ページで登録したプロバイダ/接続先を元に、デフォルトルート(AtermIR450が優先的にデータを送信する相手先)が変更できます。

デフォルトルート (自動的に回線を接続する相手先)	なし
IPアドレス (000.000.000.000形式。通常は初期値のままをご利用いただけます)	0.0.0.0
<input type="button" value="登録"/>	

デフォルトルート

Atermのルータ機能を使用してお客様がインターネットへアクセスする場合、自動接続機能(ダイヤル・オン・デマンド)が起動されます。自動接続時には、まずドメインネーム・ルーティング機能によって接続先がサーチされ、該当する接続先が見つかった場合はその接続先に接続されます。

該当する接続先が見当たらなかった場合に、このデフォルトルートに接続します。プロバイダ情報が一つだけ登録してある場合は必ずそのプロバイダを登録してください。簡単設定のページで設定をした場合は、自動的に接続先Aの登録名(工場出荷時は「Site1」)が自動登録先として設定されます。

プロバイダ情報を複数登録してある場合、主に使用するプロバイダ登録名を指定してください。



- デフォルトルートの設定により、AtermIR450は必要に応じて自動的に指定した相手先(デフォルトルート)に接続します。設定や運用形態によっては意図しない自動接続が行われることがありますのでご注意ください。意図しない自動接続を避けるには、別途、「コネクションマネージャ」をご使用いただき、デフォルトルートの設定を適宜変更してください。
- デフォルトルートを「なし」に設定した場合、詳細設定の「接続先の登録」内の、接続時アドレス設定(高度な設定ページにあります)で指定する「相手ネットワークアドレス」以外への発信が禁止されます。

IPアドレス

この項目はAtermのHUBポート上に、上位ゲートウェイ(ルータなど)が設置されている場合のみ、必要に応じて設定してください。デフォルトルートのプルダウンメニューの中から「IP指定」を選択して、そのゲートウェイのIPアドレスを入力することでAtermのデフォルトゲートウェイとなります。半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。

スタティックルーティング



このページはプロバイダへ端末型ダイヤルアップ接続してインターネットにアクセスするような使い方をされるお客様は、特に設定する必要はありません。

Atermのルータ機能は、接続されたコンピュータなどから受け取ったパケットに記述されたそのパケットの宛先となるIPアドレスによって適切な経路を決定し、次の転送先にそのデータを転送します。このような機能をルーティング機能といいます。

スタティックルーティングとは、このルーティング機能を行うために必要となる宛先IPアドレスとそこに向かうための経路となる次の転送先を対応させた一覧表(ルーティングテーブル)を、お客様自身で設定していただき、Atermがその内容にしたがって動作する方式です。「スタティックルーティング」ページでは、このルーティングテーブルを作成します。登録できる件数は最大で50件です。

No.	ターゲット	マスク	ゲートウェイ	
	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	BIGLOBE <input type="text" value="0.0.0.0"/>	<input type="button" value="追加"/>
1	10.0.0.0	255.255.0.0	192.168.0.251	<input type="button" value="削除"/>
2	172.16.0.0	255.255.255.0	192.168.0.252	<input type="button" value="削除"/>

ターゲット

宛先となるコンピュータやルータのIPアドレス、またはネットワークアドレスを登録します。Atermはここで登録されたアドレスへのパケットを受信すると、下記で登録されるゲートウェイを経由してそのパケットを送出するように動作します。

マスク

ターゲットをホスト(コンピュータやルータ)としてAtermに登録する場合、(255.255.255.255)でマスクを設定してください。ターゲットを特定のネットワークアドレスとする場合、その相手のサブネットマスクを登録してください。

ゲートウェイ

接続先登録ページで設定されたA~Jの「登録名」を選択するか、「IP指定」を選択して下欄にIPアドレスを登録してください。このIPアドレスには、Atermと同じサブネットに存在するLAN接続されたパソコンやルータなどのIPアドレスが指定できます。

Atermはターゲットとマスクによって登録された宛先へのパケットを受信すると、ゲートウェイが「登録名」の場合、その登録名で設定された接続先登録内容に従って自動接続します。またゲートウェイが「IP指定」の場合、その指定アドレスにパケットを転送します。



- ・同一サブネットに存在するターゲットを2つ以上登録すると、設定した経路で通信できないことがあります。
各ターゲットのサブネットが同一にならないようルーティングテーブルを作成してください。
- ・ホップは最大値 15 で固定されています。

1
らくらくユーティリティ2
WWWブラウザを利用した設定3
コネクションマネージャ4
電話機を利用した設定

ルータ本体のLAN設定

IPアドレス/DHCPサーバ

「IPアドレス/DHCPサーバ」ページでは、LAN構築に必要な、Aterm本体のIPアドレス、DHCPサーバ機能などを設定します。

IPアドレス

▶IPアドレス

AtermIR450本体のIPアドレスとネットワークマスクを指定してください

AtermIR450のIPアドレス @000.000.000.000形式。通常は初期値のままご利用いただけます)	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
AtermIR450のネットワークマスク @000.000.000.000形式。通常は初期値のままご利用いただけます)	<input type="text" value="255.255.255.0"/>

IR450のIPアドレス

Atermに割り当てるIPアドレスを設定します。半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。初期値は「192.168.0.1」になっています。

通常端末型ダイヤルアップで使用の場合は、初期値のままでお使いいただけます。特に変更する必要はありません。

LANを構築している場合など、すでに特定のIPアドレスを使用している場合のみ設定を変更してください。

なお、端末型ダイヤルアップ接続へインターネットへ接続する場合、IPアドレスには、ネットワークの規模に応じたプライベートアドレスを指定してください。



参考

IPアドレスとは、IPによる通信(IPネットワーク)を行う際、ネットワーク上の機器を識別するためのものです。通常は「192.168.0.1」のように、ピリオドをはさんだ4つの数字(0~255)で表します。インターネットへ接続する場合には、インターネット上のホストを識別するために、一意なIPアドレス(グローバルアドレス)を取得する必要があります。インターネットに接続を持たない場合には、プライベートアドレスを用いることになっています。プライベートアドレスの範囲はRFC1918で以下のように定義されています。

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

Atermでは、インターネットへ接続する場合でも、アドバンスドNAT機能を利用して端末型ダイヤルアップIP接続を行う場合は、上記のプライベートIPアドレスをLAN側に設定できます。

IR450のネットワークマスク

サブネットを特定するためのマスク(サブネットマスク)を設定します。半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。初期値は「255.255.255.0」になっています。なお、通常は初期値のままでお使いいただけます。特に変更する必要はありません。



「ネットワークマスク」を指定することにより、IPアドレスをサブネットワーク番号と、ホスト部との2つの部分に分け、IPアドレスを効率よく運用することができます。IPアドレスのどこまでがサブネットワーク番号か、どこからがホスト番号かを識別するビット列を、「サブネットマスク」といいます。例えば、IPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」の場合、ネットワーク部は「192.168.0」、ホスト部は「1」になります。



- 1.IPアドレスの変更は、**設定実行** ボタンをクリックすると即座に行われます。このため、IPアドレスを変更するとブラウザの反応がなくなりますが異常ではありません。
- 2.IPアドレスを変更した場合は、一旦ブラウザを終了してからパソコンの電源を入れ直し、必ず新しいアドレスでアクセスし直してください。

DHCPサーバ機能

▶DHCPサーバ機能

AtermIR450本体のDHCPサーバ機能を使用するかどうかと、DHCPサーバの動作を指定してください。

DHCPサーバ機能 (AtermIR450本体のDHCPサーバ機能のON/OFF)	使用しない
割り当て開始IPアドレス (000.000.000.000形式)	192.168.0.10
割り当てIPアドレス数 (1~40、半角正数)	32
リースタイム (2~72、半角正数)	2

DHCPサーバ機能

AtermのDHCPサーバ機能(LAN接続したパソコンへのIPアドレスの自動割り当てを行う機能)を使用するかどうかを設定します。機能を使用する場合は「使用する」、使用しない場合は「使用しない」を選択してください。初期値は「使用する」になっています。

通常は初期値のままでお使いいただけます。特に変更する必要はありません。すでにLANを構築していて、パソコンに特定のIPアドレスを割り当てている場合のみ「使用しない」を選択してください。この場合、別途各パソコンにIPアドレスを設定する必要があります。



Atermでは、LANに接続されたパソコンに対してIPアドレスをネットワーク上でパソコンを起動するたびに順次アドレスを自動割り当てする「DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバ機能」をサポートしています。また、DHCPに対応しているパソコンでは、IPアドレス、デフォルト・ゲートウェイ、DNSサーバなどを自動的に設定することができます。

割り当て開始IPアドレス

AtermのDHCPサーバ機能利用時に、LAN接続するパソコンに割り当てるIPアドレスの開始アドレスを設定します。アドレスを半角で「000.000.000.000」形式で指定してください。初期値は「192.168.0.10」になっています。(らくらくウィザード使用後は、「192.168.0.2」)通常は初期値のままでお使いいただけます。特に変更する必要はありません。なお、開始アドレスには、Aterm本体のIPアドレスや、サブネット範囲を超えるアドレスは指定できません。

割り当てIPアドレス数

AtermのDHCPサーバ機能利用時に、LAN接続するパソコンに割り当てるIPアドレスの最大数を設定します。1～40の範囲で指定してください。初期値は「32」になっています。開始アドレスから連続で指定した分のアドレスが予約されます。たとえば開始アドレスが192.168.0.10で割当数が32の場合は、192.168.0.10～192.168.0.41までが予約されます。



DHCPサーバ機能を利用した状態でパソコンにIPアドレスを直接入力して割り当てるときは、ここで指定するIPアドレスと重複しないようにしてください。

リースタイム

AtermのDHCPサーバ機能利用時に、LAN接続するパソコンに割り当てるIPアドレスの有効期限を設定します。2～72時間の範囲で指定してください。初期値は「2」になっています。リースタイムで設定した時間が経過すると、一度使用したIPアドレスが再利用できるようになります。なお、この項目のみを単独で変更することはできません。必ず他のDHCPサーバ機能項目も同時に変更してください。



1. DHCPサーバの「割り当て開始アドレス」「割当IPアドレス数」を変更した場合、必ずお使いのパソコンを再起動してください。
2. 「リースタイム」のみを単独で変更することはできません。
リースタイムを変更する際は、必ず「DHCPサーバ機能」「割り当て開始IPアドレス」「割り当てIPアドレス数」の値を同時に変更、または再設定してください。

フィルタリング

「フィルタリング」ページでは、フィルタリング機能(特定の packets を除外する機能)を使用するかどうかの設定と、除外させる packets の指定を行います。

フィルタリング機能の設定

フィルタリング機能(特定の性質を持つ packets を除外する機能)を使用するかどうかを設定します。

▶フィルタリング機能の設定

ここでフィルタリング機能を使用するかどうかを設定し、機能を使用する場合は下でフィルタを設定してください。

フィルタリング機能の使用の有無 (特定の packets を除外する機能を使用するかどうかを指定)	使用しない ▼
ICMP packets の処理 (ICMP packets を除外するかどうかを指定。通常は「通過させる」を指定してください)	通過させる ▼

フィルタリング機能の使用の有無

フィルタリング機能は、特定の性質を持つ TCP/IP packets を転送したくない場合に使用します。特定の packets を除外する(転送しない)場合は「使用する」を、すべての packets を転送する場合は「使用しない」を選択してください。初期値は「使用しない」になっています。「使用する」を選択した場合は、あわせてどんな packets を除外するかを「パケット設定1~8」で設定してください。

ICMP packets の処理

ICMP packets を除外する(転送しない)か、通過させる(転送する)かを選択します。初期値は「通過させる」になっています。

ICMP は、TCP/IP packets の転送中において発生した各種のエラーの通知や、エコー検査といった動作の確認などを行なうために利用される重要な機能です。従って、通常は「通過させる」を選択してください。

フィルタ設定 1～8

フィルタリング機能により除外するパケットを設定します。パケットは最大8種類設定できます。

▶フィルタ設定1

アドレス属性 (以下で指定するアドレス/ネットワークマスクの意味を指定。このアドレス属性を持つパケットを除外する)	宛先アドレス
アドレス (対象アドレスを000.000.000.000形式で指定)	<input type="text"/>
ネットワークマスク (対象アドレスへのマスクを000.000.000.000形式で指定)	<input type="text"/>
パケットの方向 (除外するパケットの方向)	下り(回線→LAN)
ポート番号(範囲指定・開始) (指定範囲のポート番号を持つパケットを除外。1～65535、半角正数で指定)	<input type="text"/>
ポート番号(範囲指定・終了) (指定範囲のポート番号を持つパケットを除外。1～65535、半角正数で指定)	<input type="text"/>

アドレス属性

TCP/IPパケットには、そのパケットの送信元アドレスと、宛先アドレスの情報が含まれています。Atermは、この情報を元にパケットを転送しています。フィルタリング機能では、この情報を利用することで、特定アドレス発のパケット、あるいは特定アドレス宛のパケットを除外することができます。

ここでは、以下で設定するアドレス/ネットワークマスクが「送信元アドレス」であるか、「宛先アドレス」であるかを選択します。選択に従って、特定アドレス発のパケット、または特定アドレス宛のパケットが除外されるようになります。

アドレス/ネットワークマスク

「アドレス属性」で「送信元アドレス」が選択されている場合、ここで指定したアドレス/ネットワークマスクを送信元アドレスとして持つパケット(特定アドレス発のパケット)が除外されます。

「アドレス属性」で「宛先アドレス」が選択されている場合、ここで指定したアドレス/ネットワークマスクを宛先アドレスとして持つパケット(特定アドレス宛のパケット)が除外されます。

パケットの方向

除外するパケットの方向を選択します。

下り(回線 LAN)

下りパケット(回線からLANに入ってくるパケット)を除外します。

上り(LAN 回線)

上りパケット(LANから回線に出ていくパケット)を除外します。

上り・下り両方

下りパケットと、上りパケットの両方を除外します。

ポート開始番号・終了番号

TCP/IPパケットには、そのパケットを生成したサービス/プロトコルのポート番号の情報が含まれています。この情報を利用することで、特定のポート番号を持つパケットを除外することができます。

ポート番号の指定は範囲指定方式になっています。たとえば開始番号に1、終了番号に10を指定すると、ポート番号が1～10のパケットが除外できます。

上記各項目で設定した内容はひとつにまとめられて処理されます。たとえば、

アドレス属性

送信元アドレス

アドレス:192.168.0.0

ネットワークマスク: 255.255.255.0

パケット方向

上り

ポート先頭番号:1

ポート末尾番号:10

という形で指定すると、送信元アドレスが192.168.0.0～192.168.0.255(192.168.0.0～192.168.0.255発)で、ポート番号が1～10番の、上り(LANから回線に出ていく)パケットが除外されます。

DNS フォワーディング

「DNS フォワーディング」ページでは、DNS フォワーディング機能に関する設定を行います。

DNSフォワーディング機能 (通常は「使用する」を選択してください)	使用する ▼
ドメイン名 (LAN内にDNSサーバがある場合、そのドメイン名を指定。半角63文字以内)	
LAN側サーバアドレス1 (LAN内のDNSサーバアドレス。0.0.0.0形式)	0.0.0.0
LAN側サーバアドレス2 (LAN内のDNSサーバアドレス。0.0.0.0形式)	0.0.0.0

DNS フォワーディング機能

Atermは疑似DNSサーバとして動作することができます(特にDHCPを利用するとき)。プロバイダへのダイヤルアップ接続に際しては、AtermはIPアドレス問い合わせパケットを接続先(プロバイダ)のDNSサーバに転送します。

また、LAN側にDNSを設置してある状態で、「ドメイン名」で指定されたドメインに対するIPアドレス問い合わせを受けた場合、Atermはその問い合わせパケットを「LAN側サーバアドレス1」「LAN側サーバアドレス2」に転送します。

上記の機能を「DNSフォワーディング機能」と呼びます。機能を使用する場合は「使用する」を、使用しない場合は「使用しない」を選択してください。初期値は「使用する」になっています。プロバイダへのダイヤルアップ接続を行う場合など、通常は「使用する」を選択してください。

また、DNSフォワーディング機能を利用する場合、AtermにLANまたはUSB接続されたパソコンのTCP/IP設定のDNSサーバアドレスに、AtermのIPアドレスを設定する必要があります。AtermのDHCPサーバ機能を利用する場合は、AtermにLANまたはUSB接続されたパソコンのDNSサーバアドレスに、AtermのIPアドレスが自動的に設定されます。

ドメイン名

LAN側の名前解決に利用するドメイン名を指定してください。

LAN内独自の名前解決が必要な場合に限り、LAN内で使用しているドメイン名を指定してください。ここで指定したドメイン名の名前解決を行う場合、自動的に以下で指定するDNSが使用されます。

なお、通常は特に指定する必要はありません(空欄のままにしておいてください)。LAN側(AtermのHUBポート上)にDNSサーバを設置する場合のみ指定してください。

LAN側サーバアドレス1

LAN側DNSのアドレスを半角で「000.000.000.000」形式で入力してください。

なお、通常は特に指定する必要はありません。LAN側(AtermのHUBポート上)に上位DNSを設置し、AtermをDHCPサーバかつ、DNSサーバとして使用する場合のみ指定してください。

LAN側サーバアドレス2

LAN側DNSのアドレスを半角で「000.000.000.000」形式で入力してください。

なお、通常は特に指定する必要はありません。LAN側(AtermのHUBポート上)に上位DNSを設置し、AtermをDHCPサーバかつ、DNSサーバとして使用する場合のみ指定してください。



接続先の登録ページにおいて、プライマリDNS、またはセカンダリDNSのIPアドレスが入力されていると、このページにおいて、LAN内のDNSサーバアドレスを設定していても、問い合わせパケットをLAN内のDNSサーバには、転送しません。LAN内のDNSサーバへ問い合わせパケットを転送させるためには、接続先の登録ページにおけるDNSサーバアドレスを「0.0.0.0」としてください。



参考

ポート番号について

ポート番号は、特に指定のない限りTCP / UDPで共通です。

予約されたポート番号は、インターネット全体で固定的に使用されるアプリケーションサービスを識別するための情報で「よく知られたポート番号」(well-known port number)といえます。

システムのサーバ・プロセスがクライアントからの呼び出しに応じるためのポートなどがこれにあたります。この「よく知られたポート番号」には次のようなものがあります。

20	ftp-data	21	ftp
23	telnet	25	smtp
53	domain	80	http,www
110	pop3		



注意

- ・アドバンスドNATオプションの機能はアドバンスドNATの機能を「使用する」場合にのみ有効です。
- ・アドバンスドNATオプションを設定する場合、アプリケーションを実行するパソコンのIPアドレスはDHCPサーバ機能を使用して取得せず、固定アドレスでご使用ください。
- ・2箇所以上の設定に同じポート番号かつ同じプロトコルで登録して、別々のパソコンに転送することはできません。



注意

- ・アドバンスドNAT機能は、ローカルIPアドレスを相手先との接続時に割り当てられる1つのグローバルIPアドレスに変換するだけでなく、LAN接続したパソコンから送信される、パケットに含まれる送信元のポート番号も自動的に変換しています。
- ・アドバンスドNATオプションには、この送信元ポート番号を固定にする機能はありません。そのため、一部のアプリケーション(kaliサーバなど)によっては、アドバンスドNATオプションを設定しても、利用できない場合があります。このような場合、TA機能を用いて通信を行い、アプリケーションを実行してください。

ルータ本体のISDN設定

ISDN 設定

「ルータ本体のISDN設定」ページでは、Atermのルータ機能のISDNに関する設定を行います。

電話番号 <small>(回線番号またはダイヤルイン番号、半角32桁以内。例:0312345678)</small>	<input type="text"/>
サブアドレス <small>(必要なら指定。サブアドレス番号を半角19桁以内)</small>	<input type="text"/>
発信者番号通知	行う <input type="button" value="v"/>
グローバル着信	行わない <input type="button" value="v"/>
サブアドレス無し着信	行わない <input type="button" value="v"/>

電話番号

ルータの電話番号を設定します。電話番号を半角数字で市外局番から入力してください。指定できる長さは半角32文字までです。

サブアドレス

ルータのサブアドレスを設定します。必要な場合のみ、半角数字で19文字以内で入力してください。通常は特に指定する必要はありません(空欄のままにしておいてください)。

発信者番号通知

ルータから発信した場合に発信者番号を通知するかしないかを選択します。初期値は「行う」になっています。

行わない

INS ネット64の契約に関わらず、通知しません。

行う

INSネット64の発信者番号通知サービスの契約が「通常通知(通話ごと非通知)」または「通常非通知(回線ごと非通知)」の場合、Atermに設定されている電話番号を通知します。電話番号が設定されていない場合は、契約者回線番号が着信側に通知されます。

INS ネット64の契約に従う

INSネット64の発信者番号通知サービスの契約が「通常通知(通話ごと非通知)」の場合、Atermに電話番号が登録されていなければ契約者回線番号を通知し、電話番号が登録されていればその番号を通知します。

契約が「通常非通知(回線ごと非通知)」の場合、通知しません。

グローバル着信

ルータに対して「契約者回線番号」で着信があったときに応答するかどうか選択します。グローバル着信する場合は「行う」を、しない場合は「行わない」を選択してください。初期値は「行う」になっています。

サブアドレス無し着信

ルータに対してサブアドレス指定がない着信があったときに応答するかどうか選択します。サブアドレス無し着信を行う場合は「行う」を、行わない場合は「行わない」を選択してください。初期値は「行う」になっています。

データポートと同じ着信設定の場合は、データポートが優先されます。

データポートにパソコンを接続し着信させる場合は、サブアドレスによる振り分けを行ってください。

AtermをRASサーバとして使用するための詳細は、「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」の「RASサーバ接続」225ページを参照してください。



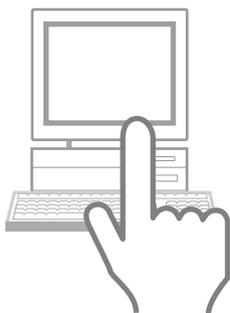
i・ナンバー使用時のルータ本体のISDN設定について

i・ナンバー使用時は、「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」でi・ナンバーを「使用する」設定にしてください。ルータ機能でも有効となります。ただし、ルータ発信時通知されるi・ナンバー情報とルータポートで着信するi・ナンバー情報は、ともにi・ナンバー情報1となります。(変更できません。)

i・ナンバー使用時は、グローバル着信の設定は無効となります。

i・ナンバー使用時は、このページで登録する電話番号は無効となります。また、発信者番号を通知しない場合は、接続先の電話番号を登録する際に、「184」を相手先電話番号の前に入力します。

発信者番号通知を「行わない」にしないでください。



3 コネクションマネージャ

Atermのルータ機能をパソコンから簡単にコントロールすることができます。

- 3-1 コネクションマネージャについて
- 3-2 コネクションマネージャ(Windows)
- 3-3 コネクションマネージャ(Macintosh)
- 3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意
- 3-5 同一LAN上でWindows版とMacintosh版の
コネクションマネージャを使用する場合の注意

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

3-1 コネクションマネージャについて

「IR450 コネクションマネージャ」(以下、コネクションマネージャ)は、WWWブラウザの設定画面を開かずに、USBポートまたは10BASE-Tで接続されたパソコンからAtermのルータ機能による回線接続・切断をコントロールするためのコーディネティです。

コネクションマネージャは、ルータ機能を使用する場合にのみ有効です。

Windows版コネクションマネージャのインストールは、導入マニュアルのそれぞれのOSの「CD-ROMの使い方」を参照して行ってください。

コネクションマネージャの持っている機能は、以下のとおりです。

「接続先」(プロバイダなど)への自動接続の許可と禁止
Atermのデフォルトルートの変更
配線(NetBIOSのフィルタリング)の設定(Windows版のみ)
回線の全切断
指定時間帯の自動接続(Windows版のみ)

Microsoftネットワーク共有サービスなどを利用する場合に、Atermの設定を容易に変更することができます。また、ルータ機能で接続した通信回線を手動で簡単に切断することができます。

注意

1. コネクションマネージャを利用するときには、AtermのWWWブラウザの設定画面「回線の切断」は使用しないでください。
2. 複数のパソコンでコネクションマネージャをお使いの場合には、最後に実行した設定がAtermに反映されます。従って、他のパソコンでデフォルトルート等を変えている場合、起動しているコネクションマネージャの表示と異なる場合があります。
3. パソコン起動時に、ルータ機能による自動接続を防止するには、「自動接続を禁止」の設定にする必要があります。

コネクションマネージャを利用するには、パソコンとAtermとがTCP/IPで正しく通信できる環境が必要です。

コネクションマネージャは、RS232Cケーブルを通して使用することはできません。

3-2 コネクションマネージャ(Windows)

IR450 コネクションマネージャは以下の環境で動作します。

OS

Windows98/Windows95、Windows NT4.0

コネクションマネージャの起動のしかた...

コネクションマネージャを起動するには、次の操作を行います。

起動する前に必ず、LAN ケーブルまたは、USB ケーブルでパソコンを接続し、Aterm のルータ機能で通信できる環境を構築しておいてください。

手順

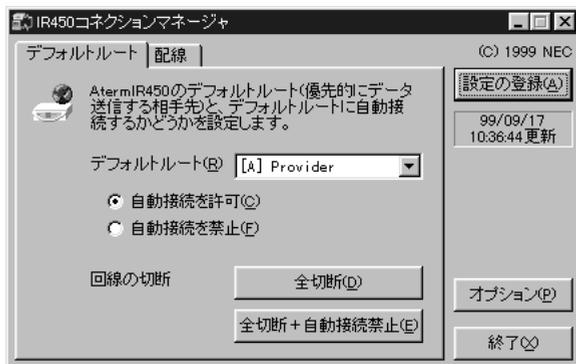
1 タスクバーの **スタート** [プログラム] [Aterm IR450ユーティリティ] [IR450 コネクションマネージャ] の順に選択します。

2 [IR450 コネクションマネージャ] 画面が表示されます。

「IR450にアクセスするための設定」が表示された場合には、99ページを参照して、IPアドレス、パスワードを入力してください。

コネクションマネージャが起動した後は、タスクトレイにアイコンとなって動作します。次ページを参照してください。

この画面の説明および各種設定は96ページ以降を参照してください。



タスクトレイでの操作...

コネクションマネージャは、最小化するとタスクトレイに入り、タスクトレイ内のアイコンからも操作できるようになっています。

また、「Windows 起動時に自動的に実行する」オプションをONにして、Windows 起動時に自動的に実行した場合も、メイン画面は表示されず、タスクトレイに入る形で起動されます。



コネクションマネージャアイコン

タスクトレイでの操作

タスクトレイのアイコンからは、以下の操作が行えます。

アイコンのクリック

タスクトレイのアイコンをクリックすると、Atermから現在の設定内容を取得し、メイン画面が開きます。

アイコンのダブルクリック

タスクトレイのアイコンをダブルクリックすると、自動接続の許可/禁止を切り替えることができます。

自動接続許可中にダブルクリック	全切断 + 自動接続禁止を実行
自動接続禁止中にダブルクリック	自動接続許可を実行

右ボタンメニュー

タスクトレイのアイコンを右クリックするとメニューが表示されます。ここで以下の操作が行えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・メイン画面の呼び出し ・オプション画面の呼び出し ・バージョン情報の表示 ・コネクションマネージャの実行の終了
--	---

なお、「メイン画面」「オプション画面」が出ているとき、設定変更・取得のためにAtermにアクセス中は、タスクトレイのアイコンを操作することはできません。

アイコン

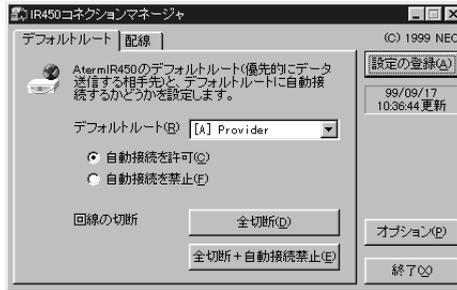
タスクトレイのアイコンは、設定状態に応じて次のように変化します。これにより、現在、どのような状態になっているかが簡単に確認できます。

自動接続許可・ NetBIOSフィルタしない		Aterm に青地に白の方向表示マーク
自動接続許可・ NetBIOSフィルタする		Aterm に黄色に黒の方向表示マーク
自動接続禁止		Aterm に禁止マーク
Aterm にアクセス中		Aterm に砂時計

なお、Atermにアクセスしている間は、タスクトレイのアイコンを操作することはできません。

[IR450コネクションマネージャ]画面の説明...

コネクションマネージャを起動したときに、次のような画面が最初に表示されます。



デフォルトルート

デフォルトルート

[デフォルトルート] タグの説明をします。

[自動接続を許可] : これをチェックして **設定の登録** ボタンをクリックすると、デフォルトでの回線の自動接続を許可します。

WWWブラウザやメールソフトなどのTCP/IPアプリケーションからデータが送出されたときに、必要に応じてAtermが自動的に回線を接続します。

注意

「自動接続を許可」と設定した場合は、「意図しない発信」が行われ、通信料金が発生することがあります。これらを防止するためには、コネクションマネージャで、通常は「自動接続を禁止」と設定し、通信を行うときにだけ「自動接続を許可」と設定して使用してください。

詳しくは「3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意」110ページを参照してください。

[自動接続を禁止] : これをチェックして **設定の登録** ボタンをクリックすると、Atermの自動接続を禁止します。

TCP/IPアプリケーションからデータが送出された場合でも、Atermは回線の接続を行いません。

注意

通信中に自動接続を禁止する場合は、必ず **全切断+自動接続禁止** ボタンを使用してください。

デフォルトルート : Atermのデフォルトルートを変更できます。プルダウンメニューの中から、デフォルトルートとして設定したい相手先を選択してください。



未登録のエントリを設定しないでください。

コネクションマネージャでは、プルダウンメニューの中から「IP指定」は選択できません。WWWブラウザを利用した設定でデフォルトルートにIP指定を設定した後で、コネクションマネージャで「設定の登録」ボタンをクリックすると、そのとき表示されている相手先がデフォルトルートとして再設定されます。



コネクションマネージャは、メイン画面起動時、Atermに登録されている「接続先」の一覧を自動的に取得します。

コネクションマネージャのメイン画面を開いた状態で、WWWブラウザを利用した設定画面で「登録先」の追加・変更を行った場合や、Atermに接続された他のパソコン上のコネクションマネージャで「デフォルトルート」に登録しなおした場合などは、最新の設定内容を取得できません。この場合、メイン画面を起動しなおす必要があります。

コネクションマネージャで「デフォルトルート」の設定を行うには、事前にAtermに「接続先」が登録されている必要があります。Atermに「接続先」が1件も登録されていない場合には、コネクションマネージャをご使用する前に、「らくらくウィザード」やWWWブラウザの設定で、「接続先」を登録してください。

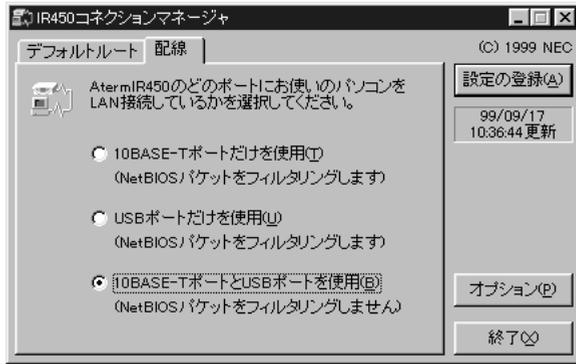
全切断 ボタン : ルータ機能で接続した回線を切断します。

全切断+自動接続禁止 ボタン : ルータ機能で接続した回線の切断後に、あわせて自動接続を禁止します。

設定の登録 ボタン : クリックすると画面に表示されている設定が、Atermに登録されます。そのとき日時が下の欄に表示されます。

オプション ボタン : コネクションマネージャの起動に必要な情報や動作の設定をします。詳しくは、99ページを参照してください。

終了 ボタン : コネクションマネージャを終了します。



配線

配線

パソコンがAtermのどのポートと接続されているかを設定します。

[10BASE-Tポートだけを使用] [USBポートだけを使用] [10BASE-TポートとUSBポートを使用]のいずれかにチェックマークを付けて、**設定の登録** ボタンをクリックします。

注意

USBポートと10BASE-Tポートを使用する場合に、Atermを自動接続するように設定すると、定期的に自動接続されることがあります。通信を行わない場合には、「自動接続を禁止」を選択してください。

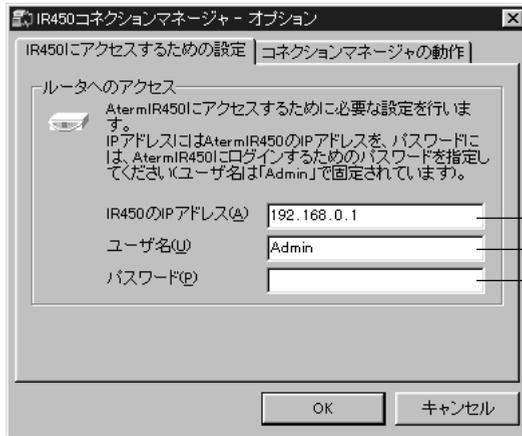
参考

配線タグでの設定は、NetBIOSのフィルタリング可否に用いられます。NetBIOSのパケットをフィルタリングすることで、Atermの自動接続のきっかけを抑制することができます。ただし、USBポートと10BASE-Tポートを使用する場合やRAS接続する場合などは、ファイルの共有などができなくなりますので、NetBIOSパケットをフィルタリングしない設定にしてください。

●●参照 「7-7 NetBIOSフィルタリングの設定」205ページ

オプション(P)

オプション
ボタン:
クリックすると右
の画面が表示さ
れます。



IR450にアクセスするための設定

オプション-IR450にアクセスするための設定

Aterm にアクセスするための設定をします。

IR450のIPアドレス : AtermのIPアドレス(工場出荷時:192.168.0.1)を入力します。

ユーザ名 : 半角でAdmin固定となっています。(AdminのAは、大文字です)

パスワード : らくらくウィザード、またはWWWブラウザで設定したAtermへのアクセスパスワードを入力します。

**参考**

初めてコネクションマネージャを起動するときは、この画面が表示されます。
[IR450のIPアドレス] [ユーザ名] [パスワード]を入力して **[OK]** ボタンをクリックしてください。次回起動時よりこの内容で自動的にアクセスします。
また、IPアドレスやパスワードを変更した後、コネクションマネージャでAtermにアクセスする場合も、同様に再設定してください。



コネクションマネージャの動作

オプション-コネクションマネージャの動作

指定時間帯に自動接続を行う設定や、コネクションマネージャの起動時の動作 / 起動方法を設定します。

自動設定

：「自動接続を許可する」という設定を有効にする時間帯を設定します。この時間帯を設定することによって、コネクションマネージャは、設定された時間帯の間だけ、Atermの「自動接続の許可」を有効にします。それ以外の時間帯は「自動接続を禁止」となるように、自動的にAtermの設定を変更します。



参考

コネクションマネージャとAtermとの間で設定時間帯に(指定時間帯を含む)TCP/IPによるデータ通信が正しく維持されている必要があります。その間、コネクションマネージャを動作させるパソコンも動作している必要があります。

(コネクションマネージャは、パソコンに表示される時刻をもとに動作します。)



注意

パソコンをサスペンドレジュームなどの省電力モードにしていると、本機能は正しい動作ができないことがあります。パソコンは、省電力モードに設定しないでください。



「自動設定」の機能は、デフォルトルートの設定によって次のように動作が異なります。

デフォルトルートが「自動接続を許可」の場合
自動設定で設定した時間帯に関わらず、常時、「自動接続を許可」となります。

デフォルトルートが「自動接続を禁止」の場合
自動設定で設定した時間帯に限り、「自動接続を許可」となります。それ以外の時間帯は「自動接続を禁止」となります。

起動方法 : コネクションマネージャの起動方法を設定できます。
「Windows 起動時に自動的に実行する」にチェックをつける、Windows 起動時にコネクションマネージャの起動し、タスクトレイに常駐します。



コネクションマネージャのご使用上の注意

● コネクションマネージャは、Atermのフィルタリングの設定の登録変更も行っていきます。そのために、次の点に注意してご使用ください。

コネクションマネージャを使用中に、WWWブラウザを利用した設定で、フィルタリングを「使用しない」に変更しないでください。コネクションマネージャやAtermが正しく動作しないことがあります。

コネクションマネージャを使用して「設定の登録」を行なった場合には、コネクションマネージャはフィルタリングの設定を「使用する」に変更します。このときに、WWWブラウザでフィルタリングの設定を参照すると設定が異なることがあります。

コネクションマネージャで、自動接続を許可かつ、NetBIOS パケットをフィルタリングする設定にしてある状態から、NetBIOSパケットをフィルタリングしない設定に変更した場合、フィルタリング機能の使用の有無が「使用しない」に自動的に変更されます。お客様がWWWブラウザにより他のフィルタリングの設定を行っていた場合、その設定が無効となりますので、再度WWWブラウザにより、設定しなおしてください。

3-3 コネクションマネージャ(Macintosh)

IR450 コネクションマネージャは以下の環境で動作します。

ハードウェア

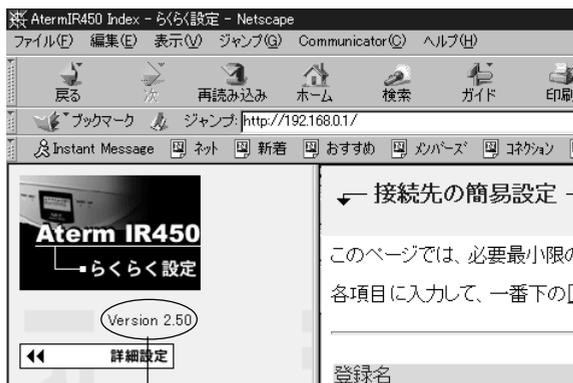
PowerPCまたは68030以上のCPUを搭載したMacintosh

ソフトウェア

OpenTransportをサポートした、MacOS7.6以降のMacOS

Atermの対応バージョン

コネクションマネージャを使用するためには、Version2.00以上のファームウェアが必要です。ファームウェアバージョンはWWWブラウザから「らくらく設定」のページで確認することができます。



バージョン表記

お客様がお使いのファームウェアのバージョンが古い場合は、ファームウェアをバージョンアップすることでお使いいただけます。

最新のファームウェアは、AtermStation(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)からダウンロードすることができます。ダウンロード後「らくらくバージョンアップ」でバージョンアップしてください。

インストール方法...

特別なインストール作業は必要ありません。

添付のCD-ROM内の「IR450 コネクションマネージャ」フォルダをハードディスクにコピーしてください。

使用前の準備...

コネクションマネージャを使用する前に、以下の準備が必要です。

MacintoshとAtermが10BASE-Tで正しく接続されていること

MacintoshにAtermとTCP/IPで接続するための設定が正しく行われていること

Atermにプロバイダとの接続が正しく行えるように設定されていること

上記の準備ができていない場合は、各マニュアルをご覧くださいの上準備を行ってください。

コネクションマネージャの起動のしかた...

コネクションマネージャを起動するには、次の操作を行います。

起動する前に必ず、LANケーブルでパソコンを接続し、Atermと通信できる環境を構築しておいてください。

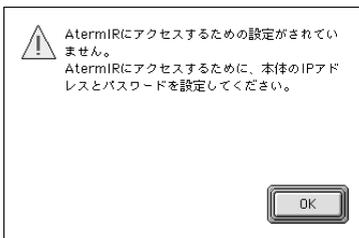
手順

- 1 コネクションマネージャのアイコンをダブルクリックして、起動します。



IR450コネクションマネージャ-FAT

初めてコネクションマネージャのアイコンをダブルクリックして、起動したときには、以下のダイアログが出ます。



- 2 ボタンをクリックして、次の設定画面に進んでください。

3 「基本設定」画面が表示されます。

次の設定をします。

「IPアドレス」の欄には、Aterm本体に設定したIPアドレスを入力してください
(出荷時設定のまま変更していない場合は、「192.168.0.1」です)

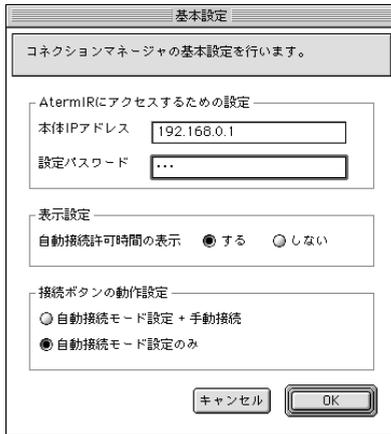
「設定パスワード」の欄にはAtermに設定した設定用パスワードを入力してください。ここで入力するパスワードは、

購入後の初期設定をWWWブラウザの設定から行った場合

(購入後一番最初にWWWブラウザの設定を開いたときに設定したパスワードです)

Windows版らくらくウィザードを使用して、初期設定を行った場合

(らくらくウィザードで入力したパスワードです)



OK ボタンをクリックすると、Atermの設定を取得後、コネクションマネージャが起動します。

IR450コネクションマネージャの画面説明...

IR450コネクションマネージャで使用するメニューバーと、ウィンドウについて説明します。

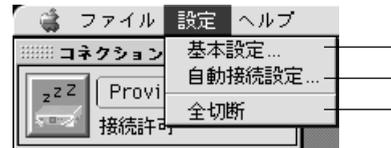
メニューバーについて

メニューバーの「ファイルメニュー」と「設定メニュー」について説明します。



ファイルメニュー

終了 : IR450 コネクションマネージャを終了します。



設定メニュー

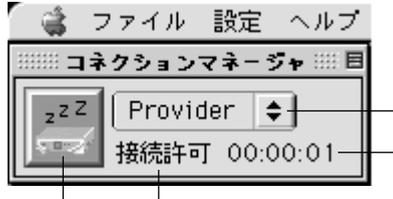
基本設定 : コネクションマネージャがAtermにアクセスするための、基本設定ウィンドウを開きます。

自動接続設定 : Atermの自動接続に関する設定を行う、自動接続設定ウィンドウを開きます。

全切断 : Atermの現在の接続をすべて切断します。

ウインドウについて

ウインドウメニューの「メインウインドウ」、「基本設定ウインドウ」、「自動接続設定ウインドウ」の3つについて説明します。



メインウインドウ

接続ボタン

: 上図のアイコン表示状態にこのボタンを押すことで、プルダウンメニューで指定した相手を一時的にデフォルトルートとして切り替えて自動接続を許可します。(アイコン表示が変わります。)基本ウインドウ内で「接続ボタンの動作設定」を自動接続モード設定 + 手動接続」に設定している場合は、自動接続設定変更後に手動接続を行います。また、接続中に押すと、選択した相手への接続を切断し「自動接続設定ウインドウ」で設定した自動接続動作およびデフォルトルートに戻ります。

状態表示

: 「接続」ボタンのクリックには関係なく、Aterm本体の接続許可・禁止状態を表示します。

接続先選択

: 起動時は接続先Aに登録した接続先が表示されています。「自動接続設定ウインドウ」で設定したデフォルトルートを一時的に変更して自動接続したい場合に、ここで接続先を指定して[接続]ボタンを押してください。ただし、状態が接続中のときは変更できません。

接続時間

: 「接続」ボタンを押してからの経過秒数を表示します。「基本設定」内で、「自動接続時間の表示」を「しない」に設定した場合は表示されません。



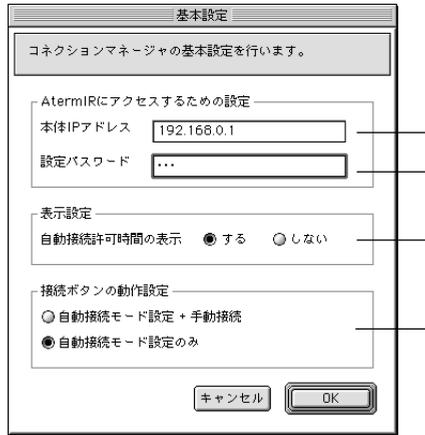
現在コネクションマネージャでは無通信タイマや、強制切断タイマでの切断は検出できません。従って、接続時間はあくまでも目安とお考えください。

1
らくらくユーティリティ

2
www.コネクションマネージャを利用した設定

3
コネクションマネージャ

4
電話機を利用した設定



基本設定ウインドウ

本体 IP アドレス : Aterm本体のIPアドレスを入力します。購入時から変更していない場合は、「192.168.0.1」です。

設定パスワード : Aterm に設定した、設定パスワードを入力します。
Windows版らくらくウイザードを利用して購入後の初期設定を行った方は、その際に指定したパスワードを入力してください。
WWWブラウザから「らくらく設定」画面を利用して設定を行った方は、その際に設定したパスワードを入力してください。

自動接続時間の表示 : メインウインドウの「接続時間」の表示をするか、しないが設定します。接続時間の表示が必要ない方は、この設定を「しない」にしてください。

接続ボタンの動作設定 : 「自動接続モード設定 + 手動接続」
メインウインドウの **接続** ボタンをクリックした時に、「自動接続許可」・「デフォルトルート変更」に加えて、手動接続も行います。

「自動接続モード設定のみ」

接続 ボタンをクリックした時に、「自動接続許可」・「デフォルトルート変更」のみを行い、手動接続は行いません。この場合、実際の接続はDOD機能(ルーティングによる自動発呼)によって行います。

OK ボタン : 設定を更新し、基本設定ウインドウを閉じます。

キャンセル ボタン : 設定を更新せずに、基本設定ウインドウを閉じます。



自動接続設定ウインドウ

自動接続設定 : 自動接続動作の許可・禁止を切り替えます。

デフォルトルート設定 : コネクションマネージャ起動時は、Aterm本体より取得した設定を表示しています。自動接続動作を「許可」にした場合に通常接続する相手先を指定してください。一時的な変更は、メインウィンドウで行うことができます

OK ボタン : Aterm 本体の設定を更新し、設定ウインドウを閉じます。

キャンセル ボタン : 設定は変更せずに、設定ウインドウを閉じます。

こんな時には?...

Aterm本体のIPアドレスを変更した場合

コネクションマネージャを終了してから、「システムフォルダ」の「初期設定」フォルダ内にある「IR450CM Preference」のファイルをごみ箱に捨てるか、起動時に表示される、下記の作業状況ウィンドウで **キャンセル** ボタンをクリックして、Atermへの接続をキャンセルした後、メニューの[基本設定]を選択し、再設定を行ってください。



普段は自動接続せずに、使うときだけ自動接続するようにしたい

まず、[自動接続設定ウィンドウ]で

自動接続:「禁止」

に設定してください。接続するときに、メインウィンドウから接続先を選択し

接続 ボタンをクリックしてください。

Windows版コネクションマネージャで設定した内容が反映されない

コネクションマネージャで行う自動接続に関する設定は、後に行った設定がAterm本体の設定を上書きします。Macintosh版コネクションマネージャは、起動時にAterm本体から自動接続や接続先に関する設定を読み込んでいます。

コネクションマネージャを一度終了し、再度起動すればWindows版で行った設定がMacintosh版コネクションマネージャに反映されます。

Windowsのファイル共有で発生する、自動発呼を止めたい

Macintosh版コネクションマネージャは、Windowsのファイル共有で使われているNetBIOSのフィルタリング設定機能は持っていません。NetBIOSのフィルタリングを行う場合は、Windows版コネクションマネージャを使用してください。Macintosh版コネクションマネージャは、Windows版コネクションマネージャを用いて設定したNetBIOSフィルタリングの設定を変更しません。

3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意

注意

ルータ機能で「自動接続を許可」と設定した場合は、以下の要因等により「意図しない発信」が行われ、通信料金が発生することがあります。これらを防止するためにその要因等を防止するか、添付のコネクションマネージャにて通常は「自動接続を禁止」と設定し、通信を行うときにだけ「自動接続を許可」と設定して使用してください。

また、通信中に「自動接続を禁止」する場合は、必ず「全切断 + 自動接続を禁止」ボタンを使用してください。

ケース1

Windows98またはWindows95では、MicrosoftネットワーククライアントやMicrosoftネットワーク共有サービスのようなネットワークをNetBEUIを使用せず、TCP/IPにバインドした場合、ユーザの意思とは関係なく、Windowsが一定期間ごとにパケットを送信するため、そのパケットをきっかけに発信されます。

具体的には、TCP/IPをLANドライバに関連づける設定において、MicrosoftネットワーククライアントやMicrosoftネットワーク共有サービスのようなネットワークを行う場合に発生します。(例1、2)この問題を回避するためにはAtermに接続されている全てのパソコンのネットワーク設定に注意が必要です。WindowsNT4.0の場合も、同様のご注意をお願いします。

例1 USBポートと10BASE-Tポートにパソコンを接続し、TCP/IPでMicrosoftネットワーク共有サービスを行う場合

例2 ルータ対向接続を行うため、または既存のLAN環境に合わせるため、10BASE-Tポートのみでパソコンを接続し、TCP/IPのみでMicrosoftネットワーク共有サービスを行う場合

AtermでLANまたはルータ機能を利用する場合、10BASE-TポートとUSBポートが使用できますので、利用する形態に合わせて、次の設定で使用してください。

10BASE-T ポートだけで**LANまたはルータ機能を使う(USBポートを使わない)場合**

「Microsoft ネットワーククライアント」や「Microsoft ネットワーク共有サービス」を利用してネットワークを共有するときには、TCP/IP以外のプロトコル (NetBEUIやIPX/SPX) を組み込み、それらとバインドして使用してください。

また、ルータ対向接続を行うためや既存のLAN環境に合わせるためにTCP/IP以外のプロトコルを組み込むことが出来ない場合は、Windowsが一定期間ごとにパケットを送信し「意図しない発信」が行なわれるため、Windows版コネクシオンマネージャで「NetBIOSパケットをフィルタリングしません」に設定し、通信を行わない時は「自動接続を禁止」とし、通信を行なうときだけ「自動接続を許可」として利用してください。

USBポートだけでルータ機能を使う(10BASE-Tポートを使わない)場合

USBポートはTCP/IPプロトコルのみで使用することができます。

この場合、「Microsoft ネットワーククライアント」や「Microsoft ネットワーク共有サービス」のようなネットワークサービスは必要ありませんので次の方法にてバインドをはずして使用してください。

USBポートで接続したパソコンのネットワークのバインドをはずす方法**手順**

以下の手順で設定します。

- 1 タスクバーの **スタート** 「設定」 「コントロールパネル」の順に選択します。
- 2 [ネットワーク]をダブルクリックします。
- 3 [TCP/IP Aterm USB LAN Driver]を選択し[プロパティ]をクリックします。
- 4 [バインド]タグ内のネットワークのチェックをはずし、**OK**をクリックします。
- 5 **OK**をクリックし、[ネットワーク]画面で**OK**をクリックします。
- 6 パソコンを再起動し、新しい設定を有効にしてください。

10BASE-TポートとUSBポートでLANまたはルータ機能を使う場合

「Microsoftネットワーククライアント」や「Microsoftネットワーク共有サービス」を利用して10BASE-TポートとUSBポートでネットワークを共有するときには、TCP/IPプロトコルをバインドする必要があります。この場合、Windowsが一定期間ごとにパケットを送信し「意図しない発信」が行なわれるため、Windows版コネクションマネージャで「NetBIOSパケットをフィルタリングしません」に設定し、通信を行わない時は「自動接続を禁止」とし、通信を行なうときだけ「自動接続を許可」として使用してください。

ケース2

Windowsのネットワークプロパティの設定で「WINSのNAME解決にDNSを使用する」をONにすると、ユーザの操作とは関係なく、WINSのNAME解決を行なうためにWindowsがDNSの問い合わせパケットを送信するため、そのパケットをきっかけに発信されます。

この問題を回避するためには、ネットワークプロパティのTCP/IPプロパティ上で、この機能をOFFするか、Windows用コネクションマネージャで、「NetBIOSパケットをフィルタリングします」に設定し、通信を行わない時は「自動接続を禁止」とし、通信を行なうときだけ「自動接続を許可」として使用してください。

ケース3

NetscapeのWWWブラウザでは、WWWブラウザの終了時に相手にIPパケットを送信することがあります。

ブラウザの終了前に自動切断または手動切断で通信が切断されている場合にも、このWWWブラウザの終了パケットで再び発信されます。

この問題を回避するためには、回線の切断はコネクションマネージャで「全切断 + 自動接続を禁止」ボタンを使用してください。

ケース4

一部のアプリケーションによっては、定期的に外部ネットワークへアクセスするものがあります。これらのアプリケーションは起動されているだけで定期的に自動発信を引き起こします。

この問題を回避するためには、コネクションマネージャにて、通信を行わない時は「自動接続を禁止」でご使用いただき、通信を行う際にのみ「自動接続を許可」に設定して使用してください。

ケース5

インターネットエクスプローラには「購読」という機能があり、自動的にネットワーク側サーバの情報を取得し、パソコン内の情報を自動更新することができます。この「購読」の自動実行機能が有効になっている場合、Atermは自動接続をします。

この問題を回避するためには、[コントロールパネル] [インターネット]プロパティの[詳細設定]の[定期的に購読の更新を自動で実行]のチェックをはずすか、コネクションマネージャにて、通信を行わない時は「自動接続を禁止」で使用して、通信を行う時のみ「自動接続を許可」に設定して使用してください。

ケース6

1台のPCでAtermのTA機能とルータ機能を使用するとき、Windows98またはWindows95では、AtermのTA機能を使ってプロバイダにダイヤルアップ接続した場合、ダイヤルアップしたパソコンが同時にAtermとLAN(10BASE-TまたはUSBポート)で接続されていると、WindowsがLAN(10BASE-TまたはUSBポート)上にDNSパケットを送出するために、ルータからの発信も行なわれる場合があります。TA機能で接続され、ルータからも発信している場合は、LAN(10BASE-TまたはUSBポート)接続をはずして使用してください。

3-5 同一LAN上でWindows版とMacintosh版のコネクションマネージャを使用する場合の注意

注意

本製品に添付のコネクションマネージャを同一LAN上にWindowsとWindows以外のPCが混在する環境で使用する場合には、以下の点に注意してください。

NetBIOSパケットの送出等による意図しない発信の恐れが無い環境 NetBIOSをフィルタする必要のない設定環境やWindows用コネクションマネージャで「NetBIOSパケットをフィルタリングします」の設定を行った環境)であれば、Windows用コネクションマネージャ、Macintosh用コネクションマネージャを混在させてデフォルトルートの変更や自動接続の許可/禁止の設定を行うことができます。

以外の場合は、必ずWindows用コネクションマネージャを使用してください。通信を行わない時は「自動接続を禁止」で使用し、通信を行う時にのみ「自動接続を許可」に設定して使用してください。自動接続を許可する場合は「3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意」110ページに記載されている「ケース1」の利用形態に合わせて使用してください。

技術説明

Windows用コネクションマネージャは、NetBIOSパケットによる意図しない発信を防止するためにフィルタリングの設定を行っています。このフィルタリング設定はWWWブラウザを利用した設定及びMacintosh用コネクションマネージャでは設定と解除ができません。従ってWindows用コネクションマネージャを「NetBIOSパケットをフィルタリングしません」の設定で使用する場合、Macintosh用コネクションマネージャで「自動接続を禁止」の設定にしたとしても意図しない発信が発生する場合があります。

各コネクションマネージャの設定内容とデフォルトルート及びフィルタリングの設定との関係を次ページの表に示します。

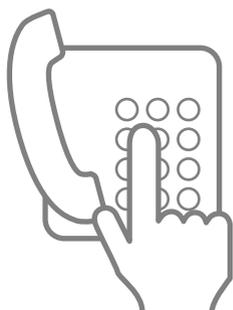
Windows用コネクションマネージャ

設定内容	NetBIOSフィルタしない	NetBIOSフィルタする
自動接続を許可	デフォルトルート : 選択した接続先を設定 フィルタ : ポートNo.53、137、138、 139をフィルタ(除外)し ない	デフォルトルート : 選択した接続先を設定 フィルタ : ポートNo.53をフィルタ (除外)しない ポートNo.137、138、 139をフィルタ(除外)する
自動接続を禁止	デフォルトルート : なし フィルタ : ポートNo.53をフィルタ (除外)する ポートNo.137、138、 139をフィルタ(除外)し ない	デフォルトルート : なし フィルタ : ポートNo.53、137、138、 139をフィルタ(除外)する

Macintosh用コネクションマネージャ

設定内容	
自動接続を許可	デフォルトルート: 選択した接続先を設定 フィルタ: ポートNo.53をフィルタ(除外)しない
自動接続を禁止	デフォルトルート: なし フィルタ: ポートNo.53をフィルタ(除外)する

Macintosh用のコネクションマネージャはNetBIOSフィルタの設定を行いません。Windows用コネクションマネージャでNetBIOSフィルタの設定を行った場合、その設定が維持されます。



4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)

電話機を使って、Atremのアナログポートを設定する方法を説明しています。

- 4-1 電話機を利用した設定について
- 4-2 液晶ディスプレイの設定
- 4-3 アナログポートの設定のしかた

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

4-2 液晶ディスプレイの設定

液晶ディスプレイのバックライトを設定する...

Atermの液晶ディスプレイは、次の5つのモードをもったバックライトを搭載しています。工場出荷時は、発信中や着信中のときのみ点灯する「AUTOモード」に設定してあります。必要に応じて設定してください。

AUTOモード(初期設定)

発信中や着信中に点灯し、その他のときは消灯します。ただし、停電モードで動作中は、点灯しません。

点灯モード

Atermの電源が入っているときは、常時点灯します。停電モードで動作中は点灯しません。

消灯モード

常時バックライトは点灯しません。

AUTO + データ通信中点灯モード

AUTOモードでの点灯に加え、データ通信中(TA機能およびルータ機能での通信中)も点灯します。停電モードで動作中は点灯しません。

AUTO + Bチャンネル使用中モード

AUTOモードでの点灯に加え、Bチャンネル使用中も点灯します。停電モードで動作中は点灯しません。

液晶ディスプレイのバックライトの設定のしかたは、次の通りです。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1** 受話器をあげます。
 接続してある電話機のどれからでも設定
 できます。



- 2** **(*) (* 8)** と押します。

- 3** 変更するモードの番号を押します。

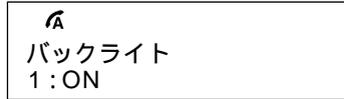
点灯モード : **(0) (0)**

消灯モード : **(0) (1)**

AUTOモード : **(0) (2)**

AUTO + データ通信中点灯モード : **(0) (3)**

AUTO + Bチャンネル使用中点灯モード : **(0) (4)**



点灯モードのとき

- 4** 受話器をおきます。

1 らくらくユーティリティ

2 ミミブラウザを利用した設定

3 コネクションマネージャ

4 電話機を利用した設定

4-3 アナログポートの設定のしかた

Atermでは、アナログポートのさまざまな設定を電話機から行ないます。
ここでは、次のような2つの例を用いて設定のしかたを説明します。

アナログポートの機器を設定する

アナログポートにファクスやモデムが接続されている場合や、なにも接続されていない場合に設定します。

アナログポートに電話番号を割り当てる

アナログポートを別々の電話番号で呼び分ける場合に設定します。

i・ナンバーを使用する

i・ナンバー契約の有無を設定

i・ナンバーを使用する / しないを設定します。

電話番号(i・ナンバー情報)の登録

電話番号(「i・ナンバー情報1」と「i・ナンバー情報2」)を登録します。

各アナログポートで着信する電話番号(i・ナンバー情報)を割り当てる

かかってきた電話番号で、どのアナログポートの通信機器に着信させるかを設定します。

各アナログポートで発信する電話番号(i・ナンバー情報)を割り当てる

電話をかけたときに相手に通知する電話番号を各アナログ機器に設定します。

ダイヤルインサービスを使用する

各アナログポートに自己アドレスを登録

使用するアナログポートに、自己アドレス(「契約者回線番号」または「追加した電話番号(ダイヤルイン番号)」)を登録します。

グローバル着信を設定する

使用するアナログポートに、「契約者回線番号」で着信する / しないの設定をします。

アナログポートの機器を設定する...

アナログポートにファクスやモデムが接続されている場合や、なにも接続されていない場合に設定を行います。

工場出荷時は、すべてのアナログポートが「電話機」に設定されています。

アナログAポートに接続した電話機を使用して、アナログBポートに「ファクス / モデム」を接続した設定を行います。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

1 受話器をあげます。

AtermIR450

2 * * ① と押します。

キノウセツテイ

3 * を押します。

セツテイポートセンタク

4 設定するポート番号を押します。

ここでは、②と押します。

アナログAポート ①

アナログBポート ②

アナログCポート ③

アナログB ニセツテイ

②を押したとき

5 * ① ① * と押します。

変更しないときは、# を押してください。

アナログソウチ
0:デンワ

- 6 接続されている機器にしたがって番号を押します。
ここでは、①を押します。

電話機 ①
 ファクス、ファクス付き電話機、
 モデム ①
 機器が接続されていない場合や、接続
 されている機器を使用しない場合 ②

Ⓐ
 アナログソウチ
 1:FAX / モデム

- 7 ③を押します。
 他のポートに電話機やファクスが接続されている場合は、手順4からの操作をくり返してください。

Ⓐ
 セッテイポートセンタク

- 8 ④を押します。

Ⓐ
 セッテイシマシタ

約5秒間表示します

- 9 受話器をおきます。

6 i・ナンバーを使用するに設定します。

ここでは、①を押します。

使用しない ①

使用する ②


i・ナンバー
0:スル

② を押したとき

7  を押します。


セッテイポートセンタク

8  を押します。


セッテイシマシタ

約5秒間表示します

9 受話器をおきます。

1
らくらく
ユーティリティ

2
ミミ
ブラウザを利用した設定

3
コネク
ション
マネージャ

4
電話機を利用した設定

電話番号(i・ナンバー情報)の登録

電話番号(「i・ナンバー情報1」と「i・ナンバー情報2」)を登録します。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1 受話器をあげます。

 AtermIR450

- 2 $\textcircled{*}$ $\textcircled{*}$ $\textcircled{1}$ と押します。

 キノウセッテイ

- 3 $\textcircled{*}$ を押します。

 セッテイポートセンタク

- 4 $\textcircled{5}$ を押します。

 キョウツウ セッテイ 2

- 5 $\textcircled{*}$ $\textcircled{9}$ $\textcircled{0}$ $\textcircled{1}$ $\textcircled{*}$ と押します。
(i・ナンバー情報1の場合)

i・ナンバー情報2の場合は

$\textcircled{*}$ $\textcircled{9}$ $\textcircled{0}$ $\textcircled{2}$ $\textcircled{*}$ と押します。

表示されている内容を変更しないときは、最後の $\textcircled{*}$ の代わりに $\textcircled{\#}$ を押して、手順7に進んでください。

 デンワバンゴウ1:

i・ナンバー情報1に対応する電話番号が登録されていないときの液晶ディスプレイの表示です。
電話番号が登録されている場合には、その電話番号が表示されます。

- 6 各i・ナンバー情報に対応する電話番号を押します。
電話番号を市外局番から入力します。
例:03 - 1234 - 5678のときは、
 $\textcircled{0}$ $\textcircled{3}$ $\textcircled{1}$ $\textcircled{2}$ $\textcircled{3}$ $\textcircled{4}$ $\textcircled{5}$ $\textcircled{6}$ $\textcircled{7}$ $\textcircled{8}$
と押します。

 デンワバンゴウ1:
0312345678



電話番号を間違えて入力したとき
 (＊) (＊) を押すと、最後に入力した1桁を削除できます。
 電話番号は10桁まで登録できます。

- 7 (＃) を押します。
 もう一方のi・ナンバー情報の設定をする場合は、手順4からの操作をくり返えます。


 セッテイポートセンタク

- 8 (＃) を押します。


 セッテイシマシタ

約5秒間表示します

- 9 受話器をおきます。

各アナログポートで着信する電話番号(i・ナンバー情報)を割り当てる

かかってきた電話番号で、どのアナログポートに着信させるかを設定します。1つのポートに2個の電話番号(i・ナンバー情報)を割り当てることができます。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- | | |
|--|---|
| <p>1 受話器をあげます。</p> | 
AtermIR450 |
| <p>2 (*)(*)(1) と押します。</p> | 
キノウセッテイ |
| <p>3 (*) を押します。</p> | 
セッテイポートセンタク |
| <p>4 設定するポート番号を押します。
 アナログAポート ①
 アナログBポート ②
 アナログCポート ③</p> | 
アナログ A ニセッテイ |
| <p>5 (*)(9)(4)(*) と押します。
 表示されている内容を変更しないときは、最後の(*)の代わりに(#)を押して、手順7に進んでください。</p> | 
チャクi・ナンバー
No.1 |
| <p>6 着信するi・ナンバー情報を押します。
 i・ナンバー情報1 ①
 i・ナンバー情報2 ②
 i・ナンバー情報1,2 ① ②</p> | 
チャクi・ナンバー
No.1, _
① を押したとき |
| <p>7 (#) を押します。
 他のポートの設定をする場合は、手順4からの操作をくり返してください。</p> | 
セッテイポートセンタク |
| <p>8 (#) を押します。</p> | 
セッテイシマシタ |
| <p>9 受話器をおきます。</p> | 約5秒間表示します |

1 1
らくらくユーザーリテイ2 2
ミニブラウザを利用した設定3 3
コネクションマネージャ4 4
電話機を利用した設定

各アナログポートで発信する電話番号(i・ナンバー情報)を割り当てる

電話をかけたときに相手に通知する電話番号(i・ナンバー情報)を、各アナログポートで設定します。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- | | | |
|---|--|--|
| 1 | 受話器をあげます。 | 
AtermIR450 |
| 2 | (*) (*) ① と押します。 | 
キノウセッテイ |
| 3 | (*) を押します。 | 
セッテイポートセンタク |
| 4 | 設定するポート番号を押します。
アナログAポート ①
アナログBポート ②
アナログCポート ③ | 
アナログ A ニセッテイ |
| 5 | (*) ⑨ ⑤ (*) と押します。
表示されている内容を変更しないときは、最後の(*)の代わりに(＃)を押して、手順7に進んでください。 | 
ハツィ・ナンバー
No.1 |
| 6 | 通知するi・ナンバー情報を押します。
i・ナンバー情報1 ①
i・ナンバー情報2 ② | 
ハツィ・ナンバー
No.1
①を押したとき(番号が点滅します) |
| 7 | (#) を押します。
他のポートの設定をする場合は、手順4からの操作をくり返してください。 | 
セッテイポートセンタク |
| 8 | (#) を押します。 | 
セッテイシマシタ
約5秒間表示します |
| 9 | 受話器をおきます。 | |

1 1
らくらくコーディネイリテイ2 2
ミニブラウザを利用した設定3 3
コネクションマネージャ4 4
電話機を利用した設定

ダイヤルインサービスを使用する

各アナログポートに電話番号(自己アドレス)を登録

ダイヤルインサービス契約時には、使用するアナログポートに、「契約者回線番号」または「追加した電話番号(ダイヤルイン番号)」を設定します。

アナログAポートに接続した電話機を使用して、アナログBポートに「追加した電話番号(ダイヤルイン番号)」の設定を行います。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1 受話器をあげます。

AtermIR450

- 2 (*)(*)(1) と押します。

キノウセッテイ

- 3 (*) を押します。

セッテイポートセンタク

- 4 設定するポート番号を押します。

ここでは、(2) と押します。

アナログAポート (1)

アナログBポート (2)

アナログCポート (3)

アナログB ニセッテイ

(2) を押したとき

- 5 (*)(9)(1)(*) と押します。

表示されている内容を変更しないときは、最後の(*)の代わりに(＃)を押して、手順7に進んでください。

ジコアドレス

- 6 ダイヤルインの電話番号を押します。
電話番号を市外局番から入力します。
例: 03 - 1234 - 5678 のときは、
① ③ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
と押します。

📞
ジオアドレス
0312345678



自己アドレスを間違えて入力したとき
 (＊) (＊) を押すと、最後に入力した1桁を削除できます。
 自己アドレスは12桁目を入力すると、先頭に ◀ が付いて画面が変わります。
 この状態で (＊) ① を押すと、末尾に ▶ が付き、1桁目から11桁目までの表示に戻ります。
 もう一度 (＊) ① を押すと、12桁目を入力したときの画面に戻ります。
 例: 自己アドレス: 03XXXXXXXX12345

ジオアドレス
03XXXXXXXX1 ▶

(＊) ① を押す
ごとに切り替
わります

◀ 2345

- 7 (＃) を押します。
他のポートに電話機やファクスが接続されている場合は、手順4からの操作をくり返してください。

📞
セッテイポートセンタク

- 8 (＃) を押します。

📞
セッテイシマシタ

約5秒間表示します

- 9 受話器をおきます。

グローバル着信を設定する

ダイヤルインサービスのグローバル着信を使用するで契約しているときに、使用するアナログポートに、契約者回線番号でかかってきた着信を、受ける / 受けしないの設定を行います。工場出荷時は、すべてのアナログポートに「着信する」が設定されています。

アナログAポートに接続した電話機を使用して、アナログBポートに「グローバル着信をしない」の設定を行ないます。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

1 受話器をあげます。

A
AtermIR450

2 * * ① と押します。

A
キノウセツテイ

3 * を押します。

A
セツテイポートセンタク

4 設定するポート番号を押します。

ここでは、②と押します。
アナログAポート ①
アナログBポート ②
アナログCポート ③

A
アナログB ニセツテイ

②を押したとき

5 * ① ⑤ * と押します。

表示されている内容を変更しないときは、最後の * の代わりに# を押してください。手順7に進んでください。

A
グローバルチャクシン
0:スル

6 接続されている機器番号を押します。

ここでは、①を押します。
着信する ①
着信しない ①

A
グローバルチャクシン
1:シナイ

1 1
らくらくユーティリティ2
MMI
ブラウザを利用した設定3
コネクションマネージャ4
電話機を利用した設定

- 7 ⑧を押します。
他のポートに電話機やファクスが接続されている場合は、手順4からの操作をくり返してください。

A

セットポートセンタク

- 8 ⑧を押します。

A

セットイシマシタ

約5秒間表示します

- 9 受話器をおきます。

設定編

1
らくらくユーティリティ2
ミニブラウザを利用した設定3
コネクションマネージャ4
電話機を利用した設定

機能の一覧(個別アナログポート設定)

機能	機能番号	設定内容	設定値	機能説明
アナログポート 接続機器 選択	* 0 1 *	電話	0	**参照 122 ページ
		FAX / モデム	1	
		なし	2	
キャッチホン	* 0 2 *	使用しない	0	キャッチホンを使用する / しないを選択します。 **参照 導入マニュアル「4-2-3 電話機を使う」 「INS キャッチホンを使う...」146 ページ
		INS キャッチホン	1	
		疑似キャッチホン	2	
識別着信	* 0 3 *	識別しない	0	登録した相手以外の着信を受け付けないようにする / しないを選択します。
		識別する	1	
HLC	* 0 4 *	使用しない	0	アナログポート接続機器選択で設定された内容を HLC(高位レイヤ整合性)に設定して、HLC が一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。 **参照 「HLC(高位レイヤ整合性)を設定する」144 ページ
		使用する	1	
		使用するが 着信判定はしない	2	
グローバル 着信	* 0 5 *	着信する	0	**参照 132 ページ
		着信しない	1	
サブアドレス なし着信	* 0 6 *	着信する	0	この機能を使用することで、1本の回線に複数台設置したAtermを自由に呼び分けることができます。
		着信しない	1	
ダイヤル桁間 タイマ	* 0 7 *	5秒	0	アナログポートに接続したアナログ機器からダイヤルしたときに、最後のダイヤル入力からINS ネット64に発信するまでの時間を変更できます。
		9秒	1	
		11秒	2	
		13秒	3	
フッキング 検出時間	* 0 8 *	30ms - 1000ms	0	アナログポートのフッキング検出時間を変更できます。
		300ms - 1000ms	1	
		500ms - 1500ms	2	
発信者番号の 通知	* 0 9 *	発信者番号を 通知しない	0	INS ネット 64 の発信者番号通知サービスと Aterm の発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知する / しないを選択することができます。 **参照 「5-3 発信者番号通知サービスの利用」145 ページ
		発信者番号を 通知する	1	
		INS 契約に依存する	2	
		しない	0	
ナンバー・ ディスプレイ (A ポートのみ)	* 1 0 *	する	1	INS ネット64のINSナンバー・ディスプレイを使用する / しないを選択します。 **参照 「5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用」 152 ページ
ナンバー・ ディスプレイ (サブアドレス) (A ポートのみ)	* 1 1 *	つけない	0	
受話音量調節 (BC ポートは 中と大のみ)	* 1 2 *	小	0	アナログポートに接続した電話機やFAXの受話音量を設定します。「小」「中」「大」の中から選択してください。(ただしB、Cポートは「中」「大」のみ)
		中	1	
		大	2	
自己アドレス	* 9 1 *	32桁まで (0~9のみ使用)	0 9	**参照 130 ページ
自己サブ アドレス	* 9 2 *	19桁まで (0~9のみ使用)	0 9	ダイヤルインサービスを使用しないで、自分宛以外の着信を受けたくないときに設定します。
着信する i-ナンバー情報	* 9 4 *	i-ナンバー情報1	1	**参照 128 ページ
		i-ナンバー情報2	2	
		i-ナンバー情報1.2	1 2	
発信する i-ナンバー情報	* 9 5 *	i-ナンバー情報1	1	**参照 129 ページ
		i-ナンバー情報2	2	

その他の設定をする(全アナログポート共通設定)...

各アナログポートで共通の設定する機能の一覧と手順を示します。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

1 受話器をあげます。

A
AtermIR450

2 (＊)(＊)①と押します。

A
キノウセッテイ

3 (＊)を押します。

A
セッテイポートセンタク

4 アナログポート共通番号④を押します。
i・ナンバー情報1およびi・ナンバー情報2
の電話番号登録は⑤を押します。

A
キョウツウ セッテイ 1

5 右の表から設定したい機能の機能番号を
押します。

6 右の表から手順5で設定した機能の設定
値を押します。

7 (＃)を押します。
他の設定をする場合は、手順4からの操
作をくり返してください。

A
セッテイポートセンタク

8 (＃)を押します。

A
セッテイシマシタ

9 受話器をおきます。

機能の一覧(全アナログポート共通設定)

機能	機能番号	設定内容	設定値	機能説明
停電時の着信 (Aポートのみ)	* ② ② *	着信ブザー	①	停電時に着信する / しないを選択します。 停電時にはアナログAポートのみ使用することができ、Bポート、Cポートは使用できません。
		着信リング	①	
		着信なし	③	
優先着信ポート	* ② ③ *	優先なし	①	複数のアナログポートが使用可能な場合、使用できるすべてのポートに同時に着信させるか、どれかのポートを優先的に着信させるかを設定します。 **参照▶「優先着信ポート指定...」142ページ
		Aを優先	①	
		Bを優先	②	
内線通話・内線転送	* ② ④ *	使用しない	①	アナログポート二者間で内線通話・内線転送を行う / 行わないを選択します。
三者通話	* ② ⑤ *	使用しない	①	INSネット64の三者通話サービスの使用を選択します。 **参照▶「三者通話をする...」147ページ
		使用する	①	
通信中転送	* ② ⑥ *	使用しない	①	INSネット64の通信中転送サービスの使用を選択します。 **参照▶「通信中に転送する...」148ページ
		使用する	①	
着信転送トキー (転送トキー・発信側)・ 転送元トキー (着信側)	* ② ⑦ *	なし・なし	①	着信転送サービスを利用する場合、音声案内メッセージ(トキー)を利用する / しないを選択します。
		あり・なし	①	
		なし・あり	②	
		あり・あり	③	
着信転送先 アドレス	* ③ ① *	契約者回線番号用 アドレス	①-⑨	INSネット64の着信転送サービスの設定をします。 着信があった場合、応答しないでその着信を他の第三者に転送する機能です。 **参照▶「着信転送する...」149ページ
		ダイヤルイン1用アドレス	①-⑨	
		ダイヤルイン2用アドレス	①-⑨	
着信転送元 アドレス・ サブアドレス	* ④ ① *	契約者回線番号用 アドレス	①-⑨	i-ナンバー使用時、i-ナンバー情報1で着信を受けた際に、着信転送する設定を行うには、契約者回線番号用アドレスとして、転送元に①、転送先に①-⑨で電話番号を入力します。i-ナンバー情報2の場合は、ダイヤルイン1用アドレスとして転送元に②、転送先に電話番号を入力します。
		ダイヤルイン1用アドレス	①-⑨	
		ダイヤルイン2用アドレス	①-⑨	
		契約者回線用 サブアドレス	①-⑨	
		ダイヤルイン1用サブアドレス	①-⑨	
		ダイヤルイン2用サブアドレス	①-⑨	
識別着信・ 短縮ダイヤル	* ⑤ ① *	アドレス部分	①-⑨	短縮・識別番号に識別させる電話番号を登録します。 **参照▶「識別着信をする...」143ページ
		サブアドレス部分	①-⑨	
累積料金表示・ 初期化	* ⑦ ① *	累積料金 0円	①	累積料金をクリアします。全ポートの累積料金が0円に戻ります。
発信時アドレス 表示	* ⑦ ① *	表示しない	①	Atermの液晶ディスプレイに発信した電話番号を表示する / しないを設定します。
i-ナンバー 使用有無	* ⑦ ⑥ *	表示する	①	
		使用しない	①	**参照▶124ページ
		使用する	①	

アナログポート共通番号 ⑤

i-ナンバー情報1 電話番号登録	* ⑨ ① *	i-ナンバー情報1 電話番号登録	①-⑨	10桁まで登録できます。 **参照▶126ページ
i-ナンバー情報2 電話番号登録	* ⑨ ② *	i-ナンバー情報2 電話番号登録	①-⑨	

Atermに設定した内容を消去する...

以下の操作を行うと、アナログ機能とTA機能に関してAtermに設定した内容をすべて消去します。



この操作を行っても、ルータ機能で設定された内容は消去されません。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1 受話器をあげます。
- 2 **(*) (*) ⑨ ⑧** と押します。
- 3 **(*)** を押します。
設定内容を消去し、液晶ディスプレイにAtermの名称が表示されます。
- 4 受話器をおきます。

 ショキカシマス

 AtermIR450



工場出荷時に戻す方法(詳しくは、各ページを参照してください)
これらの操作を行うと、お客様の設定された内容はすべて消去されます。

ディップスイッチを変更する

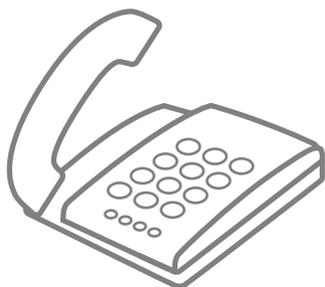
Atermの電源を切り、ディップスイッチの4、5、6をONにします。電源を入れ、約30秒後電源を切ります。ディップスイッチを戻し、再度電源を入れると工場出荷時に戻ります。

●●**参照** 導入マニュアル「2-3 ディップスイッチについて」

ATコマンドを使用する

初期化コマンド「ATZ98」を入力します。

●●**参照** 「9-3 ATコマンド一覧」265ページ



5 電話機(アナログ通信機器)を使う

電話機の便利な機能を使います。

- 5-1 外線電話をかける
- 5-2 外線電話をうける
- 5-3 発信者番号通知サービスの利用
- 5-4 フレックスホンの利用
- 5-5 INSボイスワープの利用
- 5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用

5-1 外線電話をかける

外線電話をかける...

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1 受話器をあげます。
「ツー」という発信音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。

 AtermIR450

アナログAポートに接続した電話機の受話器をあげた場合



受話器を上げて音も聞こえない

Atermでは、他の機器またはデータ通信で回線を占有していると、受話器を上げてツーという音(ダイヤルトーンといいます)が聞こえないことがあります。

- 2 相手の電話番号をダイヤルします。
ダイヤル後、ダイヤル桁間タイマが働き、なにも入力しないと約5秒後(ダイヤル桁間タイマの設定によります)に発信します。

 B1
アナログ A ハッシン
0312345678

アナログAポートに接続した電話機で発信した場合の例

- ① # を押すと待たずにすぐ発信できます。
3 通話が終わったら受話器を置きます。

アナログ A セツダン
016 10円

切断理由を表示 今かけた通話料金を表示

液晶ディスプレイに表示される切断理由の詳細は、「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページを参照してください。

番号を間違えたときは

受話器を置いて、手順1からやりなおしてください。



ダイヤル桁間タイマとはアナログポートに接続した電話機器からダイヤルしたときに、最後のダイヤル入力からINSネット64に発信するまでの時間をカウントするものです。工場出荷時は5秒です。

サブアドレス付きの電話番号にかける...

(相手がINSネット64の契約をしている場合、サブアドレス付きの電話発信が行えます。)

電話番号とサブアドレスの間に「*」を入れます。

電話番号(03 - x x x x - x x x x)のサブアドレス(100)にかけるときは、

① ③ (x) * ① ① ① とダイヤルします。

短縮ダイヤルで電話をかける...

 Atermの設定必要

短縮・識別番号に登録した電話番号を使って簡単に発信することができます。

短縮ダイヤルで電話をかけるには、短縮・識別番号の登録が必要です。



設定
方法

「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で短縮・識別番号に相手の電話番号を登録してください。

手順

Atermの液晶ディスプレイ

1

受話器をあげます。

「ツー」という音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。



AtermIR450

2

[*] 短縮ダイヤル番号] を押します。

例: 「ダイヤル番号 0」に登録した電話番号にかける場合には * ① ① と押します。



B1

アナログ A ハッシン
0312345678

アナログAポートに接続した電話機で発信した場合の例



参考

- ・ダイヤル番号0～9に登録した電話番号は、3つのアナログポートとデータポートで共有になります。
- ・ダイヤル番号0～9に登録した電話番号は、識別番号にも使用されます。

5-2 外線電話をうける

外線電話をうける...

手順

Atermの液晶ディスプレイ

- 1 電話がかかってきたら、受話器をあげて通話します。
相手からの発信者番号通知がある場合、液晶ディスプレイに相手の電話番号が表示されます。
- 2 通話が終わったら受話器を置きます。

 **アナログ A チャクシン**
03 x x x x x x x x

アナログ A セツダン
016

電話番号の表示について

INS ネット64 が相手の電話番号を通知してきた場合のみ表示します。

INS ネット64 が電話番号を通知できる（液晶ディスプレイに電話番号が表示される）のは次の場合です。

相手がINSネット64の契約をしていて、発信者番号通知を通知する設定がされている場合。デジタル携帯電話およびPHSからの発信で、発信者番号通知を通知する設定にしている場合。

INSネット64の「INSナンバー・ディスプレイ」サービス（有料）を着信側が申し込み、相手が一般電話で番号通知サービスを「184」ダイヤル等で解除した発信を行っていない場合。

優先着信ポート指定...

 Atermの設定必要

3つのアナログポートのうちどれか2つ以上が使用できる場合に、使用できるすべてのポートに同時に着信させるか、どちらかのポートを優先的に着信させるか設定ができます。

ただし、停電動作時の場合はアナログAポートのみ使用可能であるため、「Bポート優先」及び「Cポート優先」の設定は無効になります。

サブアドレス付きの着信...

発信者がINSネット64の契約している場合、自己サブアドレスを登録することで自分への着信を指定させることができます。

動作内容

サブアドレスのない着信は、自己サブアドレス登録の有無にかかわらず着信を受け付けます。サブアドレスがある着信は、自己サブアドレスと全桁照合して一致したら着信を受け付けます。

	着信時のサブアドレス通知		
自己サブアドレス登録		なし	あり
なし			
あり			一致した時 × 不一致の時



「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で、「サブアドレスなし着信をしない」にするとサブアドレスのない着信は全て受けられなくなります。

識別着信をする...

「発信者番号通知サービス」の契約必要 Atermの設定必要

短縮・識別番号に登録したINSネット64の契約をしている番号の相手からの着信のみを着信させることができます。本機能は、アナログポート毎に設定することができます。識別着信番号はアドレス・サブアドレスとも一致したときに受け付けます。本機能を設定すると、アナログ回線の相手や登録されていないINSネット64の相手からは着信しません。



INSネット64の基本サービス「発信者番号通知サービス」を「通常通知(通話ごと非通知)」と選択してください。



「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で「識別着信」を使用するにしてください。また、あわせて短縮・識別番号に識別させる相手の電話番号を登録してください。



- ・短縮・識別番号0～9に登録されている相手番号の着信のみを受け付けます
- ・短縮・識別番号登録画面で登録した識別着信番号はアナログポートおよびデータポート兼用になります。

HLC(高位レイヤ整合性)を設定する...

接続するパソコンやアナログ機器の種別をHLCに設定して、HLCが一致する相手とのみ通信を行うようにする機能です。

コード	種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム(MHS)
65	OSIアプリケーション

アナログポートでは、「アナログポート登録」で選択した接続装置に対応したHLCが自動的に設定されます。

電話 01 電話
FAX / モデム 04 G2 / G3 ファクス

動作内容

- 発信時はAtermが自動的にHLCを付けて発信します。
- 着信時は発信者からのHLCを照合し、一致する場合のみ着信します。
- HLCがない相手からの着信は受け付けません。



- ・アナログポートでは、「HLCを設定する」にしてあっても、着信時にHLCが一致しない場合も着信を受け付ける(HLCを付けて発信はするが、着信判別はしない)ように設定することができます。この場合、ATコマンドでAT \$ A、AT \$ B、AT \$ C コマンドを使用します。
- ・相手が電話でもファクスでも着信を受け付けたいときには、「HLC設定しない」に設定にします。

5-3 発信者番号通知サービスの利用

 「発信者番号通知サービス」の契約必要  Atermの設定必要

発信者番号通知サービスは、発信者番号(契約者回線番号またはダイヤルイン番号)を着信者側に通知するサービスです。INSネット64契約事項のなかに発信者番号通知サービス欄がありますので、このサービスから「通常通知(通話ごと非通知)」、「通常非通知(回線ごと非通知)」のうち1項目を選択します。発信者番号通知サービスとAtermの発信者番号通知設定を組み合わせることで、発信者番号を通知するかしないかを選択することができます。

INSネット64契約	Aterm設定		INSネット64 申し込み内容に従う
	通知する	通知しない	
通常通知(通話ごと非通知)	通知する	通知しない	通知する
通常非通知(回線ごと非通知)	通知する	通知しない	通知しない



発信者番号が通知されるのは、次の相手です。

・INSネット64契約者、デジタル携帯電話、PHS

「INSナンバー・ディスプレイ」サービスを契約すると、アナログ回線からの発信者番号も表示できるようになります。

●●**参照** 「5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用」152ページ



INSネット64の基本サービス「発信者番号通知サービス」を「通常通知(通話ごと非通知)」または、「通常非通知(回線ごと非通知)」と選択してください。



「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で[発信者番号通知]を「通知する」を選択してください。



発信者番号通知設定の工場出荷時設定は、「発信者番号通知する」となっています。そのため、INSネット64契約時に「通常非通知(回線ごと非通知)」で契約されていても、発信者番号を通知します。通知したくない場合は、IR450かららくらくユーティリティやATコマンドで、「通知しない」または「INSネット64申込内容に従う」に設定します。

5-4 フレックスホンの利用

INSキャッチホンを使う...(通話中にかかってきた電話を受ける)

 フレックスホン「INSキャッチホン」の契約必要  Atermの設定必要

通話中に別の相手から着信があった場合、現在通話中の相手を保留することができる機能です。保留されている相手には保留音が流れます。

疑似キャッチホンと違い、使用するBチャンネルは1つだけなので、空いているポートを使用することができます。



INSネット64のフレックスホン「INSキャッチホン」の契約が必要です。



INSキャッチホンを利用するには設定が必要です。「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」でINSキャッチホン利用する設定にしてください。



フレックスホン(INSキャッチホン)の契約がされていない場合はINSキャッチホンを利用する設定にしないでください。誤ってAtermのINSキャッチホンを利用する設定にすると誤動作する可能性があります。

通信方法

手順

- 1 通話中に新たな相手から着信があると「プブツ」という音が聞こえます。

A	B1
アナログ	チャクシン
x x x x x x x x x x	x x x x x x x x x x

アナログAポートで通話中に新たな着信があった場合の例

- 2 フッキングして新たな相手と通話します。

A	B1
Aterm IR450	

- 3 通話相手を切り替えるときはもう一度フッキングします。

A	B1
Aterm IR450	

三者通話をする...(通話中にかかってきた電話を受ける)

 フレックスホン「三者通話」の契約必要  Atermの設定必要

外線通話中に、第三者を外線で呼びだして三者間で通話することができます。

三者通話には、切り替えて二者で話す切替モードと三者同時に話すミキシングモードがあります。

Bチャンネルは1本のみ使用するので、空いているポートを使用することができます。



INSネット64のフレックスホン「三者通話」の契約が必要です。



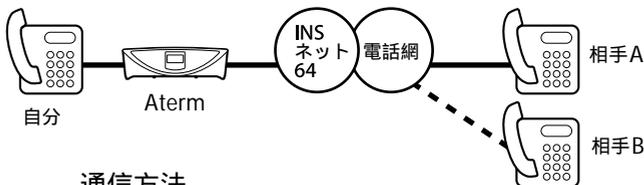
三者通話を使うには設定が必要です。「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で三者通話を利用する設定にしてください。



フレックスホン(三者通話)の契約がされていない場合は三者通話を利用する設定にしないでください。誤って三者通話を利用する設定にすると誤動作する可能性があります。

切り替えて二者で話す(切替モード)

通話中の相手を切り替えて通話します。同時に話をできるのは二人になります。



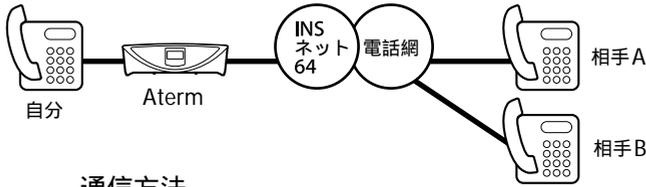
通信方法

手順

- 1 通話相手Aさんと通話中にフッキングします。
通話相手Aさんには、保留音が聞こえます。
- 2 「ププブ…」と言う音が聞こえるので、Bさんに電話をかけます。
Bさんが電話に出ると話ができます。
- 3 もう一度フッキングすると、Aさんとの通話に切り替わります。
通話の切り替えは、何度でもできます。
- 4 1秒以上、受話器を置かか、フックスイッチを押すと現在通話中の相手との電話が切れます。
呼出音が鳴ったら、受話器を取ります。
保留中の相手と話ができます。

三者同時に話す(ミキシングモード)

通話中に別の相手呼び出して三者で通話します。



通信方法

手順

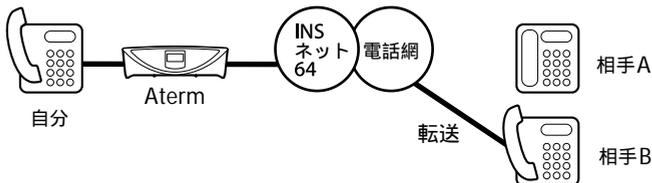
- 1 通話相手 Aさんと通話中にフッキングします。
通話相手 Aさんには、保留音が聞こえます。
- 2 「プププ…」と言う音が聞こえるので、Bさんに電話をかけます。
Bさんが電話に出ると話ができます。
- 3 続けて2回フッキング(ダイヤル桁間タイマ値以内に2回押す)すると、AさんとBさんと自分の三者で話ができます。
- 4 1秒以上、受話器を置くかフックスイッチを押すと電話が切れます。

通話中に転送する...(かかってきた電話を他の人の電話に転送する)

フレックスホン「通話中転送」の契約必要 Atermの設定必要

通話中に別の相手呼び出して、通話を転送できます。

Bチャンネルは1本のみ使用するので、空いているポートを使用することができます。



INS ネット 64のフレックスホン「通話中転送」の契約が必要です。



「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で[通話中転送]を利用する設定にしてください。

5 電話機(アナログ通信機器)を使う

6 T A機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUメール



フレックスホン(通信中転送)の契約がされていない場合は、通信中転送を利用する設定にしないでください。誤って通信中転送を利用する設定にすると誤動作する可能性があります。

通信方法

手順

- 1 通話中にフッキングします。
通話相手には、保留音が聞こえます。
- 2 「プププ…」という音が聞こえるので、転送先の電話番号をダイヤルします。
- 3 転送先の相手と通話します。
- 4 もう一度フッキングします。
- 5 受話器を置きます。
通話中だった相手と、転送した相手が通話できます。

5 電話機(アナログ通信機器)を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUメール

着信転送する...(かかってきた電話を別の電話番号につなげる)

 フレックスホン「着信転送」の契約必要  Atermの設定必要

かかってきた電話を、登録しておいた番号へ自動的に転送します。

Bチャンネルは使用しないので、空いているポートを使用することができます。



INS ネット64のフレックスホン「着信転送」の契約が必要です。



「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で着信転送の設定をしてください。



フレックスホンの契約(着信転送)がされていない場合は、着信転送の設定をしないでください。誤ってAtermの着信転送の設定をすると誤動作する可能性があります。



- ・着信転送機能を設定すると、液晶ディスプレイに「↑」のピクトグラムが出ます。
- ・Atermまでの通話料金は発信者に、Atermから転送先の通話料金は転送したAterm側にかかります。
- ・この機能は、アナログポートに電話機を接続していなくても利用できます。
- ・転送元に着信があっても呼出音は鳴りません。
- ・着信転送時に転送トーキや転送元トーキ(音声案内メッセージ)を流すか流さないか設定する場合などは、「らくらくユーティリティ」や「らくらくテレホン設定」の「アナログポート設定」-「トーキサービス」で設定します。
- ・着信転送を解除するためには、転送元か転送先のどちらかの番号を削除する必要があります。

5-5 INSボイスワープの利用

INSボイスワープ、INSボイスワープセレクト...

 「INSボイスワープ」、「INSボイスワープセレクト」の契約必要

「INSボイスワープ」、「INSボイスワープセレクト」は、フレックスホンの着信転送と異なり、ネットワーク転送型の転送サービスです。

必ずアナログポートに自己アドレス(INSボイスワープを契約した電話番号)を登録してください。

カスタマコントロール他、INSボイスワープの各種設定を行うために必要です。

i・ナンバー使用時は、必ず各i・ナンバー情報に対応した電話番号を登録してください。

●●**参照**「1らくらくユーティリティ」1ページ

「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」117ページ

INSボイスワープ、INSボイスワープセレクトの詳細については、INSネット64の窓口にお問い合わせください。



INSネット64の付加サービス「INSボイスワープ」、「INSボイスワープセレクト」の契約が必要です。



カスタマコントロールとは、INSボイスワープの契約をした電話番号に対応する電話機から、転送の開始や、修正・転送先の電話番号などを行う機能です。この機能を利用するには、スティミュラスプロトコル手順をサポートしている必要があり、Atermではこの手順をサポートしています。

5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用

INSナンバー・ディスプレイ（オプション:INSナンバー・リクエスト）...

 INSナンバー・ディスプレイの契約必要  Atermの設定必要

INSナンバー・ディスプレイは、かかってきた発信者の電話番号と、番号が通知されないときの理由を通知するサービスです。

INSナンバー・リクエストは、INSナンバー・ディスプレイのオプション機能として、電話番号を通知しない通話に対して、通知してかけ直すよう音声メッセージで応答するサービスです。この機能を利用するには、スティミュラスプロトコル手順をサポートしている必要があります、Atermではこの手順をサポートしています。



INSネット64におけるナンバー・ディスプレイでは、アナログ回線からの発信者番号をAtermの液晶ディスプレイに表示させることができます。また、AtermはアナログAポートに接続されている「ナンバー・ディスプレイ対応電話機」に、相手の電話番号を表示させることができます。



INSネット64の付加サービス「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要です。



アナログAポートに接続した「ナンバー・ディスプレイ対応電話機」を利用する場合は、「らくらくユーティリティ」または「電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」で[ナンバー・ディスプレイを使用する]にしてください。

サブアドレス表示対応のナンバー・ディスプレイ対応機器にサブアドレスも表示させることができます。

その場合は「サブアドレスを通知する」にしてください。

相手が「通常非通知(回線ごと非通知)」または一般電話・公衆電話から「184(イヤヨ)」をつけた場合、ヒツウチと表示されます。

相手が公衆電話からかけた場合、コウシュウデンワと表示されます。

相手がサービス地域以外の電話からかけた場合、ヒョウジケンガイと表示されます。



- ・ ナンバー・ディスプレイ対応機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- ・ ナンバー・ディスプレイ対応電話機を利用できるのはアナログAポートのみです。B、Cポートでは、ナンバー・ディスプレイの機能を利用できません。
- ・ INSナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合に、相手が「通常非通知(回線ごと非通知)」または「184(イヤヨ)」をつけた場合、ヒョウジケンガイと表示されます。



6 TA機能で通信する

より便利に使うための機能を説明しています。

6-1 リモートアクセスで通信する

6-2 便利な機能を使う

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

6-1 リモートアクセスで通信する

ここでは、INSネット64を利用し、Atermのデータポートを使ったクライアント/サーバーのネットワークを構築するときの方法について、解説します。

はじめに次の点を確認してください

- ・クライアント/サーバー側共、INSネット64の契約が必要です。
- ・接続先には、リモートアクセス用のサーバが必要です。

詳しくは、そのサーバの管理者に確認してください。

リモートアクセスサーバと通信するときの回線速度とプロトコルを確認してください。

クライアント側の設定

設定方法は、導入マニュアルの「4-3 TA機能を利用してインターネットにダイヤルアップ接続する」とほとんど同じです。ただし、ネットワークプロトコルは、リモートアクセスサーバ側と同じプロトコルがインストールされている必要があります。Windows98/Windows95では、コントロールパネルの[ネットワーク]で、プロトコルをインストールしてください。ネットワークプロトコルがわからない場合は、LAN管理者に確認してください。また、回線速度をリモートアクセスサーバ側と合わせてください。

128kbpsマルチリンクPPP通信するとき、スループットBODおよびリソースBODを利用したい場合は、次ページ「6-2 便利な機能を使う」を参照してください。

6-2 便利な機能を使う

短縮ダイヤルを使う...

 Atermの設定必要

短縮・識別番号に登録した電話番号を使って簡単に発信することができます。

短縮ダイヤルで電話をかけるには、短縮・識別番号の登録が必要です。

「らくらくユーティリティ」1ページで登録してください。



らくらくユーティリティの電話帳(Windows)または短縮識別番号登録(Macintosh)で、相手電話番号を登録します。

ATコマンドを使った発信(データポート同士の通信)

ATDコマンドを使用して発信します。例えば[0]に登録した電話番号にかける場合には、パソコンの通信ソフトを起動した後にATDS=0と入力します。

識別着信をする...

 発信者番号通知サービスの契約必要  Atermの設定必要

短縮・識別番号に登録した、INSネット64の契約をしている番号の相手からのみ、着信させることができます。

識別着信番号は、アドレス・サブアドレスとも一致したときに受け付けます。

アナログ回線の相手や登録されていないINSネット64の相手からの着信はしません。

短縮・識別番号0～9に登録されている相手番号の着信のみを受け付けます。



INSネット64お申込みときに発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」にしてください。



- ・らくらくユーティリティの電話帳(Windows)または短縮識別番号登録(Macintosh)で、相手電話番号を登録します。
- ・らくらくユーティリティのデータポートの高度な設定(Windows)または詳細設定(Macintosh)で識別着信をするにします。

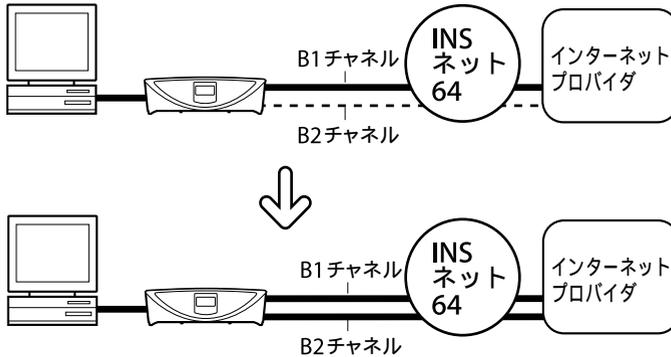


- ・短縮・識別番号0～9に登録した電話番号は、3つのアナログポートとデータポートで共有になります。
- ・末尾にCBをつけた番号は登録できません。

128kbpsマルチリンクPPP通信をする...

Multilink Protocol (MP)方式のダイヤルアップIPアクセスポイントを持つプロバイダ等に接続します。

B1チャンネルでプロバイダに発信してPPP接続を完了した後に、B2チャンネルで同様に発信します。2つのBチャンネルを使って128kbpsのデータ通信を行います。



利用する際の必要な条件

MPによる通信を行うためには、接続時に、下記の条件を満たしている必要があります。

- ・128kbpsマルチリンクPPP通信を利用してインターネットに接続するためには、マルチリンクPPP(MP)対応のプロバイダに加入する必要があります。
- ・パソコンのシリアルポートの速度は230.4kbpsである必要があります。

Windows98/Windows95やWindows NT4.0で使用する場合は、230.4kbpsに対応した市販の高速シリアルボードを購入してください。Macintoshで使用する場合は、230.4kbps対応の機種を使用してください。

また、MPによる通信を設定しても以下のときはMP機能を使用できません。

- ・プロバイダのアクセスポイントのポートに空きが無い場合

正常に2つのBチャンネルが接続できて、128kbpsマルチリンクPPP通信が確立したときはAtermのLCD表示がB1、B2使用中の表示になります。ただし、1つのBチャンネルのみの接続の場合でも、通信は可能です(自動的に同期64kbpsの通信となります)。

MPによる通信のしかた

- ・Windows98/Windows95 やWindows NT4.0 では、「使用するモデム」で「Aterm IR-MP128」を選択します。
 - ・Macintoshでは、「OpenTransport/PPP」を使用する場合、Atermに付属のCD-ROMに収録されている「NEC AtermIR MP」のCCLファイルを[機能拡張]フォルダの中の[ModemScripts]フォルダにコピーしてください。
- また、接続時にはコントロールパネルの[モデム]で、コピーしたCCLファイルを選択してください。



本機能を使用中にBOD(Bandwidth On Demand)機能を利用することができます。BOD機能を利用すると、常に固定で2つのBチャンネルを使用するのではなく、データ通信量、またはアナログポートに接続している電話機の発着信によって、使用するチャンネル数(1つまたは2つ)を自動的に変更することができます。内容については、次の「BOD機能を使う」を参照してください。

BOD機能を使う...

128kbps マルチリンク PPP 通信を行っているときに利用できる機能で、「リソースBOD (Bandwidth On Demand)」、「スループットBOD」の2つの方式があります。

「リソースBOD」とは、アナログポートに接続している電話機の発着信によってBチャンネル数を変更する方式で、「スループットBOD」とは通信データ量によってBチャンネル数を変更する方式です。

次にそれぞれの特長と設定方法を説明しますので、128kbps マルチリンク PPP 通信時は、利用されることをおすすめします。

スループットBODとは

👉 Atermの設定必要

「スループットBOD」では、通信データ量が少ないときには1つのBチャンネルを使用し、多いときには2つのBチャンネルを同時に使用するので、通常は、2つのBチャンネルを常時使用する場合と比べて通話料金を節約することができます。

通信データ量が少ない

（「リンク追加しきい値」より少ないとき）
（「リンク削除しきい値」より少ないとき）

通信データが多い

（「リンク追加しきい値」より大きいとき）
（「リンク削除しきい値」より大きいとき）



設定した「リンク追加算出時間」内の送出、または受信データ量が「リンク追加しきい値」より大きくなれば、2つ目のBチャンネルを追加して、2つのBチャンネルを同時に使用します。また、設定した「リンク削除算出時間」内の送出、または受信データ量が「リンク削除しきい値」より小さくなれば、2つ目のBチャンネルを削除して、1つのBチャンネルのみを使用するようにします。



らくらくユーティリティの「データポートの設定」で「スループットBODを行う」にします。あわせて、「リンク追加算出時間」「リンク算出時間」「リンク追加しきい値」「リンク削除しきい値」を設定してください。



・「リンク追加」とは、Bチャンネルを追加する(2つのBチャンネルを使用)ことです。「リンク削除」とは、Bチャンネルを削除する(1つのBチャンネルのみを使用)ことです。

・「しきい値」は、回線利用率(%)で示します。

回線利用率(%) = 一定時間のデータ量の平均値 / 回線の最大データ量 × 100
ここで「回線の最大データ量」は、64kbps (= 8kbyte / 秒)と考えます。
例えば「リンク追加算出時間」が30秒、「リンク追加しきい値」が70%の設定時は、30秒間の回線利用率が70%より大きくなったときすなわち、30秒間にデータ量の平均値が44.8kbpsより大きくなったときにBチャンネルを追加します。

注意

- ・接続するプロバイダの状況、アクセスするサイトの混雑状況、お客様の使用状況(ホームページを見る,画像やソフトウェアをダウンロードするなど)等の条件によっては、Bチャンネルの追加と削除がひんぱんに発生して、逆に料金が高くなることもあります。
- ・通信相手から強制的にBチャンネルを削除/追加された場合には、通信エラーとなる可能性があります。一般的なプロバイダ接続では、要求してきませんので問題ありません。



参考

Windows95では、送受信データ量を見ることができるシステムモニタがあります。

128kbps マルチリンク PPP 通信中に次の手順で見ることができます。

手順

設定方法

1

デスクトップの「マイコンピュータ」画面の、「ダイヤルアップネットワーク」からマルチリンクPPPの接続先を選択、右クリックし、[プロパティ]を選択します。

[プロパティ]画面の **設定** ボタンをクリックします。

「ダイヤルアップネットワーク」画面



設定 ボタン

[プロパティ]画面

2

[接続] タグをクリックします。

[詳細] ボタンをクリックし、[ログの記録] のチェックをします。

[接続] タグ

[詳細] ボタン



[ログの記録]

手順

確認方法

1

「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「システムツール」「システムモニタ」を開きます。

2

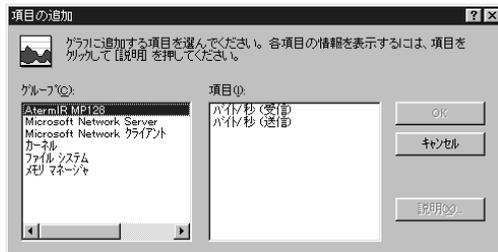
「編集」「項目の追加」を選びます。

グループでAtermIR MP128をクリックし、

項目からバイト受信 / 秒を選択 「OK」

項目からバイト送信 / 秒を選択 「OK」

棒グラフ、折れ線グラフ、数値表を選択できます。



5 電話機（アナログ通信機器）を使う

6 T A 機能で通信する

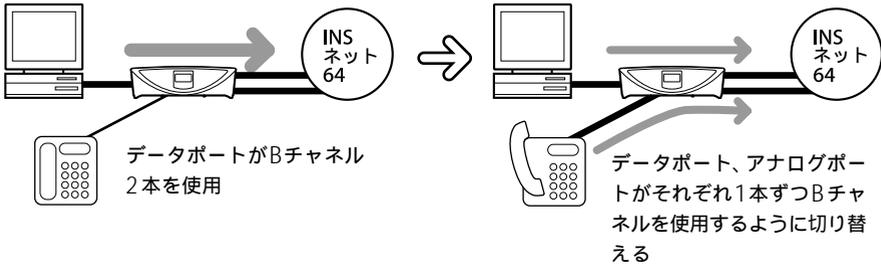
7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとU Uメール

リソースBODとは

 通信中着信通知サービスの契約必要  Atermの設定必要

128kbpsマルチリンクPPP通信では、データ通信で2つのBチャンネルを使用するため、通常は、アナログポートの発着信はできません。しかし、リソースBODを設定すると、アナログポートに接続した電話機の発着信があるとデータ通信の1つのBチャンネルを削除して電話機を使用することが可能になります。



- ・使用しているBチャンネル数は、液晶ディスプレイに表示されます。
- ・プロバイダの混雑状況によっては、電話終了後に、2つ目のBチャンネルを追加できないことがあります。AtermのLCD表示がB1、B2使用中の表示にならないことで確認できます。このときに、電話機の受話器を上げて下ろす操作を行うと、再度、チャンネルの追加を試みます。
- ・2つ目のBチャンネルの追加と電話をかけるタイミングがぶつかったときには、話中音が聞こえることがあります。再度かけなおしてください。
- ・リソースBODとスルーブットBOD両方を使用するときの、Bチャンネルを削除する条件は、それぞれの設定によります。リソースBODの機能によりBチャンネルを削除した場合は、電話機の通話が終わるとBチャンネルを追加するために発信します。



INSネット64契約のコンサルティング項目で「通信中着信通知サービス」を選択します。



らくらくユーティリティの「データポートの設定」で「リソースBOD」を行うにします。

スタイルスコールバックを使う...

 発信者番号通知サービスの契約必要  Atermの設定必要

Atermを使ってクライアント/サーバのネットワークを構築したときに、クライアント側からの発信を行うと自動的にサーバ側Atermがクライアント側へかけなおします(コールバック)。スタイルスコールバックを使用すると、例えば自宅(リモートクライアント)~会社(サーバ)のネットワークで、自宅側の電話料金を発生させないで通信することができます。

スタイルスコールバックは無手順通信を使用して実現しています。

クライアント(発信)側



INSネット64契約の基本サービスで発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」にします。



らくらくユーティリティの「データポートの設定」で「スタイルスコールバックする」にします。または、AT\$N10=1コマンド(ATコマンド)で「スタイルスコールバックする」にします。さらに、「データポート発信番号通知設定」を「行う」または、「INSネット64の申込通り」にします。

AT&KやAT¥Qコマンド(ATコマンド)で「RS-CSフロー制御あり」(初期状態)にします。

ATS0 = 1コマンド(ATコマンド)で「自動応答」(初期状態はRING1回で自動応答)にします。

ATコマンドで、相手の電話番号の末尾にCBをつけて発信します。

(例) サブアドレス指定がない場合: atd123456cb

サブアドレス指定がある場合: atd123456/78cb

サーバ(着信)側



INSネット64契約の基本サービスで、発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」にします。



らくらくユーティリティの「データポートの設定」で「スタイルスコールバックする」にします。または、AT\$N10=1コマンド(ATコマンド)で「スタイルスコールバックする」にします。さらに、「データポート発信番号通知設定」を「行う」または、「INSネット64の申込通り」にします。

サーバのER信号をオンにしておきます。

AT&KやAT¥Qコマンド(ATコマンド)で「RS-CSフロー制御あり」(初期状態)にします。

ATS0=1コマンド(ATコマンド)で「自動応答」(初期状態はRING1回で自動応答)にします。



下記のAterm製品で利用することができます。

AtermIR450シリーズ、AtermIT75シリーズ、AtermIT65EXシリーズ、AtermIT65シリーズ、AtermIT60/D、AtremIT55シリーズ、AtermIT50DSU、AtermIT45シリーズ、AtermIT40/D、AtermIT25DSU、AtermIWシリーズ、AtermIB55シリーズ、AtermIC20

- ・ スティルスコールバックを行ったかどうかは、通信の前後で累積通信料金（らくらくユーティリティで見られます）が変化していないことで確認できます。
- ・ 「スティルスコールバックする」に設定しておいても通常の発着信は行えます。
上記機種はH11.10現在です。追加される場合があります。



- ・ アナログポートでは使用できません。
- ・ リモートクライアント側と同じ回線に複数のターミナルアダプタが接続されているときは、Atermを指定できるように、サブアドレスやダイヤルインサービスを使用してください。
指定しないとリモートサーバ側がかけなおしたときに、他のターミナルアダプタが応答することがあります。
- ・ リモートクライアント側は、指定した相手番号のリモートサーバ側からのコールバックにしか応答しません。リモートサーバ側はリモートクライアントが指定した電話番号を通知できるように、自己アドレス等の登録を行ってください。
- ・ スティルスコールバックではPPPプロトコルを使用した認証はサポートしていません。無手順通信を使用して実現しています。
- ・ Atermは発信側、着信側ともにTA機能を使つてのMS-CBCPコールバックを使用することはできません。

無通信監視タイマを使う...

 Atermの設定必要

パソコンや通信相手とデータのやりとりがないときに、通信を切断することができます。うっかりした切断忘れを防止することができます。

監視時間は1～10分で1分刻みで設定できます。初期値は10分です。



らくらくユーティリティの「データポートの設定」で「無通信監視タイマ」で設定してください。



プロバイダやパソコンによっては監視パケット等を定期的に発信する場合があります。
この場合、切断されませんので通信料金がかかります。必ずパソコンから切断操作を行ってください。

強制切断タイマを使う...

 Atermの設定必要

通信時間が設定した時間を超えると強制的に通信を切断します。パソコンで切断操作を行っても、ソフトウェアが正常に動作しなくて切断できなかった場合の、長時間接続を防止することができます。

設定時間は、1～10時間で1時間刻みで設定できます。初期値は10時間です。



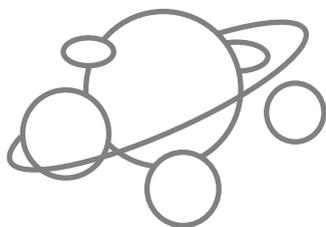
らくらくユーティリティの「データポートの設定」での「強制切断タイマ」で設定してください。



強制切断したくない場合は、必ず「切断しない」に設定してください。



- ・監視データを定期的に発信するので、無通信監視タイマが効かないプロバイダとの接続でもうっかりした切断忘れの防止ができます。
- ・一般的に通信ソフトウェアは、切断時、ATコマンドで+++の後、ATHコマンドを出しますが、ソフトウェアの異常動作で画面上は切断されているにもかかわらず、+++、ATHが送出されずに通信が切断できないことも考えられます。長時間接続して通信費用がかかるのを防止するためにも、強制切断タイマは設定しておくことをおすすめします。



7 ルータ機能で通信する

Atermの様々なルータ機能を説明しています。

- 7-1 Atermのパスワードを設定 / 変更する
- 7-2 既存のLANにAterm導入する
- 7-3 AtermのIPアドレスを変更する
- 7-4 AtermのDHCPサーバの設定のポイント
- 7-5 AtermのDNSサーバの設定のポイント
- 7-6 パソコン本体のIPアドレスの変更方法
- 7-7 NetBIOSのフィルタリングの設定
- 7-8 マルチアクセス接続をする
- 7-9 ドメインネームルーティング
- 7-10 ルータ機能を利用したその他の接続

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

7-1 Atermのパスワードを設定 / 変更する

Atermでは、ルータ機能の設定・変更が、第3者によって勝手に行われないように、パスワードを設定する必要があります。

設定したパスワードは、ルータ機能を設定するときに必要なので、忘れないように注意してください。

WWWブラウザを利用してパスワードを設定 / 変更する...

パスワードを設定します。

WWWブラウザの設定ページを使って、Atermのパスワードを設定 / 変更します。

この方法は、WWWブラウザでAtermの設定ページが開ける場合を想定しています。

設定ページが開けない場合は、一度、Atermの設定を工場出荷時の状態に戻し、設定ページが開ける状態にしてください。



参考

パスワードを忘れた場合には、Atermを工場出荷時に戻す必要があります。Atermを工場出荷時の状態に戻す方法は、導入マニュアルの「2-3 ディップスイッチについて」を参照してください。

手順

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL欄に、「http://192.168.0.1」と入力します。
AtermのIPアドレスを変更した場合は、「192.168.0.1」のかわりに変更したIPアドレスを入力します。
- 3 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。
[ユーザ名]欄には、半角で「Admin」と入力します。AdminのAは大文字です。
[パスワード]欄には、Atermに設定してある「アクセスパスワード」を入力します。
 ボタンをクリックします。

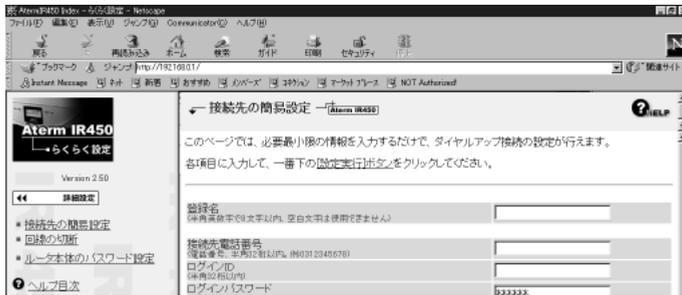




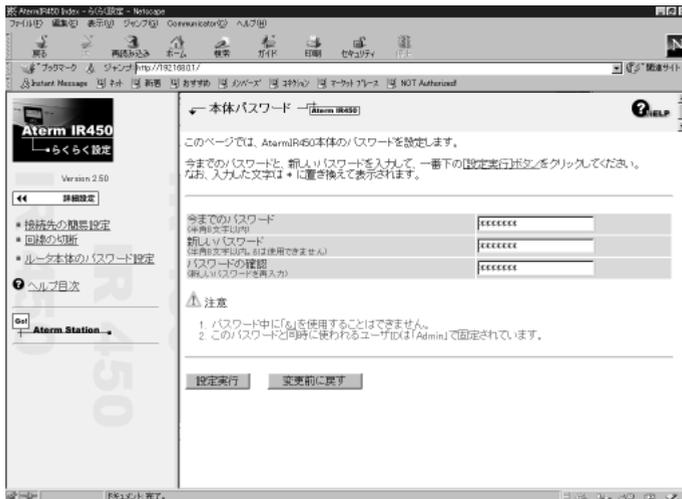
「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されず、「本体パスワード」を設定する画面が表示された場合は、Atermにまだパスワードが設定されていません。WWW画面に従いパスワードを設定後、再度手順1からはじめてください。（設定後、手順3の画面が表示される場合もあります。）

4 WWWブラウザに、設定ページが開きます。

左フレーム内の[ルータ本体パスワード設定]の文字をクリックします。



5 [ルータ本体パスワード設定]が開きます。



6 本体パスワード設定を設定 / 変更します。

今までのパスワード

既に設定してあるパスワードを入力します。

新しいパスワード

変更するパスワードを半角8文字以内で入力します。

パスワードの確認

変更するパスワードをもう一度半角8文字以内で入力します。

パスワードをはじめて設定する場合は、「今までのパスワード」は空欄のままにしておいてください。その場合、新しいパスワードとパスワードの確認欄に設定するパスワードを入力してください。入力された文字は*に置き換えて表示します。

パスワードの文字には、「&」を使用しないでください。

今までのパスワード (半角8文字以内)	*****
新しいパスワード (半角8文字以内、&は使用できません)	*****
パスワードの確認 (新しいパスワードを再入力)	*****

7 **設定実行** ボタンをクリックします。

以上でAtermのパスワードの設定 / 変更は終了です。

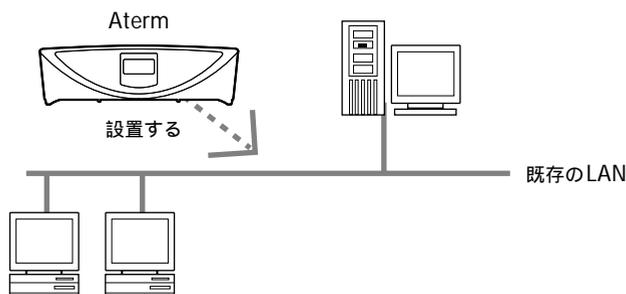
7-2 既存のLANにAtermを導入する

ここでは、既に構築されたLAN環境にAtermを設置する際のポイントを以下の環境を例にして説明します。



Atermの環境を変更する場合は、変更が終了するまで、ほかの10BASE-Tポート、USBポートに接続している機器をすべて外してください。

既に使用しているLANにAtermを設置しようとする場合



上記の環境にAtermを設置する場合には、以下のAterm本体の設定が設置しようとしているLANの環境にあうようにAterm本体の設定を変更する必要があります。

既に使用しているLANについて、以下の項目を確認しAterm本体の設定を変更してください。

どのようなIPアドレスを使用しているか？

●参照 ▶ 「7-3 AtermのIPアドレスを変更する」170ページ

既に利用しているDHCPサーバが設置されているかどうか？

●参照 ▶ 「7-4 AtermのDHCPサーバの設定のポイント」175ページ

既に利用しているDNSサーバが設置されているかどうか？

●参照 ▶ 「7-5 AtermのDNSサーバの設定のポイント」181ページ

Windows98/Windows95、Windows NT4.0が設置されているかどうか？

●参照 ▶ 「7-7 NetBIOSのフィルタリングの設定」205ページ

7-3 AtermのIPアドレスを変更する

既存のLANなどにAtermを設置する場合には、Aterm本体のIPアドレスを変更する必要があります。

Aterm本体のIPアドレスを変更する...

AtermのIPアドレスを変更する前に、現在のAtermのDHCPサーバの次の設定内容を確認してください。現在のAtermのDHCPサーバ機能の設定により、設定手順が異なります。設定は各項を参照してください。

AtermのDHCPサーバを使用している場合 ●●参照▶次ページ

AtermのDHCPサーバを使用していない場合●●参照▶173ページ

AtermのDHCPサーバを使用している場合の設定

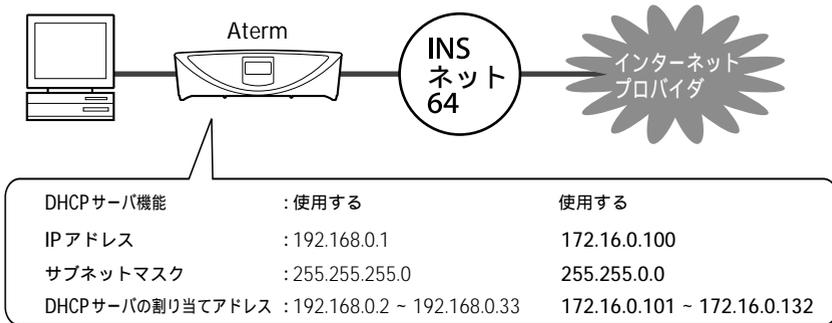
5 電話機（アナログ通信機器）を使う

6 T A 機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUメール

ここでは、Aterm本体のIPアドレスを次のように変更する場合について説明します。



WWWブラウザの設定ページを使って、Aterm本体のIPアドレスを上図のように変更します。AtermのDHCPサーバの機能を使用する場合には、Aterm本体のIPアドレスの変更とあわせて、DHCPサーバの設定項目の割り当て開始IPアドレスをAtermのIPアドレスのサブネットマスクにあわせて変更します。

この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける場合を想定しています。

設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

らくらくウィザードを利用して設定を変更することができます。

詳しくは、導入マニュアル「4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定」を参照してください。

AtermのDHCPサーバを使用している場合の設定手順

- ① WWW ブラウザを起動して設定ページを開く
- ② Aterm 本体の IP アドレス変更及び
Aterm の DHCP サーバ割り当てアドレス変更
- ③ 再起動
- ④ 接続テスト・・・参照「付録 接続テスト」336 ページ

① WWW ブラウザを起動して設定ページを開く

Atermのルータ機能の設定は、WWWブラウザを使用して行います。そのため、WWWブラウザを起動し、Atermの設定ページを開きます。

「2-1 WWWブラウザでの設定について」50ページを参考にしてください。

② Aterm本体のIPアドレス変更および AtermのDHCPサーバ割り当てアドレス変更

手順

次の手順で確認します。

- 1 AtermのIPアドレスの変更ページを開きます。
- 2 各項目を入力します。
 AtermIR450のIPアドレス : 172.16.0.100
 AtermIR450のネットワークマスク : 255.255.0.0
 AtermIR450のデフォルトゲートウェイは、必要に応じて入力してください。
- 3 AtermのDHCPサーバ割り当てアドレス変更
 DHCPの開始IPアドレスの変更をします。
 DHCPの開始IPアドレスを172.16.0.101に、割り当て個数を32個に変更します。
 「AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを変更する」175ページを参考にし
 て行います。
- 4 **設定実行** ボタンをクリックします。
設定実行 ボタンをクリックするとAtermのIPアドレスが変更されますので、
 そのままではAtermからの応答がなくなります。以下の手順でAtermの再起動
 を行ってください。

③ 再起動

変更内容を反映させるため、Atermを再起動させます。

手順

次の手順で確認します。

- 1 WWWブラウザを終了させます。
- 2 Atermの電源を入れなおします。
- 3 パソコンの電源を入れなおします。

④ 接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

AtermのDHCPサーバを使用していない場合

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA機能で通信する

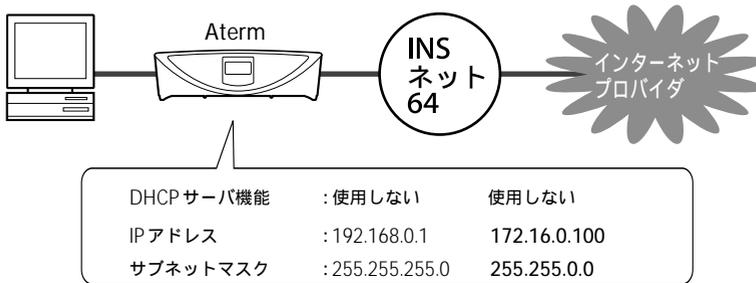
7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUIメール

ここでは、Aterm本体のIPアドレスを次のように変更する場合について説明します。



WWWブラウザの設定ページを使って、AtermのIPアドレスを上図のように変更します。

この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける場合を想定しています。

設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

らくらくウィザードを利用してても設定を変更することができます。

詳しくは、導入マニュアル「4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定」を参照してください。

AtermのDHCPサーバを使用していない場合の設定手順

- ① WWWブラウザを起動して設定ページを開く
- ② Aterm本体のIPアドレス変更
- ③ 再起動およびパソコンのIPアドレス変更
- ④ 接続テスト…[参照](#)「付録 接続テスト」336ページ

① WWWブラウザを起動して設定ページを開く

Atermのルータ機能の設定は、WWWブラウザを使用して行います。WWWブラウザを起動し、Atermの設定ページを開きます。

「2-1 WWWブラウザでの設定について」50ページを参考にしてください。

② Aterm本体のIPアドレス変更

手順

次の手順で変更します。

- 1 AtermのIPアドレスの変更ページを開きます。
- 2 各項目を入力します。
AtermIR450のIPアドレス : 172.16.0.100
AtermIR450のネットワークマスク : 255.255.0.0

- 3 **設定実行** ボタンをクリックします。

設定実行 ボタンをクリックするとAtermのIPアドレスが変更されますので、そのままではAtermからの応答がなくなります。以下の手順でAtermの再起動を行ってください。

③ 再起動およびパソコンのIPアドレスの変更

変更内容を反映させるため、Atermを再起動させます。

手順

次の手順で再起動します。

- 1 WWWブラウザを終了させます。
- 2 Atermの電源を入れなおします。
- 3 必要に応じてパソコンのIPアドレスを変更します。
● **参照** 「7-6 パソコン本体のIPアドレスの変更方法」187ページ

④ 接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

7-4 AtermのDHCPサーバの設定のポイント

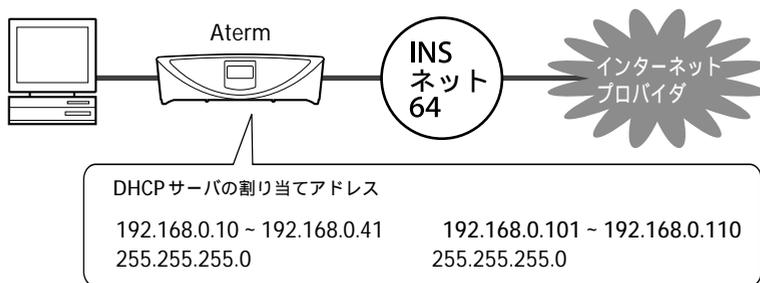
既存のLANなどにAtermを設置する場合、Atermの本体のDHCPサーバの設定を変更する必要があります。ここでは、以下のポイントについて設定します。

AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを変更する

既存のLAN上のDHCPサーバと、AtermのDHCPサーバとの共存

AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを変更する...

AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを次の図のように変更する場合について説明します。



WWWブラウザの設定ページを使って、AtermのIPアドレスを上図のように変更します。

この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける場合を想定しています。

設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

DHCPサーバの割り当てアドレスを変更する手順

- ① WWWブラウザを起動して設定ページを開く
- ② AtermのDHCPサーバ割り当てアドレス変更
- ③ 再起動
- ④ 接続テスト ●●参照「付録 接続テスト」336ページ

① WWWブラウザを起動して設定ページを開く

AtermのDHCPサーバの割り当てアドレスを変更は、WWWブラウザを使用して行います。そのため、WWWブラウザを起動し、Atermの設定ページを開きます。

DHCPサーバの割り当てアドレスの変更は、DHCPの開始アドレスと割り当て個数を変更することで行うことができます。

② AtermのDHCPサーバ割り当てアドレス変更

ここでは、例としてDHCPの開始IPアドレスを192.168.0.101とし、DHCPの割り当てアドレスを10個に変更する手順を説明します。

手順

以下のように変更します。

- 1 WWWブラウザの「詳細設定」画面より左フレーム内の[IPアドレス / DHCPサーバ]の文字をクリックします。
- 2 [IPアドレス / DHCPサーバ]ページが開きます。
各項目を入力します。

DHCPサーバ	: 使用する
割り当て開始IPアドレス	: 192.168.0.101
割り当てIPアドレス数	: 10
	DHCPサーバ機能を利用するLAN上のパソコンの数
リースタイム	: 2
	DHCPサーバ機能で割り当てる時間

注意

DHCPサーバの4つの設定項目のうち、「リースタイム」だけの設定値を変更することはできません。「リースタイム」のみの設定値を変更して、その変更結果を各パソコンに伝えるためには、「リースタイム」以外の変更または再設定を行ってください。

- 3 すべての項目を入力したら、**設定実行** ボタンをクリックします。
- 4 「登録内容を更新しました」のメッセージ表示を確認します。
「AtermのDHCPサーバの割り当てアドレス」を変更した場合には、パソコンのIPアドレスを変更する必要がある場合があります。

③再起動

変更内容を反映させるため、Atermとパソコンを再起動させます。

手順

次の手順で再起動します。

- 1 WWWブラウザを終了させます。
- 2 Atermとパソコンの電源を入れなおします。

④接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

5
電話機（アナログ通信機器）を使う

6
TA機能で通信する

7
ルータ機能で通信する

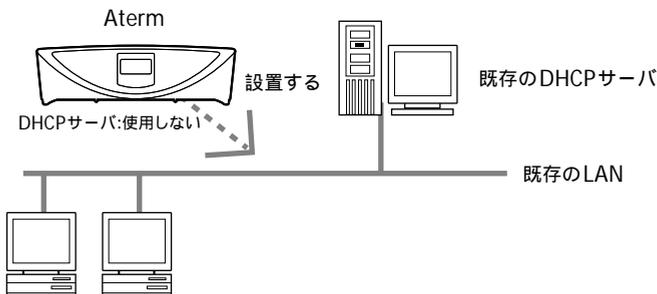
8
電子メール着信サービスとUUIメール

既存のLAN上のDHCPサーバとAtermのDHCPサーバとの共存...

既存のLAN上で、既にDHCPサーバが起動している場合の、Atermの設定上のポイントを説明します。

Aterm本体でも、DHCPサーバ機能を提供しています。Atermを設置しようとする既存のLAN上にもDHCPサーバがある場合には、Atermの設定を変更する必要があります。

既存のLAN上のDHCPサーバだけを使い、Aterm本体のDHCPサーバ機能を利用しない場合



具体的な設定方法を以下に説明します。

このような場合、AtermのDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。



Atermに設定するIPアドレスを既存のLANの管理者に確認してください。誤った設定を行った場合、既存のLAN全体にも影響を与える場合があります。Atermは、DHCPサーバからIPアドレスを受け取る機能(DHCPクライアント)機能を持ちません。Aterm本体にIPアドレスを設定しておく必要があります。

既存のLAN上のDHCPサーバと、Aterm本体のDHCPサーバ機能を同時に利用しようとする場合、LAN全体が正しく動作しなくなることがあります。既存のLAN上にDHCPサーバが存在する場合は、Aterm本体のDHCPサーバ機能は利用しないでください。

DHCPサーバがすでに稼働しているLANに、Atermを設置する手順

- ① Atermにプロバイダ / 接続先を設定
- ② AtermのDHCPサーバ機能の変更
- ③ AtermのIPアドレスの変更
- ④ 既存のLANにAtermを設置
- ⑤ 接続テスト…[参照](#)「付録 接続テスト」336ページ

5 電話機（アナログ通信機器）を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUIメール

① Atermにルータ機能を設定

設置するAtermは、事前にらくらくウィザードなどを利用してルータ機能の設定がされ、インターネットへ接続できる環境が整っているものとします。

② AtermのDHCPサーバ機能の変更

Atermの設定はAterm本体のDHCPサーバ機能が「使用する」となっている場合、これを次の方法により「使用しない」に変更します。

この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける環境を想定しています。

設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

らくらくウィザードを利用してても設定を変更することができます。

詳しくは、導入マニュアル「4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定」を参照してください。

手順

次の手順で確認します。

- 1 WWWブラウザの「詳細設定」画面より、左フレーム内の[IPアドレス / DHCPサーバ]の文字をクリックします。
- 2 [IPアドレス / DHCPサーバ]ページが開きます。
次の項目を変更します。
DHCPサーバ : 使用しない
- 3 項目を入力したら、**設定実行** ボタンをクリックします。
- 4 「登録内容を更新しました」のメッセージ表示を確認します。

③ AtermのIPアドレスの変更

既存のLANにAtermを設置するときには、Aterm本体のIPアドレスを変更する必要がある場合があります。

Atermは、DHCPクライアント機能を持ちません。導入するLANにあったIPアドレスを必ず、Aterm本体に設定してください。

AtermのIPアドレスの変更後は、必ずAtermを再起動する必要があります。設定方法は、「7-3 AtermのIPアドレスを変更する」170ページを参照して、Aterm本体のIPアドレスを変更して下さい。

Atermの工場出荷時のIPアドレスは「192.168.0.1」「255.255.255.0」です。

④ 既存のLANにAtermを設置

最後に、Atermを既存のLANに設置します。

既存のLANに設置してあるHUBからLANケーブルでAtermをカスケード接続します。

カスケード接続の詳細については、導入マニュアルの「3-3 ケーブルの接続のしかた」を参照してください。

⑤ 接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

7-5 AtermのDNSサーバの設定のポイント

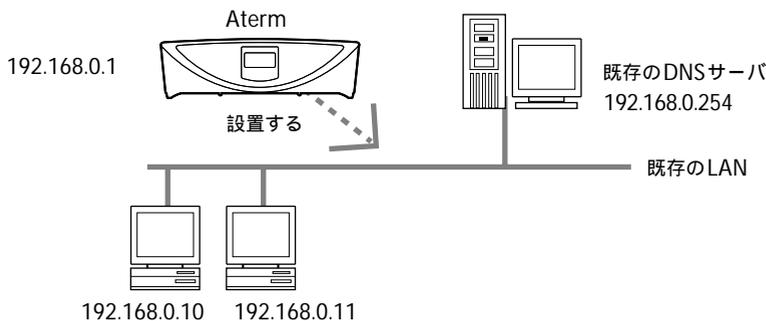
Atermは、擬似的にDNSサーバとして動作することができます。(DNSフォワーディング機能)
既存のLANなどにAtermを設置する場合、このDNSサーバ機能の設定を変更する必要があります。ここでは、以下のポイントについて説明します。

DNSサーバが存在する既存のLANへのAtermを導入

DNSサーバが存在していない既存のLANへのAtermを導入

DNSサーバが存在する既存のLANへのAtermの導入...

AtermのDHCPサーバを利用せずDNSサーバがすでに稼働している下図のようなLANへ、Atermを設置する方法について説明します。



上図では、各パソコンのTCP/IPの設定には、すでにIPアドレスが指定され、DNSサーバとして既存のDNSサーバのIPアドレス(192.168.0.254)が指定されているものとします。

DNSサーバがすでに稼働しているLANに、Atermを設置する手順

- ① Atermにルータ機能を設定
- ② AtermのDNSサーバ機能の変更
- ③ AtermのIPアドレスの変更
- ④ 既存のLANにAtermを設置
- ⑤ 接続テスト…[参照](#)「付録 接続テスト」336ページ

①Atermにルータ機能を設定

設置するAtermは、事前にらくらくウィザードなどを利用してルータ機能の設定がされ、インターネットへ接続できる環境が整っているものとします。

②AtermのDNSサーバ機能の変更

らくらくウィザードなどで設定したAtermは、Aterm本体のDNSサーバ機能を使用する設定となっています。これを次の方法により変更します。



既存のLAN上で、すでにDNSサーバが稼働し、かつAtermのDHCPサーバを利用しない環境にするときは、Aterm本体のDNSフォワーディング機能は「使用する」にしないでください。LAN上の各パソコンはすでに設定されているDNS設定に従って、既存のDNSサーバへ問い合わせを行います。

WWWブラウザの設定ページを使って、DNSフォワーディング機能を「使用しない」にします。この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける場合を想定しています。設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

手順設定方法は、次の通りです。

手順

次の手順で変更します。

1 WWWブラウザの「詳細設定」画面より左フレーム内の[DNS フォワーディング]の文字をクリックします。

2 DNSフォワーディングページが開きます。
DNSフォワーディング機能を「使用しない」にします。
設定実行 ボタンをクリックします。

DNSフォワーディング機能 <small>(通常は「使用する」を選択してください)</small>	使用しない ▾
ドメイン名 <small>(LAN内にDNSサーバがある場合、そのドメイン名を指定。半角63文字以内)</small>	<input type="text"/>
LAN側サーバアドレス1 <small>(LAN内のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)</small>	<input type="text" value="0.0.0.0"/>
LAN側サーバアドレス2 <small>(LAN内のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)</small>	<input type="text" value="0.0.0.0"/>

3 「登録内容を更新しました」のメッセージ表示を確認します。

③ AtermのIPアドレスの変更

既存のLANにAtermを設置するときには、Aterm本体のIPアドレスを変更する必要がある場合があります。

Atermは、DHCPクライアント機能を持ちません。導入するLANにあったIPアドレスを必ず、Aterm本体に設定してください。

設定方法は、「7-3 AtermのIPアドレスを変更する」170ページを参照して、Aterm本体のIPアドレスを変更して下さい。

Atermの工場出荷時のIPアドレスは「192.168.0.1」「255.255.255.0」です。

④ 既存のLANにAtermを設置

Atermを既存のLANに設置します。

既存のLANに設置してあるHUBからLANケーブルでAtermをカスケード接続します。

カスケード接続の詳細については、導入マニュアルの「3-3 ケーブルの接続のしかた」を参照してください。

⑤ 接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

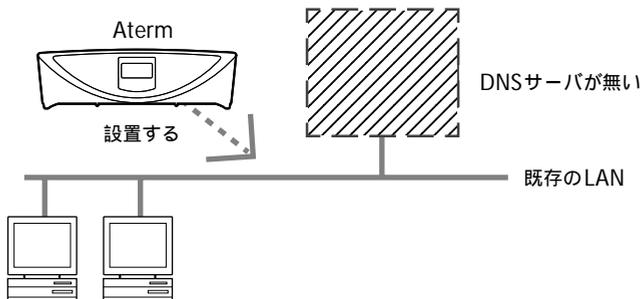


AtermのDHCPサーバ機能を利用し、かつLAN上にDNSサーバが存在する環境を構築する場合、以下の点に注意してください。

- ・ LAN上のDNSサーバは、手動でIPアドレスを指定してください。
- ・ LAN上の各パソコンのIPアドレスは、Atermが自動的に割り当てます。また、Atermは、自身のIPアドレスをDNSサーバとして各パソコンに通知します。
- ・ 各パソコンからの名前解決の問い合わせをLAN上のDNSサーバに転送させるためには、AtermのDNSフォワーディング機能を「使用する」とし、さらにLAN側サーバアドレスに、LAN上のDNSサーバのIPアドレスを入力してください。このとき、Atermの接続先登録設定において、プライマリDNS、セカンダリDNSが登録されていると、これらのDNSサーバに問い合わせますので、設定しないでください。
- ・ Atermをインターネットへのデフォルトゲートウェイとして使用する場合は、LAN上のDNSサーバに、AtermのIPアドレスをデフォルトゲートウェイとして設定してください。

DNSサーバが存在しない既存のLANへのAtermの導入...

DNSサーバがまだ稼働していない下図のようなLANへ、Atermを設置する方法について説明します。



AtermのDHCPサーバ機能を使用しない場合は、各パソコンのDNS設定にDNSサーバとして、Aterm本体のIPアドレスを設定する必要があります。

DNSサーバが稼働していないLANにAtermを設置する場合は、AtermのDNSサーバ機能を使用する設定にします。この場合、各パソコンからの名前解決の問い合わせパケットは、Atermの接続先の登録で設定されたプロバイダなどのDNSサーバへ転送されます。

らくらくウィザードのルータ機能の設定を行った直後や、工場出荷時のAtermは、DNSサーバ機能を使用する設定になっています。

DNSサーバが稼働していないLANに、Atermを設置する手順

- ① Atermにルータ機能を設定
- ② AtermのDNSサーバ機能の変更
- ③ AtermのIPアドレスの変更
- ④ 既存のLANにAtermを設置
- ⑤ 接続テスト・・・[参照](#)「付録 接続テスト」336ページ

① Atermにルータ機能を設定

設置するAtermは、事前にらくらくウィザードなどを利用してルータ機能の設定がされ、インターネットへ接続できる環境が整っているものとします。

②AtermのDNSサーバ機能の変更

WWWブラウザを用いて、DNSサーバ機能の変更する方法を説明します。

この方法は、WWWブラウザで設定ページが開ける場合を想定しています。
設定ページが開けないときは、「10 お困りのときは」289ページを参照してください。

手順

以下の手順で変更します。

1 WWWブラウザの「詳細設定」画面より左フレーム内の[DNS フォワーディング]の文字をクリックします。

2 DNS フォワーディングページが開きます。
DNS フォワーディング機能を「使用する」にします。
設定実行 ボタンをクリックします。

DNSフォワーディング機能 <small>(通常は「使用する」を選択してください)</small>	使用する ▼
ドメイン名 <small>(LAN内にDNSサーバがある場合、そのドメイン名を指定。半角63文字以内)</small>	<input type="text"/>
LAN側サーバアドレス1 <small>(LAN内のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)</small>	0.0.0.0
LAN側サーバアドレス2 <small>(LAN内のDNSサーバアドレス。000.000.000.000形式)</small>	0.0.0.0

3 「登録内容を更新しました」のメッセージ表示を確認します。

③AtermのIPアドレスの変更

既存のLANにAtermを設置するときには、Aterm本体のIPアドレスを変更する必要がある場合があります。

Atermは、DHCPクライアント機能を持ちません。導入するLANにあったIPアドレスを必ず、Aterm本体に設定してください。

設定方法は、「7-3 AtermのIPアドレスを変更する」170ページを参照して、Aterm本体のIPアドレスを変更して下さい。

Atermの工場出荷時のIPアドレスは「192.168.0.1」「255.255.255.0」です。

④ 既存のLANにAtermを設置

Aterm を既存のLAN に設置します。

既存のLAN に設置してあるHUB からLAN ケーブルでAterm をカスケード接続します。

カスケード接続の詳細については、導入マニュアルの「3-3 ケーブルの接続のしかた」を参照してください。

⑤ 接続テスト

「付録 接続テスト」336ページを参照してください。

7-6 パソコン本体のIPアドレスの変更方法

パソコンのIPアドレスの設定変更方法を説明します。

パソコン本体のIPアドレス設定・変更が必要なときは、次のような時です。

コネクションマネージャが正しく動作しないとき
パソコンから Aterm の WWW 設定画面が開かないとき
既に使用していた LAN にパソコンを設置するとき
Aterm 本体の IP アドレスの変更をしたとき
Aterm 本体の DHCP サーバの設定を変更したとき

必要に応じて、パソコンの IP アドレスを、次の 2 通りの方法で設定します。

パソコンの IP アドレスを自動で設定する

パソコンの IP アドレスを手動で設定する

パソコンのIPアドレスを自動で設定する...

パソコンの IP アドレスを自動的に設定させる方法を説明します。ここでは、DHCP サーバを使用して、パソコンの IP アドレスを設定する方法を説明します。

はじめに、DHCP サーバ（例えば Aterm）が稼働している LAN とパソコンを接続します。その後、パソコンの OS により、該当するページの設定を行ってください。

Windows98/Windows95 の場合 ●●参照 次ページへ

Windows NT4.0 の場合 ●●参照 191 ページへ

Macintosh の場合 ●●参照 194 ページへ

Windows98/Windows95の場合

DHCPサーバを使用して、パソコンのIPアドレスを設定する方法を説明します。

手順

以下の手順で追加します。

- 1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク]の順に選択し
ます。
- 2 [ネットワーク]画面が表示されます。
[ネットワーク設定]画面より、[TCP/IP ##### (LANカード/アダプ
タの種類)]または、USBを使用する場合は、[TCP/IP Aterm USB LAN
Driver]を選択します。
#####に表示される内容は、LANカード/アダプタにより異なります。
プロパティ ボタンをクリックします。



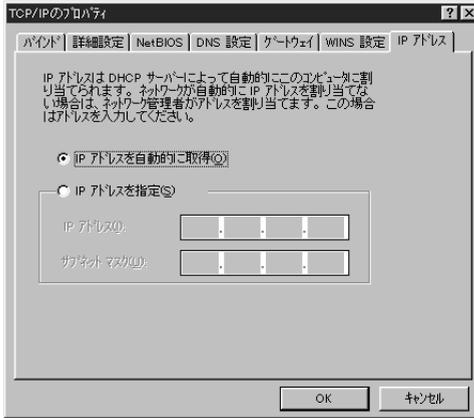
注意

「TCP/IP ダイヤルアップアダプタ」を選択しないでください。

3 [TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。

[IPアドレス]タグをクリックします。

IPアドレスを自動的に取得]にクリックしてチェックマークを付けます。



4 [DNS設定]タグをクリックします。

DNSを使わない]にクリックしてチェックマークを付けます。



- 5 [ゲートウェイ]タグをクリックします。
[インストールされているゲートウェイ]の欄が空欄になっていることを確認します。空欄でない場合、すべてのIPアドレスを削除してください。



- 6 **[OK]** ボタンをクリックします。[ネットワーク]画面に戻ります。
- 7 **[OK]** ボタンをクリックします。
- 8 ネットワークの設定を変更した場合は、パソコンを再起動するメッセージが表示されます。Atermとパソコンが、10BASE-Tケーブル又はUSBケーブルで接続されていることを確認し、**[はい]** ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

以上で設定は終了です。

Windows NT4.0の場合

DHCPサーバを使用して、パソコンのIPアドレスを設定する方法を説明します。

手順

以下の手順で設定します。

1 [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ネットワーク]の順に選択し
ます。

2 [ネットワーク]画面が表示されます。

[プロトコル]タグをクリックします。

[ネットワークプロトコル]欄に[TCP/IPプロトコル]が表示されていること
を確認します。

表示されない場合は、Windows NT4.0のCD-ROMからインストールする必
要があります。

Windows NT4.0のヘルプなどを参照して、インストールしてください。

Windows NT4.0では、管理者としてログオンしないとセットアップが行えま
せん。詳しくはWindows NT4.0のヘルプなどを参照してください。

[ネットワークプロトコル]から[TCP/IP プロトコル]を選択します。

プロパティ ボタンをクリックします。



3 [Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。

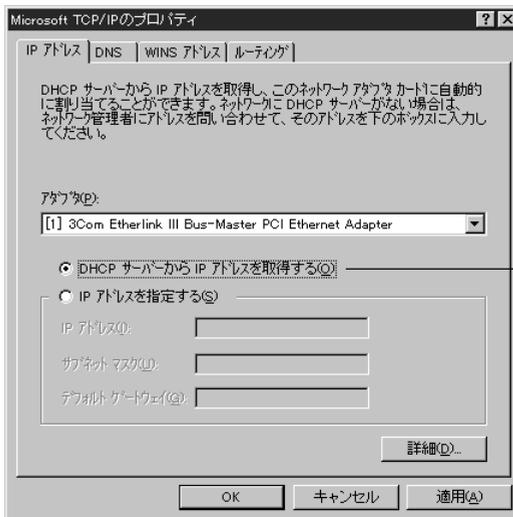
[IP アドレス] タグをクリックします。

[アダプタ] 欄に Aterm と接続した LAN カード / アダプタの種別が表示されているか確認します。

表示されていない場合は、プルダウンメニューより Aterm と接続した LAN カード / アダプタの種別を選択してください。

プルダウンメニューより Aterm と接続した LAN カード / アダプタの種別が表示されない場合は、LAN カード / アダプタが正しくインストールされていません。LAN カード / アダプタの説明書を参考にインストールしてください。

[DHCP サーバーから IP アドレスを取得する] にクリックしてチェックマークを付けます。



[DHCP サーバーから IP アドレスを取得する]

通信編

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA 機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

4 [DNS] タグをクリックします。

ホスト以外のすべての入力欄に入力されている文字を削除します。

ホスト名に使える文字は、半角英数字およびハイフン()です。

OK ボタンをクリックします。



5 ネットワークの設定を変更した場合は、パソコンを再起動するメッセージが表示されます。**はい** ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

以上で設定は終了です。

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA 機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

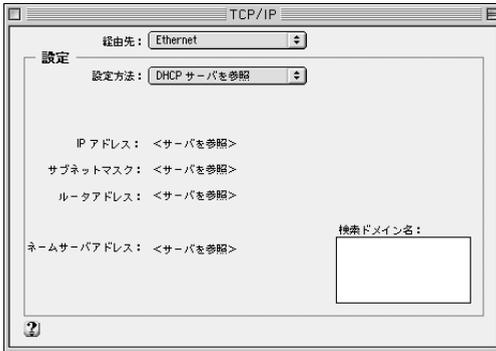
Macintoshの場合

DHCPサーバを使用して、パソコンのIPアドレスを設定する方法を説明します。

手順

以下の手順で設定してください。

- 1 [コントロールパネル]の[TCP/IP]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [TCP/IP]画面が表示されます。
[経由先]プルダウンメニューから[Ethernet]を選択します。
[設定方法]プルダウンメニューから[DHCPサーバを参照]を選択します。



- 3 設定が終了したら、TCP/IP画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか？」のメッセージで **保存** ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。

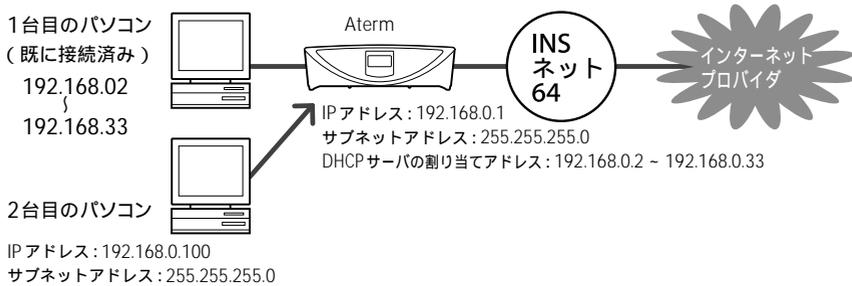
パソコンのIPアドレスを手動で設定する...

パソコンのIPアドレスを手動で設定する方法を説明します。

手動でIPアドレスを設定する必要な場合は、次のような時です。

AtermのDHCPサーバやその他のDHCPサーバを使用しないとき
 AtermのDHCPサーバやその他のDHCPサーバの割り当て範囲以上のパソコンをLANに導入するとき
 ファイル共有などで、特定のパソコンのIPアドレスを参照する必要があるとき

ここでは、次のような環境に特定のIPアドレスを持つ2台目のパソコンを追加する手順を例として、説明をします。



設定する内容

Aterm

IPアドレス: 192.168.0.1

サブネットアドレス: 255.255.255.0

DHCPサーバの割り当てアドレス 192.168.0.2 ~ 192.168.0.33

2台目のパソコン

IPアドレス: 192.168.0.100

サブネットアドレス: 255.255.255.0

を追加する

Windows98/Windows95の場合

2台目のパソコンのIPアドレスを192.168.0.100にします。

手順

次の手順で変更します。

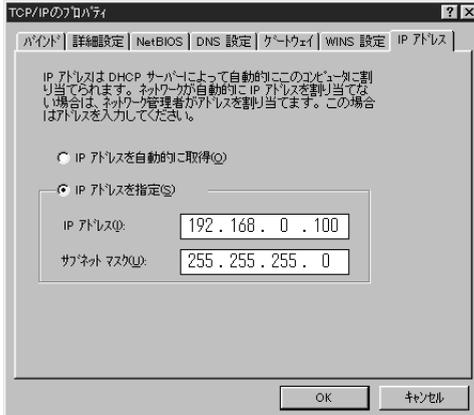
- 1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク]の順に選択します。
- 2 [ネットワーク]画面が表示されます。
[現在のネットワークの構成]欄に[TCP/IP #####(LANカード/アダプタの種別)]を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。
#####に表示される内容は、お使いのLANカード/アダプタにより異なります。



「TCP/IP ダイアルアップアダプタ」を選択しないでください。

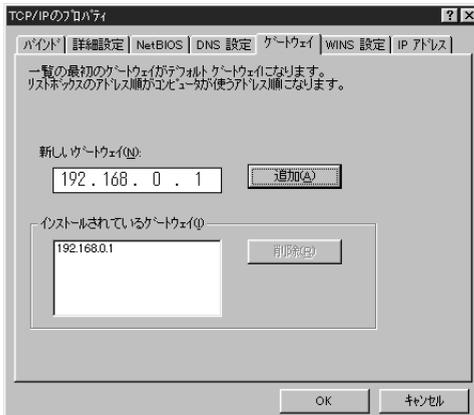
3 [TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。

- ④ [IPアドレスを指定]にクリックしてチェックマークを付けます。
- [IPアドレス]欄に「192.168.0.100」を入力します。
- サブネットマスク欄に「255.255.255.0」を入力します。



4 [ゲートウェイ]タグをクリックします。

- 新しいゲートウェイにAtermのIPアドレス「192.168.0.1」(工場出荷時)を入力し、**追加** ボタンをクリックします。



通信編

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUIメール

5 [DNS設定] タグをクリックします。

[DNSを使う] にクリックしてチェックマークを付けます。

ホストに「User」など任意の文字を入力してパソコンに名前をつけます。

ホスト名に使える文字は半角英数字およびハイフン(-)です。

DNSサーバの検索順に「192.168.0.1」を入力し、**追加** ボタンをクリックします。

OK ボタンをクリックします。



6 [ネットワーク]画面に戻ります。

OK ボタンをクリックします。

7 [ネットワーク] の設定を変更した場合は、パソコンを再起動するメッセージが表示されます。メッセージに対して、**はい** ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。

パソコンのIPアドレス確認

以下の方法で、現在パソコンに設定されているIPアドレスを確認します。

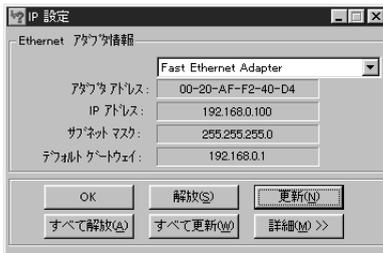
手順

次の手順で確認します。

- 1 **スタート** [ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 2 名前に「winipcfg」と入力し、**OK** ボタンをクリックします。
- 3 [IP設定]が表示されます。

ポップアップメニューから使用しているLANカード/アダプタの種別名を選択します。

IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。



IPアドレス: 192.168.0.100

デフォルトゲートウェイ: 192.168.0.1

画面はWindows95の場合です。

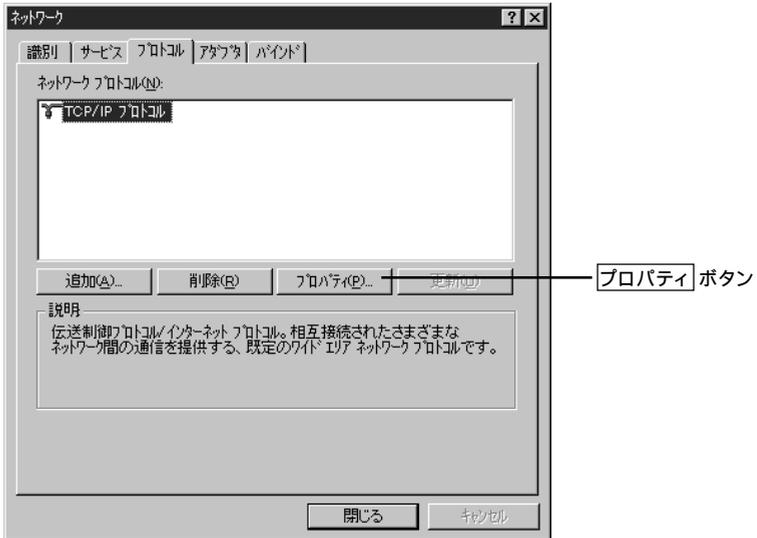
WindowsNT4.0の場合

2台目のパソコンのIPアドレスを192.168.0.100にします。

手順

次の手順で変更します。

- 1 [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ネットワーク]を選択します。
- 2 [ネットワーク]ダイアログが表示されます。
[プロトコル]タグをクリックします。
[ネットワークプロトコル]から「TCP/IPプロトコル」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。
WindowsNT4.0では、管理者としてログオンしないとセットアップが行えません。詳しくはWindowsNT4.0のヘルプなどを参照してください。



3 [TCP/IPのプロパティ]ダイアログが表示されます。

[IP アドレス]タグをクリックします。

[アダプタ]にAtermと接続したLANカード / アダプタの種別が表示されているか確認します。

表示されていない場合は、プルダウンメニューよりAtermと接続したLANカード / アダプタの種別を選択してください。

プルダウンメニューよりAtermと接続したLANカード / アダプタの種別が表示されない場合は、LANカード / アダプタが正しくインストールされていません。LANカード / アダプタの説明書を参考にインストールしてください。



OK ボタン

[IP アドレスを指定する]を選択します。

パソコン側のIPアドレス、サブネットマスクを指定します。

[デフォルトゲートウェイ]にAtermのIPアドレス(工場出荷時は「192.168.0.1」)を指定し、**OK**ボタンをクリックします。

通信編

5

電話機(アナログ通信機器)を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

4 [DNS] タグをクリックします。

すべての入力欄に入力されている文字を削除します。

任意のホスト名を入力し、**追加** ボタンをクリックしAtermのIPアドレス(工場出荷時は「192.168.0.1」)を入力して、**追加** ボタンをクリックします。

[DNSサービスの検索順序]欄に入力したAtermのIPアドレスが表示されます。

ホスト名に使える文字は半角英数字およびハイフン(-)です。



5 **OK** ボタンをクリックします。

[ネットワーク]の設定を変更した場合は、パソコンを再起動する必要があります。メッセージに対して **はい** ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

以上で設定は終了です。

通信編

5

電話機(アナログ通信機器)を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

パソコンのIPアドレス確認

以下の方法で、現在パソコンに設定されているIPアドレスを確認します。

手順

次の手順で確認します。

1 **スタート** [プログラム] [コマンドプロンプト]を選択します。

2 「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。

C: ¥>ipconfig

3 IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。

IPAddress : 192.168.0.100

SubnetMask : 255.255.255.0

Default Gateway : 192.168.0.1

Macintoshの場合

システムソフトウェアが漢字Talk7.5以降、または、MacOS7.6以降のMacintoshは、TCP/IPソフトウェア(TCP/IP)が添付されています。コントロールパネルの中にTCP/IPソフトウェア表示されない場合は、システムCD-ROM等からカスタムインストールでインストールしてください。

手順

以下の手順で設定します。

1 [コントロールパネル]から、[TCP/IP]を選択します。

2 [TCP/IP]の画面が表示されます。

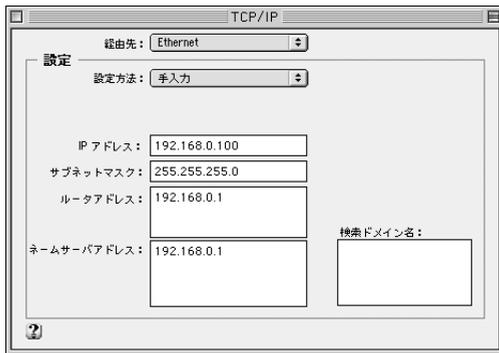
次の設定をします。

[経由先]プルダウンメニューから[Ethernet]を選択します。

[設定方法]プルダウンメニューから[手入力]を選択します。

パソコン側のIPアドレス、サブネットマスクを指定します。

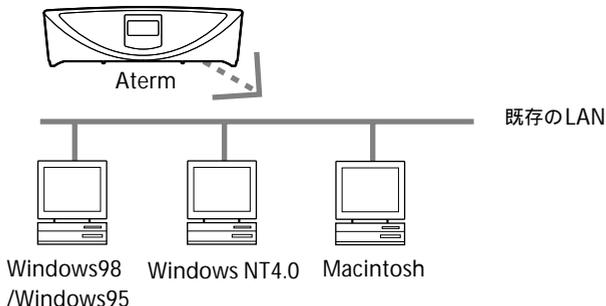
ルータアドレス、ネームサーバアドレスは、AtermのIPアドレス(工場出荷時は「192.168.0.1」)を指定します。



3 設定が終了したら、[TCP/IP]画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか？」のメッセージで **保存** ボタンをクリックします。

7-7 NetBIOSのフィルタリングの設定

これからAtermを設置しようとしているLAN上にWindows98/Windows95やWindows NT4.0が接続されている場合のAtermの設定について説明します。



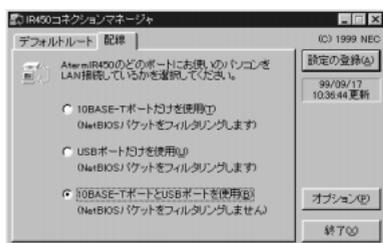
設置しようとしているLAN上に、Windows98/Windows95やWindows NT4.0がある場合には、いずれかのパソコンがNetBIOSの名前解決要求データを送出した場合に、Atermの設定によっては発信します。このWindowsに関連したNetBIOSデータをAtermの発信のきっかけとさせないことを、「NetBIOSをフィルタリングする」といいます。設定には、コネクションマネージャを使います。

NetBIOSをフィルタリングする...

コネクションマネージャを起動して[配線]タグをクリックします。以下のどちらかをAtermの接続環境にあわせてチェックしてください。

10BASE-Tポートだけを使用
(NetBIOSパケットをフィルタリングします)

USBポートだけを使用
(NetBIOSパケットをフィルタリングします)



7-8 マルチアクセス接続をする

マルチアクセス機能とは、Atermに事前に登録した2カ所の接続先のうち、1つ目の接続先を「デフォルトルート」としてAtermに設定し、2つ目の接続先に「デフォルトルート」の接続先と異なるネットワークアドレスを設定することによって、これらの2つの接続先と同時にデータ通信を行う機能です。

マルチアクセスでは、次のような環境を2地点同時に接続してデータ通信できます。

端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続

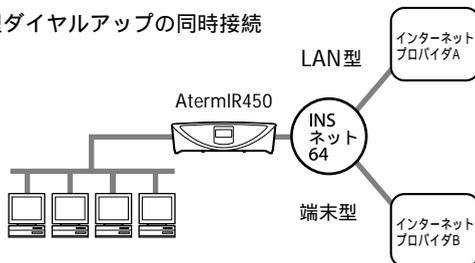
2箇所の接続先へのLAN型ダイヤルアップ接続

208ページより、各例について設定方法を説明します。

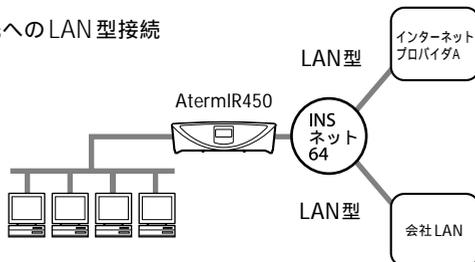
2つの地点に同時に接続することが必要なお客様は、マルチアクセス機能のための設定を、ここで行う必要があります。

複数のプロバイダと契約していても、その複数のプロバイダを切り替えて、インターネットに接続する場合には、マルチアクセス機能のための設定を行う必要はありません。コネクショスマネージャなどで、デフォルトルートを切り替えてご使用ください。

端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続



2箇所の接続先へのLAN型接続





- ・マルチアクセスを使用する場合、Atermに接続されている2台のPC(例えばPC1とPC2)を使用して、PC1はプロバイダA(またはB)に固定して接続、PC2はプロバイダB(またはA)に固定して同時に接続するような使用はできません。

このような接続をしたい方は、PC1をTA機能でプロバイダAに接続し、PC2をルータ機能でプロバイダBに接続してください。

- ・プロバイダBをデフォルトルートとして設定した場合には、PC1においてもPC2においても接続されている相手は基本的にプロバイダBとなります。プロバイダAへはプロバイダAへの接続先設定で登録された相手先ネットワークアドレスにアクセスする場合のみ接続されます。
- ・マルチアクセスを行う場合、2カ所の接続先の登録において、どちらの接続先もMP・BOD設定は、全て「行わない」にしてください。



- ・LAN型ダイヤルアップ接続での契約を行っても、同時に2カ所のプロバイダとLAN型ダイヤルアップ接続することはできません。(Aterm本体に設定できるIPアドレスは1つのみです。)

- ・接続先にLAN型ダイヤルアップ接続するプロバイダがある場合は、そちらをデフォルトルートとして設定してください。

端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続の設定ポイント...

ここでは、設定方法のポイントについて説明します。

インターネットプロバイダAのLAN型ダイヤルアップ接続の接続先をプロバイダの契約内容に従い設定します。

●●**参照**▶「2 WWW ブラウザを利用した設定」49ページ

WWWブラウザを使用して、接続先 / プロバイダの基本設定に加えて、高度な設定において次の項目を追加・変更します。

アドバンスドNAT	: 使用しない
接続モード	: LAN型
WAN、自側IPアドレス	: プロバイダから指定されたIPアドレス
WAN、自側アドレスマスク	: プロバイダから指定されたアドレスマスク

WWWブラウザを使用して、Aterm本体のIPアドレスおよびDHCPサーバ割り当てアドレスを変更します。

AtermIR450のIPアドレス	: プロバイダから指定されたIPアドレス
AtermIR450のネットワークマスク	: プロバイダから指定されたアドレスマスク
DHCP開始アドレス	: AtermIR450のIPアドレス+1
DHCP予約数	: プロバイダから割り当てられたアドレス個数

を設定実行した時点でAtermからの応答がなくなります。

Atermとパソコンの電源を入れなおします。

Atermの新しいIPアドレスを指定してWWWブラウザを開きます。

インターネットプロバイダBの端末型ダイヤルアップ接続の接続先を同様に設定します。

高度な設定において、次の項目を変更します。

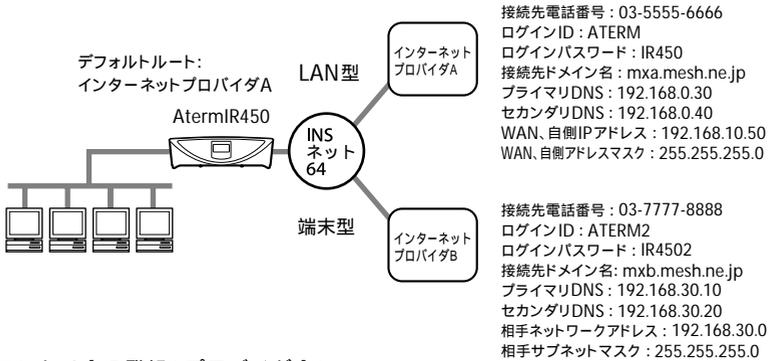
相手ネットワークアドレス	: プロバイダBのネットワークアドレス
相手サブネットマスク	: プロバイダBのサブネットマスク

●●**参照**▶「参考 相手ネットワークアドレスと相手サブネットがわからない場合...」215ページ

WWWブラウザやコネクションマネージャを用いて、デフォルトルートとしてインターネットプロバイダAを選択します。

例として、次ページのようなLAN環境での設定一覧を記します。

端末型、LAN型ダイヤルアップの同時接続の設定例...



接続先エントリAの登録(プロバイダA)

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	entry 1	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	0 3 5 5 5 5 6 6 6 6
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	AT E R M
		ログインパスワード	I R 4 5 0
		回線種別	I N S ネット 6 4
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	m x a . m e s h . n e . j p
	プライマリDNS	1 9 2 . 1 6 8 . 1 0 . 3 0	
	セカンダリDNS	1 9 2 . 1 6 8 . 1 0 . 4 0	
自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する	
	無通信監視時間	1 0	
	強制切断タイマ	切断する	
	強制切断時間	1 0	

MP・BOD設定をする必要はありません。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	1 9 2 . 1 6 8 . 1 0 . 5 0
		WAN、自側アドレスマスク	2 5 5 . 2 5 5 . 2 5 5 . 0
		相手IPアドレス	0 . 0 . 0 . 0
		相手ネットワークアドレス	0 . 0 . 0 . 0
		相手サブネットマスク	0 . 0 . 0 . 0

接続先エントリBの登録(プロバイダB)

5 電話機(アナログ通信機器)を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUUIメール

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	entry2	
	ユーザ設定/サーバ設定	接続先電話番号	0377778888
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM2
		ログインパスワード	1R4502
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	mxb.mesh.ne.jp
		プライマリDNS	192.168.30.10
	セカンダリDNS	192.168.30.20	
	自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する
		無通信監視時間	10
		強制切断タイマ	切断する
強制切断時間		10	

MP・BOD設定をする必要はありません。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用する
		接続モード	端末型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	0.0.0.0
		WAN、自側アドレスマスク	0.0.0.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	192.168.30.0
		相手サブネットマスク	255.255.255.0

インターネットプロバイダAを、「デフォルトルート」として登録してください。

インターネットプロバイダBとの間では、Atermからメトリック値1での通信ができます。

2個所の接続先へのLAN型ダイヤルアップ接続の設定ポイント...

設定方法のポイントについて説明します。

インターネットプロバイダAのLAN型ダイヤルアップ接続の接続先を、プロバイダの契約内容に従い設定します。

●●参照「2 WWW ブラウザを利用した設定」49ページ

WWWブラウザを使用して、接続先/プロバイダの基本設定に加えて、高度な設定において次の項目を追加・変更します。

アドバンスド NAT	: 使用しない
接続モード	: LAN 型
WAN、自側 IP アドレス	: プロバイダから指定された IP アドレス
WAN、自側 アドレスマスク	: プロバイダから指定された アドレスマスク

WWWブラウザを使用して、Aterm本体のIPアドレスおよびDHCPサーバ割り当てアドレスを変更します。

AtermIR450のIPアドレス	: プロバイダから指定された IP アドレス
AtermIR450のネットワークマスク	: プロバイダから指定された アドレスマスク
DHCP 開始アドレス	: AtermIR450の IP アドレス +1
DHCP 予約数	: プロバイダから割り当てられた アドレス個数

を設定実行した時点でAtermからの応答がなくなります。

Atermとパソコンの電源を入れなおします。

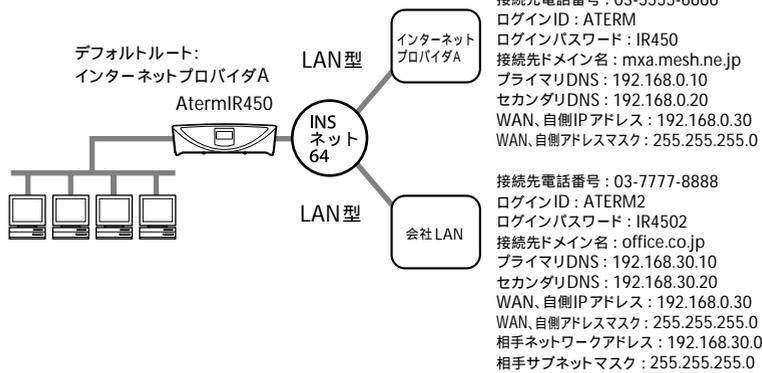
Atermの新しいIPアドレスを指定してWWWブラウザを開きます。
会社LANへのLAN型ダイヤルアップ接続の接続先を同様に設定します。

高度な設定において、次の項目を変更します。

アドバンスド NAT	: 使用しない
接続モード	: LAN 型
WAN、自側 IP アドレス	: AtermIR450の IP アドレス
WAN、自側 アドレスマスク	: AtermIR450の ネットワークマスク
相手ネットワークアドレス	: 会社 LAN の ネットワークアドレス
相手サブネットワークマスク	: 会社 LAN の サブネットワークマスク

WWWブラウザやコネクションマネージャを用いて、デフォルトルートとしてインターネットプロバイダAを選択します。

2個所の接続先へのLAN型ダイヤルアップ接続の設定例...



接続先エントリAの登録(プロバイダ)

		設定項目	設定内容
基本設定	登録名		entry1
	ユーザ設定/サーバ設定	接続先電話番号	0355556666
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM
		ログインパスワード	IR450
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	mx.mesh.ne.jp
	プライマリDNS	192.168.0.10	
	セカンダリDNS	192.168.0.20	
自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する	
	無通信監視時間	10	
	強制切断タイマ	切断する	
	強制切断時間	10	

MP・BOD設定をする必要はありません。

		設定項目	設定内容
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	192.168.0.30
		WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	0.0.0.0
			相手サブネットマスク

5 電話機(アナログ通信機器)を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUUIメール

接続先エントリBの登録(会社LAN)

5 電話機(アナログ通信機器)を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUUIメール

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	entry 2	
	ユーザ設定/サーバ設定	接続先電話番号	0377788888
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM2
		ログインパスワード	IR4502
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	office.co.jp
	自動切断設定	プライマリDNS	192.168.30.10
		セカンダリDNS	192.168.30.20
無通信監視タイマ		監視する	
無通信監視時間		10	
強制切断タイマ		切断する	
	強制切断時間	10	

MP・BOD設定をする必要はありません。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	192.168.0.30	
	WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0	
	相手IPアドレス	0.0.0.0	
	相手ネットワークアドレス	192.168.30.0	
	相手サブネットマスク	255.255.255.0	

インターネットプロバイダAを、「デフォルトルート」として登録してください。
会社LANとの間では、Atermからメトリック値1での通信ができます。

7-9 ドメインネームルーティング

ドメインネームルーティングとは、接続先に登録したドメイン名に従って、そのドメイン名の名前解決要求データを送る際に、接続先を自動的に変える機能です。

この機能は、マルチアクセス機能と合わせてお使いください。

次に、マルチアクセスの設定とドメインネームルーティングの設定の組み合わせの例を説明します。

●参照 導入マニュアル「用語解説-DNS」

マルチアクセスとドメインネームルーティングによる接続...

この接続形態では、2つのインターネットプロバイダと契約をしていて、1つのプロバイダは、主にホームページを見たり、頻りにメールサーバを利用するプロバイダで、もう1つのインターネットプロバイダは、プロバイダ内のメールサーバのみを使用する場合に、この機能を使うと便利です。

ここでは、インターネットプロバイダAとインターネットプロバイダBへのマルチアクセスとドメインネームルーティングによる接続を、3つのケースを想定して説明します。

ケース1

主にホームページを見たり、頻りにメールサーバを利用するプロバイダ

インターネット
プロバイダA

契約形態
ドメイン名

端末型ダイヤルアップ接続
mx.mesh.ne.jp

メールサーバのみを使用するプロバイダ
(プロバイダBにある1つのメールサーバにアクセスしたい場合)

インターネット
プロバイダB

契約形態
ドメイン名

端末型ダイヤルアップ接続
provb.co.jp

インターネットプロバイダBへの接続は、例では、provb.co.jpのドメイン名を持つサーバ（メールサーバ/FTPサーバなど）へのアクセスだけになります。ホームページを見るなどの他のドメイン名のサーバアクセスはできません。

ケース1は、プロバイダが異なる場合のマルチアクセスとドメインネームルーティングによる接続を説明します。同一プロバイダでのマルチアクセスとドメインネームルーティングについては、ケース2、3を参照してください。

以下にその設定例を説明します。

インターネットプロバイダAの端末型ダイヤルアップ接続の環境を、Atermに設定します。
設定方法は、「2 WWW ブラウザを利用した設定」49 ページを参照してください。

インターネットプロバイダBの端末型ダイヤルアップ接続の環境を、2つめの接続先としてAtermに設定します。

●●参照●「2 WWW ブラウザを利用した設定」49 ページ

Atermに設定したインターネットプロバイダBの設定を、WWWブラウザで次のように変更します。

接続先ドメイン名	: プロバイダBのメールサーバ名(IPアドレスは入力 できません)
相手ネットワークアドレス	: プロバイダBのネットワークアドレス
相手サブネットマスク	: プロバイダBのサブネットマスク

プロバイダBは、デフォルトルートとしては設定しません。

Atermに設定した.インターネットプロバイダAを、コネクションマネージャで、デフォルトルートとして設定します。



参考

相手ネットワークアドレスと相手サブネットマスクが、わからない場合には、次のように調べて設定します。

コネクションマネージャーを使って、デフォルトルートとしてプロバイダBの接続先を指定します。

プロバイダBのメールサーバ名に対してpingコマンドを実行して、メールサーバのIPアドレスを調べます。

「プロバイダBのメールサーバ名が、mailserver.provb.co.jpの場合」
例 ping mailserver.provb.co.jp

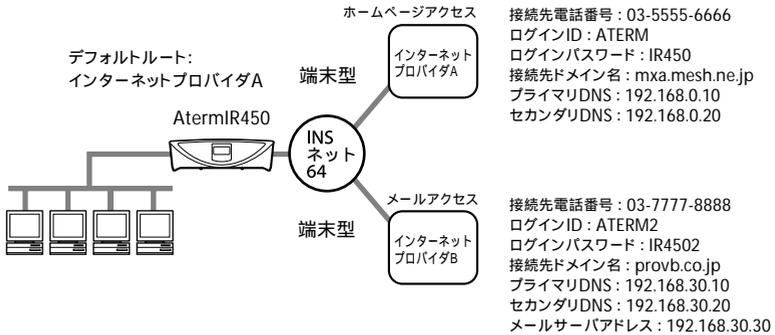
pingで得られたIPアドレスを相手ネットワークアドレスとします。また、相手サブネットマスクを、255.255.255.0とします。

pingでIPアドレスが得られない場合には、ドメインネームルーティング機能は、使用できません。

コネクションマネージャーを使って、デフォルトルートをプロバイダAの接続先に戻します。

2個所のプロバイダへのドメインネームルーティングの接続...

2個所のプロバイダと契約し、ドメインネームルーティングを利用する場合は、ここに示すケースを参照してください



接続先エントリAの登録(プロバイダA)

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	entry1	
	ユーザ設定/サーバ設定	接続先電話番号	0355556666
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM
		ログインパスワード	IR450
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	mx.mesh.ne.jp
	自動切断設定	プライマリDNS	192.168.0.10
		セカンダリDNS	192.168.0.20
無通信監視タイマ		監視する	
無通信監視時間		10	
強制切断タイマ		切断する	
	強制切断時間	10	

MP・BOD設定を「行う」にしないでください。

インターネットプロバイダBとの間では、Atermからメトリック値1での通信が可能です。

5 電話機（アナログ通信機器）を使う

6 TA機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUIメール

		設定項目	設定内容
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用する
		接続モード	端末型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	0.0.0.0
		WAN、自側アドレスマスク	0.0.0.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	0.0.0.0
		相手サブネットマスク	0.0.0.0

プロバイダAをデフォルトルートとして指定してください。

接続先エントリBの登録(プロバイダB)

		設定項目	設定内容
基本設定	登録名		entry2
	ユーザ設定/サーバ設定	接続先電話番号	0377778888
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM2
		ログインパスワード	IR4502
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	provb.co.jp
		プライマリDNS	192.168.30.10
	セカンダリDNS	192.168.30.20	
	自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する
		無通信監視時間	10
		強制切断タイマ	切断する
		強制切断時間	10

MP・BOD設定を「行う」にしないでください。

		設定項目	設定内容
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用する
		接続モード	端末型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	0.0.0.0
		WAN、自側アドレスマスク	0.0.0.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	192.168.30.30注
		相手サブネットマスク	255.255.255.0注

注 相手ネットワークアドレスと相手サブネットマスクは、メールサーバのネットワークアドレスを指定してください。

●●参照 「参考 相手ネットワークアドレスと相手サブネットマスクがわからない場合...」215ページ

ケース2

主にホームページを見たり、頻繁にメールサーバを利用するプロバイダ

インターネット
プロバイダA

契約形態

端末型ダイヤルアップ接続

ドメイン名

mxa.mesh.ne.jp

メールサーバのみを使用するプロバイダ
(異なるIDでプロバイダBにある別々のメールサーバにアクセスしたい場合)インターネット
プロバイダB

アクセスしたいメールサーバ名が以下の時

・ mailserver1.provb.co.jp (ID:UserB)

・ mailserver2.provb.co.jp (ID:UserC)

以下にその設定例を説明します。

インターネットプロバイダAの端末型ダイヤルアップ接続の環境を、Atermに設定します。

設定方法は、「2 WWW ブラウザを利用した設定」49ページを参照してください。

Atermに設定した、インターネットプロバイダAを、コネクションマネージャーで、デフォルトルートとして設定します。

Atermに設定したインターネットプロバイダBの設定を、WWWブラウザで接続先Bとして次のように設定します。

接続先B

ログインID	: UserB
接続先ドメイン名	: mailserver1.provb.co.jp
相手ネットワークアドレス	: ping で得られたmailserver1 のIP アドレス
相手サブネットマスク	: 255.255.255.255

Atermに設定したインターネットプロバイダBの設定を、WWWブラウザで接続先Cとして次のように設定します。

接続先C

ログインID	: UserC
接続先ドメイン名	: mailserver2.provb.co.jp
相手ネットワークアドレス	: ping で得られた mailserver2 の IP アドレス
相手サブネットマスク	: 255.255.255.255

プロバイダBは、デフォルトルートとしては設定しません。

通信編

5

5 電話機（アナログ通信機器）を使う

6

6 TA機能で通信する

7

7 ルータ機能で通信する

8

8 電子メール着信サービスとUUIメール

ケース3

主にホームページを見たり、頻繁にメールサーバを利用するプロバイダ

インターネット
プロバイダA契約形態 端末型ダイヤルアップ接続
ドメイン名 mxa.mesh.ne.jpメールサーバのみを使用するプロバイダ
(異なるIDでプロバイダBにある同一のメールサーバにアクセスしたい場合)インターネット
プロバイダBアクセスしたいメールサーバ名が以下の時
・ mailserver.provb.co.jp (ID:UserB)
・ mailserver.provb.co.jp (ID:UserC)

この場合、Aterm ではどちらのID を使用して接続すればよいか区別できません。必要に応じてコネクションマネージャを使ってアクセスしたいメールサーバを登録した接続先をデフォルトルートとする必要があります。

以下にその設定例を説明します。

インターネットプロバイダAの端末型ダイヤルアップ接続の環境を、Atermに設定します。
設定方法は、「2 WWW ブラウザを利用した設定」49ページを参照してください。

Atermに設定したインターネットプロバイダBの設定を、WWWブラウザで接続先Bとして次のように設定します。

接続先B(必要に応じてコネクションマネージャでデフォルトルートとします。)

ログインID	: UserB
接続先ドメイン名	: プロバイダB のドメイン名またはメールサーバ名 (provb.co.jp または mailserver.provb.co.jp)
相手ネットワークアドレス	: プロバイダB のネットワークアドレス (ping で得られた mailserver のIP アドレス)
相手サブネットマスク	: プロバイダB のサブネットマスク (255.255.255.0)

Atermに設定したインターネットプロバイダBの設定を、WWWブラウザで接続先Cとして次のように設定します。

接続先C(必要に応じてコネクションマネージャでデフォルトルートとします。)

ログインID	: UserC
接続先ドメイン名	: プロバイダB のドメイン名またはメールサーバ名 (provb.co.jp または mailserver.provb.co.jp)
相手ネットワークアドレス	: プロバイダB のネットワークアドレス (ping で得られた mailserver のIP アドレス)
相手サブネットマスク	: プロバイダB のサブネットマスク (255.255.255.0)

通信編

5

電話機(アナログ通信機器)を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

7-10 ルータ機能を利用したその他の接続

ここでは、Atermのルータ機能で構築できる次の各接続方法を例を用いて説明します。

- LAN型ダイヤルアップ接続
- OCNエコノミーとの接続
- RASサーバ接続
- LAN同士の接続

それぞれの概要を説明します。

LAN型ダイヤルアップ接続

プロバイダとの契約には、「端末型ダイヤルアップ接続」「LAN型ダイヤルアップ接続」などがあります。

端末型ダイヤルアップ接続は、接続するたびに異なる1つのグローバルIPアドレスが割り当てられます。これに対し、LAN型ダイヤルアップ接続は、申し込み台数に応じてグローバルIPアドレスが割り当てられる接続です。

設定方法は、次ページを参考にしてください。

OCNエコノミー

Atermは、NTTコミュニケーションズ株式会社の提供するOCN常時接続サービスの中の、「OCNエコノミー」に対応しています。

「OCNエコノミー」を契約するとグローバルIPアドレスを複数(8個または16個)割り当てられます。この契約では、Atermをインターネットに常時接続することができます。

設定方法は、223ページを参考にしてください。

RASサーバ接続

遠隔地にあるパソコンから、Atermに接続して会社のLANにアクセスするような利用形態です。

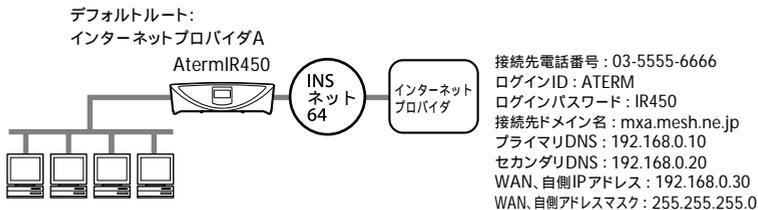
設定方法は、225ページを参考にしてください

LAN同士の接続

遠隔地にあるLAN同士をIR450を經由してダイヤルアップ接続して互いにアクセスするような利用形態です。設定方法は、229ページを参考にしてください。

インターネットへLAN型ダイヤルアップ接続...

LAN型ダイヤルアップ接続でプロバイダと契約している場合は、ここに示すケースを参照してください。



インターネットプロバイダAのLAN型ダイヤルアップ接続の接続先を、プロバイダの契約内容に従い設定します。

●●参照「2 WWW ブラウザを利用した設定」49ページ

WWWブラウザを使用して、接続先/プロバイダの基本設定に加えて、高度な設定において次の項目を追加・変更します。

アドバンスドNAT	: 使用しない
接続モード	: LAN型
WAN、自側IPアドレス	: プロバイダから指定されたIPアドレス
WAN、自側アドレスマスク	: プロバイダから指定されたアドレスマスク

WWWブラウザを使用して、Aterm本体のIPアドレスおよびDHCPサーバ割り当てアドレスを変更します。

DHCPサーバ機能を使用しない場合は、各パソコンでIPアドレスを指定してください。

AtermIR450のIPアドレス	: プロバイダから指定されたIPアドレス
AtermIR450のネットワークマスク	: プロバイダから指定されたアドレスマスク
DHCP開始アドレス	: AtermIR450のIPアドレス+1
DHCP予約数	: プロバイダから割り当てられたアドレス個数

を設定実行した時点でAtermからの応答がなくなります。

Atermとパソコンの電源を入れなおします。

WWWブラウザやコネクションマネージャを用いて、デフォルトルートとしてインターネットプロバイダAを選択します。

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	LANSITE	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	0355556666
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	ATERM
		ログインパスワード	IR450
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	mx.mesh.ne.jp
		プライマリDNS	192.168.0.10
	セカンダリDNS	192.168.0.20	
	自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する
		無通信監視時間	10
		強制切断タイマ	切断する
		強制切断時間	10

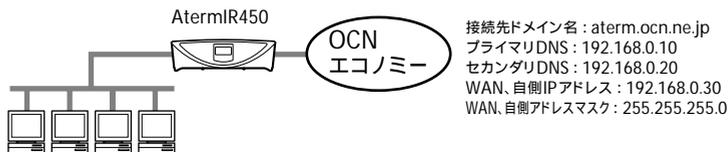
MP・BOD設定は、128kbpsマルチリンクPPP通信を行う場合に必要に応じて指定してください
デフォルトルートは、接続先のインターネットプロバイダを指定してください。

設定項目		設定内容
高度な設定	アドバンスドNAT	使用しない
	接続モード	LAN型
	BACP	マルチリンク接続の場合に目的に応じて設定してください。
コールバック	MS-CBCP	使用しない
着信設定	相手からの着信許可	しない
接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	192.168.0.30
	WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0
	相手IPアドレス	0.0.0.0
	相手ネットワークアドレス	0.0.0.0
	相手サブネットマスク	0.0.0.0

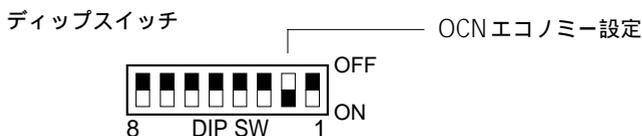
OCNエコノミーとの接続...

OCNエコノミーについて

OCNエコノミーは、128kbpsの通信速度で常時インターネットに接続できるNTTコミュニケーションズ株式会社の提供する専用線サービスです。AtermはこのOCNエコノミーに対応しています。利用するにはNTTコミュニケーションズ株式会社と別途契約が必要です。詳しくは、お近くのNTTコミュニケーションズ株式会社の窓口まで問い合わせてください。



OCNエコノミーに接続するには、Atermのディップスイッチを変更する必要があります。



手順

以下の手順で設定します。

- 1 電源を切ります。
- 2 ディップスイッチの2を「ON」にし、その他はすべて「OFF」にします。
- 3 電源を入れます。
- 4 NTTコミュニケーションズ株式会社より割り当てられたIPアドレスのうちの1つを、WWWブラウザを使用して「ルータ本体のLAN設定」の「IR450のIPアドレス」に設定します。

注意

OCNエコノミーではアナログポートに接続した電話機やファクスなどは使用できません。また、データポートに接続したパソコンからの発信、着信も使用できません。

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	OCN	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	(空欄)
		接続先サブアドレス	(空欄)
		ログインID	(空欄)
		ログインパスワード	(空欄)
		回線種別	OCNエコノミー
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	aterm.ocn.ne.jp
	自動切断設定	プライマリDNS	192.168.0.10
		セカンダリDNS	192.168.0.20
無通信監視タイマ		監視しない	
無通信監視時間		設定する必要はありません	
強制切断タイマ		切断しない	
	強制切断時間	設定する必要はありません	

MP・BOD設定を設定する必要はありません。

接続先電話番号、ログインID、ログインパスワードを設定する必要はありません。

OCNエコノミーは常時接続の専用線サービスです。無通信監視タイマや強制切断タイマは「監視しない」「切断しない」に設定してください。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
	着信設定	相手からの着信許可	しない
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	0.0.0.0
		WAN、自側アドレスマスク	0.0.0.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	0.0.0.0
		相手サブネットマスク	0.0.0.0

アドバンスドNAT機能は使用できません。「使用する」にしないでください。



OCNエコノミーでの接続では、Atermは常時インターネットへ接続されていますので、フィルタリング設定を行い、セキュリティにご注意ください。

RASサーバ接続...

AtermがRAS(リモートアクセスサーバ)として動作します。

AtermのRASに外部から接続するためには、あらかじめその接続相手を、Atermの「接続先エントリ」に登録しておく必要があります。このときの設定方法を以下に説明します。

AtermをRASとして設定するときにはWWWブラウザを使用して行います。設定の手順、および設定例の一覧を以下に説明します。

着信設定の変更

AtermをRASサーバとして使用するため着信設定の変更を行います。

Atermの工場出荷時設定では、外からの着信があった場合、TA機能に着信するようになっています。

以下で述べる手順(AT&Lコマンドを使用する方法)によってルータ機能に着信できるように設定します。

この設定は、「らくらくユーティリティ」の中からも行うことができます。

この設定は、WWWブラウザの設定ページ内「着信設定」、「相手からの着信の許可」とは関係ありません。両者は別のルータ内では別な設定として扱われます。

手順

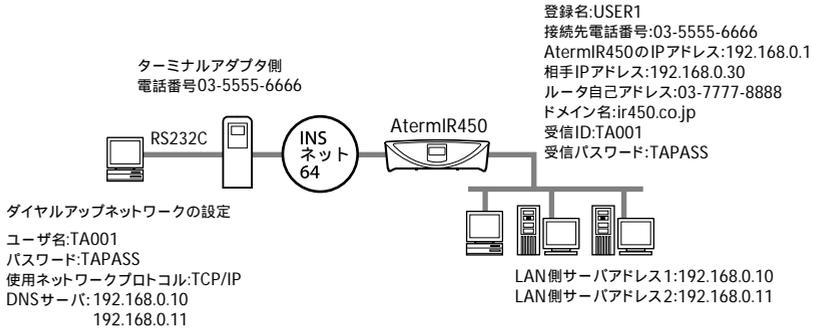
以下の手順で変更します。

- 1 AtermとパソコンをRS232Cケーブルで接続します。
- 2 ATコマンドを入力するため、通信ソフトを起動します。
詳しくは、「9-2 ATコマンドの入力方法」264ページを参照してください。
- 3 「AT&L1=0」を入力し、「OK」と表示されることを確認します。
- 4 「AT&L2=1」を入力し、「OK」と表示されることを確認します。
- 5 通信ソフトを終了させます。

設定の手順

ここでは以下のような環境でAtermをRASサーバとして使うための手順を説明します。

ここで使用するAtermはらくらくウイザードのルータ機能による設定と接続の確認が終わっているAtermを使用します。



手順

以下の手順で設定します。

- 1 Aterm本体とパソコンとの間を10BASE-TケーブルまたはUSBケーブルで接続します。
- 2 パソコン上でWWWブラウザを起動してURLにhttp://192.168.0.1と入力して、Atermの設定画面を表示させます。
- 3 Atermの設定画面の中のいくつかの設定をお客様の環境に合わせて変更します。次ページより変更が必須なものとそれらを含む一覧表を記します。

注意

- ・Atermをリモートアクセスサーバとして動作させる場合、1つの接続先エントリに対して1ユーザの接続のみ可能です。例えば同じ電話回線にバス接続されたTAなどから、空いているBチャンネルにRAS接続はできません。
- ・Bチャンネルを独立に使用してAtermにRAS接続する場合は、接続先サブアドレスを利用して2つ目の接続先エントリとして設定を行ってください。（この場合、接続先のTAにも自己サブアドレスの設定が必要となります。）クライアント側はプロバイダなどの接続先エントリと合わせて合計10ヶ所となります。
- ・ルータ機能では、スティルスコールバックを発信側と着信側ともにサポートしていません。
- ・サーバ着信側としてMS-CBCPコールバックを使用することはできません。

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	USER1 (注1)	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	0355556666 (表1参照)
		接続先サブアドレス	(表3参照)
		ログインID	(空欄)
		ログインパスワード	(空欄)
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	(空欄)
		プライマリDNS	0.0.0.0
	セカンダリDNS	0.0.0.0	
	自動切断設定	無通信監視タイマ	監視する
		無通信監視時間	3
		強制切断タイマ	切断する
強制切断時間		10	

注1 お客様が識別しやすい適当な名称を入力してください。

MP・BOD設定は、128kマルチリンク通信を行う場合に必要に応じて設定してください。

接続先電話番号は必ず入力してください。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
コールバック	MS-CBCP	MS-CBCP	使用しない
		コールバック先電話番号	(空欄)
		コールバック先サブアドレス	(空欄)
着信設定	相手からの着信許可	相手からの着信許可	する
		受信ID	TAP001
		受信パスワード	TAPASS
接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	WAN、自側IPアドレス	192.168.0.1
		WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0
		相手IPアドレス	192.168.0.30(注2)
		相手ネットワークアドレス	0.0.0.0
	相手サブネットマスク	0.0.0.0	

注2 1つの接続先エントリ毎に、AtermIR450のIPアドレスと重複しない同サブネット内の異なる任意のIPアドレスを設定してください。

相手IPアドレスは、RASサーバとして接続したとき、クライアントに割り当てるIPアドレスです。

WAN設定	設定項目		設定内容
	DNSフォワーディング	DNSリゾルバ設定	
ドメイン名			ir450.co.jp
LAN側サーバアドレス1			192.168.0.10
LAN側サーバアドレス2			192.168.0.11
本体設定	ルータ設定	ルータ自己アドレス	0377778888 (表2参照)
		ルータ自己サブアドレス	必要に応じて設定してください (表4参照)
		ルータ発信者番号通知	必要に応じて設定してください
		ルータグローバル着信	必要に応じて設定してください
		ルータサブアドレス無し着信	必要に応じて設定してください (表4参照)

ルータ自己サブアドレスは、着信回線に複数のISDN機器が接続されている場合等で、Aterm 1台に特定して着信させる必要がある場合に設定します。設定を行った場合には、接続先の相手からの発信時に着信サブアドレスを指定する必要があります。

ルータ自己アドレスは必ず入力してください。

表1

	接続先電話番号設定		
		あり	なし
発信アドレス通知	なし	着信しない	着信する
	あり	一致で着信	着信しない

表2

	ルータ自己アドレス設定		
		あり	なし
着信アドレス通知 (グローバル着信するに設定)	なし	着信する	着信する
	あり	一致で着信	着信する
着信アドレス通知 (グローバル着信しないに設定)	なし	着信しない	着信しない
	あり	一致で着信	着信する

表3

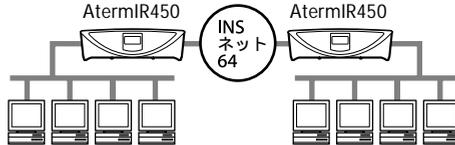
	接続先サブアドレス設定		
		あり	なし
発信サブアドレス通知	なし	着信しない	着信する
	あり	一致で着信	着信しない

表4

	ルータ自己サブアドレス設定		
		あり	なし
着信サブアドレス通知 (サブアドレス無し着信するに設定)	なし	着信する	着信する
	あり	一致で着信	着信しない
着信サブアドレス通知 (サブアドレス無し着信しないに設定)	なし	着信しない	着信しない
	あり	一致で着信	着信しない

LAN同士の接続...

LAN同士をIR450を経由してダイヤルアップ接続する場合、ここに示すケースを参照してください。(ISDN側インターフェースにIPアドレスを割り当てないun-numbered接続となります。)



LAN1

登録名:LAN2
 ログインID:ATERM
 ログインパスワード:LAN1
 接続先電話番号:03-5555-6666
 ルータ自己アドレス:03-6666-5555
 受信ID:ATERM
 受信パスワード:LAN2
 WAN、自側IPアドレス:192.168.0.1
 WAN、自側アドレスマスク:255.255.255.0
 相手ネットワークアドレス:192.168.2.0
 相手サブネットマスク:255.255.255.0

LAN2

登録名:LAN1
 ログインID:ATERM
 ログインパスワード:LAN2
 接続先電話番号:03-6666-5555
 ルータ自己アドレス:03-5555-6666
 受信ID:ATERM
 受信パスワード:LAN1
 WAN、自側IPアドレス:192.168.2.1
 WAN、自側アドレスマスク:255.255.255.0
 相手ネットワークアドレス:192.168.0.0
 相手サブネットマスク:255.255.255.0

LAN1側Atermの設定

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	LAN2 (注1)	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	0355556666
		接続先サブアドレス	必要に応じて設定してください
		ログインID	ATERM
		ログインパスワード	LAN1
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	必要に応じて設定してください
	自動切断設定	プライマリDNS	必要に応じて設定してください
		セカンダリDNS	必要に応じて設定してください
無通信監視タイマ		監視する	
無通信監視時間		3	
強制切断タイマ		切断する	
	強制切断時間	10	

注1 お客様が識別しやすい適当な名称を入力してください。

MP・BOD設定は、128kマルチリンク通信を行う場合に必要に応じて設定してください。

接続先電話番号は必ず入力してください。

	設定項目	設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスDNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
	コールバック	MS-CBCP	使用しない
		コールバック先電話番号	(空欄)
		コールバック先サブアドレス	(空欄)
	着信設定	相手からの着信許可	する
		受信ID	ATERM
		受信パスワード	LAN2
	接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	192.168.0.1
		WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
相手ネットワークアドレス		192.168.2.0	
	相手サブネットマスク	255.255.255.0	

WAN、自側IPアドレス、WAN、自側アドレスマスクおよび相手ネットワークアドレス、相手サブネットマスクは必ず入力してください。

	設定項目	設定内容	
WAN設定	DNSフォワーディング	DNSリゾルバ設定	必要に応じて設定してください
		ドメイン名	必要に応じて設定してください
		LAN側サーバアドレス1	必要に応じて設定してください
		LAN側サーバアドレス2	必要に応じて設定してください
本体設定	ルータ設定	ルータ自己アドレス	0366665555
		ルータ自己サブアドレス	必要に応じて設定してください
		ルータ発信者番号通知	通知する
		ルータグローバル着信	必要に応じて設定してください
	ルータサブアドレス無し着信	必要に応じて設定してください	

ルータ自己アドレスは必ず入力してください。

LAN2側Atermの設定

設定項目		設定内容	
基本設定	登録名	LAN1 (注1)	
	ユーザ設定 / サーバ設定	接続先電話番号	0366665555
		接続先サブアドレス	必要に応じて設定してください
		ログインID	ATERM
		ログインパスワード	LAN2
		回線種別	INSネット64
		認証方式	自動
		接続先ドメイン名	必要に応じて設定してください
	自動切断設定	プライマリDNS	必要に応じて設定してください
		セカンダリDNS	必要に応じて設定してください
無通信監視タイマ		監視する	
無通信監視時間		3	
強制切断タイマ		切断する	
	強制切断時間	10	

注1 お客様が識別しやすい適当な名称を入力してください。

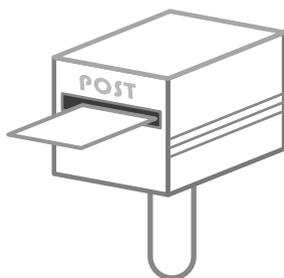
MP・BOD設定は、128kマルチリンク通信を行う場合に必要に応じて設定してください。

接続先電話番号は必ず入力してください。

設定項目		設定内容	
高度な設定	プロトコル・回線設定	アドバンスドNAT	使用しない
		接続モード	LAN型
		BACP	使用しない
コールバック	MS-CBCP	MS-CBCP	使用しない
		コールバック先電話番号	(空欄)
		コールバック先サブアドレス	(空欄)
着信設定	相手からの着信許可	受信ID	する
		受信パスワード	ATERM
接続時アドレス設定	WAN、自側IPアドレス	LAN1	192.168.2.1
		WAN、自側アドレスマスク	255.255.255.0
		相手IPアドレス	0.0.0.0
		相手ネットワークアドレス	192.168.0.0
		相手サブネットマスク	255.255.255.0

WAN、自側IPアドレス、WAN、自側アドレスマスクおよび相手ネットワークアドレス、相手サブネットマスクは必ず入力してください。

設定項目		設定内容	
WAN設定	DNSフォワーディング	DNSリゾルバ設定	必要に応じて設定してください
		ドメイン名	必要に応じて設定してください
		LAN側サーバアドレス1	必要に応じて設定してください
		LAN側サーバアドレス2	必要に応じて設定してください
本体設定	ルータ設定	ルータ自己アドレス	0355556666
		ルータ自己サブアドレス	必要に応じて設定してください
		ルータ発信者番号通知	通知する
		ルータグローバル着信	必要に応じて設定してください
		ルータサブアドレス無し着信	必要に応じて設定してください



8 電子メール着信通知サービスとUUIメール

- 8-1 電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メール
- 8-2 Windows98/Windows95/Windows NT4.0の場合
- 8-3 Macintoshの場合

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

8-1 電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メール

AtermではINS ネット 64の「ユーザ間情報通知サービス(UUI)」を利用して、電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メール(UUIメール変換サービス)のメールサービスを利用することができます。

利用時はCD-ROM内のメールサービスユーティリティをインストールして、Atermにこれらのサービスを利用するための設定などを行います。

電子メール着信通知

電子メール着信通知とは、BIGLOBEの電子メールボックスにメールが届くと、指定したAtermにメール着信を通知します。

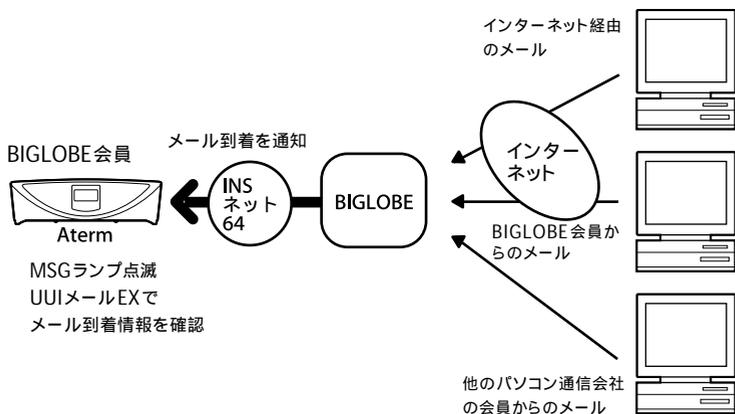
電子メール着信通知が来るとAtermのMSGランプがオレンジ色に点滅します。

パソコンの電源が入ってなくても、電子メール着信通知を受けることができます。

電話を利用しているときでも、電子メール着信通知を受けることができます。

Atermの設定によってはMSGランプが点滅しません。

電子メールがBIGLOBEのメールボックスに入ってから、Atermに電子メール着信通知が通知される様子を示します。

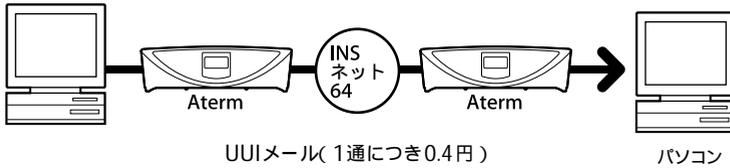


UUIメール

INSネット64の「ユーザ間情報通知サービス(UUI)」を利用し、Atermシリーズ同士間で、1回半角文字では100バイト、漢字など全角文字なら50文字までのショートメッセージを、全国一律わずか0.4円で送信できます。

UUIメールが着信するとAtermのMSGランプがオレンジ色に点滅してお知らせします。

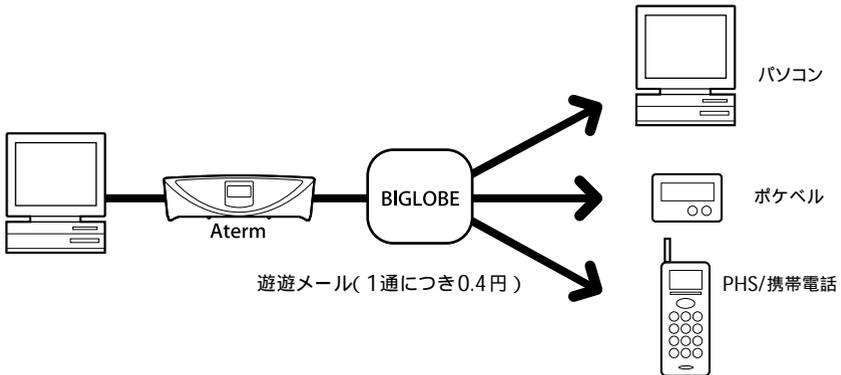
Atermの設定によってはMSGランプが点滅しません。



遊遊メール(UUIメール変換サービス)

BIGLOBEにUUIメールを送信すると、BIGLOBEのサーバが電子メールの形式に変換し、インターネット上に送信するサービスです。これにより、1通あたりわずか0.4円で電子メールが送信できることに加え、ポケットベルやPHS・デジタル携帯電話にショートメッセージを送信(注)することも出来ます。

(注)ポケットベルやPHS・デジタル携帯電話へショートメッセージを送る手段として、各通信業者にて行っている電子メールによる呼び出しサービスを利用しています。



サービスを利用するには...

電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メールを利用するためには、以下の契約と設定をしてください。



INSネット64の契約

サービス名	電子メール着信通知	遊遊メール	UUIメール
ユーザ情報通知	着信許可	着信許可	着信許可
発信者番号通知	—	通常通知(通話ごと非通知)または通常非通知(回線ごと非通知) 1	—
通信中着信通知	申込推奨 2	—	申込推奨 2

1 「通常通知(通話ごと非通知)」で契約している方は、らくらくユーティリティの設定でデータポートの発信者番号通知を「通知する」に設定する必要があります。

2 「通信中着信通知」(無料)を申込みことにより、Bチャネルを2本使った通話中でも電子メール着信通知・UUIメールの着信を受け付けることができます。



BIGLOBEへの加入とサービス申込み(ID登録)

電子メール着信通知・遊遊メールを利用するためには以下の申込みをしてください。

BIGLOBEの加入(有料)

既にBIGLOBE会員の方は、新たにBIGLOBEへの加入は必要ありません。

メールオプションの申込みの設定(有料)

BIGLOBEの登録ページ「BIGLOBEメール」(<http://www.biglobe.ne.jp/blmail/>)にアクセスします。サービスに該当する説明をよく読んで、申し込んでください。

メールサービスユーティリティ	電子メール着信通知	遊遊メール	UUIメール
UUIメールEX (Windows98/Windows95、Windows NT4.0)	1	2	
電子メール着信通知・UUIメールユーティリティ (Macintosh)	1	x	

1 BIGLOBEで設定した「通知表示名」を登録することが必要です。

2 BIGLOBEのIDを登録することが必要です。

8-2 Windows98/Windows95/Windows NT4.0の場合

UUIメールEXのインストール...

AtermのシリアルポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続します。
10BASE-TポートやUSBポートの場合は、「UUIメールEX」は利用できません。

手順

- 1 Atermに添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 2 タスクバーの **スタート** [ファイル名を指定して実行]の順に選択します。
- 3 [ファイル名を指定して実行]の画面が表示されます。
名前の入力欄に、半角の文字で次のように入力します。
Q: ¥Util¥Mail¥UUIex¥setup.exe
└─ CD-ROMのドライブ名(ドライブ名は機種によって異なります)
OK ボタンをクリックします。



- 4 [インストール先の選択]画面が表示されます。
インストール先とフォルダ名を決めます。
通常は、このまま **次へ** ボタンをクリックします。
インストール先及びフォルダ名を変更するときは、**参照** ボタンをクリックし、表示された画面でインストール先を表示します。



- 5 [プログラムフォルダの選択]画面が表示されます。
フォルダ名を決めます。
通常は、このまま **次へ** ボタンをクリックします。
フォルダ名を変更するときは、[プログラムフォルダ]欄にフォルダ名を入力するか、既存の[フォルダ]欄から選択します。
インストールが始まります。



通信編

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA 機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

6

[コンポーネントの選択]画面が表示されます。

「スタートアップに登録する」のチェックボックスにチェックした場合は、パソコンの起動と同時にユーティリティが起動されます。

次へ ボタンをクリックします。



7

[セットアップ完了]画面が表示されます。

[README.TXTを参照する]にチェックマークがついていると、インストール終了後、UIメールEXが起動前に説明文が表示されます。

[今すぐUIメールEXを起動する]にチェックマークがついていると、インストール終了後、UIメールEXが起動します。

終了 ボタンをクリックします。

インストールが終了します。

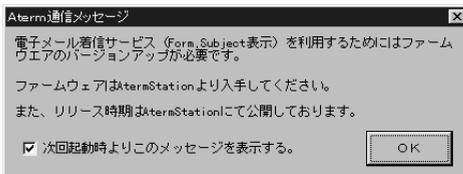


- 8 手順7で 今すぐUIメールEXを起動する]にチェックマークを付けた場合、しばらくしてUIメールEXが起動します。



クローズボックスをクリックすると、UIメールEXがタスクトレイにアイコン化されます。

UIメールEX起動時に次のようなメッセージが表示されることがあります。



Atermのファームウェアバージョンが2.50以上の場合、From、Subject表示に対応しています。対応バージョンにもかかわらず上記メッセージが表示された場合は、 ボタンをクリック後、タスクトレイの[UIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[終了]を選択して、UIメールEXを終了し、再度 [プログラム] [UIメールEX] からUIメールEXを再度起動しなおしてください。

通信編

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUIメール

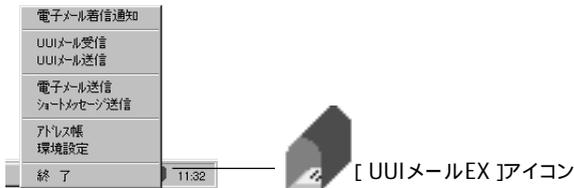
UUIメールEXの環境設定をする...

電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メールを利用するには、UUIメールEXで設定を行う必要があります。利用するサービスに応じてそれぞれ設定します。

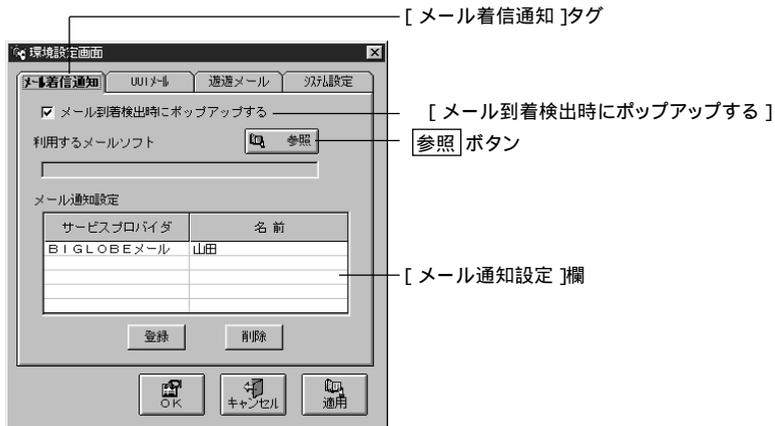
電子メール着信通知の設定

手順

- 1 タスクトレイの[UUIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[環境設定]を選びます。



- 2 [環境設定画面]が表示されます。
[メール着信通知]タグが表示されていることを確認します。
[UUIメールEX]画面の環境設定アイコンをクリックしても[環境設定]画面を表示させることができます。



3 [メール通知設定]欄に電子メール着信通知をするときの名前を登録します。

[メール着信通知]タグで、登録する欄をクリックしてから、**登録** ボタンをクリックします。

[名前登録画面]が表示されます。

登録する欄をダブルクリックをすることで、[名前登録]画面を表示させることもできます。



[名前]欄に、電子メールを着信したときに表示させる名前を入力します。

[通知表示名]にBIGLOBEメールオプション設定で入力した通知表示名と同じものを入力します。

OK ボタンをクリックします。

続けて名前を登録するときは、～ を繰り返します。

必要に応じて次の設定をします。

- ・ [メール到着検出時にポップアップする]

この項目をチェックすると、電子メールの着信を検出した場合、メッセージボックスがポップアップ表示されます。

- ・ **参照** ボタン

利用する電子メールソフトを指定する場合クリックします。

普段使用している電子メールソフトを選びます。

4 **適用** ボタンをクリックしてから **OK** ボタンをクリックします。

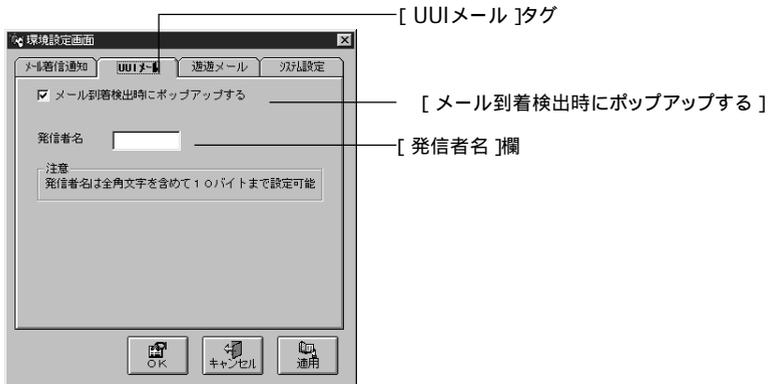
UIIメールの設定

手順

- 1 タスクトレイの[UIIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[環境設定]を選びます。



- 2 [環境設定画面]が表示されます。
[UIIメールEX]画面の環境設定アイコンをクリックしても[環境設定]画面を表示させることができます。
[UIIメール]タグをクリックします。



- 3 [発信者名]欄にUIIメールの発信者名を入力します。
半角文字10文字(全角文字5文字)で入力してください。
本項目で設定した発信者名がUIIメール送信画面の発信者として表示されます。

必要に応じて次の設定をします。

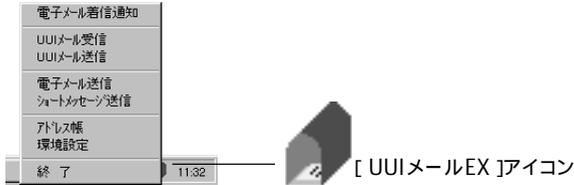
- ・ [メール到着検出時にポップアップする]
本項目をチェックすると、UIIメールの着信を検出した場合、メール受信画面がポップアップ表示されます。

- 4 [適用] ボタンをクリックしてから [OK] ボタンをクリックします。

遊遊メールの設定

手順

- 1 タスクトレイの[UIIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[環境設定]を選びます。



- 2 [環境設定画面]が表示されます。
[UIIメールEX]画面の環境設定アイコンをクリックしても[環境設定]画面を表示させることができます。
[遊遊メール]タグをクリックします。



次の設定をします。

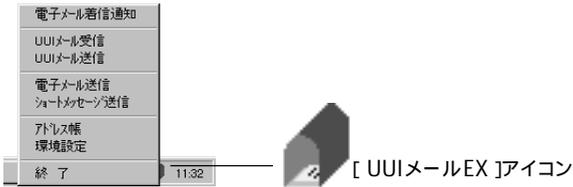
- ・ [BIGLOBE-ID]欄
発信者のBIGLOBEのIDを入力します。
- ・ [発信者番号通知]欄
らくらくユーティリティで設定されたデータポートの自己アドレスが表示されます。ここでは編集できません。
未設定の場合は、らくらくユーティリティでデータポートの自己アドレスを登録し、データポートに対する「発信者番号通知」を「行う」に設定してください。

- 3 [適用] ボタンをクリックしてから [OK] ボタンをクリックします。

UIメールの送信

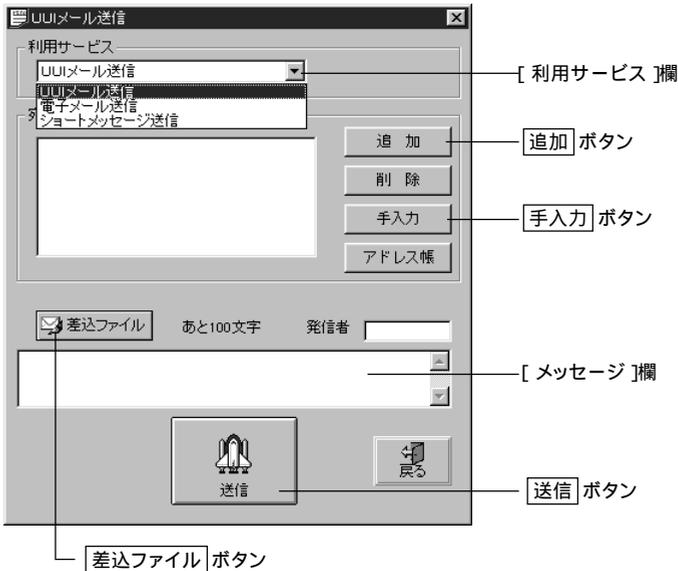
手順

- 1 タスクトレイの[UIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから利用されるサービスの送信[UIメール送信] [電子メール送信] [ショートメッセージ送信] を選びます。



- 2 [UIメール送信]画面が表示されます。

[利用サービス]欄が使用するサービス内容のメール送信になっているか確認します。使用するサービス内容になっていない場合は、プルダウンメニューの中から使用するサービス内容を選びます。



3 メール送信先を指定します。指定のしかたは以下の2つがあります。

登録した相手を指定

[UUIメール送信]画面で **追加** ボタンをクリックして、[宛先選択画面]から送信する相手をクリックして選択します。複数の宛先の選択が可能です。



[宛先選択画面]には、アドレス帳に登録されている名前が表示されます。
アドレス帳に登録する・・・[参照](#) 次ページ

送信先を直接入力

[UUIメール送信]画面で **手入力** ボタンをクリックして、[宛先入力画面]に、送信先(相手の電話番号やメールアドレス)を入力して、**OK** ボタンをクリックします。



4 [メッセージ]欄にメッセージを入力します。

[メッセージ]欄の上に入力可能文字数が表示されています。(入力可能文字数は、半角文字単位です。半角文字は1文字、全角文字は2文字として数えます。)

あらかじめ保存しておいたメッセージを[メッセージ]欄に入力するときは、**差込ファイル** ボタンをクリックして、保存してあるメッセージファイルを選びます。

5 **送信** ボタンをクリックして送信します。

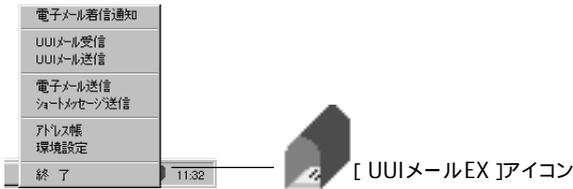
・メール送信が終了すると[送信結果]画面が表示されます。

6 送信終了後AtermのSD/RDランプが消灯していることを確認してから **OK** ボタンをクリックします。

アドレス帳に登録する

手順

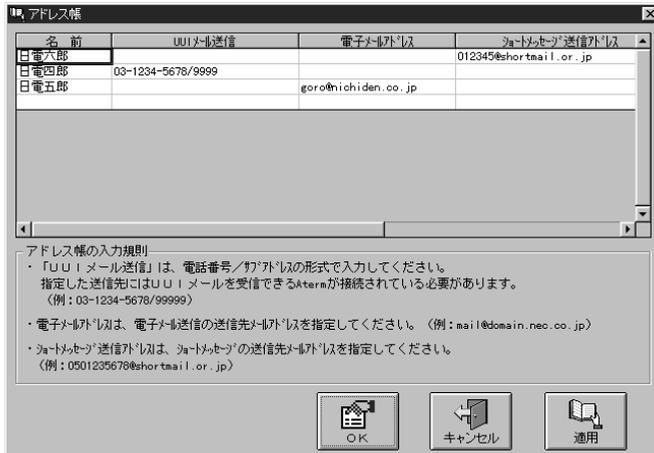
- 1 タスクトレイの[UUIメールEX]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[アドレス帳]を選びます。



- 2 [アドレス帳]画面が表示されます。
[UUIメールEX]画面または、[UUIメール送信]画面の[アドレス帳]アイコンをクリックしても[アドレス帳]画面を表示させることができます。

「アドレス」を入力します。

入力するときは、入力する枠をダブルクリックするとその枠内に入力することができます。





- ・ UIメール送信は、「電話番号 / サブアドレス」の形式で入力してください。指定した送信先にはUIメールを受信できるAtermが接続されている必要があります。
電話番号とサブアドレスの区切りのセパレータは、「/」(スラッシュ)を使用して下さい。「*」や「#」を設定した場合は、らくらくユーティリティを使用して「/」に設定して下さい。
(例: 03-1234-5678/99999)
- ・ 電子メールアドレスは、電子メール送信の送信先メールアドレスを指定してください。
(例: mail@domain.nec.co.jp)
- ・ ショートメッセージ送信アドレスは、ショートメッセージの送信先メールアドレスを指定してください。
(例: 05012345678@shortmail.or.jp)



- ・ 編集する場合は編集したい枠をダブルクリックを行うと、編集可能となります。
- ・ 名前、電話番号、電子メールアドレス、ショートメッセージ送信アドレスのそれぞれの項目をクリックすると、選択した項目で並び替えます。もう一度同じ項目をクリックすると、昇順、降順が変更されます。

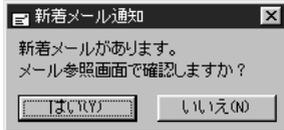
3 入力が終了したら、**適用** ボタンをクリックし、**OK** ボタンをクリックします。

メールの着信

UIメール、電子メールが届くと、AtermのMSGランプがオレンジ色に点滅します。

また、タスクトレイの中のUIメールEXアイコンも点滅します。

UIメールEXユーティリティの設定により、「新着メール通知」画面がポップアップ表示されます。



タスクトレイのアイコン

アイコンの色により現在のメール受信状況をあらわします。



(点灯)受信しているメールがありません。

(青の点滅)UIメール着信があります。

(赤の点滅)電子メール着信があります。

(紫の点滅)電子メール着信とUIメール着信の両方があります。



電子メール着信通知・UIメール着信の設定が正しく行われていないとAtermのMSGランプは点滅しません。

手順

1

[新着メール通知]画面の **はい** ボタンをクリックします。



「新着メール通知」を利用しない場合

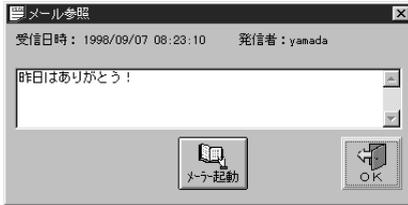
タスクトレイの中のUIメールEXのアイコンを右クリックします。

- ・電子メール着信通知の場合、[電子メール着信通知]を選択します。
- ・UIメールの場合、[UIメール受信]を選択します。

2 UIメールEXのメイン画面が表示された後、[メール参照]画面または、[UIメール参照]画面が表示されます。

電子メール着信通知の場合

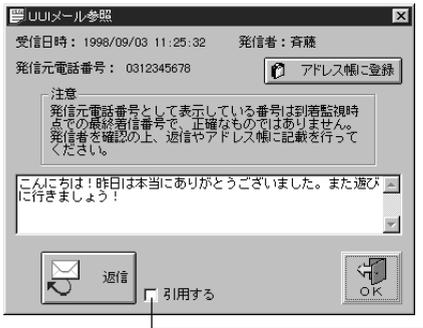
利用するメールソフトが指定してある場合は、**メーラー起動** ボタンをクリックしてメールを取り込みます。



UIメールの場合

送信先に返事を送る場合は、**返信** ボタンをクリックすると[メール送信]画面を表示して、返信メールを作成、送信することができます。

[引用する]にチェックマークを付けると、メール送信画面に受信したメール内容をコピーすることができます。



[引用する]

3 **OK** ボタンをクリックします。



TA機能を利用して、インターネットなどに接続しているときはAtermと接続しているパソコンのシリアルポート（COMポート）を利用していますので、UIメールEXを起動することはできません。

8-3 Macintoshの場合

電子メール着信通知・UUIメールのインストール...

手順

- 1 Aterm に添付の CD-ROM を CD-ROM ドライブ にセット します。
- 2 CD-ROM 内の「メールサービスユーティリティ」フォルダごと、ハードディスク にコピー します。
- 3 「メールサービスユーティリティ」フォルダ内の「muid.dat」ファイルのみシステムフォルダ内の初期設定フォルダに移動 します。
これでインストールは終了 します。



電子メール着信通知の利用方法...

電子メール着信通知の名前・ユーザID新規登録

電子メール着信通知情報を見るためには、AtermにユーザIDの新規登録が必要です。

IDが未登録だとメール着信通知情報は受け取れません。Atermの電源が入っていない場合もメール着信通知情報は受け取れません。

[ユーザID新規登録]プログラムの起動

手順

- 1 インストールした[メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[ユーザID新規登録]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [電子メール着信通知[名前・ユーザID新規登録]]画面が表示されます。
「名前」と「ユーザID」を入力します。
名前欄には適当な名前を入力し、ユーザID欄にはBIGLOBEに登録した通知表示名を入力します。
名前は半角8文字、全角4文字までです。



1個の名前に対して最大5件までユーザIDを登録することが可能です。
1個の名前に対して複数のユーザIDを登録する場合はカンマ「,」で区切って入力してください。

登録 ボタンをクリックします。



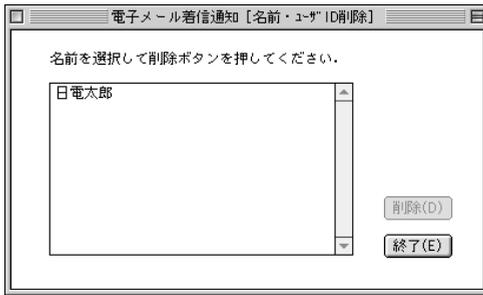
BIGLOBEの電信メール着信通知サービスが開通したことを確認する場合は、上記のユーザID宛にメールを送信し、AtermのMSGランプがオレンジ色に点滅することをチェックします。

電子メール着信通知の名前・ユーザID削除

[ユーザID削除]プログラムの起動

手順

- 1 [メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[ユーザID削除]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [電子メール着信通知[名前・ユーザID削除]]画面が表示されます。
登録されている名前の中から、削除したいものを選択し、**削除**ボタンをクリックします。
削除確認後、**終了**ボタンをクリックします。



電子メール着信通知のメール通知情報の読み出し

AtermのMSGランプがオレンジ色に点滅している場合、メールが到着していることを知らせています。

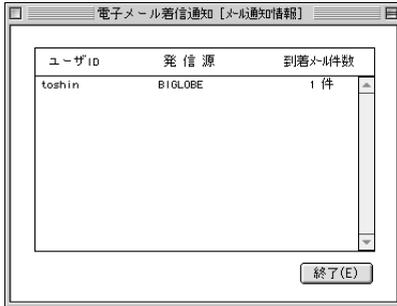
パソコンにインストールした電子メール着信通知用ユーティリティを起動し、メール到着件数を確認します。

[メール通知情報]プログラムの起動

手順

- 1 [メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[メール通知情報]アイコンをダブルクリックします。
情報が無い場合、メール通知情報画面は起動しません。

- 2 [電子メール着信通知 [メール通知情報]]画面が表示されます。
この画面にはユーザID毎に到着メール件数が表示されます。



メール通知情報画面が現れると、Aterm本体に記憶されていた到着メール件数は消去され、MSGランプは消灯します。

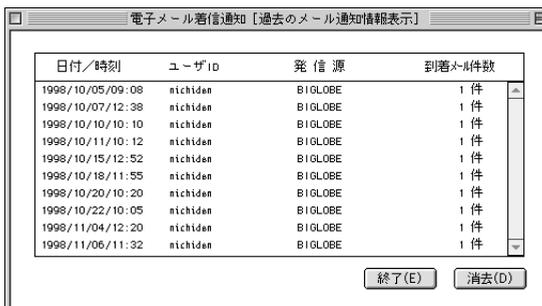
電子メール着信通知の過去のメール通知情報の読み出し

メール通知情報画面を開くと、自動的にメール着信通知情報がログファイルに記録されます。ログファイル名は名前・ユーザID新規登録画面で登録した名前が使用されます。

[記録情報]プログラムの起動

手順

- 1 [メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[記録情報]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [電子メール着信通知 [過去のメール通知情報表示]]画面が表示されます。ログファイルを消去する場合は、**消去** ボタンを押して下さい。



通信編

5 電話機（アナログ通信機）を使う

6 T A 機能で通信する

7 ルータ機能で通信する

8 電子メール着信サービスとUUEメール

UUIメールの利用方法...

UUIメールの送信

手順

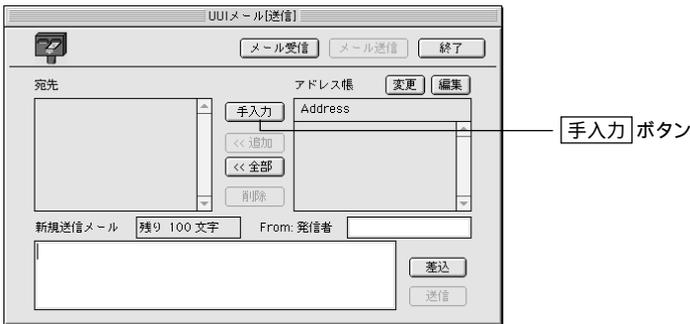
1 [メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[UUIメール]アイコンをダブルクリックします。

2 [UUIメール]画面が表示されます。
メール送信 ボタンをクリックします。



3 [UUIメール(送信)]画面が表示されます。
 UUIメールの送信先は、手入力することも、アドレス帳から選択することもできます。ここでは、手入力する場合について説明します。

手入力 ボタンを押します。



4 宛先電話番号の画面が表示されます。

[宛先電話番号(アドレス)]欄と[宛先電話番号(サブアドレス)]欄にそれぞれ入力します。

OK ボタンをクリックして宛先を確定します。

宛先電話番号 (アドレス)	<input type="text" value="0311111111"/>
宛先電話番号 (サブアドレス)	<input type="text" value="2222"/>
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/>	

- 5 [UUI メール〔送信〕]画面に戻ります。
- [新規送信メール]欄に、送信したいメッセージを入力します。
送信メッセージは最大50文字です。
(半角文字で100字、全角文字で50字まで可能です。)
- 送信** ボタンをクリックします。



- メールの送信を開始します。
- メール送信中表示画面が現れ、メール送信が正常終了すると正常終了画面に変わります。

アドレス帳について

[UUI メール〔送信〕]画面では、あらかじめ作成しておいた「アドレス帳」を使うこともできます。

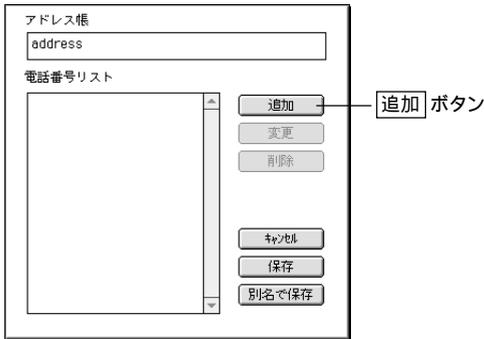
手順

- 1 [UUI メール〔送信〕]画面から、**編集** ボタンをクリックします。



2 アドレス帳を編集する画面が表示されます。

追加 ボタンを押します。



3 送信先を登録する画面が表示されます。

[電話番号(アドレス)]欄と[電話番号(サブアドレス)]欄に、送信したい相手先の情報を入力します。

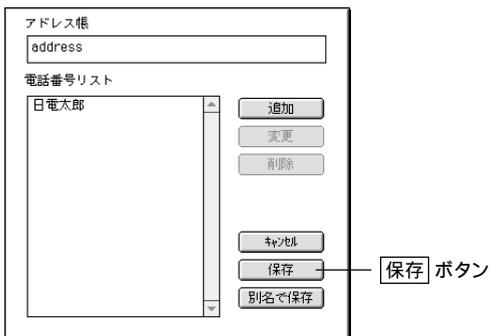
OK ボタンをクリックします。

名前:	<input type="text" value="日電太郎"/>
電話番号(アドレス):	<input type="text" value="0311111111"/>
電話番号(サブアドレス):	<input type="text" value="2222"/>
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/>	

4 宛先電話番号が確定すると、送信宛先の枠に電話番号が表示されます。

保存 ボタンを押して、アドレス帳を保存します。

保存が終了すると、[UUIメール(送信)]画面に戻ります。



通信編

5

電話機(アナログ通信機器)を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUUIメール

ファイルの差込について

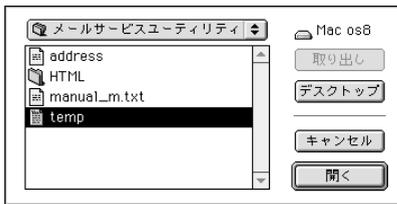
さらに[UIメール[送信]]画面では、送信メッセージへのテキストファイルの「差込」も行うことができます。

手順

- 1 [UIメール[送信]]画面から、**差込** ボタンをクリックします。



- 2 ファイルを選択する画面が表示されます。
あらかじめ作成しておいた差込用のテキストファイルを指定して、**開く** ボタンをクリックします。
[UIメール[送信]]画面に戻り、指定した差込用ファイルの内容が[新規送信メール]欄に反映されます。



送信メッセージは最大50文字までです。

既存ファイルの内容が50文字を超えている場合は、最初の50文字までが差し込まれます。

通信編

5

電話機（アナログ通信機器）を使う

6

TA機能で通信する

7

ルータ機能で通信する

8

電子メール着信サービスとUIメール

UIメールの受信

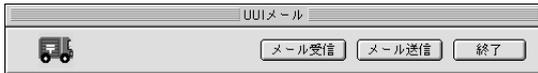
AtermのMSGランプがオレンジ色に点滅している場合、UIメールが到着しているか、あるいは電子メール着信通知があることを知らせています。

電子メール着信通知の「メール通知情報」を起動して、到着メール件数を読み出してもMSGランプが点滅している場合は、UIメールが到着しています。

手順

1 [メールサービスユーティリティ]フォルダ内の[UIメール]アイコンをダブルクリックします。

2 [UIメール]画面が表示されます。
メール受信 ボタンをクリックします。

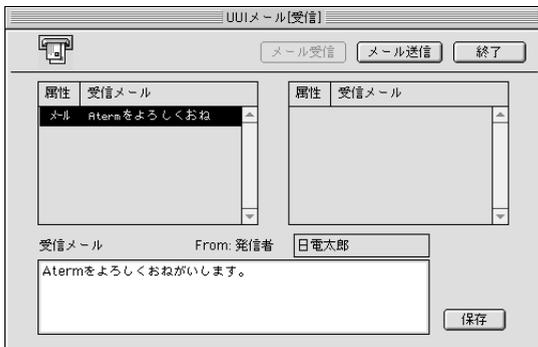


3 [UIメール〔受信〕]画面が表示されます。

受信メール一覧には、到着しているメッセージの最初の10文字が表示されます。受信メールを選択してダブルクリックすると、受信メール欄にメッセージが表示されます。

保存 ボタンは受信メールを保存したい場合に使用します。
 保存を行わないと、受信メールは保存されません。

終了 ボタンをクリックすると、UIメールは終了します。





9 ATコマンド

- 9-1 ATコマンドの説明
- 9-2 ATコマンドの入力方法
- 9-3 ATコマンド一覧

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

9-1 ATコマンドの説明

ここではデータポートに接続したAtermを制御するATコマンドの概要と、ATコマンドを使用する際に必要なことについて解説します。

ATコマンドとは

ATコマンドとは、Atermの便利な機能を使うときに、Atermに設定を命令するためのコマンドです。ATコマンドは、米国Hayes社が自社用モデムのために開発、使用した非同期端末用の自動発着信方式の一種で、コマンドの大部分が「AT」で始まることからこう呼ばれています。Atermは、このコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

ATコマンドは、「コマンド」と「Sレジスタ」並びに「リザルトコード」から成り立っています。「コマンド」は、パソコンがターミナルアダプタに対し動作を指示するときに使用します。ターミナルアダプタからパソコンに対するコマンド実行結果の報告や、着信の報告等を「リザルトコード」といいます。また、コマンドを実行する際には、「Sレジスタ」を参照する場合があります。「Sレジスタ」は、ATコマンドにより書き換えることができます。「Sレジスタ」の内容を指定することにより、発着信動作を詳細に規定することができます。



AtermはパソコンのER信号オンで通信可能になります。

ER信号をオンできないパソコンの場合はらくらくユーティリティやAT&Dコマンドで「ER信号を常時ONとみなす」に設定してください。

コマンド

ATコマンドは次の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF
---	---	------	----	----

- ・文字は半角を使用してください。
- ・ATはatでもかまいません。AtやaTは使用できません。
- ・コマンドは、最大184字まで入力できます。184字を越えた場合はERRORをパソコンに返します。
- ・複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- ・コマンドの中には、コマンドの後ろにパラメータを必要とするものがあります。このパラメータが省略された場合は、"0"とみなします
- ・CR(改行キーやReturnキー)は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままで使用してください。
- ・LFは省略できます。
- ・LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままで使用してください。
- ・コードはアスキーを使用します。
- ・Atermは、ATコマンドからパソコンのデータポート速度・データビット長・パリティを自動的に判別してそれに合わせます。

Sレジスタ

Sレジスタは、自動発着信の動作を規定する各種パラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタです。Sレジスタの内容は、ATSnコマンドで変更できますが、通常は工場出荷時で使用します。

リザルトコード

リザルトコードはVコマンドの設定に対応して、次のいずれかの形式で表示されます。

(1) 英語表示のリザルトコード

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

(英語)

- ・CR(改行キーやReturnキー)は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままで使用してください。
- ・LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままで使用してください。
- ・コードはアスキーを使用します。

(2) 数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

リザルトコード	CR
---------	----

(数字)

- ・CR(改行キーやReturnキー)は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままで使用してください。
- ・コードはアスキーを使用します。

9-2 ATコマンドの入力方法

ATコマンドを入力するときは、ターミナル画面を表示できる通信ソフトを用意して、直接ATコマンドを入力できる状態に切り替える必要があります。ここでは、Windows95のハイパーターミナルを例に挙げて、具体的に入力方法を説明します。

Macintoshでは、通信ソフトウェアが標準添付されていません。ATコマンドが使える通信ソフトウェアを雑誌やオンラインで入手するか、購入されることをおすすめします。

Windows98/Windows95、Windows NT4.0のインストールのしかたによっては、ハイパーターミナルがインストールされていない場合があります。その場合はWindows98/Windows95、Windows NT4.0の説明書を参照し、インストールしてください。

手順

- 1 タスクバーの **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ハイパーターミナル] の順に選択します。
- 2 [HyperTerminal]画面が表示されます。
[Hypertrm]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [接続の設定]画面で、名前を入力し、アイコンを選択します。
ここでは「Aterm」という名前を入力します。
OK ボタンをクリックします。
- 4 [電話番号]画面が表示されるので、[接続方法]から[COM×ポートヘダイレクト]を選択します。
「COM×」は「COM1」など、Atermのデータポートに接続されているパソコン本体のポートを指します。
OK ボタンをクリックします。
- 5 [COM×のプロパティ]画面が表示されるので、[ビット/秒]の欄を[2400 ~ 115200]に設定します。
OK ボタンをクリックします。
ターミナル画面が表示されるので、「AT」と入力し、[Enter]キーを押します。「OK」と表示されたら、ATコマンドが入力可能な状態です。



9-3 ATコマンド一覧

コマンド一覧

のついたコマンドのパラメータの内容は、電源を切っても保持されます。 のついたパラメータの内容は、セーブコマンド(AT \$ S)を実行すると電源を切っても保持されます。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
N	回線速度の設定	0
O	データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示の設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータの初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータの設定	/
&C	CD信号制御の設定	1
&D	ER信号制御の設定	0
&H	短縮・識別番号の表示	-
&K	フロー制御方式の設定	3
&L	データ・ルータポート着信応答の設定	注
&S	DR信号制御の設定	0
&Z	短縮・識別番号の登録	-
#C	データポートの通信料金、切断理由の表示	-
#H	データポート用自己アドレス表示	-
#HA	アナログAポート用自己アドレス表示	-
#HB	アナログBポート用自己アドレス表示	-
#HC	アナログCポート用自己アドレス表示	-
#R	着信拒否	-
#Z	データポート用自己アドレス登録	-
#ZA	アナログAポート用自己アドレス登録	-
#ZB	アナログBポート用自己アドレス登録	-
#ZC	アナログCポート用自己アドレス登録	-

コマンド	機能概要	初期値
¥C	累積通通信料金表示	-
¥D	UIメールランプの設定と表示	注
¥L	発着信情報表示	-
¥M	電子メール通知ランプの設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	各種設定表示	-
\$A	アナログAポートの設定と表示	注
\$B	アナログBポートの設定と表示	注
\$C	アナログCポートの設定と表示	注
\$D	アナログポート共通の設定と表示	注
\$H	着信転送用アドレス表示	-
\$L	LCDの設定と表示	注
\$M	データポート128kbpsマルチリンクPPPの設定と表示	注
\$N	データポートの設定と表示	注
\$S	パラメータの保存	-
\$Y	着信転送先アドレス登録	-
\$Z	着信転送元アドレス登録	-
S	Sレジスタポインタの設定	0
?	レジスタポインタの示すレジスタ内容変更	-
=	Sレジスタポインタの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-
*PX1	i・ナンバーの使用設定	-
*PC	i・ナンバー発信 i・ナンバー情報	-
*PR	i・ナンバー着信 i・ナンバー情報	-
*PN	i・ナンバー情報の電話番号	-
*P?	i・ナンバー設定表示	-

注：初期値については各コマンドの説明を参照してください。

コマンドの説明

A

機能： 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。
 書式： ATA
 パラメータ： なし
 入力例： ATA

D

機能： 発信して相手を呼び出します。
 書式： ATD <パラメータ1> </パラメータ2> <パラメータ3>
 パラメータ： <パラメータ1> 相手アドレス(相手電話番号)
 S=0~9 : 短縮・識別番号へ発信します。
 ¥ : 再発信します。
 <パラメータ2> 相手サブアドレス
 <パラメータ3> [ユーザ・ユーザデータ
 ; : コマンドモードへ入ります。発信するときは0
 コマンドを入力します。
 CB : スティルスコールバックの発信をします。

入力例： ATD0123-45-6789[ABCD
 ATDS=0
 ATD0123-45-6789CB

- 補足：
- ・ 相手電話番号は最大32桁で0~9の数字が使用できます。
 その他の文字は使用しても無視します。
 - ・ 相手サブアドレスは最大19桁で0~9の数字が使用できます。
 また、/以降が省かれた場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
 /は、/Sコマンドで変更できます。
 - ・ ユーザ・ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。
 0~9、*、#、英字
 ユーザ・ユーザデータの前には[を入れてください。
 - ・ ;はユーザ・ユーザデータ使用時は機能しません。
 - ・ CB指定時は合わせてスティルスコールバック着信許可(\$N10=1)にしてまた、
 発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
 - ・ CB指定時のサブアドレスは最大15桁に制限されます。
 - ・ CB指定発信のリダイヤルはできません。
 - ・ CBは必ず最後につけてください。
 - ・ CBはcbでもかまいません。

E

機能： エコーバックするか否かを指定します。
 書式： ATE <パラメータ1 >
 パラメータ： <パラメータ1 > 0 :エコーバックしません。
 1 :エコーバックします。
 入力例： ATE0
 補足： 工場出荷時は1です。

H

機能： 通信を切断します。
 書式： ATH
 パラメータ： なし
 入力例： ATH
 補足： 最初にエスケープコマンド(+++)を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。

I

機能： 装置コード・装置メーカーを表示します。
 書式： ATI <パラメータ1 >
 パラメータ： <パラメータ1 > 0 :装置コード(ATコマンドのバージョン:960)を表示します。
 3 :ファームウェアバージョンを表示します。
 4 :装置メーカー(AtermIR NEC Corporation)を表示します。
 入力例： ATI4

N

機能： 回線速度を指定します。
 書式： ATN <パラメータ1 >
 パラメータ： <パラメータ1 > 0 :パソコン側通信ポートの速度と同じ
 1 :1200bps
 2 :2400bps
 3 :4800bps
 4 :9600bps
 5 :14400bps
 6 :19200bps
 7 :28800bps
 8 :38400bps
 9 :57600bps

W

- 機能： リザルトコードRINGの表示のしかたを設定します。
- 書式： ATW <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : RINGのみを返します。
2 : RINGの後に続けて相手アドレス、サブアドレス、ユーザ・ユーザデータを表示します。
- 入力例： ATW2
- 補足： 工場出荷時は0です。
アドレスとサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。
アドレスまたはサブアドレスとユーザ・ユーザデータの区切りは[です。

X

- 機能： リザルトコードセットを指定します。
- 書式： ATX <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : ベーシックセット
1 : 拡張セット1
2 : 拡張セット2
3 : 拡張セット3
4 : 拡張セット4
- 入力例： ATX0
- 補足： 工場出荷時は3です。

リザルトコードセットの一覧を示します。

数字	英 語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK					
1	CONNECT		-	-	-	-
2	RING					
3	NO CARRIER					
4	ERROR					
5	CONNECT 1200	-				
7	BUSY	-	-	-		
10	CONNECT 2400	-				
11	CONNECT 4800	-				
12	CONNECT 9600	-				
13	CONNECT 14400	-				
14	CONNECT 19200	-				
18	CONNECT 57600	-				
19	CONNECT 64000	-				
21	CONNECT 32000	-				
26	CONNECT 28800	-				
28	CONNECT 38400	-				

Z

- 機能： パラメータの初期化を行います。
- 書式： ATZ <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : \$Sコマンドで設定した内容に戻します。
 1 : 短縮ダイヤル、自己アドレス、自己サブアドレス、累積通信料金、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス以外のパラメータを初期化します。
 98 : ハードウェアリセットがかかります。(工場出荷時に戻す)
 99 : ソフトウェアリセットがかかります。
 (\$Sコマンドで設定した内容に戻す。)
- 入力例： ATZ1

/S

- 機能： データポートのサブアドレスセパレータの表示、設定をします。
- 書式： AT/S <パラメータ1> < =パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> < =パラメータ2>
 0 : セパレータの表示
 1 : セパレータの設定
 = / (工場出荷時)
 = #
 = *
- 入力例： AT/S1=#
- 補足： ・ 本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、&Z、#Z、#ZA、#ZB、#ZC、\$Z、Dコマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。
 ・ アナログポートで使用するセパレータ(*)は固定です。

&C

- 機能： CD信号制御の設定をします。
- 書式： AT&C <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : ER ON時には常にCD ON
 1 : 通信中は常にCD ON
- 入力例： AT&C0
- 補足： 工場出荷時は1です。

&D

- 機能： ER信号制御の設定をします。
- 書式： AT&D <パラメータ1>

&S

機能： DR信号制御の設定をします。
 書式： AT&S <パラメータ1 >
 パラメータ： <パラメータ1 > 0 : ER ON時は常にDR ON
 1 : 通信中は常にDR ON
 入力例： AT&S1
 補足： 工場出荷時は0です。

&Z

機能： 短縮・識別番号を登録します。
 書式： AT&Z <パラメータ1 > < =パラメータ2 > < /パラメータ3 >
 パラメータ： <パラメータ1 > 短縮・識別番号。0～9の数字。
 <パラメータ2 > 相手アドレス
 <パラメータ3 > 相手サブアドレス
 入力例： AT&Z0=012345678/910
 補足：

- ・ 相手アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
- ・ 相手サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
- ・ /は/Sコマンドで変更できます。
- ・ 末尾にCBをつけたスタイルスコールバックを行う電話番号は登録できません。

#C

機能： 直前のデータポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
 書式： AT#C
 パラメータ： なし
 入力例： AT#C
 補足：

- ・ CAUSE = #の後に切断理由コードを表示します。「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページを参照してください。
- ・ SOURCE = の後に生成源を表示します。「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」308ページを参照してください。
- ・ CHARGE = ¥の後に通信料金を表示します。

#H

機能： データポートの自己アドレス、自己サブアドレスを表示します。
 書式： AT#H
 パラメータ： なし
 入力例： AT#H
 補足：

- ・ 自己アドレスと自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
- ・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。

#HA

- 機能： アナログAポートの自己アドレス、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#HA
パラメータ： なし
入力例： AT#HA
補足：
・ 自己アドレスと自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。

#HB

- 機能： アナログBポートの自己アドレス、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#HB
パラメータ： なし
入力例： AT#HB
補足：
・ 自己アドレスと自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。

#HC

- 機能： アナログCポートの自己アドレス、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#HC
パラメータ： なし
入力例： AT#HC
補足：
・ 自己アドレスと自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。

#R

- 機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT#R
パラメータ： なし
入力例： AT#R
補足： 本コマンドの入力途中にリザルトコードが入ると無効となります。つまり、RING表示から次のRING表示の間に本コマンドを入力する必要があります。

#Z

- 機能： データポートの自己アドレスを登録します。
- 書式： AT#Z <パラメータ1> </パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 自己アドレス
<パラメータ2> 自己サブアドレス
- 入力例： AT#Z012345678/910
- 補足：
 - ・ 自己アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。

#ZA

- 機能： アナログAポートの自己アドレスを登録します。
- 書式： AT#ZA <パラメータ1> </パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 自己アドレス
<パラメータ2> 自己サブアドレス
- 入力例： AT#ZA012345678/2222
- 補足：
 - ・ 自己アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。

#ZB

- 機能： アナログBポートの自己アドレスを登録します。
- 書式： AT#ZB <パラメータ1> </パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 自己アドレス
<パラメータ2> 自己サブアドレス
- 入力例： AT#ZB012345678/3333
- 補足：
 - ・ 自己アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。

#ZC

- 機能： アナログCポートの自己アドレスを登録します。
- 書式： AT#ZC <パラメータ1> </パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 自己アドレス
<パラメータ2> 自己サブアドレス
- 入力例： AT#ZC012345678/4444
- 補足：
 - ・ 自己アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。

¥C

- 機能： データポート、アナログAポート、アナログBポート、アナログCポートの累積通
信料金の表示と初期化をします。
- 書式： AT¥C <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : 累積通信料金を表示します。
1 : すべてのポートの累積通信料金を初期化(0円)します
- 入力例： AT¥C0
- 補足： データポートの累積通信料金には、ルータ機能による通信料金分も含まれます。

¥D

- 機能： UUIメールのランプ表示設定と設定内容の表示をします。
- 書式： AT¥D <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>
0 : 1の設定内容の表示
1 : ランプ点灯選択
1=0 : UUIメール着でランプ点灯しない
1=1 : UUIメール着でランプ点灯する(工場出荷時)
- 入力例： AT¥D1=0

¥L

- 機能： データポート、アナログAポート、アナログBポート、アナログCポートの最新発
信・着信番号や着信しなかった理由を表示します。
- 書式： AT¥L <パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0 : 最新の発信番号を表示させます。
1 : 最新の着信番号、切断理由、診断情報を表示します。
- 入力例： AT¥L1
- 補足： SEND CAUSE= 切断理由、DIAGNOSIS= 診断情報です。「10-6 切断理由表示・診
断情報表示・生成源表示一覧」308ページを参照してください。

¥M

- 機能： 電子メール通知のランプ表示設定と設定内容の表示をします。
- 書式： AT¥M <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>
0 : 1の設定内容の表示
1 : ランプ点灯選択
1=0 : 電子メール着でランプ点灯しない
1=1 : 電子メール着でランプ点灯する(工場出荷時)
- 入力例： AT¥M1=0

- 4 : HLC 設定
 4=0 : HLC を設定しない(工場出荷時)
 4=1 : HLC を設定し着信判定する
 4=2 : HLC を設定するが着信判定しない
- 5 : グローバル着信選択
 5=0 : 着信する(工場出荷時)
 5=1 : 着信しない
- 6 : サブアドレスなし着信選択
 6=0 : 着信する(工場出荷時)
 6=1 : 着信しない
- 7 : ダイアル桁間タイマ設定
 7=0 : 5秒(工場出荷時)
 7=1 : 9秒
 7=2 : 11秒
 7=3 : 13秒
- 8 : フッキング検出タイマ設定
 8=0 : 0.03秒 ~ 1秒
 8=1 : 0.3秒 ~ 1秒(工場出荷時)
 8=2 : 0.5秒 ~ 1.5秒
- 9 : 発信者番号通知設定
 9=0 : 発信者番号通知しない
 9=1 : 発信者番号通知する(工場出荷時)
 9=2 : INS ネット 64 申込内容に従う
- 10 : 受話音量の設定
 10=0 : 小音
 10=1 : 中音(工場出荷時)
 10=2 : 大音
- 11 : ナンバー・ディスプレイの設定
 11=0 : ナンバー・ディスプレイを使用しない(工場出荷時)
 11=1 : ナンバー・ディスプレイを使用する
- 12 : ナンバー・ディスプレイ(サブアドレス)の設定
 12=0 : サブアドレスはつけない(工場出荷時)
 12=1 : サブアドレスもつける

入力例: AT \$ A3=1

- 補足:
- ・ HLC を設定した場合、電話を選択していれば HLC は「電話」にファクスやモデムを選択していれば「G2/G3FAX」に自動的に設定します。
 - ・ 12「ナンバー・ディスプレイ(サブアドレス)」は 11「ナンバー・ディスプレイ」を「1」に設定したときに設定します。
(11=0)のときは 12 の設定は動作に関係しません。
 - ・ 受話音量の設定は、Aterm の電源を切っても保持されます。

\$B

- 機能： アナログBポートの設定と表示をします。
- 書式： AT\$B<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ： \$Aと同じですが、11「ナンバー・ディスプレイ」と12「ナンバー・ディスプレイ（サブアドレス）」は使用できません。
- 入力例： AT\$B4=1
- 補足： 受話音量の設定は、中音と大音の2段階になります。受話音量の設定は、Atermの電源を切っても保持されます。

\$C

- 機能： アナログCポートの設定と表示をします。
- 書式： AT\$C<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ： \$Aと同じですが、11「ナンバー・ディスプレイ」と12「ナンバー・ディスプレイ（サブアドレス）」は使用できません。
- 入力例： AT\$C4=1
- 補足： 受話音量の設定は、中音と大音の2段階になります。受話音量の設定は、Atermの電源を切っても保持されます。

\$D

- 機能： 3つのアナログポートに共通する設定と表示をします。
- 書式： AT\$D<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1><=パラメータ2>
- 0 : 2~6の設定内容の表示
 - 2 : 停電時のリング制御
 - 2=0 : 着信時リングでなくブザーが鳴る
 - 2=1 : 着信時リングが鳴る(工場出荷時)
 - 2=3 : 着信を受け付けない
 - 3 : 優先着信ポートの指定
 - 3=0 : 指定しない(工場出荷時)
 - 3=1 : Aポート優先
 - 3=2 : Bポート優先
 - 3=3 : Cポート優先
 - 4 : 内線通話、転送機能使用可否
 - 4=0 : 使用しない
 - 4=1 : 使用する(工場出荷時)
 - 5 : 三者通話使用可否
 - 5=0 : 使用しない(工場出荷時)
 - 5=1 : 使用する

- 6 : 通信中転送使用可否
 6=0 : 使用しない(工場出荷時)
 6=1 : 使用する

入力例: AT \$ D3=2

\$H

- 機能: アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレスとトーキの設定値を表示をします。
- 書式: AT \$ H
- パラメータ: なし
- 入力例: AT \$ H
- 補足: ・ 自己アドレスと自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 ・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示をします。

\$L

- 機能: LCDの設定と表示をします。
- 書式: AT \$ L <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>
- 0 : 1~2の設定内容の表示
 1 : バックライトの設定
 1=0 : 常に点灯
 1=1 : 常に消灯
 1=2 : AUTO(初期値)
 1=3 : AUTO + データ通信中は常に点灯
 1=4 : AUTO + Bチャンネル使用中は常に点灯
 2 : アナログ発信時の発信ダイヤル表示
 2=0 : ダイヤル番号を表示しない
 2=1 : ダイヤル番号を表示する(初期値)
- 入力例: AT \$ L1=1
- 補足: データ発信中は常にダイヤル番号を表示します。
 「AUTO + データ通信中は常に点灯」モードではルータ機能で通信中も点灯します。

\$M

- 機能: データポートでの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示をします
- 書式: AT \$ M <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>
- 0 : 1~8の設定内容の表示
 1 : マルチリンク通信選択
 1=0 : 128kbpsマルチリンクPPP通信しない(工場出荷時)
 1=1 : 128kbpsマルチリンクPPP通信する

- 2 : リソースBOD選択
 - 2=0 : リソースBODを行わない(工場出荷時)
 - 2=1 : リソースBODを行う
- 3 : スループットBOD選択
 - 3=0 : スループットBODを行わない(工場出荷時)
 - 3=1 : スループットBODを行う
- 4 : リンク追加算出時間 (10秒単位)
 - 4=10 ~ 60 : 10 ~ 60秒(工場出荷時30秒)
- 5 : リンク削除算出時間 (10秒単位)
 - 5=10 ~ 60 : 10 ~ 60秒(工場出荷時10秒)
- 6 : リンク追加しきい値設定 (10%単位)
 - 6=60 ~ 90 : 60 ~ 90%(工場出荷時70%)
- 7 : リンク削除しきい値設定 (10%単位)
 - 7=10 ~ 40 : 10 ~ 40%(工場出荷時20%)
- 8 : 2本目接続時の認証
 - 8=0 : 認証しない
 - 8=1 : 認証する(工場出荷時)

入力例: AT \$ M2=1

補足: \$ M1は、\$ N11コマンドと同様のコマンドです。どちらかを設定すれば有効になります。

\$N

機能: データポートの設定と表示をします。

書式: AT \$ N <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>

- 0 : 1 ~ 14の設定内容の表示
- 1 : 非同期/同期PPP変換選択
 - 1=0 : 非同期/同期PPP変換しない(工場出荷時)
 - 1=1 : 非同期/同期PPP変換する
- 2 : 識別着信
 - 2=0 : 識別着信しない(工場出荷時)
 - 2=1 : 識別着信する
- 3 : HLC設定
 - 3=N: HLCを設定しない(工場出荷時)
 - 3=0 ~ 127
- 4 : 着信速度チェック
 - 4=0 : チェックしない(工場出荷時)
 - 4=1 : チェックする
- 5 : グローバル着信選択
 - 5=0 : 着信する(工場出荷時)
 - 5=1 : 着信しない

- 6 :サブアドレスなし着信選択
 6=0 :着信する(工場出荷時)
 6=1 :着信しない
- 7 :リザーブ
 設定しないでください
- 8 :リザーブ
 設定しないでください。
- 9 :無通信監視タイマ
 9=0 :監視しない
 9=1 :1分
 { }
- 9=10 :10分(工場出荷時)
- 10 :ステイルスコールバック使用
 10=0 :コールバックしない(初期値)
 10=1 :コールバックする
- 11 :マルチリンク通信選択
 11=0 :128kbpsマルチリンクPPP通信しない(工場出荷時)
 11=1 :128kbps マルチリンク PPP 通信する
- 12 :発信者番号通知設定
 12=0 :発信者番号を通知しない
 12=1 :発信者番号を通知する(工場出荷時)
 12=2 :INS ネット 64 申込内容に従う
- 13 :リザーブ
 設定しないでください
- 14 :強制切断タイマ
 14=0 :強制切断しない
 14=1 :1時間で切断する
 { }
- 14=10 :10時間で切断する(工場出荷時)

入力例: AT\$N9=2

補足: 4(着信速度チェック)で「チェックしない(4=0)」が異速度通信を行う動作になります。

\$S

機能: ATコマンドで設定したパラメータや自動ポートレート検出したパソコンの速度を保存します。

書式: AT\$S

パラメータ: なし

入力例: AT\$S

補足: 短縮ダイヤル、自己アドレス、自己サブアドレス、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス等はその都度保持されるので、本コマンドは必要ありません。

\$Y

- 機能： アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。
- 書式： AT\$Y<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 0：着信転送先(0)アドレス
1：着信転送先(1)アドレス
2：着信転送先(2)アドレス
<パラメータ2> 転送先アドレス(電話番号)
- 入力例： AT\$Y1=0123456789
- 補足：
 - ・本コマンドとあわせて、\$Zコマンドで転送元を設定してください。
 - ・相手アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・着信転送先の設定はアドレスのみです。サブアドレスは設定できません。

\$Z

- 機能： アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
- 書式： AT\$Z<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ： <パラメータ1> 0：着信転送元(0)アドレス
1：着信転送元(1)アドレス
2：着信転送元(2)アドレス
<パラメータ2> 転送元アドレス(電話番号)
- 入力例： AT\$Z1=987654321
- 補足：
 - ・本コマンドとあわせて、\$Yコマンドで転送先を設定してください。
 - ・転送元アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・転送元サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・また、/以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。
 - ・/は/Sコマンドで変更できます。
 - ・転送トークの設定は、電話番号毎に設定することはできません。

S

- 機能： Sレジスタポイントを指定します。
- 書式： ATS<パラメータ1>
- パラメータ： <パラメータ1> 0～26:Sレジスタ
詳細については「Sレジスタ」(285ページ)を参照してください。
- 入力例： ATSO

?

- 機能： 現在のSレジスタポイントの示すレジスタ内容の表示をします。
- 書式： AT?
- パラメータ： なし
- 入力例： AT?
- 補足： Sコマンドと続けることができます。
例)ATSO+AT? ATSO?

*PR

機能： 各ポートで着信するi・ナンバー情報を設定します。
書式： AT*PR<パラメータ1><=パラメータ2><,パラメータ3>
パラメータ： <パラメータ1> A,B,C(アナログポート)
N(データポート)
<パラメータ2> iナンバー情報
<パラメータ3> iナンバー情報
入力例： AT*PRA=1,2
補足： 初期値はA=1, B=2, C=2, N=1

*PN

機能： i・ナンバーの情報の電話番号を登録します。
書式： AT*PN<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> i・ナンバー情報
<パラメータ2> 電話番号
入力例： AT*PN1=0312345678
補足： ・自己サブアドレスは#Z、#ZA、#ZB、#ZCコマンドでポート毎に設定してください。
・電話番号は10桁まで登録できます。

*P?

機能： i・ナンバーに関する設定内容を表示します。
書式： AT*P?
入力例： AT*P?

Sレジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	意味	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ"RING"を送出後、自動応答する	
1	RING送回数表示	0 ~ 255	回	"RING"を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	(+)
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13(CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10(LF)
5	後退文字	0 ~ 32,127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8(BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信時、設定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間 (注1)	0 ~ 100	(注2)	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしません				

(注1)CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときにのみに有効です。

(注2)CS遅延時間S26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。

「AUTO」は、設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」~「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値を足した時間になります。

S26値	CS遅延時間
0	AUTO(0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

リザルトコード

リザルトコード一覧

数 字	英 語	内 容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT 1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了

リザルトコードの説明

BUSY

機能： 相手話中のため接続に失敗したとき送じます。
 書式： BUSY
 出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
 次の条件のときに送じます。
 (1)コマンドが正常であったとき(A,D,Oコマンド実行時はなし)
 (2)エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
 (3)オンラインモード時にATHコマンドが入力され通信が切断されたとき

書式： OK
 出力例： OK

CONNECT

機能:	相手と通信状態になったときに送出します。
書式:	CONNECT <パラメータ1>
パラメータ:	<パラメータ1>なし : 相手と通信状態になりました。 (ベーシックリザルトコードセットのみ)
	1200bps : 回線速度が1200bpsで接続完了しました。
	2400bps : 回線速度が2400bpsで接続完了しました。
	4800bps : 回線速度が4800bpsで接続完了しました。
	9600bps : 回線速度が9600bpsで接続完了しました。
	14400bps : 回線速度が14400bpsで接続完了しました。
	19200bps : 回線速度が19200bpsで接続完了しました。
	28800bps : 回線速度が28800bpsで接続完了しました。
	38400bps : 回線速度が38400bpsで接続完了しました。
	57600bps : 回線速度が57600bpsで接続完了しました。
	64000bps : 回線速度が64000bpsで接続完了しました。
出力例:	CONNECT 38400

RING

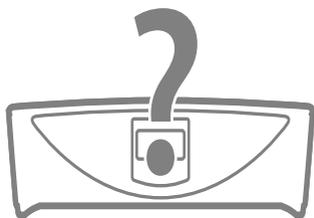
機能:	着信があった場合、応答するまでに2秒間隔で通知します。
書式:	RING <パラメータ1> </パラメータ2> <[パラメータ3]>
パラメータ:	<パラメータ1> 発信側のアドレス <パラメータ2> 発信側のサブアドレス <パラメータ3> ユーザ・ユーザデータ
出力例:	RING
補足:	発信側のアドレス以降を付加させるにはWコマンドで指定します。

NO CARRIER

機能:	通信相手との接続に失敗したときに送出します。 また、通信中何らかの原因で切断した場合も送出します。
書式:	NO CARRIER
パラメータ:	なし
出力例:	NO CARRIER

ERROR

- 機能： 次の条件のときに送出不します。
- (1)不正なコマンドが入力されたとき
 - (2)コマンド入力が最大文字数を越えたとき
 - (3)Dコマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
 - (4)パソコンのER信号がオフのときに発信したとき
 - (5)アナログポートを使用しているときに\$A、\$B、\$C、\$Dコマンドで設定しようとしたとき
- 書式： ERROR
- 出力例： ERROR



10 お困りのときは

Atermを設置・接続・設定する際にお困りの場合の対処方法などについて説明しています。

10-1 こんなときには

10-2 自己診断する

10-3 修理と現地調査・保守契約について

10-4 Atermに関する問い合わせ先

10-5 NEC PCクリーンスポットの「訪問サービス」

10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

10-1 こんなときには

全機能共通...

電源スイッチを入れても前面のPWRランプが点灯しない

電源コードが電源コンセントからはずれていないか確認してください。

パソコンのサービスコンセントを使用している場合は、壁面のコンセントを使用してください。パソコンの電源スイッチを入れないと通電されないものがあります。

電源コードが破損してないか確認してください。破損している場合は、お買い上げの販売店またはNECサービスステーションに相談してください。

液晶ディスプレイに「カイセンショウガイ レイヤ1ダウン」と表示される

INSネット64のモジュラコンセントからINSケーブルが抜けていないかどうか確認してください。

IR450/Dの場合、INSネット64の極性が反転していることがあります。INS回線リバーススイッチを逆側に切り替えてください。

回線はINSネット64に切替わっていますか？ INSネット64の窓口に問い合わせてください。

終端抵抗が正しく設置されているかどうか確認してください。

液晶ディスプレイに「カイセンショウガイ レイヤ2ダウン」と表示される

「自己診断」を行って原因を確認してください。●●参照▶「自己診断する」297ページ
診断結果が正常な場合、INSネット64の窓口に相談してください。

停電時にPWRランプが点滅しない

単3アルカリ乾電池が正しくセットされているか確認してください。また、単3アルカリ乾電池の容量がなくなっている場合は乾電池を交換してください。

停電モード切替スイッチをONにしているか確認してください。

IR450らくらくユーティリティやらくらくバージョンアップが起動しないとき 「Atermが見つかりません。・・・」または「Atermが接続されているポートが 見つかりません。・・・」と表示されるとき

パソコンとAtermを接続しているRS-232Cケーブルが、正しく接続されているか確認してください。

Atermを接続している接続設定ポートが間違っていないかパソコンのシリアルポートを確認してください。パソコンによっては複数のシリアルポートがあります。

ほかの通信ソフトを起動していないか確認してください。使用している場合は、通信ソフトを終了してください。

電話(アナログ機器)...

発着信できない

アナログ機器とAtermのアナログポートが正しく接続されているか確認してください。

ファクスやモデムの場合、アナログポートとの接続コードが「回線(LINE)」側のコネクタに接続されているか確認してください。

INSネット64のBチャンネルを2本とも使用していないか確認してください。データ通信でBチャンネルを2本とも使用している場合でアナログ機器の発着信を行いたいときは、リソースBOD機能を使用する設定を行ってください。

着信できない

電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って各アナログポートに接続した通信機器の種類が正しく設定されているか、設定内容を確認してください。

相手が一般のアナログ電話回線からの場合は、電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って「サブアドレスなし着信する」「グローバル着信する」の設定になっているか確認してください。

識別着信を設定している場合、電話帳で登録した相手かを確認してください。

識別着信を設定していると電話帳で登録した電話番号・サブアドレスともに一致した場合のみ着信を受け付けます。

ナンバー・ディスプレイを設定した場合に、ナンバー・ディスプレイ装置以外の機器を接続していないか確認してください。また、INSネット64のナンバー・ディスプレイサービスを利用する場合、アナログAポートに接続した機器のみ利用することができます。

発信できない

電話機やファクスなどの回線種別が「トーン側(PB と記載されていることもあります)」に設定されているか確認してください。

設定のしかたは、各アナログポートに接続した通信機器の取扱説明書を参照してください。

ファクス通信ができない

G4タイプファクスでないか確認してください。

アナログポートに接続したファクスは、G4モードに対応していないため、G4タイプファクスとは通信できません。

ファクスの回路自動選択機能がONになっているか確認してください。

回路自動選択機能は使用できません。手動で選択してください。

F ネットの無鳴動着信機能を利用していないか確認してください。

Aterm では対応していないため利用できません。

INSキャッチホンができない

INS ネット 64 の INS キャッチホンの契約をしているか確認してください。

詳しくは最寄りの INS ネット 64 の窓口まで問い合わせてください。

電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って、INS キャッチホンを利用する設定になっているか確認してください。

疑似キャッチホンができない

電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って疑似キャッチホンを利用する設定になっているか確認してください。

液晶ディスプレイに B1, B2 の両方がついていないか確認してください。疑似キャッチホンは両方のチャンネルが空いているときのみ利用できます。

三者通話ができない

INS ネット 64 の三者通話の契約をしているか確認してください。

詳しくは最寄りの INS ネット 64 の窓口まで問い合わせてください。

電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って三者通話を利用する設定になっているか確認してください。

着信転送ができない

INS ネット 64 の着信転送の契約をしているか確認してください。
詳しくは最寄りのINS ネット 64 の窓口まで問い合わせてください。

電話機(テレホン設定)や「らくらくユーティリティ」を使って着信転送元と着信転送先のアドレスが正しく入力されているか確認してください。

INSボイスワープサービスを利用できない

INS ネット 64 のINSボイスワープサービスの契約をしているか確認してください。
詳しくは最寄りのINS ネット 64 の窓口まで問い合わせてください。

ダイヤルイン契約をしている場合、発信者番号通知のサービスを契約をしているか確認してください。

データポートからの通信...

着信できない

データポートにサブアドレスを登録している場合、相手先が正しいサブアドレスを指定しているか確認してください。

識別着信を設定している場合、電話帳で登録した相手かを確認してください。

識別着信を設定していると電話帳で登録した電話番号・サブアドレスともに一致した場合のみ着信を受け付けます。

相手先とのネットワークプロトコルが合っているか確認してください。

インターネットに接続できない

プロバイダのアクセスポイントはISDN 回線用の番号か確認してください。

IDとパスワードなどの設定が正しいか確認してください。

また、プロバイダから配布された資料にあわせたDNSサーバのIPアドレスを設定しているか確認してください。

回線速度は、プロバイダのアクセスポイントに合っているか確認してください。

モデム定義ファイルやCCLファイルの設定は、プロバイダがサポートしている回線速度と合っているか確認してください。

無通信監視タイマが働かない

「らくらくユーティリティ」を使って無通信監視タイマを「監視する」設定になっているか、また、監視時間を確認してください。

強制切断タイマが働かない

「らくらくユーティリティ」を使って無通信監視タイマを「切断する」設定になっているか、また、切断するまでの時間を確認してください。

スループットBOD機能が使用できない

接続先相手とMP通信をしているか確認してください。スループットBOD機能は、MP通信時に使用できます。

「らくらくユーティリティ」を使って、スループットBODに関する各種設定が適切に設定されているか確認してください。

リソースBOD機能が使用できない

INS ネット 64 の通信中着信通知サービスの契約をしているか確認してください。

詳しくは最寄りのINS ネット 64 の窓口まで問い合わせてください。

接続先相手とMP通信をしているか確認してください。リソースBOD機能は、MP通信時に使用できます。

「らくらくユーティリティ」を使ってリソースBODの設定がされているか確認してください。

ルータ機能...

発着信できない

相手先の回線番号が間違っていないか確認してください。

送信ユーザID、送信パスワードが間違っていないか確認してください。

発信側、受信側の認証プロトコルが間違っていないか確認してください。

使用しているネットワークプロトコルが間違っていないか確認してください。

Atermのルータ機能ではTCP/IPを利用した通信のみ使用できます。

設定したAtermのIPアドレスがわからなくなった

工場出荷時の状態に戻してください。

設定した内容はすべて消えてしまいますので、最初から設定をやりなおしてください。

パスワードがわからなくなった

工場出荷時の状態に戻してください。

設定した内容はすべて消えてしまいますので、最初から設定をやりなおしてください。

WWWブラウザから設定画面が表示できない。

パソコンとAtermが、正しくつながれていることを確認してください。

LANケーブルがきちんと差し込んであることを確認してください。

LANケーブルの種類が間違えていないか確認してください。

接続するLANケーブルは、ストレートケーブルを使用してください。

背面の「カスケード切替スイッチ」が正しく設定されていることを確認してください。

パソコンに設定したIPアドレスやサブネットマスクが、間違っていないか確認してください。

WWWブラウザの設定でProxyサーバの設定が有効になっていないこと確認してください。

WWWブラウザの設定で、接続がLAN経由になっていることを確認してください。

AtermのIPアドレスを変更したら設定画面が表示できない

パソコン側のIPアドレスを確認してください。

Atermと同じサブネットに設定されていないと接続できません。

AtermのDHCPサーバ機能を利用している場合は、Atermとパソコンを再起動してください。

AtermのDHCPサーバ機能を利用していない場合は、各パソコンの設定方法に従って、IPアドレスを正しく設定してください。

自動接続できない

デフォルトルートが指定されていることを確認してください。

コネクションマネージャで「自動接続を禁止」が選択されていないことを確認してください。

USBポートが利用できない

USBケーブルがきちんと差し込んであることを確認してください。

AtermIR450専用のUSBドライバが正しくインストールされているか確認してください。

使用しているネットワークプロトコルが間違っていないか確認してください。

AtermのUSBポートで使用できるプロトコルはTCP/IPのみです。

10-2 自己診断する

自己診断機能を使って、Atermのハードウェアに異常がないかを確認することができます。試験するハードウェアブロックを下の表に示します。

被試験ブロック名	試験内容
FLASH	フラッシュメモリの読み込みが正常か確認します
RAM	RAMの読み込み/書き込みが正常か確認します
TCU	タイマ制御ユニットが正常か確認します
LINE	ISDNインターフェースを制御するS点インターフェース制御部が正常か確認します
HDLC	通信受送信データの制御部が正常か確認します
OPTION	S点ユニット制御部が正常か確認します
USB	USBがポート制御部が正常か確認します

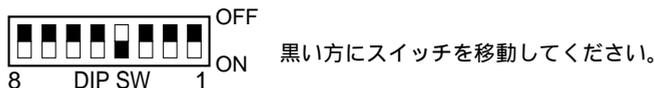


自己診断を行っている最中は、途中で電源を切らないでください。電源を切るとAtermでバックアップしている内容が正しく保持されないことがあります。

試験方法

手順

- 1 電源を切ります。
- 2 ディップスイッチを下図のように設定します。



- 3 電源を入れます。
電源を入れると自動的に試験が始まります。

正常に終了したとき

ブザーがピピピ・・・と鳴った後にMSGランプが緑色に点滅します。
液晶ディスプレイには「シンダン テストOK」と表示されます。

異常を発見したとき

自己診断で異常が発見されるとMSGランプが赤色に点灯し、ブザーが鳴り続けます。どのハードウェアブロックに異常があったかは液晶ディスプレイで確認することができます。

被試験ブロック名	異常時のLCD表示
FLASH	Error FLASH
RAM	Error RAM
TCU	Error TCU
LINE	Error LINE
HDLC	Error HDLC
OPTION	Error OPTION
USB	Error USB

異常があった場合は、購入された販売店、または300ページに示すNECサービスステーションへ持参してください。

3**試験の終了**

電源を切ってディップスイッチを元の設定に戻します。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧

切断理由表示一覧...

	AT#Cコマンド表示 らしく表示	理由種別
正常クラス	001	欠番
	002	中継網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャンネル不許可
	007	設定済みのチャンネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼び出し中、応答なし
	021	相手ユーザ通信拒否
	022	相手端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末未故障中
	028	無効番号フォーマット（不完全番号）
	029	ファシリティ拒否
030	状態問い合わせ応答	
031	その他	
リソース使用 不可クラス	034	利用可回線 / チャンネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
	044	要求チャンネル利用不可
047	その他	
サービス提供 不可クラス	049	QOS利用不可
	050	要求されたファシリティ不可
	057	伝達能力不許可
	058	現在利用不可伝達能力
	063	その他
未提供 サービスクラス	065	未提供伝達能力指定
	066	未提供チャンネル種別指定
	069	未提供ファシリティ要求
	070	制限デジタル情報能力のみ可能
	079	その他

	AT#Cコマンド表示 らくらく表示	理 由 種 別
無効 メッセージ クラス	081	無効呼番号使用
	082	無効チャンネル番号使用
	083	指定された中断呼識別番号未使用
	085	中断呼なし
	086	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	088	端末属性不一致
クラス無効 メッセージ	091	無効中継網選択
	095	その他
手順誤り クラス	096	必須情報要素不足
	097	メッセージ種別未定義
	098	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義
	099	情報要素なし、または未定義
	100	無効情報要素内容
	101	呼状態とメッセージ不一致
	102	タイマ満了の回復
	111	その他
インタワーキング	127	その他

診断情報表示一覧...

AT#L1コマンド表示 らくらく表示	診 断 情 報
000	本ポートは正常に着信を受け付けました。
201	本ポートは使用中のため着信を受け付けませんでした。
211	本ポートの着信番号設定とINSネット64からの宛先番号が一致していないため着信を受け付けませんでした。着信番号設定を確認してください。
212	本ポートのグローバル着信設定が「着信しない」に設定されているため、グローバル着信を受け付けませんでした。グローバル着信設定を確認してください。
213	本ポートの自己サブアドレス設定とINSネット64からの宛先サブアドレスが一致していないため着信を受け付けませんでした。自己アドレス設定を確認してください。
214	本ポートのサブアドレスなし着信設定が「着信しない」に設定されているため、サブアドレスなし着信を受け付けませんでした。サブアドレスなし着信設定を確認してください。
215	本ポートの識別着信設定が「着信する」になっており、短縮・識別番号設定に相手からの発信番号と一致するものがなかったため着信を受け付けませんでした。識別着信設定、および短縮・識別番号設定を確認してください。
221	着信があったポートのHLC設定がINSネット64からからの着信通知のなかのHLCと一致しませんでした。HLCの設定を確認してください。
231	パケット端末からの着信がきましたが、着信を拒否しました。

AT¥ L1コマンド表示 示らくらく表示	診 断 情 報
312	INSネット64からの着信通知のなかの伝達能力ユーザ情報レイヤ1プロトコルが違っていました。
313	INSネット64からの着信通知のなかの伝達能力ユーザ速度が56Kbpsでしたので着信を拒否しました。
323	INSネット64からの着信通知のなかのLLCユーザ速度が本TAの速度設定と不一致でした。「着信速度チェックしない」に設定し、通信速度が異なるパソコン同士でも通信できるようにしてください。
325	INSネット64からの着信通知のなかのLLC中間速度が本TAの受けられない速度のため拒否しました。
326	INSネット64からの着信通知のなかのLLCフロー制御が本TAの設定と不一致でした。本TAのフロー制御方式設定をしてください。
327	INSネット64からの着信通知のなかのLLCストップビット長、データビット長、パリティ情報が本TAの設定と不一致でした。通信相手と設定を合わせてください。
331	G4ファクシミリからの着信でした。相手側の装置を確認してください。
341	データポート通信中、またはアナログポート通信中で2チャンネル使用のため着信が受け付けられませんでした。
371	電子メール着信通知またはUIメール通知がありました。
402	停電中のためアナログB、Cポートへの着信は受け付けませんでした。
411	アナログポートの設定「使用しない」になっているため着信を受け付けませんでした。アナログポート設定を確認してください。
421	内線通話中にチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
422	使用していないアナログポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
423	疑似キャッチホン設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
424	キャッチホンなしの設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
431	優先着信ポートの設定がされているため、優先着信ポートが着信を受けました。そのため、優先着信ポートでないアナログポートには着信しませんでした。
999	その他の理由

生成源表示一覧...

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	場 所
00	ユーザ自身
01	ユーザが直接接続する私設網
02	ユーザが直接接続する国内網
03	中継網
04	相手ユーザが直接接続する国内網
05	相手ユーザが直接接続する私設網
07	国際網
10	インタワーキング先の網

付録

らくらくバージョンアップ

TA機能によるインターネット接続のための手動設定のしかた
(Windows98/Windows95)

プロバイダのDNSサーバアドレスの調べ方

接続テスト(通信試験)

機能一覧

別売りオプション

設定記入シート

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

らくらくバージョンアップ

Atermは、添付の「IR450らくらくバージョンアップ」を使って、Aterm本体内部のソフトウェア（これをファームウェアということもあります）をバージョンアップすることができます。

バージョンアップにはルータのパスワードが必要になります。

「IR450らくらくバージョンアップ」を使用するには、あらかじめ、添付のRS232CケーブルでAtermとパソコンを接続しておく必要があります。

USBポートや、10BASE-Tポートからのバージョンアップはできません。

お使いのパソコンのOSによって「IR450らくらくバージョンアップ」の操作方法が異なります。

Aterm内部のソフトウェアをバージョンアップする手順の概要を説明します。

手順

- 1 インターネットに接続します。
- 2 AtermStationのホームページにアクセスします。
- 3 AtermStationから新しいソフトウェアをダウンロードして、入手します。
- 4 IR450らくらくバージョンアップユーティリティの中で、新しいソフトウェアを指定します。

各手順の具体的な説明をします。

RS232Cケーブルの接続の確認をする

らくらくバージョンアップを起動する前には必ず、添付のRS232CケーブルでAtermとパソコンを接続してください。

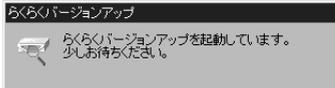
接続方法は、導入マニュアル「3-3ケーブルの接続のしかた」を参照してください。

Windows98/Windows95/Windows NT4.0の場合...

手順

Windows95 の画面で説明します。

- 1 タスクバーの **スタート** [プログラム] [AtermIR450 ユーティティ] [IR450 らくらくバージョンアップ] の順に選択します。



- 2 [らくらくバージョンアップ] の画面が表示されます。

ホームページにアクセス ボタンをクリックします。

バージョンアップ用のソフトウェアをお持ちの場合は、**次へ** ボタンをクリックし、手順 4 から操作してください。

接続方法は、TA 機能でもルータ機能のどちらでもかまいません



ホームページにアクセス
ボタン

プロバイダに接続され、WWW ブラウザが起動し AtermStation にアクセスされます。

AtermStation のメニュー「Version Up」にアクセスします。

Aterm の最新のファームウェア、ユーティリティをクリックします。

インターネットエクスプローラからの指示にしたがいソフトウェアをダウンロードし、パソコンに保存します。保存したファイルの場所と名前をメモしておきます。

「お読みください」や「readme」というファイルがあれば内容を読んでおきます。

プロバイダとの接続を終了します。



ほとんどの場合、ダウンロードしたファームウェア、ユーティリティは、自己解凍形式の実行ファイル、または圧縮ファイルになっています。ダウンロードしたファイルをダブルクリックすることなどにより、解凍して使用してください。

3 「らくらくバージョンアップ」の画面にもどります。

次へ ボタンをクリックします。

4 「AtermIRの確認」画面が表示されます。

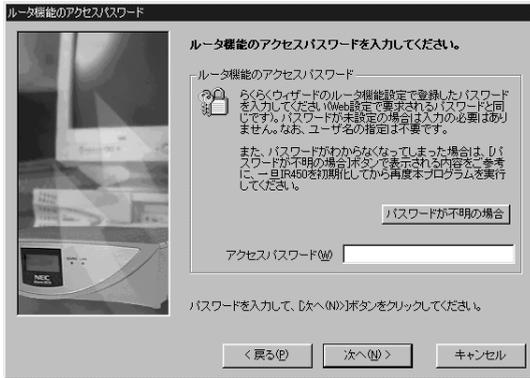
内容を確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



5 ダウンロードしたソフトウェアを選択し **次へ** ボタンをクリックします。



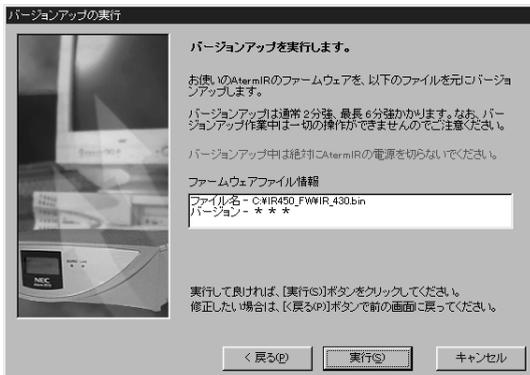
- 6 「ルータ機能のアクセスパスワード」画面が表示されます。Atermのルータ機能を一度使用された方は、Atermへのアクセスパスワードを入力してください。そうでない方は、そのまま **次へ** ボタンをクリックしてください。



バージョンアップには、ルータのパスワードが必要となります。もし、パスワードをお忘れの場合には、Atermを工場出荷時に戻す必要があります。

また、Atermを工場出荷時に戻すと設定済みの全情報が消えてしまいますので、あらかじめ、らくらくユーティリティの設定内容、ルータのWEB設定画面を開くことが出来る場合は、ルータの設定内容の控えを取ってください。Atermを工場出荷時に戻すには、導入マニュアルの「2-3 ディップスイッチについて」を参照してください。

- 7 **実行** ボタンをクリックします。

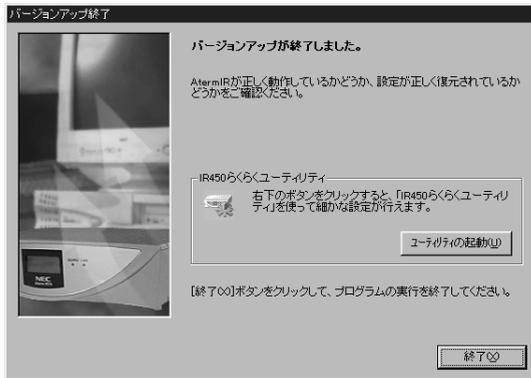


新バージョンは表示されません。

バージョンアップが始まります。



- 8 AtermのPWRランプが緑色に点灯するのを待ちます。
緑色に点灯したら、**終了** ボタンをクリックします。



バージョンアップの途中で次のような画面がでたときは、何らかの傷害が発生しました。**OK** ボタンをクリックして再度バージョンアップ操作をしてください。



Macintoshの場合...

バージョンアップをするときは、あらかじめ「AtermStation」のホームページから最新のファームウェアをダウンロードしておきます。

「AtermStation」のホームページアドレスは「<http://aterm.cplaza.ne.jp/>」です。

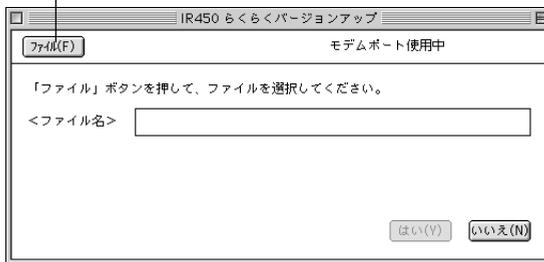
バージョンアップを行うことにより、ルータ関連の設定は初期設定に戻りますので、あらかじめ設定内容を控えておいてください。

手順

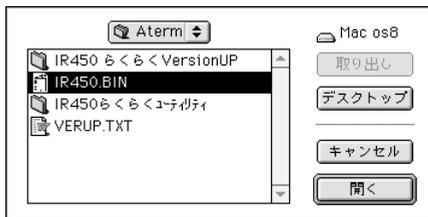
- 1 [IR450ユーティリティ]フォルダをダブルクリックします
- 2 表示された[IR450らくらくバージョンアップ]をダブルクリックします

- 3 **ファイル** ボタンをクリックします

ファイル ボタン



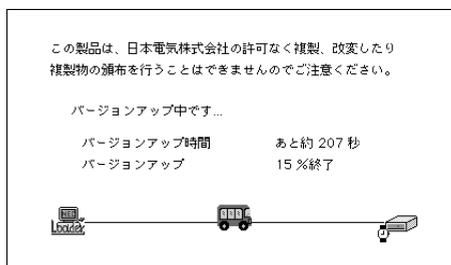
- 4 あらかじめダウンロードしておいた、最新のファームウェアファイルを選択し、**開く** ボタンをクリックします



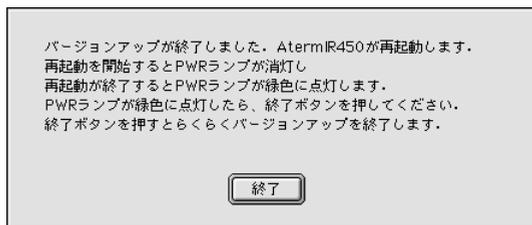
5 **はい** ボタンをクリックします



バージョンアップを始めます。



6 Aterm が再起動し、PWR ランプが点灯したら **終了** ボタンを押してください。 らくらくバージョンアップの終了です。



TA機能によるインターネット接続のための 手動設定のしかた(Windows98/Windows95)

ここでの設定は、らくらくウィザードを使用しないでTA機能を設定する方法です。

Windows98/Windows95の手動設定の手順

Atermをモデムとしてセットアップ

ダイヤルアップネットワークの確認

- 参照 導入マニュアル「4-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定
-②ダイヤルアップネットワークの確認」

ネットワークプロトコルの確認

プロバイダの設定

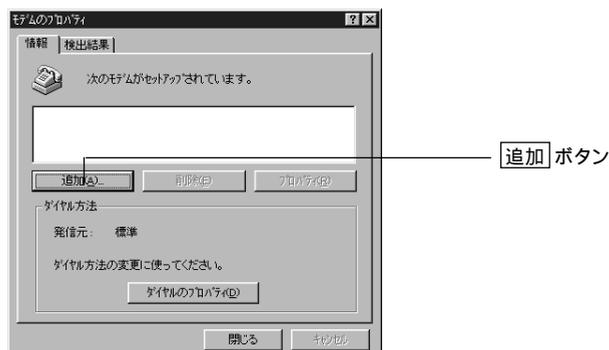
Atermをモデムとしてセットアップ...

Atermを初めて使用するときは、Atermを「使用するモデム」としてセットアップする必要があります。この操作は、最初に一度行えば、あとは必要ありません。

画面は、Windows95の例です。パソコンの種類によって、またWindows98とは画面が多少異なる場合があります。

手順

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックします。
- 3 CD-ROMドライブに、添付のCD-ROMをセットし、[モデムのプロパティ]画面の **追加** ボタンをクリックします。



4 [モデムウィザード]画面が表示されます。

Windows95を使用している環境によっては、この画面が表示されない場合があります。この場合、手順6に進んでください。

[ハードウェアウィザードを実行しない]をクリックしてチェックマークを付けます。

ボタンをクリックします。

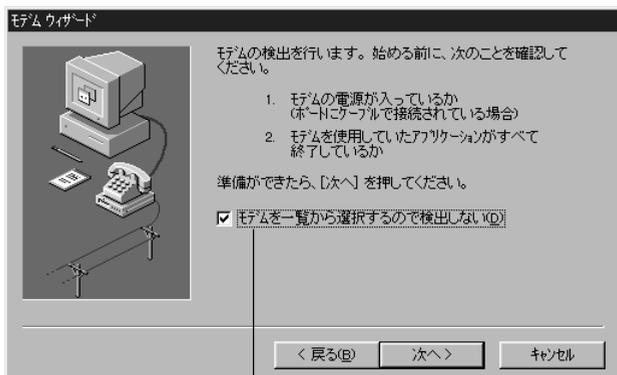


[ハードウェアウィザードを実行しない]

5

[モデムを一覧から選択するので検出しない]をクリックしてチェックマークを付けます。

ボタンをクリックします。



[モデムを一覧から選択するので検出しない]

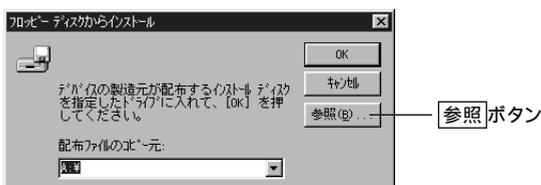
6 モデムの[製造元]と[モデム]の選択画面が表示されます。

ディスク使用 ボタンをクリックします。



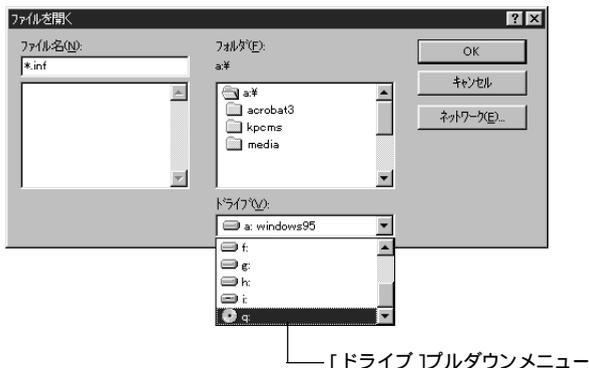
7 [フロッピーディスクからインストール]画面が表示されます。

参照 ボタンをクリックします。

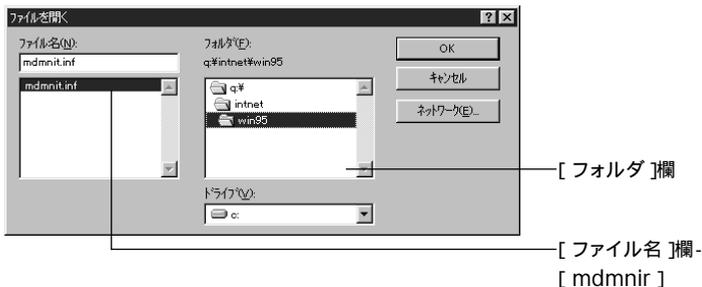


8 [ファイルを開く]画面が表示されます。

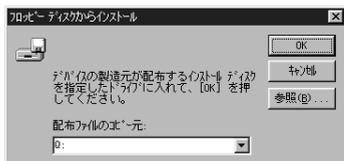
[ドライブ]プルダウンメニューから、添付のCD-ROMをセットしたCD-ROMドライブを選択します。



- 9 [フォルダ]欄から[inetnet]をダブルクリックし、さらに[win95]をダブルクリックします。[ファイル名]欄に[mdmnir]が表示されます。
OK ボタンをクリックします。



- 10 [フロッピーディスクからインストール]画面に戻ります。
OK ボタンをクリックします。



- 11 [モデムウィザード]画面が表示されます。
 通信する相手先に合わせて使用するモデムを選んでクリックします。
次へ ボタンをクリックします。



モデムは、プロバイダのアクセスポイントにより異なります。不明な場合は、加入したプロバイダに問い合わせてください。

アクセスポイントの条件	選択するモデム
非同期	AtermIR ASYNC115
64kbps 同期	AtermIR SYNC115
128kbps マルチリンク PPP	AtermIR MP128

12 Atermが接続されているポートをクリックします。

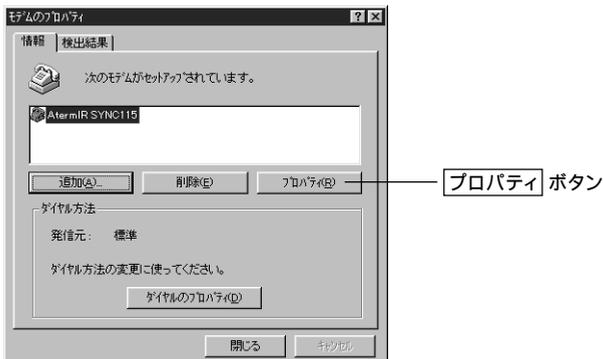
次へ ボタンをクリックします。

13 「モデムは正常にセットアップされました。」というメッセージを確認し、**完了** ボタンをクリックします。

14 [モデムプロパティ]画面が表示されます。

選択したモデムが表示され、選択されていることを確認 (選択されていない場合は、クリックして選択してください) し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

このメッセージが表示される前に、所在地を設定する画面が表示されることがあります。その場合は必要な設定を行って、**OK** ボタンをクリックします。



- 15 [最高速度]プルダウンメニューから、次の表に合わせた最高速度を選択します。
[OK] ボタンをクリックします。



[最高速度]プルダウンメニュー

モデム情報	最高速度
AtermIR ASYNC115	57600または115200
AtermIR SYNC115	115200
AtermIR MP128	230400

「230400」に設定するには、市販の高速シリアルボードが必要になります。詳細はパソコンの取扱説明書を参照してください。



最高速度とは、パソコンとAterm間の最高速度のことで、インターネットの通信速度のではありません。通常、インターネットの速度より高く設定します。

- 16 [モデムプロパティ]画面に戻ります。
[閉じる] ボタンをクリックして[モデムプロパティ]画面を終了します。
 続けて別のモデム情報をインストールする場合は、**[追加]** ボタンをクリックし、手順3～16を行ってください。

ネットワークプロトコルの確認...

ここでは、インターネットへダイヤルアップ接続に必要なネットワークプロトコルの設定をします。

ダイヤルアップネットワークを確認していない方は、導入マニュアルの「4-3-2TA機能でインターネットへ接続するための設定」②「ダイヤルアップネットワークの確認」を参照してください。

手順

- 1 タスクバーの「スタート」 [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ネットワークの設定]タグで[Microsoft ネットワーク クライアント]と[TCP/IP]が表示されていることを確認します。



表示されている場合 : 330ページの「プロバイダの設定」に進んでください。

表示されていない場合 : 次の「ネットワークプロトコルのインストール」を行ってください。

ネットワークプロトコルのインストール

ネットワークプロトコルのインストールでは、「Microsoft ネットワーク クライアント」と「TCP/IP」を追加します。

手順

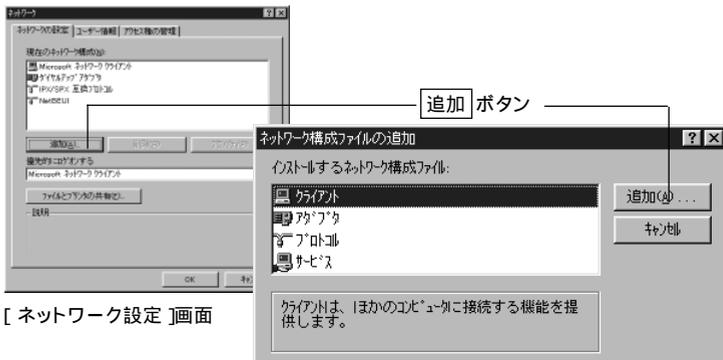
Microsoft ネットワーク クライアントの追加

1

前ページ「ネットワークプロトコルの確認」で手順3の[ネットワークの設定] タグより、**追加** ボタンをクリックします。

[ネットワーク構成ファイル追加]画面が表示されます。

[クライアント]を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワーク設定]画面

[ネットワーク構成ファイル追加]画面

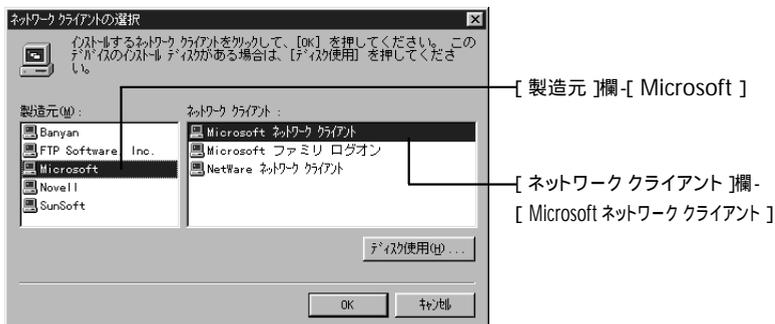
2

[ネットワーククライアントの選択]画面が表示されます。

[製造元]欄で[Microsoft]を選択します。

[ネットワーククライアント]の欄で[Microsoft ネットワーク クライアント]を選択します。

OK ボタンをクリックします。



[製造元]欄-[Microsoft]

[ネットワーク クライアント]欄 -
[Microsoft ネットワーク クライアント]

3

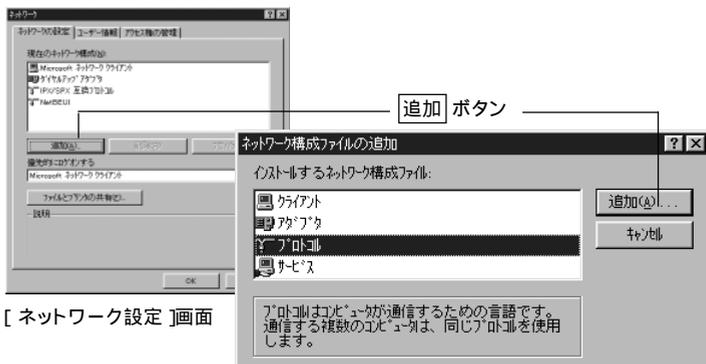
[ネットワークの設定]タグに戻ります。

[Microsoft ネットワーク クライアント]が追加されていることを確認してください。

TCP/IP プロトコルの追加

4

- [ネットワークの設定]タグより、**追加** ボタンをクリックします。
 [ネットワーク構成ファイル追加]画面が表示されます。
 [プロトコル]を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワーク設定]画面

[ネットワーク構成ファイル追加]画面

5

- [ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。
 [製造元]欄で[Microsoft]を選択します。
 [ネットワークプロトコル]欄で[TCP/IP]を選択します。
OK ボタンをクリックします。



6

- [ネットワークの設定]タグに戻ります。
 [ネットワークの設定]タグで**OK** ボタンをクリックします。
 「再起動しますか」と表示されますので、**はい** ボタンをクリックします。
 パソコンが再起動されます。

以上でネットワークプロトコルのインストールは完了です。

プロバイダの設定...

プロバイダに接続するための設定を行います。設定の内容はプロバイダごとに異なりますので、詳細は加入したプロバイダにお問い合わせください。

アクセスポイントを設定する

手順

- 1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
マイコンピュータ画面が表示されます。
- 2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
ダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときは、[ダイヤルアップネットワークによるこそ]画面が表示されます。この場合は、**次へ** ボタンをクリックしてください。この画面は次回から表示されません。
- 3 [ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。
[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



- 4 [接続名]欄にわかりやすい接続名(プロバイダ名や通信速度など)を入力します。
[モデム選択]プルダウンメニューから「Aterm」をモデムとしてセットアップ、
の手順11で選択したモデムを選択します。
次へ ボタンをクリックします。

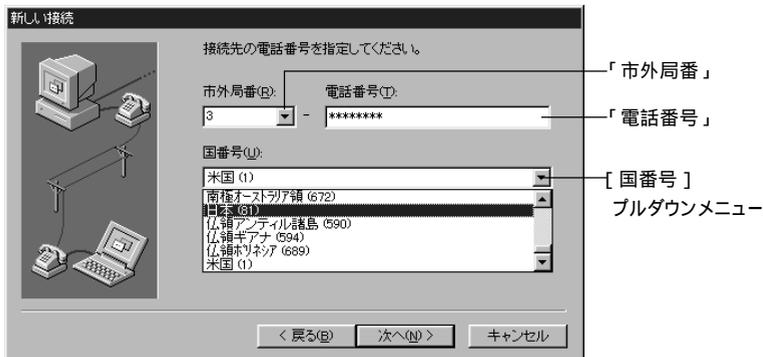


5 接続先の電話番号を設定する画面が表示されます。

[市外局番] 欄と[電話番号] 欄にアクセスポイント先の「市外局番」と「電話番号」を入力します。

[国番号] プルダウンメニューから、[日本(81)] を選択します。

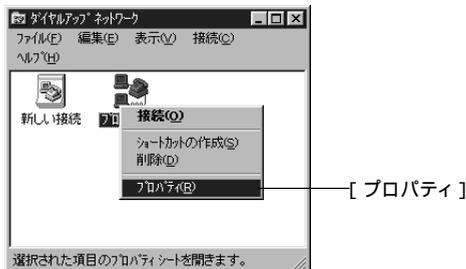
[次へ] ボタンをクリックします。



6 [完了] ボタンをクリックします。



7 [ダイヤルアップネットワーク]画面より手順4で設定した接続名のアイコンを選択し、右クリックをして[プロパティ]を選択します。



8 設定した接続名の画面が表示されます。

Windows95のバージョンにより、画面が異なる場合があります。

サーバーの種類 タグ、またはボタンをクリックします。



9 [サーバーの種類]画面が表示されます。

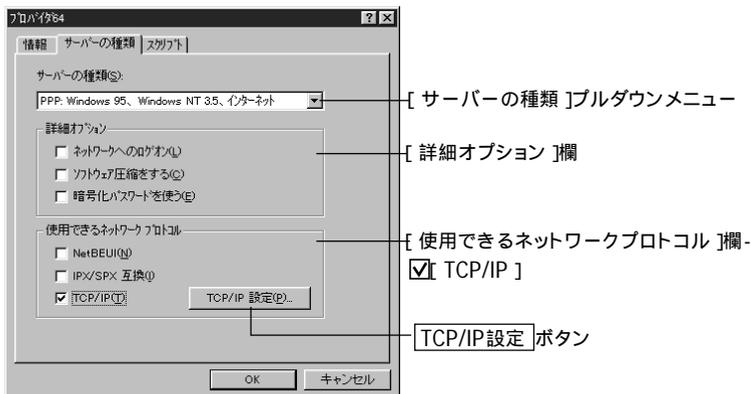
Windows95のバージョンにより、画面が異なる場合があります。

[サーバーの種類]プルダウンメニューから[PPP:Windows95, Windows NT3.5, インターネット]を選択します。

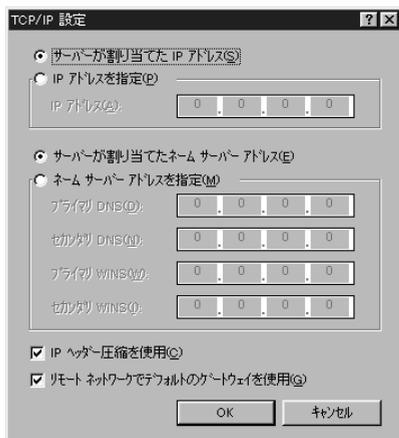
[詳細オプション]欄は、プロバイダの案内に従って設定します。

[使用できるネットワークプロトコル]欄は、 TCP/IP のみにクリックしてチェックマークを付けます。

サーバーの種類の内容を設定したら、**TCP/IP設定** ボタンをクリックします。



- 10 [TCP/IP 設定]画面が表示されます。
プロバイダの案内に従って設定します。
OK ボタンをクリックします。



- 11 [サーバーの種類]画面に戻りますので、**OK** ボタンをクリックし、設定した接続名の画面でもう一度 **OK** ボタンをクリックします。

以上でプロバイダの設定は終了です。

インターネットへ接続する場合は、導入マニュアルの「4-3-2 TA 機能でインターネットへ接続するための設定-⑤TA機能でインターネットに接続する...」を参照してください。

プロバイダのDNSサーバアドレスの調べ方

一部のプロバイダ(MSN など)においてはDNSサーバアドレスが公開されておらず、回線接続時に行われるプロトコルネゴシエーションにおいてのみ、DNSサーバアドレスが動的に通知されます。

AtermIR450では、DNSサーバアドレスの設定が必須条件となっており、DNSサーバのアドレスを設定しないと、DNSサーバへのアクセスができなくなります。

DNSサーバアドレスの調べ方...

Windows98/Windows95の場合

注意

この時、ネットワークのプロパティにおける、TCP/IPの設定で、すでにDNSの指定がAtermや他のDNSサーバに指定されている場合には、正しく表示されません。あらかじめ「DNSを使わない」に指定して下さい。

1. パソコンがAtermや他のDHCPサーバ(DNSサーバ)と接続されている場合、LANケーブル(またはUSBケーブル)をはずして、パソコンを再起動してください。
2. Atermのデータポートにパソコンを接続します。
3. 通常のターミナルアダプタを用いた際のインターネット接続と同様に、TA機能を用いてインターネットに接続します。
4. 「MS-DOS プロンプト」を開き、コマンドラインにて以下のコマンドを入力します。
WINIPCFG /ALL
5. WINIPCFGのウィンドウが開きますので、「ホスト情報」の「DNSサーバ」の項目にあるアドレスをご使用下さい。



Window NT4.0の場合

Windows98/Windows95 の場合の注意に従ってください。また、手順も1～3まで同様です。次に、「コマンドプロンプト」を開き、コマンドラインにて以下のコマンドを入力します。

```
IPCPNFIG /ALL
```

Windows NT IP Configurationが表示されますので、DNSサーバのIPアドレスが表記されている部分を探して確認してください。

Macintoshの場合

1. AtermのデータポートにMacintoshを接続します。
2. アップルメニューのコントロールパネルより「PPP」または「リモートアクセス」を選択して起動します。
3. 表示されたウィンドウ内の「オプション」をクリックし、「接続」タグの「詳しい情報も記録する」のチェックボックスにチェックを入れて、「OK」をクリックします。
4. 「接続」をクリックして、インターネットに接続し、正しく接続が確立されるのを確認したら切断します。
5. メニューバーの「PPP」の中にある「作業記録」を選択します。
6. PPPの作業ログが表示されますので、その中から割り当てられたDNSサーバのIPアドレスが表記されている部分を探して確認してください。

表示例：

```
99.4.15 8:30 AM IPCP: >> Primary-DNS-Address = XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
99.4.15 8:30 AM IPCP: >> Secondary-DNS-Address = YYY.YYY.YYY.YYY
```

の様になります。この場合、XXX.XXX.XXX.XXXをプライマリDNSに、YYY.YYY.YYY.YYYをセカンダリDNSに設定して下さい。

(ソフトウェアのバージョンや、機種によって表示が異なることがあります)

接続テスト(通信試験)

既存のLANにあるパソコンから、Atermとの通信ができることを確認します。
Windows98/Windows95、Windows NT4.0の既存のLANにあるパソコンから、次の操作を行ないます。

手順

次の手順で確認します。

1 **スタート** [プログラム] [MS-DOSプロンプト] [Windows NT4.0は[コマンドプロンプト]]を選択します。

2 「ping」(Atermのアドレス)と入力し、[Enter]キーを押します。

例

C:¥WINDOWS>ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=3ms TTL=64

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=1ms TTL=64

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=2ms TTL=64

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=1ms TTL=64

timeの数字は任意

上記のように表示されれば、Atermとの通信ができています。

C:¥WINDOWS>ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Request timed out.

Request timed out.

Request timed out.

Request timed out.

上記のような場合は、Atermとの通信ができていないため、接続ケーブルや、手順をもう一度確かめてください。

機能一覧

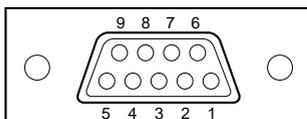
仕様...

項目		諸元および構成	備考
接続回線		INSネット64またはOCNエコノミー回線 [IR450/D] DSU機能内蔵(折り返し機能有)	
交換形態/ 使用チャンネル		回線交換/Bチャンネル (P-MP常時起動またはP-MP呼毎起動)	
コネクタ形状		IR450/D 6ピンモジュラジャック(RJ-11)	
		IR450 8ピンモジュラジャック(RJ-45)	
データ 端末 インタ フェー ス	インタフェース	データポート：V.24/V.28(RS-232C)	ISO2110準拠 (9ピン)
	呼接続機能	ATコマンド(米国Hayes社モデムコマンド準拠)	
	通信速度(kbps)	非同期：1.2/2.4/4.8/9.6/14.4/19.2 [28.8/38.4/57.6]フロー制御、異速度通信可 同期通信：64/128 同期通信は非同期/同期PPP変換通信(64kbps) マルチリンクPPP通信(128Kbps)時のみ	[]内は V.110規格外
	端末速度	データポート(Kbps) 非同期：1.2/2.4/4.8/9.6/14.4/19.2 [28.8/38.4/57.6/115.2/230.4]	[]内は V.28規格外
	速度整合方式	ITU-T V.110準拠 (非同期28.8/38.4/57.6Kbps拡張) (非同期/同期PPP変換機能有り)	
アナログ 端末 インタ フェー ス	基本仕様	接続コネクタ：6ピンモジュラジャック ポート数：3ポート 受信ダイヤル：PB信号のみ 供給電圧：48V(無負荷時) 極性反転：アナログA・B・Cポート アナログ端末ブランチ接続不可	
E T H E R N E T ・ I n t e r f a c e s	インタフェース	USBポート：USBポート×1ポート 10BASE-Tポート：10BASE-T(IEEE802.3)×4ポート (内1ポート：カスケード切り替えスイッチ付)	
	呼接続機能	自動発信 無通信監視タイマによる自動切断/強制切断	
	端末度(Mbps)	USBポート：12 10BASE-Tポート：10	
	通信速度(kbps)	同期通信：64/128	
	通信プロトコル	同期通信：PPP、MP (スループットBOD、リソースBOD、BACP)	
	サポート プロトコル	IP	

項目	諸元および構成		備考
ヒューマン インタフェース	LCD表示 (バックライト付き12文字×2行+ピクトグラム) 状態表示LED×4 (2色LED) 10BASE-Tポートモニタ ディップスイッチ 停電モード設定スイッチ カスケード切り替えスイッチ INS回線リバーススイッチ [IR450/D] 終端抵抗設定スイッチ [IR450]		
診断機能	自己診断機能		
電源	電源内蔵 AC100V±10% 50/60Hz 停電モード時、アルカリ単三乾電池6本 (アナログAポート動作可能)		
消費電力	約9.5W (最大)		
外形寸法 / 重量	IR450/D	約(W)205×(H)60×(D)158/0.80kg	突起部を除く 乾電池を除く
	IR450	約(W)205×(H)60×(D)158/0.71kg	
使用条件	温度0～40 湿度10～90%RH		VCCIクラスA

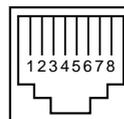
コネクタ仕様...

RS232C コネクタ (D-SUB9 ピン)



ピン	信号	方向	内容
1	CD		キャリア検出
2	RD		受信データ
3	SD		送信データ
4	ER		データ端末レディ
5	SG		信号用設置
6	DR		データセットレディ
7	RS		送信要求
8	CS		送信可
9	CI		被呼表示

10BASE-T コネクタ



ピン	信号	内容
1	TD+	送信データ+
2	TD-	送信データ-
3	RD+	受信データ+
4	NC	未使用
5	NC	未使用
6	RD-	受信データ-
7	NC	未使用
8	NC	未使用

別売りオプション

AtermIR450/DにはS点ユニットがオプションで用意されていますので、ISDN機器を増設することができます。

S点ユニット(PC-IT/U02)

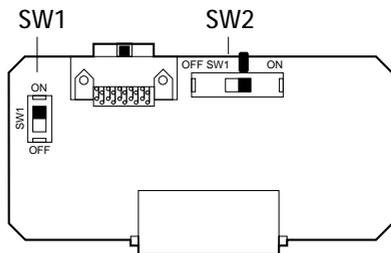


AtermIR450/Dのみ使用可能です。
高性能S点ユニットは使用できません。

S点ユニットについて...

S点ユニットは、モジュラローゼットと同じはたらきをします。

S点ユニットには、2つのスイッチがあります。ISDN機器の接続のしかたによってスイッチ設定が必要です。詳しくは添付の取扱説明書を参照してください。

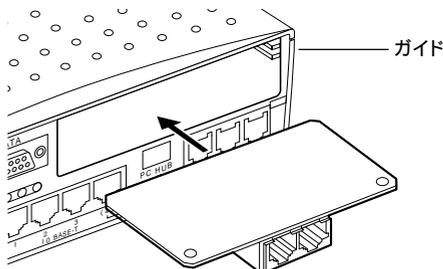


SW1 : 終端抵抗をON/OFFします。
SW2 : DSU機能をON/OFFします。

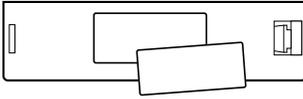
S点ユニットの取り付けかた...

手順

- 1 S点ユニットカバーを取り外します。
- 2 S点ユニットをガイドに沿って奥までしっかり差し込みます。



3 S点ユニットカバーの中央のツメを折り、カバーを取り付けます。



注意

- ・S点ユニット用カバーを取り外した際に、異物をスロット内部に入れないでください。故障の原因になります。
- ・はんだ面にふれないようにしてください。けがをするおそれがあります。
- ・取り付ける場合は、無理に押し込まないでください。

その他

9
A
T
コ
マ
ン
ド10
お
困
り
の
と
き
は付
録

設定記入シート

保守上で必要となる貴重なものです。設置時に記入の上、大切に保管してください。

は初期値です。

商品名(Lot No.) ()	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </table>									8							1	OFF ON																
8							1																											
ディップスイッチの内容																																		
TA機能																																		
<input type="checkbox"/> i・ナンバー <input type="checkbox"/> 使用しない																																		
アナログポートA アナログポートB アナログポートC データポート	電話番号 _____ _____ _____ _____	グローバル着信 <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																																
<input type="checkbox"/> i・ナンバー <input type="checkbox"/> 使用する																																		
i・ナンバー情報1 i・ナンバー情報2	電話番号 _____ _____	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="4">着信するポート</th> <th colspan="4">発信するポート</th> </tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>データ</th> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>データ</th> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	着信するポート				発信するポート				A	B	C	データ	A	B	C	データ	<input type="checkbox"/>															
着信するポート				発信するポート																														
A	B	C	データ	A	B	C	データ																											
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																											
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																											
アナログAポート [1]																																		
発信者番号通知[09] 接続機器[01] キャッチホン[02] 受話音量[12] 情報通知サービス[10] 停電時の着信[22] 停電時のリング[22] 自己サブアドレス[93] サブアドレスなし着信[06] ナンバーディスプレイの サブアドレスの通知 ダイヤル桁間タイマ[07] フッキング検出タイマ[08] HLC(高位レイヤ整合性)[04] 識別着信[03]	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> FAX/モデム <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> INSキャッチホン <input type="checkbox"/> 疑似キャッチホン <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> ナンバーディスプレイを使用する <input type="checkbox"/> 着信する <input type="checkbox"/> 着信しない <input type="checkbox"/> リングが鳴る <input type="checkbox"/> ブザーが鳴る	<input type="checkbox"/> INSネット64の申込通り <input type="checkbox"/> 接続しない(使用しない) <input type="checkbox"/> 11秒 <input type="checkbox"/> 13秒 <input type="checkbox"/> HLCを設定しない <input type="checkbox"/> HLCを設定し、着信判定する <input type="checkbox"/> HLCを設定するが着信判定はしない <input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う																																
アナログBポート [2]																																		
発信者番号通知[09] 接続機器[01] キャッチホン[02] 受話音量[12] 自己サブアドレス[93] サブアドレスなし着信[06] サブアドレスの通知[10] ダイヤル桁間タイマ[07] フッキング検出タイマ[08] HLC(高位レイヤ整合性)[04] 識別着信[03]	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> FAX/モデム <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> INSキャッチホン <input type="checkbox"/> 疑似キャッチホン <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大	<input type="checkbox"/> INSネット64の申込通り <input type="checkbox"/> 接続しない(使用しない) <input type="checkbox"/> 11秒 <input type="checkbox"/> 13秒 <input type="checkbox"/> HLCを設定しない <input type="checkbox"/> HLCを設定し、着信判定する <input type="checkbox"/> HLCを設定するが着信判定はしない <input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う																																

アナログポート [2]

- 発信者番号通知[09] 行わない 行う INSネット64の申込通り
 接続機器[01] 電話 FAX/モデム 接続しない(使用しない)
 キャッチホン[02] 使用しない INSキャッチホン 疑似キャッチホン
 受話音量[12] 中 大
 自己サブアドレス[93]
-
- サブアドレスなし着信[06] 着信する 着信しない
 サブアドレスの通知[10] 通知する 通知しない
 ダイヤル桁間タイム[07] 5秒 9秒 11秒 13秒
 フッキング検出タイム[08] 短い 普通 長い
 HLC(高位レイヤ整合性)[04] HLCを設定しない HLCを設定し、着信判定する HLCを設定するが着信判定はしない
 識別着信[03] 行わない 行う

アナログポート共通登録 [4] [5]

着信転送設定[27]

- 着信転送元(0) _____ の転送先(0) _____ [40] [30]
 着信転送元(1) _____ の転送先(1) _____ [41] [31]
 着信転送元(2) _____ の転送先(2) _____ [42] [32]

NTT着信転送時の
トーカーサービス[27] なし 転送トーカーのみあり 転送元トーカーのみあり 両トーカーともあり

- 優先着信ポート[23] 指定しない Aポート Bポート Cポート
 通信中転送[26] 使用しない 使用する
 三者通話[25] 使用しない 使用しない
 内線通話・内線転送[24] しない する
 LCDモード 常に消灯 常に点灯 自動
 LCD表示 自動 + データ通信中は常に点灯 自動 + Bチャンネル使用中は常に点灯
表示しない 表示する

データポート

- 発信者番号通知 INSネット64申込に従う 通知する 通知しない
 自己サブアドレス
-
- サブアドレスなし着信 着信する 着信しない
 識別着信 識別着信する 識別着信しない
 高位レイヤ整合性(HLC) 設定しない 設定する
 MP2本目の認証 しない する
 ACCMの付加 しない する
 リソースBOD する しない
 スループットBOD する しない
 スループットBODパラメータ リンク追加算出時間 _____ 秒
 リンク削除算出時間 _____ 秒
 リンク追加しきい値 _____ %
 リンク削除しきい値 _____ %
- 無通信監視タイム 監視しない 監視する _____ 分
 強制切断タイム 切断しない 切断する _____ 時間
 ER信号 パソコンのERを見る 常時ORとみなす 通信中のみパソコンのERを見る
 CD信号 ER-ON時に常にCD-ON 通信中は常にCD-ON
 DR信号 ER-ON時に常にDR-ON 通信中は常にDR-ON
 UUIメール着信時の
 ランプの点滅 点滅させない 点滅させる
 電子メール着信時の
 ランプの点滅 点滅させない 点滅させる

- スティルスコールバック コールバックしない コールバックする
 サブアドレス・セパレータ / # *
 着信指定 TAに着信する TAに着信しない
 ルータに着信する ルータに着信しない

短縮番号登録

	相手の名前	相手アドレス	相手サブアドレス
0	_____	_____	_____
1	_____	_____	_____
2	_____	_____	_____
3	_____	_____	_____
4	_____	_____	_____
5	_____	_____	_____
6	_____	_____	_____
7	_____	_____	_____
8	_____	_____	_____
9	_____	_____	_____

ルータ機能

プロバイダ/接続先

デフォルトルート

デフォルトルート _____

IPアドレス _____

スタティックルーティングの設定

	ターゲット	マスク	ゲートウェイ
0	_____	_____	_____
1	_____	_____	_____
2	_____	_____	_____
3	_____	_____	_____
4	_____	_____	_____
5	_____	_____	_____
6	_____	_____	_____
7	_____	_____	_____
8	_____	_____	_____
9	_____	_____	_____

接続先の登録		登録名	登録名
登録名称	_____	_____	_____
ユーザ情報			
ログイン ID	_____	_____	_____
ログインパスワード	_____	_____	_____
サーバ情報			
接続先電話番号	_____	_____	_____
接続先サブアドレス	_____	_____	_____
回線種別	<input type="checkbox"/> INSネット64 <input type="checkbox"/> OCNエコノミー	<input type="checkbox"/> INSネット64 <input type="checkbox"/> OCNエコノミー	<input type="checkbox"/> INSネット64 <input type="checkbox"/> OCNエコノミー
認証方式	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> PAP <input type="checkbox"/> CHAP	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> PAP <input type="checkbox"/> CHAP	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> PAP <input type="checkbox"/> CHAP
接続先ドメイン名	_____	_____	_____
プライマリDNS	_____	_____	_____
セカンダリDNS	_____	_____	_____
自動切断設定			
無通信監視タイマ	<input type="checkbox"/> 監視する <input type="text"/> 分 <input type="checkbox"/> 監視しない	<input type="checkbox"/> 監視する <input type="text"/> 分 <input type="checkbox"/> 監視しない	<input type="checkbox"/> 監視する <input type="text"/> 分 <input type="checkbox"/> 監視しない
強制切断タイマ	<input type="checkbox"/> 切断する <input type="text"/> 時間 <input type="checkbox"/> 切断しない	<input type="checkbox"/> 切断する <input type="text"/> 時間 <input type="checkbox"/> 切断しない	<input type="checkbox"/> 切断する <input type="text"/> 時間 <input type="checkbox"/> 切断しない
MP・BOD設定			
マルチリンク通信	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う
リソースBOD	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う
スループットBOD	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う
	リンク追加算出時間 <input type="text"/> 秒	リンク追加算出時間 <input type="text"/> 秒	リンク追加算出時間 <input type="text"/> 秒
	リンク削除算出時間 <input type="text"/> 秒	リンク削除算出時間 <input type="text"/> 秒	リンク削除算出時間 <input type="text"/> 秒
	リンク追加しきい値 <input type="text"/> %	リンク追加しきい値 <input type="text"/> %	リンク追加しきい値 <input type="text"/> %
	リンク削除しきい値 <input type="text"/> %	リンク削除しきい値 <input type="text"/> %	リンク削除しきい値 <input type="text"/> %
プロトコル・回線設定			
アドバドNAT	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
接続モード	<input type="checkbox"/> 端末型 <input type="checkbox"/> LAN型	<input type="checkbox"/> 端末型 <input type="checkbox"/> LAN型	<input type="checkbox"/> 端末型 <input type="checkbox"/> LAN型
BACP	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
LZS圧縮	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
コールバック			
MS-CBCP	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
コールバック先電話番号	_____	_____	_____
コールバック先サブアドレス	_____	_____	_____
着信設定			
相手からの通信許可	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
受信ID	_____	_____	_____
受信パスワード	_____	_____	_____
接続先アドレス設定			
WAN、自側 IPアドレス	_____	_____	_____
WAN、自側アドレスマスク	_____	_____	_____
相手IPアドレス	_____	_____	_____
相手ネットワークアドレス	_____	_____	_____
相手アドレスマスク	_____	_____	_____

ルータ本体のLAN設定

IPアドレス/DHCPサーバ

IPアドレス

IR450のIPアドレス _____

IR450のネットワークマスク _____

DHPサーバ機能

DHPサーバ機能 使用する 使用しない

割り当て開始IPアドレス _____

割り当てアドレス数 _____

リースタイム _____

フィルタリング

フィルタリング機能の設定

フィルタリング機能の使用の有無 使用する 使用しないICMPパケット 通過させる 使用しない

フィルタ設定1

アドレス属性 宛先アドレス 送信元アドレス

アドレス _____

ネットワークマスク _____

パケットの方向 下り(回線 LAN) 上り(LAN 回線) 上り・下り両方

ポート番号(範囲指定・先頭) _____

ポート番号(範囲指定・末尾) _____

フィルタ設定2

アドレス属性 宛先アドレス 送信元アドレス

アドレス _____

ネットワークマスク _____

パケットの方向 下り(回線 LAN) 上り(LAN 回線) 上り・下り両方

ポート番号(範囲指定・先頭) _____

ポート番号(範囲指定・末尾) _____

フィルタ設定3

アドレス属性 宛先アドレス 送信元アドレス

アドレス _____

ネットワークマスク _____

パケットの方向 下り(回線 LAN) 上り(LAN 回線) 上り・下り両方

ポート番号(範囲指定・先頭) _____

ポート番号(範囲指定・末尾) _____

フィルタ設定4

アドレス属性 宛先アドレス 送信元アドレス

アドレス _____

ネットワークマスク _____

パケットの方向 下り(回線 LAN) 上り(LAN 回線) 上り・下り両方

ポート番号(範囲指定・先頭) _____

ポート番号(範囲指定・末尾) _____

フィルタ設定5

アドレス属性 宛先アドレス 送信元アドレス

アドレス _____

ネットワークマスク _____

パケットの方向 下り(回線 LAN) 上り(LAN 回線) 上り・下り両方

ポート番号(範囲指定・先頭) _____

ポート番号(範囲指定・末尾) _____

DNSフォワーディング

DNSフォワーディング機能 使用する 使用しない
ドメイン名 _____
LAN側サーバアドレス1 _____
LAN側サーバアドレス2 _____

アドバンスドNATオプション

設定1

IPアドレス _____
ポート番号 _____
プロトコル TCP UDP

設定2

IPアドレス _____
ポート番号 _____
プロトコル TCP UDP

設定3

IPアドレス _____
ポート番号 _____
プロトコル TCP UDP

設定4

IPアドレス _____
ポート番号 _____
プロトコル TCP UDP

設定5

IPアドレス _____
ポート番号 _____
プロトコル TCP UDP

ルータ本体のISDN設定

ISDN設定

電話番号 _____
サブアドレス _____
発信番号通知 行う 行わない INS64の契約に従う
グローバル着信 行う 行わない
サブアドレス無し着信 行う 行わない

索引

A

AtermStation 304
AT コマンド 262

B

BACP 69
BIGLOBE 236
BOD 157

C

CD 270
CD 信号
らくらくユーティリティ
Macintosh 48
Windows 22

D

DHCP 79
DHCP サーバ 79
Aterm の DHCP サーバの割り当てアドレスを変更 175
DNS 84
DNS サーバ
Aterm の DNS サーバの設定 181
DNS フォワーディング 84
DR 信号 272
らくらくユーティリティ
Macintosh 48
Windows 22

E

ER 信号 262, 270
らくらくユーティリティ
Macintosh 48
Windows 22

F

FAX 情報サービス 304

H

HLC 144

I

i・ナンバー
電話機を利用した設定 124
らくらくユーティリティ
Macintosh 28
Windows 12
IP アドレス 187
Aterm の IP アドレスを変更する 170
パソコンの IP アドレス確認
Window98/Windows95 203
WindowsNT4.0 199
パソコンの IP アドレスを自動で設定 187
パソコンの IP アドレスを手動で設定 195

L

LZS 69

M

MP 156
MP・BOD 66

N

NetBIOS 114, 205
NetBIOS をフィルタリングする 205

O

OCN 223

P

ping 215

R

RAS サーバ接続 225

S

S点ユニット 339

U

UUI メール 234, 235

W

WWW ブラウザ 50

WWW ブラウザでの設定手順 50

詳細設定 58

詳細設定ページ構造 59

らくらく設定 52

らくらく設定ページ構造 53

ア

アドバンスド NAT オプション 86

アドレス帳 247

アナログポートの設定 122

イ

インフォメーションサービス 305

エ

液晶ディスプレイ 119

カ

回線の切断 56

カスタマーコントロール 151

キ

機能一覧 337

キャッチホン 146

強制切断タイマ 164

WWW ブラウザを利用した設定 65

らくらくユーティリティ

Macintosh 45

Windows 21

ク

グローバル着信 132

コ

コールバック 70

コネクションマネージャ 91

Macintosh

Atermの対応バージョン 102

インストール方法 103

ウインドウ 106

起動のしかた 103

メニューバー 105

Windows

アイコン 95

起動のしかた 93

タスクトレイでの操作 94

コネクタ仕様 338

サ

サービスステーション 300

サブアドレス付きの着信 143

三者通話 147

シ

しきい値 158

識別着信 143, 155

自動接続 105

自動接続禁止 97

修理 299

診断情報表示一覧 309

ス

スタティックルーティング 75

スタイルスコールバック 162

スループット BOD

WWW ブラウザを利用した設定 67

らくらくユーティリティ

Macintosh 47

Windows 19

スループット BOD とは 158

セ

生成源 308

設定記入シート 341

接続テスト 336

切断理由 308
全切断 97, 105

タ

ダイヤル桁間タイマ
らくらくユーティリティ
Macintosh 44
Windows 13
ダイヤルインサービスを使用する
らくらくユーティリティ
Macintosh 30
Windows 11
短縮ダイヤル 155

チ

着信速度 280
着信転送 149

ツ

通話中転送 148

テ

データポート 45
データポート登録
らくらくユーティリティ
Macintosh 35
データポートの設定
らくらくユーティリティ
Windows 17
デフォルトルート 295
WWW ブラウザを利用した設定 74
コネクションマネージャ 96
電子メール着信通知 234
電話機を利用した設定 118
i・ナンバーを使用する 124
アナログポートに電話番号を割り当てる
124
アナログポートの設定 121
液晶ディスプレイ 119
ダイヤルインサービスを使用する 130
電話番号を間違えて入力したとき 127

ト

ドメインネームルーティング 214

ナ

ナンバー・ディスプレイ 152

ハ

バージョンアップ
らくらくバージョンアップ 314
配線 98
パスワード 54, 57, 166
発信者番号通知 145

フ

フィルタリング 81, 82
フレックスホン 146

ホ

ボイスワープ 151
ボイスワープセレクト 151
訪問サービス 306
保守契約 299

マ

マルチアクセス 206

ム

無通信監視タイマ 45, 65, 163

モ

持ち込み修理 300

コ

優先着信ポート指定 142
遊遊メール 235

ラ

らくらくバージョンアップ 314
パスワード 317

らくらくユーティリティ 2

Macintosh

起動のしかた 25

終了のしかた 26

メニュー画面が表示されない 26

Windows

エラーメッセージが表示される 4

起動のしかた 3

終了のしかた 4

リ

リソースBOD 19, 161

リモートアクセス 154

リンク追加 158

ル

累積料金 6, 40

ロ

ログインID 54

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

C&C for Human Potential



この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。